第2地点

第2地点は攪乱を受けているために，土器の出土量が少ない。第73図：1～9の土器が総量である。1～3は宇宿上層式，4は弥生式土の破片である。4はきわめて焼成が良く，器面は磨かれている。6は丸底，7～9は平底である。第2地点も宇宿下層式の時期から遺跡は成立していたものと思われる。

第3地点

Aトレンチ

（第40図：18・19，第73図：10～51）

第1地点と同様の様相を示している。第40図：18・19は面縄東洞式である。第73図：10は面縄東洞式，11～13は線刻文土器である。13の土器は砂粒を混じ焼成良好で，滑石を含む，土器の質から見て縄文と考えられる。14は凹線文土器，18は嘉徳Ⅱ式土器，19・20・25～27は面縄西洞式土器，28～40は宇宿上層式a，41はやや上げ底をなす底部である。

42～49は弥生式土器である。いずれも胎土に砂粒を混じ，焼成は良好である。42・47は同一個体とみられ，紅褐色を呈し，ナデ仕上げで，断面台形の凸帯を1条めぐらす甕形土器である。43・46は断面三角形の凸帯貼り付け，46は刻目を施している。壷形土器の破片であろう。44・45は断面三角形の凸帯をめぐらす甕形土器破片である。49は細い線で弧形の文様を描いた壷形土器の破片であろう。以上の土器は後期に該当するものと考えられる。48は胎土に砂を含むもので，焼成は普通である。頸部に低い三角の凸帯をめぐらし，口縁部は外反する器形で，甕形土器の破片である。火熱によって焼け，内外面に気泡のような小窠がみられる。弥生時代前期に属するものであろう。

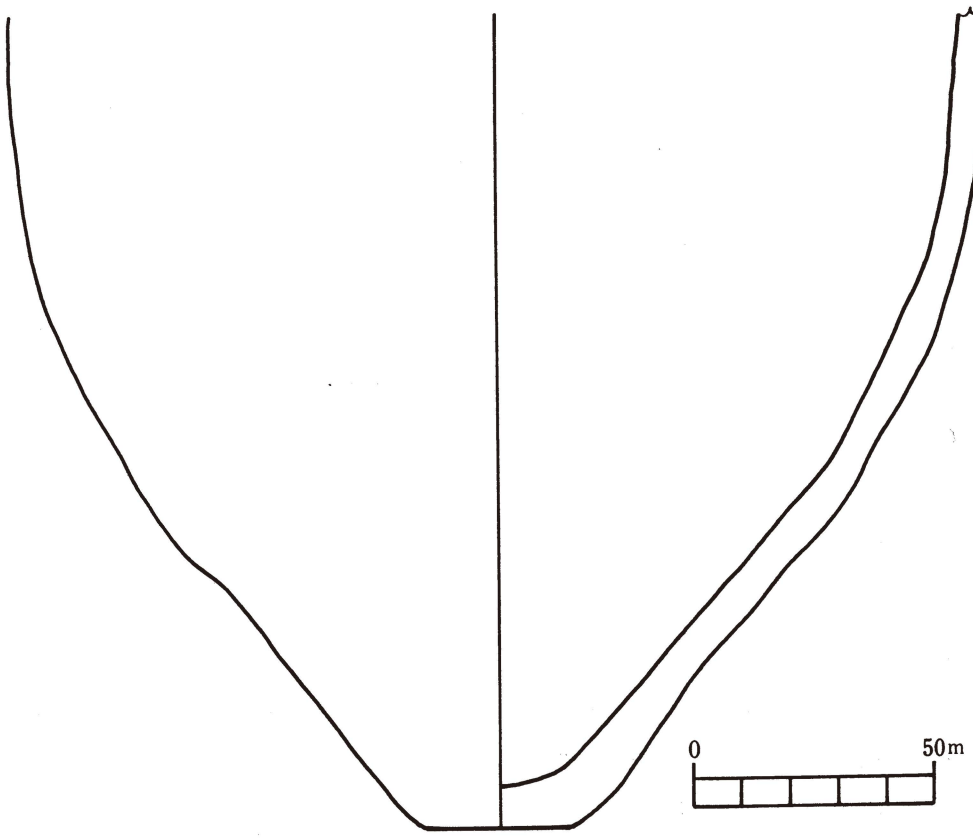
50は土器片に加工した土製円盤，51は滑石製品の破片である。

Cトレンチ

（第73図：52～64，第32図）

遺物包含層が1層で，範囲もせまく遺物は少ない。主として宇宿上層式を出土するが，若干宇宿下層式がまざっている。

52は面縄西洞式，60～62は喜念Ⅰ式，55は喜念Ⅰ式に近いものであろう。64の土器は弥生式土器の破片である。胎土は粒子が細かで焼成は良好である。内面は篦削りの跡をのこし，凸帯以上は横ナデ仕上げである。断面三角形の凸帯を1条めぐらす。弥生後期の甕形土器である。宇宿上層式に共伴すると思われる。他はみな宇宿上層式であるが，小さな平底の底部が2個あり，外面は磨いたようにみえる。壷形土器の底部であろう。



第３２図　第３地点　Ｃトレンチ　出土の上層式底部

周辺遺跡

保育所建設地出土遺物

（第７２図：１～２７）

保育所建設基礎工事中に，第２地点との境界付近より出土した土器である。１の土器は２条の，帯状に施した沈線間に，刺突文，刻目などを描くもので，この類は第２１図：１３～１６，第２９図：７・１８などと近い。２・３は嘉徳ＩＡ式，３は滑石を含む。４・５は面縄西洞式，６は弧文を有する特色のある土器で滑石を含んでいる。７・８は面縄西洞式，９は喜念Ｉ式，１０は宇宿上層式ｂである。他宇宿上層式である。

大瀬遺跡採集遺物

（第７２図：２８～３７）

砂採掘場より表面採集したものである。弥生中期の遺跡と考えられる。２８～３１は張り出した凸帯又は口縁部で，２９の土器は甕形土器の口縁部で，同類はサウチでも発見されている。

３２は断面三角形の凸帯を付着した甕形土器である。３５は甕形土器の胴部で，沈線文が施されている。３６は稍々上底の充実した甕形土器の脚台である。３７は弧状の外耳を有する甕形土器の

破片である。サウチでも同類の出土がみられたが，弧状の外耳を有することが，弥生時代中期に平行することがいよいよ確実になった。　（河口）

註

1. 河口貞徳　“奄美における土器文化の編年について”“鹿児島考古９号”鹿児島県考古学会　昭和４９年６月
河口貞徳他　“嘉徳遺跡”“鹿児島考古１０号”鹿児島県考古学会　昭和４９年１２月
2. 註 (1) に同じ
3. 河口貞徳　“嘉徳遺跡”“鹿児島考古１０号”鹿児島県考古学会　昭和４９年１２月
4. 註 (3) に同じ
5. 註 (3) に同じ
6. 註 (1) に同じ
7. 河口貞徳・出口浩・本田道輝　“サウチ遺跡”　笠利町教育委員会　昭和５２年

須恵器

ほとんど３層および４層からの出土で，M－７・８・９・１０区が出土量の大半を占める。いずれも小破片ばかりであり，甕がそのほとんどで，壷・鉢・埦などはそれぞれ一・二点を数えるにすぎない。全般的にみて，器面調整上で目立つことを要約すると，つぎの三点となる。

① ロクロ目の左回りと右回りが相半ばする。

② 櫛描波状文のモチ一つをヘラ描き沈線（白木原和美氏が説く類須恵器の一本描きの波線）で表現している。

③ 格子目のたたきを内面に施しているものがある。

甕（口縁部）

（第７４図）

１は口縁部の小片で復元口径約１２㎝。口縁部は稜線を設けて直立し突帯をめぐらした形になる。内面は口唇部に近く一段浅い凹みを施している。色調は青灰色で，割れ口はセピア色，横ナデで仕上げてある。右回りロクロ使用。２も１とほぼ同形態のものとみられるが，復元口径がやや大きく約１４㎝をはかる。右回りロクロ使用。３は復元口径は約１４㎝。色調・仕上げは１と同じであるが，端部が大きく外に開く点が異なる。４も１と同類の小片であるがやや焼成が軟弱である。右回りロクロ使用。

５の口唇部内側は丸味をおびているが，外側は回転台利用のヘラなでにより稜線を形成する。二段口縁を思わせる屈曲が内面にみられるが，小片のため全貌は不明である。色調は内外・胎土とも青灰色を呈する。９は口縁端部外側を突帯状に作り，内側は対照的に浅い凹みを施す。色調は内外，胎土ともに青灰色を呈する。７の口縁端部内側は玉縁状，外側は山形突帯状でかつ稜線を形成する。

色調は内外ともに青灰色，割れ口は泥褐色を呈する。4の口唇部は丸味をおび，内側に浅い凹みをもつ。色調は内外ともに青灰色，割れ口はセピア色を呈する。１４は口縁端部外側に稜線をもった突帯をもつが，内側に凹みはみられない。色調は内外・胎土ともに青灰色を呈する。１５は１４と同類もしくは同一個体とみられる。これらは左回りロクロで調整されたものである。

１６・１７・１８・２０は頸部の小片で口縁端部を欠く。１６の復元頸部外径は約１２㎝。色調は灰褐色を呈し，胎土に小量の石英粒がまじり，焼成良好。１７の色調は内外ともに青灰色。割れ口はセピア色を呈する。内面に青海波状のたたき目がみられる。１８・２０は，１７と同類とみられる。これらは右回りロクロで調整してある。

ヘラ描き沈線の波状文

１９・２１・２２・２３・２４・２５・２６は，いずれも甕の胴部片で，外面は平行たたきをすり消し，肩部にヘラ描き沈線の波状文を施す，櫛描波状文をモチーフにしたものと考えられるが，櫛描きでなくヘラ描き沈線になっている点が特徴といえる。しかも波状文は一列のみでなく，四列ほど繰り返されている。いずれも小破片のため，四列までしか確認できない。内面は左回りロクロ使用のカキ目で仕上げられている。とくに２１は，輪積み→たたき目→カキ目という調整の手順の痕跡を残している。

無頸壷・鉢・埦

６は無頸壷の口縁部小片で，復元口径約１４㎝。色調は内外ともに青灰色，胎土はセピア色を呈する。横ナデで仕上げられ，口縁端部はヘラなでにより平坦に作られている。１０・１１・１２は鉢状の器の口縁部である。１０は復元口径は約１６㎝。口唇部は内側が鋭角に，外側が鈍角になるよう平坦におさえられている。色調は内外が青灰色，胎土がセピア色を呈する。１１は突帯状に外側に稜線をつくり，内側に浅い凹みをもつ。色調は１０とほぼ同様であるが若干色がうすく，焼成はやや軟弱である。１２は外側に稜線をつくる突帯をもつが，内側に凹みがない点が１１と異なる。１３は坏または埦の口縁部で，色調は外側が青灰色，内側，胎土は暗橙褐色を呈する。焼成はやや軟弱である。これらは右回りロクロ調整に使用している。

甕（胴部）

（第７５図・第７６図・第７９図）

器面の調整技法を観察した結果，つぎのように類別できる。外面ではA平行たたき，B平行たたきをすり消す，C平行たたきの上に掻目，D格子たたき，E格子たたきをすり消す，の五通りの技法がある。内面ではa平行たたき，b平行たたきをすり消す，c平行たたきの上に掻目，d格子たたき，e格子たたきをすり消す，f格子たたきの上を刷毛なで，g格子たたきの上に掻目，h掻目，i青海波文，j青海波文の上に掻目，の十通りの技法がみとめられる。内外両面の技法の組合せから眺めた場合，本遺跡の甕は１６種類とみなされる。全般的にみて，平行たたきが主流をなし，格子たたきは外面にあるものは3点で，むしろ内面にあるものの方が１５点と類例が多い。以下外面の器面調整を大文字で，内面のそれを小文字で表記し，大文字，小文字の組合わせで類別して説明

する。

1. Ａａ型　第７６図９……灰褐色を呈し，粗砂粒がまじり焼成は良好。
2. Ａｂ型　第７５図４・５・７・第５０図３……灰褐色を呈し，焼成やや軟質。
3. Ａｇ型　第７５図１１……青灰色を呈し，焼成は良好。
4. Ａｈ型　第７５図１……内外面は青灰色，割れ口はセピア色を呈し，焼成は良好。左回りロクロを使用。
5. Ａｉ型　第７６図１０……淡茶褐色を呈し，焼成は良好。
6. Ｂｂ型　第７５図１５・第４６図３……青灰色を呈し，焼成は良好。
7. Ｂｃ型　第７９図１・５……１は灰褐色を呈し，焼成は良好。右回りロクロを使用。５は青灰色を呈し，焼成は良好。左回りロクロを使用。
8. Ｂｅ型　第７５図６・８・第４６図４・５・６・第５０図４……灰褐色を呈し，焼成は普通。右回りロクロを使用。
9. Ｂｆ型　第７５図３・１１……内外面は青灰色，割れ口はセピア色を呈し，焼成良好。
10. Ｂｇ型　第７５図１２・１３・第５０図１……内外面は青灰色，割れ口はセピア色を呈し，焼成良好。左回りロクロを使用。
11. Ｂｈ型　第７５図２・９……２は淡茶褐色，９は青灰色を呈し，焼成は良好。左回りロクロを使用。
12. Ｂｊ型　第７５図４……内外面は青灰色，割れ口はセピア色を呈し，焼成は良好。右回りロクロを使用。
13. Ｃｃ型　第７６図１２……内外面は青灰色，割れ口は茶褐色を呈し，焼成は良好。左回りロクロを使用。
14. Ｄｅ型　第７５図１４……外面は淡褐色，内面および胎土は橙褐色を呈し，焼成はやや軟質。
15. Ｅｃ型　第７９図２……青灰色を呈し，焼成は良好。右回りロクロを使用。
16. Ｅｅ型　第７６図２……灰褐色を呈し，焼成は普通。

以上の分類にもとづき器面調整の技法を要約すると，左回りロクロを使用したものは，外面は平行たたきをすり消すものが主で，内面はすり消しまたは掻目の技法を用い，右回りロクロを使用したものには，外面に格子たたきが含まれ，内面はすり消しの他に青海波文が用いられる。また内面の格子たたきは，両者ともにみられる。

底部片

（第７６図・第７９図）

小破片のため甕・壷・瓶・鉢などの推定をしかねるが，ほとんどすべてが平底である。

第７６図１４は灰褐色を呈し，石英細粒が多量まじり，焼成は良好である。また左回りの捲きあげ痕を残す。第７６図１５は青灰色を呈し，焼成は良好。これらは左回りのロクロで器面調整を行なっている。

第７６図１２・１３は青灰色を呈し，焼成も良好で，右回りロクロで器面調整を行なっている。

第７６図８は底部径７cmの坏の破片とみられる。外面は灰白色，内面は淡茶褐色を呈し，焼成は良好である。側面からは高台の有無はわかりにくいが，揚げ底型の付け高台である。右回りロクロで仕上げを行なっている。

第７９図６は脚付の底部で，粘土塊を貼付けて三脚にしたものか，小片であるために全貌は不明である。内外面は灰褐色，割れ口は淡茶褐色を呈し，焼成は良好である。右回りロクロで調整している。

南島にみられる須恵器については，須恵器と良く似た焼きものではあるが，異なる点があり「類須恵器」と呼ばれているが，[1]ここではその違いにまで追究ができなかったので，「須恵器」として記述した。

破片はかなり多くの出土がみられたが，そのほとんどが甕形土器の破片と思われ，他の器種は少なかった。特に坏や埦は見当らなかった。ヘラ描沈線の沈状文が数点みられたが，これらはその時期を平安末～鎌倉初期と推測されている。[2]

また中には第４４図１～３の口縁部等，様式Ⅳ（６Ｃ後半）にあたるのではないかと思われる破片もあり注目される。　（平田信芳・出口）

註

1. 白木原和美　「南西諸島の類須恵器」　（『えとのす』9号）　１９７８年
2. １に同じ

※　須恵器の執筆については県文化課平田主任研究員の協力を得た。

青瓷

（第７９図・第８０図）

青瓷は約３０点出土したが，大部分は１層から３層の間にみられる。小片ばかりであるが推定復元可能なものは，ほとんど図化してあげた。

ここでいう青瓷は釉薬が青色を呈したものだけでなく，白色に近い青灰色をなすもの，茶黄色を呈したもの，くすんだ緑色を呈したものなどを含めた。

①釉が青味を帯びた緑色の発色をするもの。（第７９図：７・９・１０・１１・１３・１５・１６）

７は外面に蓮弁の文様を有し，口縁部は外反する。９は外面に蓮弁を有し，内面に草花文とも思われる曲線文を有する。内彎気味の丸味をもつ体部で口唇部を除いて艶がみられない。断面では釉薬が厚く観察される。９・１０・は内彎気味に直口をする体部を有する。内外無文である。くすんだ緑色を呈している。１０は口縁部附近を除いて貫入がみられる。いずれも椀と思われる。１３・１５・１６は高台が断面四角形を呈する。１３は見込と高台内面に釉がみられない。見込部にはロクロ目の跡が残り，高台内面は，かき取った痕跡がみられる。１５は腰部でやや内彎気味にカー

ブし，口縁部近くで内面に稜を描いて外反する特徴をもつ。高台内面，畳付部分に釉はみられない。荒い貫入がみられ，外面には蓮弁文様を有する。１６は底部の器肉が厚い。釉は高台内面中心部付近を残して全面に施される。露胎部分は褐色を呈し，施釉された境の部分は茶褐色を発色している。

②釉がくすんだ緑褐色ないし茶黄色の発色をするもの。（第７９図：８・１２・１９・２０・２１・２２，第８０図：１・２・６）

８は口縁部が外反し，口唇部はやゝ丸味をおびている。１２は直口気味に外反する口縁部を有し，端部口禿になっている。外面に蓮弁状の文様を有する。１９は内底見込にヘラ描の文様を有する。底面はやや上げ底を呈し腰部あたりまで施釉されていない。ロクロ痕があざやかにみられる。２０は内面に文様を有するが定かでない。２１・２２は内面に飛雲文を見る。これらはいずれも貫入がみられる。

１・２・６は茶黄色を呈し，色調がにぶい。細かい貫入がみられる。１・６は外面に蓮弁文様を有し，６は内面にも櫛描文を有する。

③釉が白色に近い灰青色の発色をするもの。（第７９図１７・１８）

１７は高台内面の一部を除いて施釉されている。荒い貫入がみられる。１８は全体に施釉されている。高台内面中央部はやや尖り気味である。

④釉が白，ないし灰色を帯びたうす緑色を呈し発色の悪いもの。（第８０図８）

高台が断面四角形で浅く切り上げ，器肉が厚い。高台部畳付およびその内部は露胎である。全面に細かい貫入がみられる。

白瓷

（第７９図：１４，第８０図３～５・７・９・１０）

約１０点の出土できわめて少量である。

①玉縁状の口縁を有するもの（第８０図：４・５・９・１０）

４は灰白色を呈し発色は良くない。５・９は乳白色を呈する。９は小さい断面三角形状の口縁をなす。１０はやゝ褐色を呈し，細かい貫入がみられる。釉は全体に薄目にかけられている。いずれも椀の破片と考えられる。

②口縁部外反のもの（第８０図３）

口縁部で外反し，内面中位に沈線状の浅い段をもつ。外面は口唇部下に浅い凹線がみられ，箆描きの文様が観察できる。

③底部（第７９図１４・第８０図７）

１４は台形状の低い高台をもつ。高台内面には釉がみられない。７は灰色がかった釉が体部下半まで施されている。下胴部から高台部へかけて，箆削りによる調整のあとがみられる。見込みはややにごった白色の釉を受け，貫入がみられる。

これらの青瓷，白瓷を「九州歴史資料館研究論集４」(註)の資料を参考にして比較検討してみたい。

まず青瓷においては，①は蓮弁文の特徴からⅠ類５に，②は飛雲文や皿の相似より，Ⅰ類４に相

当するものとみられる。いずれも竜泉窯系青瓷である。Ⅰ類4が１２世紀中葉から１３世紀初頭，Ⅰ類5が１３世紀中葉に比定されている。

白瓷は玉縁口縁が特徴であるが，①はⅡ・Ⅲ類に相当しよう。また底部は外面下半の篦削りや同部分の無釉などやはり類似の特徴を有している。細く高い高台はⅤ類に類似している。１１世紀中葉から１２世紀初頭にあたる。

これらはいずれも少量であり，また破片のため，資料としては不十分であるので確定的な見方でなく，推測としておきたい。

染付

（第８０図１１～３０）

３０片ほどの出土がみられたが，小破片が多かった。図示可能なものは全部記録した。

１１・１３・１４は淡い青色ないし乳白色を呈する。やわらかく外反する椀の口縁部であろう。１１・１３は口唇部内側が茶褐色を呈し，無釉である。１２・１７・２０・２２・２３は全体に薄青色を発色し，外面に呉須で文様を描いている。１２は口縁附近で急に外反し，その部分に内面２条外面１条の横線を描く，外面文様は草花文であろう。器肉はうすい。１７は口縁部内外に横線，外面は山水文様を描く。貫入がみられる。２２は湯飲み茶碗と考えられる。外面口縁下部に横線１，腰部附近にも草花文様？がみられる。２３は腰部へかけて急にすぼまる。淡い青色で草花文様を施している。見込みは無釉である。１８は角皿の破片である。比較的厚い。口縁端は平坦面を有する。内面に濃青色で蛸足文外面に花文と蛸足文を複合した文様を施す。

１９は小皿の口縁部である。口唇部内面に鉄釉がみられる。内面に波文が描かれている。器面の色調は乳白色をなす。２１は皿の破片である。灰色がかった青味をもつ。内面に草文を描く。見込み釉がかかっていない。

１５・１６・２８は腰部から口縁部へかけてやや丸味を帯びてふくらんだ高台付の椀である。１５は薄青色で外面いっぱいに草花文を口縁下内外に横位２条の横線を描いている。１６は細く内傾する高台を有す。色調はうすい灰色を呈し外面に山水文を，内面には見込のまわりに２条の円を描いている。２８は直立する細くとがった高台を持つ。外面口縁下部に２条，高台部外面に２条，内面口縁下部に１条，見込みのまわりに２条，横線をめぐらしている。外面に竜文を描く。貫入がみられる。

２４・２５・２６・２７・２９・３０は高台付の底部である。高台は全体に細く高い。２４は小形の椀で，底部から直線的に口縁部へ伸びる。色調はうす青色で，畳付部を除いて全体に釉が施されている。高台部外側に横線１条，外面に円文が見られる。高台内中央部はやや尖っている。荒い貫入がみられる。２５は２４と同じ器形であるが，やや腰が張る。全面に施釉されている。腰部と高台部に横線を描き，高台内面には「大日」の字が観察できる。灰色を呈する。２６は坏部が皿状に伸びるが，器形は不明である。釉は青白色をなし，見込みと高台内部に文様を施している。高台部外面に２条の横線をめぐらす。畳付部は釉が溶けて砂粒子が附着している。高台部内面を除いて貫

入がみられる。２７は灰青色を呈し発色はにぶい。下胴部から上方へなだらかなカーブを描き，安定したすわりである。高台付け根部は内面にひび割れの亀裂がめぐり接合の状態を示している。畳付部を除いて釉か施されている。外面下胴部に１条と高台部外面に２条横線が描かれ，内面見込みに草花文，まわりに円を描いている。２９は淡青色をなし細く高い高台を有する。釉は全面にかかっている。外面に線文を描く，内面は見込に文様を描き，外周に円を表わす。

３０は高台付け根部の外面とその下位に横線文見込周囲に２条の円を描く線文がある。畳付け部は釉が溶けて粒子が附着している。内面に貫入がみられる。

これらの染付については，破片も小さくまた少量のため遺物の説明だけにとどめておきたい。ミンツキタブク(註)の出土の施釉陶磁器と類似しているように思われる。

（註）

白木厚和美　「南西諸島の類須恵器」　（『エトノス』9号）　１９７８年

(2) 石　器

本遺跡において，１２０点の石器を発見した。主要なものをあげると，石斧，敲石，凹石，磨石，石皿等である。石核や剝片を利用した礫器や用途不明の加工円礫をはじめ砥石や研磨器など特殊なものもみられた。また弥生時代のノミ形石器と思われるものもあり注目を引く。チャートや黒燿石の剝片および垂飾品や石棒などもこの項で説明することにしたい。人骨に伴う石器については，人骨の項で説明する。

なお出土地区，層，重さ，石質等は第４表に記載したので，本文では省略する。

①　石斧（第８１図・第８９図）

(ア)　打製石斧（第８１図１）

1.　刃部が細いがほぼ短冊形をなす。頭部と側縁部に自然面を残し，他は荒い剝離が加えられている。一面は凹み状の彎曲をなす。刃部の作りも鈍い。長径 9.1 ㎝，短径 4.4 ㎝，厚さ 2.2 5 ㎝を測る。

(イ)　局部磨製石斧（第８１図４～８，１０～１２）

５は，身から頭部へ細まる。横断面扁平をなす。表面は光沢をもつほど砥磨されているが，裏面は打欠痕を残している。側面は自然面を残す。身の下半分を欠いている。７・８・１０はいづれも頭部の破片である。７は両面および側縁部に研磨面がみられ，頭部は調整剝離面を残す。８は表面のみ研磨痕がみられ，他は打製である。１０は頭部およびその周辺部を除いて研磨されている。いずれも横断面は扁平である。４は刃部の破片である。縦に擦痕がみられる。６は撥形をなす。両面に研磨痕がみられる。刃部と頭部は敲打によって摩耗しており，敲石として二次使用したものと思

われる。側面部は摺って調整したあとがみられる。長径6㎝，短径5.45㎝，厚さ2.8㎝を測る。

11，12は前述の石斧と異なり大型で重量がある。11の平面形は刃部と頭部の巾がほぼ同じで，断面形は一面が肥厚している。両面とも磨製のあとがみられるが，部分的に自然面を残している。刃部は鈍い。縦方向の擦痕がみられる。長径16.3㎝，短径9.4㎝，厚さ6㎝を測る。12は頭部へややほそまる扁平な礫を利用し，一面は密に他面は粗に磨いている。側面部は自然面を多く残す。刃部は鈍い。両方ともに縦断面の片面が緩かなカーブを描き，他面は複雑である。縦19㎝，横11㎝，厚さ5.45㎝を測る。

(ウ) 磨製石斧（第81図2・3，第89図7）

2は両刃で両面および側面部も滑沢を有するほど磨かれている。3は刃部を欠くが，撥形をなし頭部の打痕を除いて良く磨かれている。7は小形でよく整った石斧である。頭部を欠いているが，良く研磨された薄手の両刃を持つ。横断面は扁平をなす。

これらのほかに石斧の小破片がみられた。（第81図9，第89図2～4）

2は頭部，3は刃部，4は側面部の破片でありすべて器面は研磨のあとがみられる。9も同様であるが，石斧のどの部分にあたるかは不明である。

② 礫器（第82図1～11，第83図1～3）

川原石を打ち割って，剝片や石核を利用し加工を加えて石器としたものをあげた。残核も含めた。

(ア) 剝片石器（第82図1～8）

1・4は扁平な剝片の周縁部が摺られ摩耗している。一端をリタッチし，調整を加えている。一面に自然面を残している。6も同様な破片であるが側縁部を使用している。2は剝片の側縁部にチッピングが施されている。

3・5は半円状の剝片の弧にあたる部分を摺って使用している。3はうすく扁平で二面ともなめらかである。

7は舌状の剝片の周縁部に細かなチョッピングを施し刃部を形成する。表面にも頭部より平行な剝離を行っている。自然面が少し残っている。

8は縦長の剝片の側面部と先端部に敲打痕がみられる。

(イ) 石核石器（第82図9～11）

9は掌大の扁平な自然礫の割れ部にチョッピングを加えて刃部を形成する。10は剝片の側片部を摺りに使用し，下部は敲打痕が明瞭である。10は円礫の割れ部に細かな剝離を加えている。礫自体は元来敲石だったと思われ，頭部および中央部に敲打痕が強く残っている。

(ウ) 残核（第83図1～3）

1・3は円礫の縁辺部に多くの荒い剝離が施されている。

③ 敲石（第83図2・4～11，第84図1～17，第85図1～9）

敲石は本遺跡で最も多く出土している。タイプも様々なものがみられる。

(ア) 扁平な円礫を利用したもの（第８３図，第８４図１０・１１・１３～１７）

１０００g前後のかなり重い扁平円礫の周縁部を叩いて使用している。５は平面略円形をなし，側縁全面を使用している。摺りにも兼用している。８は同様に縁辺を使用し，稜をなして面ができている。頭部および両面中央部にも敲打痕がみられる。縁辺は磨石としても使っている。９は半欠品であるが，中央部に両面とも敲打による凹みがあり，下端部は大きく面をなして敲打面が広がっている。１０はやや厚みのある円礫を利用し，上端および下端部に敲打面がみられる。両側縁部はわずかに摺ったあとがうかがわれる。両面中央部はわずかに敲打による凹みがみられる。１１は円礫の先端部をわずかに利用している。１６は茶褐色に風化の跡が著しい。上下端と両側縁部，平面中央部に敲打痕がみられる。１７はサンゴ礫で軽い。断面扁平な礫の先端部に荒い叩きの跡がみられる。

第８３図２・４・６・７，第８４図１０・１１はいずれも円礫の破片で側縁部や頭部に敲打痕を有している。

(イ) 掌大の扁平円礫を利用したもの（第８４図１～９）

ここでは掌にすっぽり入る比較的小形で軽いものをとりあげた。短径５・６cmから長径は１０cm以内，重さも１００～２００gのもので，いずれも断面扁平ないし楕円形をなす。１・４は長軸線の上，下端縁部に叩きがみられ，２・３はひとつの側面をのぞいて他の側縁部にみられる。６は上下と両側面部を使用している。９はシルト岩質の硬質の礫で石斧の二次使用と考えられる。側面部に叩きがみられ，他は自然面と破砕面である。７は風化が激しく器面に砂粒が浮き出ている。周縁部全部を使用している。

(ウ) 扁平円礫のひとつの側面部だけを利用したもの（第８４図１２・１４・１５，第８５図４）

比較的小形で軽い扁平円礫の直線的なカーブをもつ側縁部で厚みのうすい部分のみを利用している。１２は他の側縁部も利用している。頂部に剝離面を有す。１４・１５は縦長の側面のみ使用している。厚さがうすい。４は側縁部の厚みのうすい方を利用する。上下端部にも敲打痕がみられる。

(エ) 棒状円礫の頂部と他の端部を利用したもの（第８４図１７，第８５図１～３・５～９）

横断面が円ないし，楕円形を呈する棒状の円礫の頂部と相対する端部に敲打痕を有する一群である。２・５・６は敲打面が強くみられ，激しく使用したことを物語っている。３・７・８もわずかにみられる。３は両面中央部に凹みがみられる。１は平面石鏃形，断面扁平形をなし，上端部と下端部とその周辺は敲打による調整がみられる。両面中央部がやや凹み敲打を受けている。７は扁平薄手，端部に使用痕が認められる。

④ 凹石（第８５図１０～１３，第８６図１・２・５）

第８５図３のごとく他石器で凹石を兼用するものがあったが，ここでは凹石だけをとりあげた。

１０は破砕された円礫の中央部が浅い凹状を呈す。敲打痕は放射状に周辺部に広がっている。

１１は断面四角形をなす小さい円礫の両面に，一面は1.5cm，他面は２cmほどの直径と，深さ５mmほどの限られた凹を有する。１２は部分的に赤褐色を呈する石皿の破片である。おそらく熱を受け

て割れた破片を凹石に利用したものであろう。表裏共に荒い打痕がみられ，小さい凹を有している。１３は自然円礫の一面に３×３㎝の浅く広い凹を持つ。１は扁平な自然円礫の両面に浅い凹をもつ。四方の側縁部に敲打痕がみられ敲石にも使用している。火熱を受け赤褐色を呈している。

５は扁平な破砕礫の表面と裏面に凹みを持つ。前者は直径３㎝，深さ１㎝で摺り鉢状にていねいに施されており，用法の違いを思わせる。裏面は浅い。２はほぼ六面体をなす不安定な礫の一面を，周辺を残して内部を浅く掘りくぼめている。他の２面にも浅い凹みがみられるが加工かどうか定かでない。これも用途の異なるものであろう。背面は細いひび割れが走り急激に熱を受けたことを示している。

⑤　磨石（第８６図４・６～１２）

１０は長径１６.４５㎝，短径１１.２５㎝，厚さ4.9㎝，整った優品である。断面扁平形で表裏とも良く研磨されている。両側縁部とも面をなしている。６は定形品であるが周縁部に4ケ所の擦痕がみられる。面をなすまでには至っていない。８は両側縁にわずかに使用痕がみられる。１２は破片であるが，両面光沢を有するほどみがかれている。側縁部も下端も使用のあとが著しい。７・１１は同様の破片である。４・９は半欠品である。４は破砕面の周辺部を使用している。９は扁平円礫の周縁部に磨面がみられる。頁岩製であることが他と異なる。

⑥　石皿（第８７図１・２，第８８図１・３～７）

２は完形品である。今回発見のものでは最も大きい。平面略長方形をなし，背面部はややふくらみ不安定である。皿部は中央部に浅く内彎する。また周辺部に器面の剝落がみえるほかは，使用によって摩耗している。側面部に調整剝離のみられるほかは，背面部まで自然面が多く残る。皿部を除いて，赤褐色を呈した部分が多く火熱を受けたものと推定される。背部と側面の部分的な割れ面は火熱によって生じたものであろう。長径３６㎝，短径２３.６㎝，厚さ8.9㎝，重さ１３.７㎏で小児による持ち運びは困難であろう。

１は２に比べてひとまわり小さい。一部分を欠いている。平面は略方形に近い。断面は薄く扁平であり，皿部は中央部を中心に凹状に彎曲している。側縁部に敲打調整のあとがみられるほかは自然面を残している。背面はややふくらみを有し不安定である。全体に砂粒が固着して器面を覆っている。特に皿部に著しい。破損したあと火熱を受けている。背面の側縁部よりに敲打による凹みがみられるが，石皿を転回して，安定した背面を使用する時，中央部をはずして，やや斜面部に力点を加えるのが注目される。

３は皿部が浅い凹状を呈し，器面は摩耗している。他は自然面を残す。６はほぼ完形である。長軸にそった両側面も磨かれて摩耗している。側面から皿部にかけて火熱を受け赤褐色に変色している。

４・５・７は両面共に使用されている。５は皿部の器肉がうすくなり，両面とも摩耗が激しい。一面は擦痕が２つの方向からみられる。砥石に再利用したものであろう。なお側面部も磨いて調整

を行っている。

1は大形の石皿の破片である。皿部周縁部が蒲鉾形に隆起している。全面赤褐色に変色している。

⑦ 砥石（第90図10）

10は長軸の一端は敲打調整をなし，他端は破砕面である。長軸にそう4面のうち，最少面を除く3面を使用している。面中央部に浅い凹状を呈する。角を利用して横位に2本の小さな切れ込みもみられ，細い棒状の器具の調整に使用したことがうかがわれる。M－6区の集石内より出土した。

⑧ 研磨器（第90図2～4・9）

巾5㎜以内で先端部の丸い凹線をなす砥磨痕を残す礫片である。

2は軟弱な砂岩である。両面に2本みられる。3は小片であるが複雑な割れで7面を有し，うち一面の破砕面を除いて5本の凹線が交差して観察できる。9はやや大きい礫片の一面に直線をなして，深さ4㎜で明確に残され，他面にはX字状に交差して凹線がみられる。あと一面は浅い凹みをなしている。

4は扁平なうすい小礫の上面にカーブを描いて残されている。

⑨ 卵形礫（第89図15～20）

亀卵大以下の大きさの礫が6個出土した。横断面円形を呈し，敲打痕や擦痕を有している。15・17・18・20は球形，16・19は鶏卵形をなす。17は頁岩製の小礫で，表面は磨かれ光沢を有する。他はすべて砂岩である。

⑩ 加工円礫（第90図1・5・8）

卵形礫と似ているが，摺り面が面として残るものをまとめた。1は小さい自然円礫の長軸にそう四面のうち二面は摺られており，一面は平坦になっている。

5は掌大の自然円礫を利用し，上下二面，他に三面を有する。面と縁辺部に擦痕がみられ，磨石とも考えられるが，多面体の特徴からこの項で記述した。8は上部が欠損しているが，扁平でほぼ六面体をなす。側面部と下端部が摺られて平坦面を有している。

これらの石器は面が細やかであり，特殊な磨石ないし砥石的な用途をなすものではないかと考える。

⑪ 石製加工品（第89図11，第90図6・7）

何にどのように用いたか不明の特別な石製品を2点あげた。6は横断面略三角形，平面長方形をなす。側縁部一面が，割れており，現形は不明である。長方形をなす面の長軸にそって巾5.4㎝から2.8㎝に台形状の凹みが作られている。巾広い側縁部の方は割れていて不明，他方は欠損部はみられないが，凹みは限られていない。凹部は摺ったり，磨いたりした痕跡は認められない。長径

9.95㎝，短径3.85㎝，厚さ2.1㎝を測る。砂岩製である。

7は平面二等辺三角形をなし，横断面は不規則な四角形をなす。凹部を除いて全面砥磨が施され，滑沢を有している。凹部は一面は自然面であるが，他面の頭部近くは打欠によって調整されている。当初石斧かと思われたが，刃部にあたる部分に面をもって平に磨きあげているので，別品とした。側面も片面はていねいな研磨がみられ，頭部付近では縦に，中ほどでは横に擦痕が走っている。岩質はシルト岩である。

11は半月形をなす加工品の半欠部分と思われる。平面形は側縁が弧状になだらかなカーブを描き，他は直線となるか，抉りを入れたあとが2条みられる。横断面扁平をなし，ややくぼんだ自然面を残して全面に光沢を有する研磨が施されている。O－7区－7層のピット内出土が注目される。砂岩製である。

⑫ 石製垂飾品（第89図12～14）

いずれも穿孔を有する。12は直径3.4㎝，厚さ2.3㎝の平面円形，断面楕円形を有する加工品で，中心部を境に半分欠損している。中心部に直径4㎜の穿孔がみられるが，破裂はこの部分からはじまっている。表面は摺って円形に調整したあとが，生々しくみられ，摺ってできた多くの面や擦痕が縦横に走り，製作時の苦闘のあとがうかがわれる。表面磨研の状態にまでは至っていない。

13は平面略三角形，断面扁平な小石の一部分に，斜めに穿孔がなされている。表面は光沢を有する。

14は平面不定形，断面扁平の小石の中央部に直径1㎝の孔が斜めに穿たれている。孔部側壁は固形物が附着し，なめらかではない。表面は自然面を残している。

⑬ 石棒（第88図2，第99図10）

2は扁平な自然礫に全面に荒い敲打調整を行なって粗製に仕上げている。表裏面および側面部に自然面を残す。下面近くを敲打によって浅い溝状に削り，側面部は深く抉りを入れた形状を呈する。下面は自然面を残している。高さ11.2㎝，巾10.85㎝，厚さ7.35㎝を測る。M－7区6層出土。

10は断面楕円形の棒状の上部に，半球形の頭部を形成し，接線はくびれ状に鋭く表現している。裏面と下面に自然面を残す。男根を象徴したものと思われる。長さ3.73㎝，巾2.8㎝，厚さ2.15㎝を測る。M－5区7層出土。

⑭ その他（第89図5・6・8・9）

5は黒曜石の剝片で他はチャートの残核である。8は側縁部にチョッピングが施されているが，全形は不明である。

⑮ ノミ形石器（第89図1）

第4表　石器出土一覧表

区	種類	石斧	礫器	敲石	凹石	磨石	石皿	砥石	研磨器	明形礫	加工円礫	石製加工品	垂飾品	石棒	石ノミ	磨製小形石器	その他	計
M	1		1層1															1
M	5		5層1 6層1	6層1	7層1									7層1				5
M	6		集石1 5層1	5層4 集石3 6層1	集石2		5層1 6層1	集石1	集石1									16
M	7	集石1 6層2	6層1	5層2 6層4		6層1	6層1		6層1		6層1			6層1				15
M	8		6層1			6層1				6層1					6層1			4
M	9					6層1												1
M	10		5層1	6層2									4層1					4
M	13			7層1														1
M	16			7層2 2層1														3
X	7	6層2																2
Y	7					1層1												1
A	7						4層1											1
D	7									3層1							5層1	2
G	6		4層1		4層1		人骨1									人骨1		4
G	7	5層3					6層1					5層1						5
I	7	5層2	7層1	5層1 6層1	6層1		1層1		6層1	6層2		1層1						11
J	7			6層1			6層1											2
N	7	3層1	7層1	5層2 6層3	6層2	5層1 7層1				6層1	7層1						6層2	15
O	7			6層1 7層1						6層1	6層1	7層1						5
P	7	4層1	8層2	8層1		6層1	7層1		7層1									7
Aトレンチ	東	1 6層1																2
	攪乱	1				1												2
	1.8 ～1.9			1									1					2
	集石			1														1
C	2			2層1														1
F	9												3層1					1
その他	西崩れ	1																1
	表採					1											1層1	2
計		16	13	35	7	9	9	1	4	6	3	3	3	2	1	1	4	117

弥生時代に伴う特殊な石器として別にとりあげた。

平面長方形，断面扁平をなし，頭部を欠損している。両側面は丁寧な研磨調整で仕上げられている。一面は自然面を残して，表面調整を行ない，他面は器面が剝落している。片刃の刃部先端は平坦面が残り，鋭さを欠いている。長さ3.1㎝，巾2.6㎝，厚さ1.3㎝を測る。

以上石器について説明を加えてきたが，全体をとおして気づいた点について述べたい。

(ア) 石器の種類が多種にわたっていること。

(イ) 石斧や垂飾品など一部を除いたほかは，ほとんど砂岩の礫を材料として使用していること。

(ウ) 礫器，敲石，磨石等にみられるように，自然礫や剝片の手ごろなものを利器として簡単に利用していること。

(エ) 石斧は局部磨製石斧が大半を占めていることと，大形の石斧がG－7区－5層下から2本まとめて出土したこと。これらの石斧は重量が1835㌘と1307㌘と1㎏をはるかに越し，また刃部も鈍く，他と用途の異なるものであろう。

(オ) 敲石の出土量が他に比較して多く，また種類も多岐にわたっている，1000㌘前後の大きい扁平円礫の周縁部全部を使用するもの。掌大の扁平円礫の周縁部一部を使用するもの。扁平円礫のひとつの側面部だけを使用するもの。棒状円礫の上・下端部を使用するもの[1]に分けられたが，対象物に応じ，用途に応じて自由に自然礫を使い分けたものと考えられる。

今回の調査で多くみられた貝殻類，獣骨類，魚骨類等の調理に果した道具としての役目と，石組住居址内に山のように堆積した礫群との関係など興味深いものである。

(カ) 石皿は大形のものを含めて7個の出土がみられたが，欠損しているものが多かった。またほとんど火熱を受けた痕跡がみられることが注目される。

(キ) 砥石，研磨器など，特殊な道具が数点出土しているが，これらを使って何をどのように磨き，研ぎ，摺り，尖したのかおもしろい問題である。特に研磨器はM－6・7区の6層に集中しており上層式の時期に該当するものである。竜郷町の手広遺跡にも同様のものが出土している。[2]

石製加工品としてとらえた第10図6は，断面3㎜～5㎜の凹部がみられるが，前記の研磨器と異なり，摺ったり，磨いたりした痕跡がなく，別の用法を考えざるをえない。類例を待ちたい。

(ク) 卵形の礫で若干の加工が認められるものをあげたが，他にも自然礫として処理したものが多くみられた。出土状況によっては石弾としてとらえることもできるが，[3]今回も基礎資料のひとつとして記録しておきたい。サウチ遺跡[4]や渡具知東遺跡[5]にも出土例が知られている。

(ケ) 特殊な石製加工品として記述した第90図7は，岩質，形態等から一見石斧と思われるが，刃部に相当する部分に面を有する点で異なっている。利器としての機能でなく，別の用途に使用したものであろうか。

(コ) 第89図13・14は穿孔のなされた小石であるが，積極的に人間による加工痕とも認めがたく，自然石の感なきにしもあらずである。14の孔は自然には決してできないという意見[6]もあり，念のために記録した。今後の資料に待ちたい。

(サ) 黒曜石やチャートの剝片および残核が数点出土したが，貴重な材質であるだけに，その製品および原石の搬路等今後注目されよう。

(シ) 石棒，垂飾品，石製加工品（第８９図１１）石ノミ等，特別品がみられるが，縄文文化や弥生文化と奄美先史文化とのつながりを追究する上で重要な資料である。

(ス) 出土状況は第４表で示した。M－６区の集石内，M－７区－６層に出土量が多い。上層式の時期に該当する。またN－７区にも多く，石組住居址の近接部に集中していることが注目される。

種類としては敲石の出土が最も多い。石斧が２位を占めるが，G－７区５層に３個集中していることが注目される。（出口）

註

1. 読谷村教育委員会「渡具知東原」—第１～２次—発掘調査報告書　１９７７年３月
石器の項で，「B石槌」として分類され「横断面類三角形の棒状の石器で……」とあるが，これに該当するものと思われる。
2. 奄美考古学会　中山清美氏の教示を受け，また実物の実見の機会をあたえていただいた。
3. 河口貞徳「鹿児島県高橋貝塚」（『考古学集刊』）第３巻第２号　１９６５年
4. 笠利町教育委員会「サウチ遺跡」　１９７８年
5. 註１に同じ
6. 岩質鑑定の際，石川秀雄教授によって教示をうけた。

(3) 貝　器

今回の調査では，各地区より多くの貝類の出土をみた。そのうち貝製品と考えられるものについて以下記述する。（但し装飾品と考えられるものは別項に記述する）貝製品は，巻貝類が大半を占め，３点異なるものがあるだけなのが特徴的である。

A．穿孔貝（第９１図２・３，第９３図１～５，第９５図１０・１９・２０）

各地点より多量に出土している。マガキガイ・タカラガイ類が最も多く，他にクモガイ・ヤコウガイ・スイジガイ・チョウセンサザエ・イトマキボラ・ツノキガイ・オキニシ・シラクモガイ・オニコブシ・ギンタカハマ等多種にわたっている。殻頂部や体層部背面・腹面を打ち欠いたものであるが，ごく小さな穿孔のものと，比較的大きな穿孔のものに区分できる。小さな穿孔は不整形のものが多く，これは身をとり出すのが目的で穿孔されたものではなかろうか。大きな穿孔のものにも同様目的で開けられたものも存在するであろう。大きな穿孔のもの，数カ所に穿孔したもの等は，他の目的で開けられたものも存在すると思われる。従来穿孔貝には，呪術的な意味を考える説・装飾品としてとらえる説・貝錘とする説・貝輪未成品説等があるが，今回の調査での出土状況ではい

ずれとも判断のつかないものが多い。ただ貝種から考えて，貝輪未成品とは思われないものが多い。以下特徴的なものをあげる。

第９１図2　スイジガイである。全体的に磨滅しており，管状棘もほとんど欠けている。体層腹面に２～５㎝の不整形穿孔をもつ。前溝に接する管状棘が両面から磨がれて鋭利にされているのが特色である。利器として使用されたのであろうか。第Ⅲ地点Ａトレンチより出土したものである。

第９１図３・第９３図１～５　第Ⅲ地点Ａトレンチより出土している。第９１図3にみられるような殼口部に径1.5㎝くらいの穿孔をしたヤコウ貝が２点，第９３図１～５にみられる背面部を穿孔したタカラガイ５点（穿孔部分いずれも磨滅）が近接して出土したが，攪乱層と思われるので出土状況自体は意味あるとは考えられない。ヤコウガイ穿孔部は形を整えてあり意図的である。

第９５図１０　貝種不明の巻貝である。体層部背面・側面・腹面それぞれ一孔ずつ穿孔をする。背面は不整形であるが，側面・腹面は穿孔部を磨って整えるものである。

第９５図１９・２０　タカラガイ背面を穿孔したもので，１９は側面・腹面・内面ともに細い線刻を施したものである。２０は穿孔部を磨って整えたものである。

Ｂ．貝匙状加工品（第９２図１～８）

一般に貝匙と呼ばれているものが２１点出土している。そのうち２０点がヤコウガイ体層部を切り取ったもので，１点はスイジガイ(?)と思われる。結節部を２条残し，内面はゆるやかに彎曲する。縁辺部を磨ったものと，切りとったままにしているものがあるが，内外面ともに特別な加工は見られない。表面が剝離して真珠光沢をなすものも認められる。９２図１だけは表面を磨研して整えるもので，あるいは他のものとは使用目的が違うものかもしれない。９２図２は螺塔部を残し，カーブも深いが，他はいずれも浅いカーブ，仮にスプーンとして使用するのであれば，液状のものをつぐには不適当である。９２図4は一辺に抉りを加工している。

Ｃ．貝斧（第９４図１～１１）

ヤコウガイの蓋の薄い方の縁部を凹面側より荒く打ち欠いて刃部をもうけたもので，鈍器である。同種のものは広く南島に分布し，本遺跡でも第6層を中心に各層から出土する。宇宿上層式該当の住居址からも出土しているため，宇宿上層式時期にも製作使用されたことがわかるが，サウチ遺跡では面縄西洞式，弥生前・中期層及びその上層から出土しており，南島において相当長期間製作使用された定形化した利器であったことがわかる。２８点の出土のうち，９２図4だけは刃部を磨って平坦面を形成するという特徴がみられる。

第９２図９　全体的に表面が磨滅した小型のシャコガイである。肋部及び腹縁部を磨って平坦面をつくるものである。第３地点Ｃトレンチ２層より出土し，貝製品では数少ない２枚貝である。

(4)　装飾品

Ａ．貝製装飾品

1. 貝輪（第９１図１・第９３図６・７）

９１図１　スイジガイ製の貝輪で第１地点８層の出土である。内径縦 6.2 ㎝，横は欠損して不明で，貝輪としては大形品に属し４本の管状棘が特徴的である。体層背面を打ち欠き，さらに螺塔部を打ち欠く際に欠損した未成品と考えられる。背面穿孔部はていねいに磨かれているが，他は内外面ともに自然面のままである。

９３図６　珍らしくサラサバテイ製の貝輪である。第１地点Ｏ－７区２号ピットより出土した。内径は 4.6 ㎝内外の円形をなす。殻頂部を打ち欠き，その後丁寧に調整し内孔を磨って仕上げたものである。他は自然面を残している。

９３図７　メンガイ製の貝輪である。背面を打ち欠き調整して内孔を作ったもので，打孔面は一部分磨られている。内径は５㎝内外の略円形をなし，内外面ともに磨られて整えられている。

2. 垂飾品（第９５図１～８）

９５図１～６　マガキガイ螺塔先端を研磨・穿孔したものである。２～５は螺塔先端部だけを切りとっている。平面形は円形をなし，光沢を有するものもある。裏面は螺塔内の縫合部が渦巻状にのこっている。９５図３は径 1.3 ㎝，同図４は径２㎝である。

９５図７・８　７はツノガイを切り取って管玉状にしたもので，表面はよく研磨され光沢がある。内径 0.8 ㎝である。同図８は，巻貝を丁寧に磨って作った小玉である。一面に螺塔内縫合部が渦巻状に痕跡として認められる。内径 0.5 ㎝，厚さ 0.1 ㎝である。

3. その他（第９５図９）

欠損品であるため全形がわからないが，ヤコウガイを裁断して形を整えたもので，内外面ともよく研磨して真珠光沢をなす。

B. 骨製装飾品

1. 垂飾品（第９２図１２～１７）

第９２図１２は，魚の脊椎骨に一面より孔を穿ったもので，内径１㎝と 0.6 ㎝である。垂飾品又は耳飾りかと思われる。同図１３・１４はイノシシ牙の一端に小孔を穿ったもので，１３は内径 0.2 ㎝，１４は内径推定 0.4 ㎝である。いずれも欠損品で全形は不明であるが，垂飾又は腕飾りではないかと思われる。同図１５は，比較的大形の骨端部に両側面より穿孔して穴を貫通させたもので，孔径 0.5 ㎝である。下端部が欠損しているが，両側面及び背部は磨り凹めて抉り状に作り出されている。同図１６は，骨を調整して勾玉様の形状にしたものであるが，穿孔は背面より腹面へとおこなわれている。推定孔径 0.4～0.5 ㎝である。上下端を欠損する。同図１７は，骨の上端に外面より内面へ孔をうがつもので，表面よく研磨され光沢がある。あるいは骨針かもしれない。

2. かんざし（第９５図１８）

内外面共に一部表面が剝離し，組織が露出しているが，表面はよく調整されている。頸部をやや凹ませて頭部をつくり出し，そこに格子状に細い沈線を刻む。体部も同様手法で横位の平行沈線を施し，そこに格子状に沈線を施すものである。格子文と空白部を交互にもってきて文様効果をあげている。下端部は欠損しているが，形状よりかんざしと判断した。

3. その他（第９５図１１）

骨を厚さ 0.8 ㎝程に切りとり，全面よく研磨して形を整えた小形の円盤状製品である。径 1.8 ㎝

の円形に仕上げているが，用途は不明である。

C．サンゴ礁礫加工品（第９４図１２）

長径８㎝，短径４㎝の扁平なサンゴ礁礫の片側側面にノコギリ歯状に刻みを入れたものであるが，欠失している部分も多い。刻み目間に数カ所刺突して凹みを入れている。護符的なものであろうか。

（本田）

b．自然遺物

(1) 獣　骨

鹿児島大学農学部教授　大　塚　閏　一
〃　　助教授　西中川　　駿

今回，鹿児島県大島郡笠利町の教育委員会より調査の依頼を受けた「宇宿貝塚」出土の動物遺物標本のうち，陸棲の哺乳動物と思われるものについて，別表のように鑑定した。

出土した獣骨のうち，大多数はイノシシの骨である。イノシシは本土や九州産のものよりも小型で，リュウキュウイノシシと推定できるが，骨端軟骨の消失した成熟イノシシと推定できる骨からみると非常に小型のイノシシが生息していたようである。

つぎに，骨の点数からみると多数のウシの骨片がM－１９区－１層から発掘されている。これらは一頭のウシの四肢骨と推定できるが，表層近くから出土しており，骨質のいたみもそれほど著しくなく，古い時代のウシとは考え難い。ウシの大きさは，先年同じ宇宿貝塚より出土し，鹿児島県教育委員会に保存されていたウシの骨と比較すると小型であるが，現在の和牛より幾分か小さい程度である。

M－１６区－７層より出土したと記録されたウシの右側大腿骨の骨頭部分はM－１９区－１層出土のウシの左側大腿骨頭と同大で，同一個体のものと考えられ，なんらかの偶然で，隣のM－１６区にまぎれこんだのではないかと疑われる。Aトレンチ出土のウシの骨と歯はM－１９区－１層出土のウシより小型で，明らかに別の個体のものであるが，攪乱層と集石部から出てきているので，何時頃のウシか不明である。

また，大きさと形状から同一個体のものと推定できるウマの後臼歯３個がAトレンチの攪乱層と集石部から得られている。このウマは小型で，現在のトカラ馬程度の大きさと推測する。

さらに，ただ１個鹿の角がN－７区－７層より出土している。これには，人工的な丸い孔があけられている。この他には１点の鹿の骨もみられないので，出土層にあたる時代に奄美大島に鹿が生息していた証拠とは考え難い。

第5表　獣骨一覧表

発掘場所(標本袋の表示番号)(発掘年月日)	動物	骨名
M−4−2(1)(1978.8.4)	牛	下顎後臼歯片(左)
M−4−4(4)(1978.8.5)	猪	大腿骨(左)，膝蓋骨(左)
M−4−6(9)(1978.8.6)	猪	肩甲骨(右)
M−4−7(11)(1978.8.6)	猪	寛骨(左)，腰椎
M−4−7(14)(1978.8.7)	猪	後位の腰椎
M−5−6(25)(1978.8.18)	猪	上腕骨(右)，脛骨(左)
M−5−6(26)(1978.8.19)	猪	頸椎
M−5−6(28)(1978.8.17)	猪	上顎第三後臼歯(左)
M−5−6(32)(1978.8.17)	猪	橈骨(右)
M−5−6(42)(1978.8.17)	猪	橈骨(左)
M−5−6(43)(1978.8.19)	猪	肩甲骨(左)
M−5−6下(50)(1978.8.21)	猪	腓骨(左)，脛骨の骨幹と遠位端(左)
M−5−7下(56)(1978.8.19)	猪	下顎犬歯(右)，第二胸椎
M−5−7(58)(1978.8.21)	猪	尺骨(左)，仔の上腕骨(右)
M−5−7(62)(1978.8.21)	猪	第六頸椎，後位の腰椎
M−5−7(63)(1978.8.20)	猪	第六頸椎
M−5−7(64)(1978.8.20)	猪	頸骨?
M−5−7(66)(1978.8.22)	猪	肋骨(左)，大腿骨(左)
M−6−6下(85)(1978.8.22)	猪	頸椎，下顎骨(右)
M−5−7(87)(1978.8.21)	猪	最後位の腰椎
M−9−7(88)(1978.8.21)	猪	下顎骨臼歯部(左)，下顎骨臼歯部(右)，下顎骨下顎枝(左)
		肩甲骨(右)，肩甲骨(左)，上腕骨(右)，第四中手骨(左)
		脛骨(左)，橈骨(右)，脛骨(右)?
M−7−6(作)(100)(1978.8.21)	猪	肩甲骨(右)
M−7−6(作)(102)(1978.8.21)	猪	下顎骨と臼歯
M−7−6下(作)(104)(1978.8.22)	猪?	肩甲骨?
M−7−6下(作)(105)(1978.8.22)	猪	脛骨
M−8−2(106)(1978.8.12)	牛	下顎第三後臼歯(左)
M−8−7上(117)(118)(1978.8.20)	猪	第二胸椎，腓骨(右)
M−8−溝(119)(1978.8.20)	猪	頸椎
M−9−5(123)(1978.8.14)	猪	橈骨(左)
M−9−6(124)(1978.8.17)	猪	橈骨(左)
M−9−6(125)(1978.8.18)	猪	距骨(右)
M−9−6(129)(1978.8.17)	猪	距骨(右)，尺骨(右)
M−9−6下(131)(1978.8.18)	猪	距骨(右)，寛骨(右)，下顎第一切歯(左)
M−9−6下(133)(1978.8.19)	猪	大腿骨(右)，脛骨(右)，上顎骨，臼歯歯槽と第二・第三後臼歯(左)，肋骨
M−9−7(135)(136)(1978.8.19)	猪	腓骨(右)，距骨(左)
M−9−7(138)(1978.8.21)		後位(第十二または十三)胸椎
M−10−5(140)(1978.8.7)	猪	犬歯
M−10−5下(144)(1978.8.9)	猪	大腿骨(右)
M−10−6(145)(1978.8.9)	猪	犬歯，肋骨(右)
M−10−6(146)(1978.8.9)	猪	下顎第三切歯(左)
M−10−6(147)(1978.8.9)	猪	大腿骨(左)
M−10−6下(153)(1978.8.11)	猪	肋骨(左)，第三中足骨(左)，後肢第三趾基節骨(右)
M−10−6下(155)(1978.8.11)	猪	下顎骨切歯部
M−10−7(156)(1978.8.19)	猪	大腿骨(右)，脛骨(左)
M−10−7(157)(1978.8.14)	猪	第三中手骨(左)，下顎第二切歯(左)，肋骨(左)
M−13−4(162)(1978.8.7)	猪	第五中足骨(左)
M−13−7(165)(1978.8.8)	猪	下顎骨(左)，橈骨(右)，第三胸椎，肋骨(左)
M−16−1(168)(1978.8.4)	猪	肋骨(左)
M−16−2(169)(1978.8.6)	猪	上腕骨(左)と牛の脛骨?
M−16−7(172)(1978.8.8)	牛	大腿骨(右)
M−19−1(174)(1978.8.7)	牛	大腿骨(左)，脛骨(右)，尺骨(左)，中手骨(左)，前肢第三指基節骨(左)，前肢第四指基節骨(左)，前肢第四指末節骨(左)，前肢第三指末節骨種子骨(左)，前肢第四指末節骨種子骨(左)，後肢第三趾基節骨(左)，後肢第四趾基節骨(左)，後肢第三趾中節骨(左)，後肢第四趾中節骨(左)，後肢第三趾末節骨(左)，後肢第四趾末節骨(左)後肢第四趾末節骨(右)後肢第四趾基節骨種子骨(右)，その他牛の骨の小片多数
M−19−1(175)(1978.8.7)	牛	距骨(左)，中足骨(左)，中足骨(右)，中手骨(右)，距骨(右)，脛骨(左)，腓骨(左)，腓骨(右)，中心第四足根骨(左)，中心第四足根骨(右)，手根骨一式(右)，橈骨(右)尺骨(右)，前肢第三指基節骨(右)，前肢第四指基節骨(右)前肢第三指中節骨(左)，前肢第四指中節骨(左)，前肢第三指中節骨(右)，前肢第四指中節骨(右)，前肢第三指末節骨(右)前肢第四指末節骨(右)，膝蓋骨(右)，その他牛の骨の小片多数
M−19−1(176)(1978.8.6)	牛	肩甲骨(右)，橈骨(右)，尺骨(右)，肋骨(右)，第二・三足根骨(左)，第二・三足根骨(右)，前肢基節骨種子骨(右)3個，前肢末節骨種子骨2個，後肢第四基節骨(右)，後肢第三趾中節骨(右)，後肢第四趾中節骨(右)，後肢第三趾末節骨(右)，後肢基節骨種子骨(左)，後肢基節骨種子骨(右)3個，後位腰椎3個，その他牛の骨の小片多数
M−19−1(177)(1978.8.5)	牛	前位胸椎，肋骨，橈骨(左)，腰骨(左)，前肢第三指末節骨(左)，踝骨(左)，前肢基節骨種子骨(左)，後肢第三趾基節骨(右)，後肢基節骨種子骨(左)，その他牛の骨の小片多数
M−19−1(178)(1978.8.7)	牛	肩甲骨(右)，肋骨(右)，橈骨(左)，手根骨一式(左)，大
		腿骨(左)，脛骨(右)，膝蓋骨(左)，前肢基節骨種子骨(左)
		前肢基節骨種子骨(右)，後肢基節骨種子骨(左)，後肢基節骨
		種子骨(右)，後肢末節骨種子骨(左)，後肢末節骨種子骨(右)
		その他牛の骨の小片多数
G−6−4(191)(1978.8.17)	猪	肩甲骨(左)，指骨の小片
G−7−5(197)(1978.8.22)	猪	肩甲骨(左)
G−7−5(198)(1978.8.22)	猪	腓骨(左)
I−7−6(202)(1978.8.17)	猪	肩甲骨(右)
I−7−6(203)(1978.8.18)	猪	下顎第三臼歯(左)，上腕骨(左)
J−7−6(204)(1978.8.)	猪	肩甲骨(右)
I−7表採(206)(1978.8.17)	猪	大腿骨(左)
J−7−6下(208)(1978.8.12)	齧歯類?	大腿骨(右)
N−7−6(213)(1978.8.19)	猪	上顎第三後臼歯(左)
N−7−7(217)(1978.8.20)	猪	第二または第三腰椎，肋骨(右)，頸椎
	鹿	角
N−7−7(219)(1978.8.20)	猪	肋骨(右?)
N−7−8(220)(1978.8.21)	猪	尺骨(左)
O−6−2(221)(1978.8.18)	猪	膝蓋骨，大腿骨?
O−7−6(228)(1978.8.19)	猪?	大腿骨?
O−7−6(229)(1978.8.20)	猪	上腕骨(右)，腰椎2個
	猪?	脛骨?
O−7−6(230)(1978.8.20	猪	上顎第四前臼歯および第一後臼歯(左)，上顎第四前臼歯および
		第一後臼歯(右)，腰椎2個，肋骨(右)，肩甲骨(左)，上腕
		骨(右)，橈骨(左)，尺骨(左)，大腿骨(左)，大腿骨(右)
		距骨(右)大小2個，第四中足骨，前肢第五指基節骨，その他猪
		の骨の小片5点
O−7−7(238)(1978.8.22)	猪	下顎第三切歯(左)，肩甲骨(左)，尺骨(左)，大腿骨(右)
		脛骨(右)?，前肢第三指基節骨(左)
P−7−6(241)(1978.8.21)	猪	上顎骨(左)，頸椎，橈骨(左)，腓骨(左)，橈骨?(焼いて
		ある)
P−7グリッド(242)(1978.8.12)	猪	第五または第六胸椎
P−7グリッド(245)(1978.8.18)	猪	大腿骨(右)
P−7グリッド6層下(1978.8.17)(246)	猪?	大腿骨?
P−7グリッド6層(247)(1978.8.14)	牛	上顎第三後臼歯
P−7−7(251)(1978.8.22)	猪	上腕骨(右)，橈骨?
P−7−7(253)(1978.8.22)	猪	橈骨(左)，大腿骨?
P−7−7(254)(1978.8.21)	猪	第四中足骨(左)
P−7−8(270)(1978.8.20)	猪	上顎第三後臼歯
P−7−8(272)(1978.8.22)	猪	下顎骨(右)，第五または第六腰椎，肋骨(左)，上腕骨(右)
		尺骨(右)，大腿骨(左)?
P−7−8(273)(1978.8.22)	猪	最後位胸椎
P−7−9(275)(1978.8.22)	猪	橈骨(左)，尺骨(左)
P−7−9(276)(1978.8.22)	猪	上腕骨(右)
P−7−9(277)(1978.8.22)	猪	肩甲骨(左)，尺骨(左)
第Ⅱ−F−9−3(282)(1978.8.8)	猪	腓骨(左)
Aトレンチ攪乱層(287)	猪	後肢第三基節骨(左)，橈骨?
Aトレンチ攪乱層(288) 78085	馬	下顎第三後臼歯(右)
	牛	下顎第三後臼歯(左)
Aトレンチ攪乱層(289) 78086	牛	橈骨(右)
	猪?	上腕骨(左)?
Aトレンチ　(290) 78088	猪	腓骨(右)
第3区Aトレンチ黒褐色粘質砂層78089(293)	猪	尺骨(左)
第3区Aトレンチ集石部分78087(295)	馬	下顎第二後臼歯(左)，下顎第三後臼歯(左)
	牛	前肢第四指基節骨(右)，尺骨(右)?
第3区Cトレンチ Ⅰ−2層 780808(297)	猪	腓骨(左)
第3区Cトレンチ Ⅱ−2層 780807(306)	猪	第四中足骨(右)
第3区Cトレンチ Ⅱ−2層 780808(307)	猪	第三中手骨(右)
第3区Cトレンチ Ⅲ，Ⅳ−2層 780807(310)	猪	基節骨(前後左右不明)
上げ土より　(314)(1978.8.20)	猪	橈骨(左)
第1地点西崩れ土(320)(1978.8.22)	猪	第四中足骨(右)
表採　(324)(1978.8.22)	猪	肩甲骨(左)
保育園建設地北壁(325) V字溝　(326)	猪	上腕骨(左)，脛骨(右)

先年，宇宿遺跡で発掘された獣骨

骨番号	動物	骨名
1	牛	大腿骨(左)
2	牛	大腿骨(左)
3	牛	橈骨(左)
4	牛	肩甲骨(左)
5	牛	下顎骨(左)
6	牛	腓骨(右)
7	牛	下顎骨(右)
8	牛	大腿骨(右)
9	牛	上腕骨(右)
10	牛	尺骨(左)
11	牛	膝蓋骨(右)
12	牛	側頭骨乳突部
13	牛	前位胸椎
14	牛	前位胸椎
15	牛	腰椎
16	牛	腰椎
17	牛	上顎第一前臼歯(左)
18，18	牛	切歯骨(左)，切歯骨(右)
19	牛	後頭骨
20	牛	腓骨(右)
21	牛	胸椎
22，22	牛	腰椎
23，23，23，23，23，23	牛	椎骨の椎頭および椎弓
24	牛	胸椎の棘突起
25，25，25，25	牛	腰椎
26，26，26	牛	腰椎の横突起
27	牛	腰椎
28	牛	側頭骨乳突部(右)
29	牛	前頭骨
30	牛	後頭骨の後頭顆
31	牛	腰椎の棘突起
32，32，32	牛	胸骨片
33，33	牛	仙椎片
34，34	牛	舌骨

出土した獣骨は，大部分が小破片で完全な形状をとどめたものは腓骨，距骨，基節骨の極めて少数である。大腿骨や上腕骨のような長骨はほとんど2㎝以下の小片であるが，表には骨名のみを記載し，骨の部位名称は記さない。?は，動物名も骨名も骨が小さ過ぎて，鑑定に疑問が残るものである。

第6表　獣骨の区・層別出土表

第1地点　M線トレンチ

層＼区	4	5	6	7	8	9	10	13	16	19	計
Ⅰ									猪1	牛6	7
Ⅱ	牛1				牛1				猪1		3
Ⅲ											0
Ⅳ	猪1					猪1		猪2			4
Ⅴ							猪2				2
Ⅵ	猪1	猪7	猪1	猪4		猪5	猪5				23
Ⅶ	猪2	猪7			猪3	猪3	猪2		牛1		18
Ⅷ											0
Ⅸ											0
計	5	14	1	4	1	9	9	2	3	6	57

第1地点　7線トレンチ

層＼区	X	A	D	G7	G6	I7	J7	N7	O7	P7	計
Ⅰ						猪1					1
Ⅱ									猪1(O−6)		1
Ⅲ											0
Ⅳ					猪1						1
Ⅴ				猪1						猪1	2
Ⅵ						猪2	猪1	猪1	猪3	牛1 猪2	9
Ⅶ				猪1				猪2 鹿1	猪1	猪3	8
Ⅷ								猪1		猪3	4
Ⅸ										猪3	3
Ⅹ											0
計	0	0	0	2	1	3	1	5	5	12	29

第3地点　Aトレンチ

深さ＼種	牛	猪	馬	計
0〜80		1		1
80〜95			1	1
95〜100	1			1
180〜190		1		1
210〜290		1		1
集石部分			1	1
計	1	3	2	6

第3地点　Cトレンチ

層＼区	牛	猪	馬	計
Ⅰ				0
Ⅱ		3		3
Ⅲ		1		1
計	0	4	0	4

その他

- ○第2地点　F−9−3層　猪1
- ○上げ土　猪1
- ○西崩れ土　猪1
- ○表採　猪1
- ○保育園敷地北壁V字溝　猪2

の円形に仕上げているが，用途は不明である。

C．サンゴ礁礫加工品（第９４図１２）

長径８㎝，短径４㎝の扁平なサンゴ礁礫の片側側面にノコギリ歯状に刻みを入れたものであるが，欠失している部分も多い。刻み目間に数カ所刺突して凹みを入れている。護符的なものであろうか。

（本田）

b．自然遺物

(1) 獣　骨

鹿児島大学農学部教授　大　塚　閏　一
〃　　助教授　西中川　　駿

今回，鹿児島県大島郡笠利町の教育委員会より調査の依頼を受けた「宇宿貝塚」出土の動物遺物標本のうち，陸棲の哺乳動物と思われるものについて，別表のように鑑定した。

出土した獣骨のうち，大多数はイノシシの骨である。イノシシは本土や九州産のものよりも小型で，リュウキュウイノシシと推定できるが，骨端軟骨の消失した成熟イノシシと推定できる骨からみると非常に小型のイノシシが生息していたようである。

つぎに，骨の点数からみると多数のウシの骨片がM－１９区－１層から発掘されている。これらは一頭のウシの四肢骨と推定できるが，表層近くから出土しており，骨質のいたみもそれほど著しくなく，古い時代のウシとは考え難い。ウシの大きさは，先年同じ宇宿貝塚より出土し，鹿児島県教育委員会に保存されていたウシの骨と比較すると小型であるが，現在の和牛より幾分か小さい程度である。

M－１６区－７層より出土したと記録されたウシの右側大腿骨の骨頭部分はM－１９区－１層出土のウシの左側大腿骨頭と同大で，同一個体のものと考えられ，なんらかの偶然で，隣のM－１６区にまぎれこんだのではないかと疑われる。Aトレンチ出土のウシの骨と歯はM－１９区－１層出土のウシより小型で，明らかに別の個体のものであるが，攪乱層と集石部から出てきているので，何時頃のウシか不明である。

また，大きさと形状から同一個体のものと推定できるウマの後臼歯３個がAトレンチの攪乱層と集石部から得られている。このウマは小型で，現在のトカラ馬程度の大きさと推測する。

さらに，ただ１個鹿の角がN－７区－７層より出土している。これには，人工的な丸い孔があけられている。この他には１点の鹿の骨もみられないので，出土層にあたる時代に奄美大島に鹿が生息していた証拠とは考え難い。

第8表　地点，トレンチ，地層別魚骨出土個数

pm：前上顎骨　m：主上顎骨　d：歯骨　ar：関節骨　up：上咽頭骨　lp：下咽頭骨　q：方骨　hm：舌顎骨
ps：副蝶骨　po：前鰓蓋骨　o：鰓蓋骨　v：脊椎骨　ih：間血管棘　hp：下尾部骨　s：鰓の棘条
dA：歯骨タイプA　dB：歯骨タイプB
＊1個体中2個（1対）あるもの　＊＊1個体中3個以上あるもの

A　第Ⅰ地点

トレンチ・地層 ＼ 骨格部位	タイ科				フエフキダイ科		スズキ科				ベラ科				ブダイ科				ハリセンボン科				不明種																
	＊ pm	＊ m	＊ d	＊ ar	＊ pm	＊ d	＊ pm	＊ m	＊ d	＊ ar	＊ pm	＊ d	＊ up	lp	＊ pm	＊ d	＊ up	lp	pm	d	pm or	d	＊ pm	＊ m	＊ dA	＊ dB	＊ ar	＊ q	＊ hm	ps	＊ po	＊ o	＊＊ v	＊＊ ih	hp	＊＊ s
M－4－4																	1																2					
M－4－6																1								1				1			1							2
M－4－7	1																1							1							1							1
M－5－5																	1																					
M－5－5F	1																																					
M－5－6		2		1	3	3	1	1	1	1	1			2	5	4	3	2	1						2	2	3	4	1	2	1		17			6		
M－5－6下				1	2				1						2	1		2					1	1					1				11		2	2	1
M－5－7								2			1						1	1				1			1	2		1	1				9			3		
M－5－8														1																			1					
M－6－5																						1																
M－6－6		1					1								1	1	2							1								1	2					
M－6－6F(注)															1																							
M－7－4																		1																				
M－7－5			1																																			
M－7－6 (注)																1										1							1					
M－7－6下																																1						2
M－8－6																																1						1
M－8－6F	1																		1														1					
M－8－溝																		1															1					
M－9－4																																	1					
M－9－6				1				1		1				2	2	1	4	1			1		1	1								1	6		1	1		
M－9－6			1					1				1			1	3	2	2							1	1							6		1	1	2
M－9－7																			1														4					
M－10－5																																				1		
M－10－5下						1							1					1															1			1		
M－10－6			1											1	4		1	1	1										1				4					
M－10－6下					2		2						1	1	1	2	4	2			1	1		1									8			1		
M－10－7																		2													1		3		1			4
M－13－3															1	1																	1					
M－13－4					1		1			1					1																1							1
M－16－1																																	1					
D－7－4																																						

第9表　地点，トレンチ，地層別魚骨出土個数

B　第Ⅰ地点（続）

トレンチ・地層 ＼ 骨格部位	タイ科				フエフキダイ科		スズキ科				ベラ科				ブダイ科				ハリセンボン科				不明種																
	＊ pm	＊ m	＊ d	＊ ar	＊ pm	＊ d	＊ pm	＊ m	＊ d	＊ ar	＊ pm	＊ d	＊ up	lp	＊ pm	＊ d	＊ up	lp	pm	d	pm or	d	＊ pm	＊ m	＊ dA	＊ dB	＊ ar	＊ q	＊ hm	＊ ps	＊ po	＊ o	＊＊ v	＊＊ ih	hp	＊＊ s
G－6－3																																	1					1
G－6－5														1																			2					1
G－7－5																					1												1					
G－7－6														1																								
I－7－6															1	2	1		1									1					2			1		
I－7－表																													1									1
N－7－6					1						1						1											2										
N－7－7														1	2	3		1					1										1			1	1	
N－7－8																																						1
O－7－3															1																							
O－7－6	1				4	2	2	2	1			2	1	3	6	3	6	3			1	1	4	1	2	1	1	3		1	2		54			3	64
O－7－7	1				1				1						1								1									2	10			1	1
O P－7－6															1	1																						
P－7－6					1				1							1	2	1																				
P－7－6下	1		2		1	2					2		1	3	1		2	2									2					1	47		1		5
4																																						
P－7－																						1																
6																																						
P－7－7		1				1								1	1		4	3				1		1				1	1			3	11		1	1	3
P－7－8		1			1	1	2	2	1		1		2		4	2	3	4					5	1			2	1		3	1	3	34		3	3	7
P－7－9									1							1	1	1			1				1			1	1	1		2	22		2	1	1
P－7－表					1																												1			1		
Total(Ⅰ)	6	5	5	3	18	10	6	9	8	2	6	3	7	16	37	28	41	31	5	5	6		13	9	7	7	8	15	7	7	8	15	266		12	19	199	769

第10表　地点，トレンチ，地層別魚骨出土個数

C　第Ⅱ，第Ⅲ地点

トレンチ・地層 ＼ 骨格部位	タイ科				フエフキダイ科		スズキ科				ベラ科				ブダイ科				ハリセンボン科				不明種																
	＊ pm	＊ m	＊ d	＊ ar	＊ pm	＊ d	＊ pm	＊ m	＊ d	＊ ar	＊ pm	＊ d	＊ up	lp	＊ pm	＊ d	＊ up	lp	pm	d	pm or	d	＊ pm	＊ m	＊ dA	＊ dB	＊ ar	＊ q	＊ hm	ps	＊ po	＊ o	＊＊ v	＊＊ ih	hp	＊＊ s
No.2																																							
E－9－3																					1																		
E－10－3																																						1	
F－9－3																		1															3					
Total(Ⅱ)																		1			1												3				1	6
No.3																																							
A－180～190														1																									
C－1－2																			1										1									1	
C－1－2(砂地円)																												1					1					1	
C－2－2															1			1															1					1	
C－3－2														1	1																1					1	1	
C－表土																						1																	
上げ土																																	1						
西崩れ土																																	1						
土盛表土			1																																				
Total(Ⅲ)			1										1	1	2			1	1			1						1	1		1		4			1	4	20
Total (Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ)	6	5	6	3	18	10	6	9	8	2	6	3	8	17	39	28	41	33	6	6	7		13	9	7	7	8	16	8	7	9	15	273		12	20	124	795

(3) 貝　類

鹿児島大学名誉教授　理学博士　　平　田　国　雄

1. 次に掲げる貝類目録は，昭和５３年８年５日から８月２３日にわたって行われた，宇宿貝塚発掘調査の出土貝類目録である。

2. 出土貝類は，３８科１２０種に及ぶ。すべて，現在，奄美の海と陸と川に生息する種類である。このうち種類の多い９科を，種数順に並べると，次のとおりである。

1.	イモガイ科	１２種	２７個体	6.	リュウテンサザエ科	５種	２２個体
2.	タカラガイ科	１０	３１	7.	オオカサガイ科	５	１５
3.	アマオブネガイ科	９	１９３	8.	アクキガイ科	５	９
4.	マルスダレガイ科	８	５１	9.	イトマキボラ科	５	７
5.	スイショウガイ科	６	２０				

3. アクキガイ科の貝は，サンゴ礁など岩礁性の海岸に圧倒的に多産する貝であるが，味が苦いので，現在も，この苦味を好む特殊な味覚の人以外は，あまり食べない。この遺跡の採集品では，８位の５種９個体で，あまり多くない。

4. 種別に個体数の多いもの６種をならべると，次のとおりである。

1. アマオブネ　１５９個　　2. オハグロガキ　１０６個　　3. イシダタミ　８３個
4. イソハマグリ　３９個　　5. ニシキアマオブネ　２４個　6. ハナマルユキ　１５個

アマオブネ，オハグロガキ，イシダタミ，いずれも味がよく，現在も多産する。

5. このほかに，ウスカワマイマイ８０個，タメトモマイマイ６４個も，個体数が多いが，この２種をふくむ貝塚産出の陸産貝は，すべて食物としたものではなく，ちりだめに集まった生貝の遺骸であると考えるべきである。

6. シレナシジミが１個ふくまれていた。この貝は現在，住用の河口干潟が生息北限とされている。

第１１表　宇宿遺跡出土貝類目録

貝の種類 巻貝		出土地点，区，層	個体数
	ちゅうがさかい科		
1	リュウキュウウノアシ	I，M−10，6下（1）pit，P−7，6（2）	3
	おおかさがい科		
2	ツタノハ	I，M−2，1，（1）I，M−5，5（1），M−20，1（1）I，P−7，4（1）	4
2′	オオツタノハ	I，N−7，2（1）	1
3	ヨメガカサ	I，M−10，7（1）pit，P−7，6下（2）　　P−7，6（1）	3
4	オチバガサ	I，M−10，6（1）I，M−10，6下（1）I，pit，O−7，6，（1）pit，	
		6（1）	4
5	オオベッコウガサ	I，M−5，7（2）pit，O−7，6（1）	3
	みみがい科		
6	ミミガイ	I，G−7，6（1）	1
7	イボアナゴ	I，M−9，7（1）pit，O−7，6（1）pit，O−7，7（1）	3
	にしきうずがい科		
8	イシダタミ	I，G−7，1（1）I，M−10，6下（1）pit，P−7，6（42）pit，P−7，6下（39）	83
9	ムラサキウズ	I，M−4，7（1）I，M−5，7（1）I，M−10，6（1）	3
10	ギンタカハマ	I，M−5，7（2）I，M−16，1（1）I，M−16，7（1）1，O−7，4(1)	5

11	サラサバテイ	I, J−7, 4(1) I, M−5, 7(1) I, P−7, 8(1)	3
	りゅうてんさざえ科		
12	チョウセンサザエ	I, M−4, 7(1) I, M−5, 6(1) I, M−5, 7(1) I, M−13, 4(1) Aトレンチ, 0〜80㎝, 撹乱層(1) Aトレンチ, 180〜190㎝(1) II, Cトレンチ, 表土(1)	7
13	コシタカサザエ	I, M−4, 4(1) pit, P−7, 6(1) pit, P−7, 6下(1)	3
14	ヤコウガイ	I, 表面(1) I, M−4, 6(1) I, M−4, 7(2) I, M−5, 7(1) Aトレンチ, 95〜100㎝, 撹乱層(1)	6
15	カンギク	pit, P−7, 6下(3)	3
16	オオウラウズ	I, G−7, 6(1) I, M−5, 7(1) pit, P−7, 6(1)	3
	あまおぶねがい科		
17	イシダタミアマガイ	pit, P−7, 6下(2)	2
18	キバアマガイ	pit, P−7, 6(1)	1
19	フトスジアマガイ	pit, P−7, 6(1)	1
20	マキミゾアマオブネ	pit, P−7, 6(1)	1
21	アマオブネ	I, M−5, 7(1) I, M−10, 6下(7) II, E−9, 3(1) II, F−9, 1(1) II, F−9, 3(1) pit, P−7, 6(71) pit P−7, 6下(77)	159
22	カノコガイ	pit, P−7, 6(1) pit, P−7, 6下(2)	3
23	リュウキュウアマガイ	pit, P−7, 6下(1)	1
24	オオアマガイ	pit, P−7, 6, (1)	1
25	ニシキアマオブネ	II, C−3, 2(3) pit, P−7, 6(10) pit, P−7, 6下(11)	24
	うみにな科		
26	フトヘナタリ	I, M−16, 2(2) pit, P−7, 6(6) pit, P−7, 6下(6)	14
27	ヘナタリ	I, M−16, 7(1) pit, P−7, 6(1)	2
28	ウミニナ	I, M−6, 3(1) I, M−10, 7(1) II, E−10, 1(1) pit, P−7, 6下(2)	5
	おにのつのがい科		
29	オオシマカニモリ	pit, P−7, 6下(1)	1
30	カスリカニモリ	I, D−7, 3(1)	1
31	オニノツノガイ	I, M−5, 7(1) I, O−6, 2(1) pit, P−7, 6下(1) Aトレンチ, 礫石部分(1)	4
32	メオニノツノガイ	I, G−7, 4(1)	1
33	コオニノツノガイ	I, M−5, 3上(1)	1
34	キイロカニモリ	II, F−12, 3(1)	1
	すいしょうがい科		
35	マガキガイ	I, M−4−7(1) I, 西崩れ土(2) II, F−9, 3(1) Aトレンチ, 95〜100㎝, 撹乱層(3)	7
36	ムカシタモト	I, M−13, 4(1)	1
37	スイショウガイ	Aトレンチ, O〜80㎝, 撹乱層	1
38	クモガイ	I, M−5, 7(1) I, M−5, 7, 礫石部(1) I, M−9, 6(1) I, M−16, 1(1) Aトレンチ, 0〜80㎝, 撹乱層(1)	5
39	ラクダガイ	I, M−5, 7, 礫石部分(1)	1
40	スイジガイ	I, M−4, 4, (1) I−M−5, 7(2) II, C−3, 2(1) Aトレンチ, 95〜100㎝, 撹乱層(1)	5
	たからがい科		
41	イボダカラ	I, N−7, 2(1)	1
42	ハナビラダカラ	I, G−7, 1(1) I, N−7, 2(2) Aトレンチ, 0〜80㎝, 撹乱層(1)	5
43	キイロダカラ	I, M−4, 2(1)	1
44	ハナマルユキ	I, G−7, 6(1) I, M−6, 3(1) I, M−10, 6下(1) I, M−16, 1(1) I, M−16, 7, (1) I, P−7, 2(1) II, X−7, 1(1) pit, P−7−6, (2) pit, P−7, 6下(5) Aトレンチ, 0〜80㎝, 撹乱層, (1)	15
45	ハチジョウダカラ	pit, O−7, 7(1)	1
46	アミノメダカラ	Aトレンチ, 80〜95㎝, 撹乱部(1)	1
47	ヤクシマダカラ	I, M−4, 7(1) I, M−5, 7(1) I, 0−6, 2(1)	3
48	ホシダカラ	I, M−5, 5(1) I, M−5, 7(1) I, M−16, 7(1)	3
49	ホンキヌタ	I, P−7, 2(1)	1
50	ヒメホシダカラ	Aトレンチ, 80〜95㎝, 撹乱層(1)	1
	ふじつがい科		
51	シノマキ	II, F−12, 1(1)	1
52	ミツカドボラ	pit, P−7, 6下(1) Aトレンチ, 80〜95㎝, 撹乱層(1)	2
53	ホラガイ	I, M−5, 6(1) I, M−5, 7(1) pit, P−7, 7(2)	4
	おきにし科		
54	オキニシ	I, M−6, 3(1) I, M−6, 5(1) I, O−6, 2(1)	3
	やつしろがい科		
55	ウズラガイ	I, M−4, 5(1) I, M−10, 6(1) pit, P−7, 6下(1)	3
	あくきがい科		
56	レイシダマシ	I, M−10, 7(1)	1
57	ムラサキイガレイシ	I, M−8, 7上(1) I, M−10, 3(1)	2
58	シラクモガイ	I, M−5, 7(2)	2
59	テツレイシ	I, N−7, 2(1) I, 西崩れ土, (1) pit, P−7, 6下(1)	3
60	イボニシ	I, M−10, 6下(1)	1
	えぞばい科		
61	スジグロホラダマシ	pit, P−7, 6(1)	1
62	シマベッコウバイ	I, M−13, 4(1), M−13, 7(1) pit, P−7, 6下(2)	4
	おりいれようばい科		
63	アツムシロ	I, P−7, 2(1) pit, P−7, 6下(1)	2
	いとまきぼら科		
64	イトマキボラ	I, M, 5, 7(1)	1
65	ツノキガイ	I, H−6, 2(1) I, M−16, 2(1)	2
66	リュウキュウツノマタ	I, G−6, 3(1) pit, P−7, 6下(1)	2
67	ツノマタモドキ	pit, P−7, 6下(1)	1
68	チトセボラ	I, G−7, 6(1)	1
	ふでがい科		
69	チョウセンフデ	I, M−7, 2(1)	1
70	ニシキノキバフデ	I, O−7, 3(1)	1
	おにこぶしがい科		
71	オニコブシガイ	I, G−7, 6(1)	1
72	コオニコブシガイ	I, M−16, 7(1) I, O−7, 4(1)	2
	いもがい科		
73	ニシキミナシ	I, P−7, 3(1)	1
74	タガヤサンミナシ	I, M−8, 7(1)	1
75	アンボイナ	I, P−7, 9(1)	1
76	イボシマイモ	I, M−16, 7(1) I, N−7, 2(1) I, O−6, 2(1) pit, P−7, 6下(1)	4
77	キヌカツギイモ	pit, P−7, 6(1)	1
78	ヤナギシボリイモ	I, M−5, 6下(1)	1
79	ヒラマキイモ	I, G−7, 4(1)	1
80	ゴマフイモ	pit, I, N−7, 7(1)	1
81	ハナワイモ	I, O−6, 2(1)	1
82	サヤガタイモ	I, M−4, 4(1) I, M−9, 7(1) I, M−10, 6下(1) I, O−7, 4(1) pit, P−7, 6(4) pit, P−7, 6下(2)	10
83	マダライモ	I, M−16, 2(1) I, N−7, 1(1)	2
84	アンボンクロザメ	I, M−4, 6(1) I, M−5, 7(1) I, M−16, 7, (1)	3
	たけのこがい科		
85	タケノコガイ	I, P−7, 8(1)	1
	からまつがい科		
86	コウダカラマツ	I, G−6, 3(1) I, M−5, 5(1) I, M−10, 6(1) I, M−10, 6下(1) pit, P−7, 6(5) pit, P−7, 6下(8)	17
	二枚貝		
	ふねがい科		
87	エガイ	Aトレンチ, 0〜80㎝, 撹乱層(1)	1
88	ベニエガイ	I, M−16, 7(1) I, O−6, 2(1)	2
89	リュウキュウサルボウ	I, M−4, 5(1) I, M−13, 3(1) II, C−1−II, 2(1)	3
	いがい科		
90	シロインコ	II, X−7, 1(1)	1
	うみぎくがい科		
91	メンガイ一種	I, M−16, 7(1) I, pit, O−7, 6(1)	2
92	ヤスリメンガイ	I, M−9, 1(1) II, E−9, 3上(1)	2
	いたぼがき科		
93	オハグロガキ	I, G−6, 4(1) I, M−4, 4(1) I, M−5, 7(1) I, M−8, 7(1) I, M−10, 6(1) I, M−10, 6下(1) I, M−13, 3(1) I, M−16, 7(1) I, N−7, 3(1) pit, N−7, 7(1) pit, O−7, 6(2) pit, P−7, 6(45) pit, P−7, 6下(49)	106
	つきがい科		
94	クチベニツキガイ	I, 七盛区, 表面採集(1) II, J−6, 2(1) Aトレンチ, 0〜80㎝撹乱層(1)	3
95	ツキガイ	I, G−7, 1(1) I, G−7, 6(1) I, O−7, 4(1) II, X−7, 1(1) Aトレンチ, 礫石部(1)	5
	きくざるがい科		
96	カネツケザル	I, M−4, 4(1) I, M−9, 3上(1) II, X−7, 1(1)	3
97	サルノカシラ	I, M−4, 7(1)	1
	まんしちざるがい科		
98	カワラガイ	I, M−4, 4(1) I, M−9, 6(1) II, F−9, 3(1) Aトレンチ, 95〜100㎝, 撹乱層(1)	4
	しゃこがい科		
99	ヒレジャコ	I, G−7, 4(1) I, M−5, 6下(1) I, M−5, 7(1) pit, O−7, 6(1)	4
100	シラナミガイ	I, M−4, 5(1) I, M−4, 6(1) I, M−4, 7(1) pit, N−7, 7(1)	4
	まるすだれがい科		
101	ホソスジイナミガイ	pit, P−7, 6下(1) Aトレンチ, 0〜80㎝, 撹乱層(3)	4
102	アラスジケマンガイ	pit, N−7, 7(1)	1
103	マルオミナエシ	I, M−16, 7(1)	1
104	ハマグリ	pit, P−7, 7(1)	1
105	スダレハマグリ	I, M−9, 7(1)	1
106	ヌノメガイ	I, M−5, 5(1) I, M−10, 6(1)	2
107	アラヌノメ	I, M−10, 6下(1) Aトレンチ, 180〜190㎝(1)	2
108	イソハマグリ	I, M−5, 7(1) I, M−10, 6下(5) pit, P−7, 6(20) pit, P−7, 6下(12) Aトレンチ, 0〜80㎝, 撹乱層(1)	89
	しじみがい科		
109	シレナシジミ	表面採集(1)	1
	ばかがい科		
110	リュウキュウバカガイ	I, M−4(1) I, M−4, 7(1) I, M−25, 1, (1)	3
	しおさざなみがい科		
111	リュウキュウマスオガイ	I, G−7, 6(1) I, M−5, 7(1) I, M−7, 2(1) I, M−25, 1(1)	4
	にっこうがい科		
112	サメザラガイ	I, G−7, 1(1) I, M−4, 7(1) I, M−5, 7礫石部, (1) pit, P−7, 6下(1) Aトレンチ, 80〜95㎝, 撹乱層(1) Aトレンチ, 95〜100㎝(1)	6
113	リュウキュウシラトリ	I, M−5, 7礫石部, (1) I, M−13, 4(1)	2
	陸産貝		
	やまたにし科		
114	オオシマヤマタニシ	I, M−5, 6(1) I, M−5, 7(2) I, M−16, 7(1) pit, O−7, 7(1) pit, P−7, 6(1) pit, P−7, 6下(9)	15
	たにし科		
115	マルタニシ	I, M−5, 3(1)	1
	なんばんまいまい科		
116	オオシママイマイ	II, E−9, 3上(1)	1
	おなじまいまい科		
117	タメトモマイマイ	I, M−5, 7(5) I, M−10, 6下(1) II, E−9, 3上(2) II, X−7, 1(1) pit, N−7, 7(1) pit, P−7, 6(27) pit, P−7, 6下, (27)	64
118	ウスカワマイマイ	I, M−5, 5(75) I, M−10, 6下(1) pit, P−7, 6(1) pit, P−7, 6下(3)	80
	その他		
119	アマミカワニナ	4区, 6層(1)	1
120	クロフジツボ	pit, O−7, 7(1)	1

第４章　総　　説

笠利町東海岸における遺跡の分布が明らかになったことから，海岸砂丘が内陸部から形成がはじまり，外洋へ向かって進んで行ったことが明らかになった。一方宇宿貝塚においても，日本全域において明らかにされつつあるクロスナ層に該当する層の存在がたしかめられたが，反面奄美の太平洋岸砂丘遺跡は，遺物の新旧共伴の現象が見られ，これは人為的なものではなく，強風による自然現象の結果と判断され，その原因の一半は，風力によるdeflationによるものであることが推定された。このことから砂丘遺跡の調査は，特に広範囲にわたって実施することが，必要条件となることが認められた。

昭和３０年の調査によって，宇宿貝塚において，奄美における最初の，住居址の発見が行なわれ，続いて沖永良部島住居貝塚でも発見された。共に１辺約２ｍの方形石組住居址であった。時期はいずれも宇宿上層式に属するものである。今回もまた宇宿貝塚において，前回発見の石組住居址と，１０ｍの間隔をおいて，北々西方向に，全く同形式，同時期，同規模の石組住居址が発見された。この住居址の北西約６ｍには，石をあしらった，同時期の落ち込みの一部が発見されている。更にその北西に隣接して，同時期の土壙墓が配置されていた。これによって見ると，宇宿の砂丘台地は，宇宿上層式の時期の，埋葬墓を伴う集落地であったことがわかる。ここでは，この時期はまだ集落と墓域は，未分化の状態にあったと見られる。

両石組住居址には，いくつかの共通点があるが，最も注意を惹かれたのは，両者が共に，夥しい礫群に覆われていたことである。住居址のある地点に限って，礫群に被覆されていることは，住居址と礫群との間に，何らかの結びつきがあったことを示すものであろう。

一般に，遺構に礫が多く使用されていることは，砂丘の固定化に石が適していたことによるものと思われるが，石組住居址もそのような原因によるものかもしれない。方形の住居は，切妻の屋根形と考えられるが，夏期に南からの強風にさらされる奄美において，風の来襲方向に屋根の傾斜面を構築し，礫を屋根に置いて風害を防除したものかもしれない。

現代においても防風林，防風石垣，屋根の特殊構造など，風に対する配慮は大きい。

石組住居址より下層から，面縄東洞式と市来式を伴う集石群が，Ｍ－５区７層から検出されたが，径約２ｍの円形石組の一部と考えられる。中央部がくぼみ，北隅に木炭の集積部，それに隣接して貯蔵穴らしい遺構があり，床面に３点のまとまった土器が置かれるなど，敷石住居址の可能性がある。これは明らかに市来式の時期のものであった。この集石群の南，約３ｍには，宇宿下層式の時期の貯蔵穴群が配置されており，宇宿下層式の時期の集落層が，前述の宇宿上層式の集落層の下に，重なっていることを示している。

出土遺物については，本土との交流が長期にわたって，継続的に行なわれたことがあとづけられ，さらにその影響を受けながら南島の先史文化が推移して行った状態が認められた。

従来宇宿貝塚では，南九州から移入された，縄文後期の市来式土器が最も古いものと思われていたが，今回は曽畑式かと思われる土器が，Ｘ－７区の最下層から出土したが，壁の崩壊によって紛

失し，確認するに至らなかった。

Ｐ－７区第９層，Ｎ－７区第７層からは，貝殻条痕を有する薄手の直口で，口唇部に刺突連点を有する土器，口縁部に細い凸帯を貼り付け，凸帯には連点，器面には爪形文を施すなど古い様相を示す移入土器が出土した。おそらく中期を下らないものと思われる。

後期になっては，比較的に多く市来式土器が移入されており，引き続いて草野式が若干見られ，縄文晩期の黒川式が出土し，弥生時代になっては，前期，中期，後期の土器が移入，あるいは製作されている。

移入土器の中で南島土器への影響が大きいのは市来式である。その一つは面縄東洞式と市来式の融合という形であらわれており，今一つは器台付皿形土器の出現である。皿形土器は草野式にもあって，市来に引き続いて影響があったとみられる。

弥生式土器の場合，本遺跡では，影響は明らかではないが，弥生後期の土器と，宇宿上層式土器との共伴関係が明らかにされた。

南島の先史時代土器の推移を見ると，面縄東洞式では，深鉢形土器を主体として，市来式の影響による台付皿形土器の他に，嘉徳遺跡では，脚台付の二重口縁土器を伴ない，なかなか多彩であるが，主流は深鉢形土器で，面縄西洞式まで，深鉢形が継続する。しかし土器の質の面では，胎土に砂を混ぜて，焼成の良好な，条痕を有する従来の土器に対して，面縄西洞式は，小量ながら，砂粒を含まず，黄褐色で，宇宿上層式土器に類似した質の土器が同じ型式の中に発生する。面縄前庭式は丸底または尖底となり，喜念Ⅰ式になると，器形が壷形と甕形または鉢形に分れて多様化し，土器の質も宇宿上層式に等しくなり，ついに無文で壷形と甕形からなる宇宿上層式に至るのである。

石器では縄文時代晩期に，南九州で見られるような小形石棒が発見され，弥生時代のものとしては，ノミ形石斧が検出され，土器文化と共に石器の伝播も行なわれたことを示し，技術的な面では，サウチ遺跡で，ふいごの口，紡錘車が発見されて，製鉄・紡織の技術の伝播を示したが，宇宿貝塚では布目痕土器が発見されて，織布技術の伝播が考えられるようになった。

埋葬については，宇宿上層式の時期は，集落と墓域が尚分離しておらず，地域文化の特性を示す一方，その埋葬形態には，注意すべき特色が見られる。袋状の土壙。成人女性の跨間に嬰児を合葬したこと。嬰児遺骸上に直接礫が置かれたこと。埋葬中最後の埋土上に，清浄な砂を散布したことなど種々の習俗が見られる。

成人女性が労働に従事した形跡がないという，特異な性格を有し，当時は重宝であると共に，祭器であったと思われるガラス製玉類を，頸飾として着装していたこの女性の存在は，当時の社会を考える有力な手がかりともなろう。

埋葬の時期は弥生時代後期に該当するものと考えられるが，ガラス製玉類の分布が，この地域まで分布していたことは驚くべきことである。　（河口）

追記Ｃ－１４年代　（日本アイソトープ協会）

コード番号	依頼者のコード	Ｃ－１４年代
Ｎ－3378	№1（Ｍ－7.6下貝）	3510±65Y.B.P.（3410±65Y.B.P.）
Ｎ－3379	№2（Ｐ－7.7貯蔵穴３貝）	3600±90Y.B.P.（3500±85Y.B.P.）
Ｎ－3103	サウチＤ－７第７層	1920±80Y.B.P.（1860±75Y.B.P.）

第１２表　挿図土器一覧表

図	番号	地点	出土区	層	型式	図	番号	地点	出土区	層	型式
33	1	1	M 5	7集石	市来式	35	19	1	M 5	5 下	面東+市来
	2	1	P 7	7	市来式		20	1	M 9	6	面東+市来
	3	1	P 7	8	市来式		21	1	O 7	6	面東+市来
	4	1	D 7	5	面東+市来	36	1	1	Y 7	表 採	類市来
	5	1	M 5	6	市来式		2	1	M 5	7	面東+市来
	6	1	J 7	4	市来式		3	1	M 10	5	面東+市来
	7	1	N 7	6	市来式		4	1	D 7	5	面東+市来
	8	1	M 5	6	市来式		5	1	N 7	6	面東+市来
	9	1	I 7	4 (5)	市来式		6	1	M 7	6	類市来
	10	1	M 6	4 F	市来式		7	1	M 7	6 下	類市来
	11	1	G 7	4 (5)	市来式		8	1	M 5	7	類市来
	12	1	G 7	4 (5)	市来式		9	1	A 7	4	類市来
	13	1	M 4	5	市来式		10	1	M 5	7	類市来
34	1	1	M 6	6	面東+市来		11	1	N 7	6	類市来
	2	1	P 7	8	面東+市来		12	1	O 7	7	類市来
	3	1	M 5	7	面東+市来		13	1	O 7	7	類市来
	4	1	M 5	7	面東+市来	37	1	1	X 7	4	類市来
	5	1	P 7	8	面東+市来		2	1	M 4	7	類市来
	6	1	N 7	6	面東+市来		3	1	M 5	6	類市来
	7	1	P 7	8	面東+市来		4	1	M 5	7	類市来
	8	1	G 7	5	面東+市来		5	1	M 7		類市来
	9	1	P 7	8	面東+市来		6	1	G 7	5 下	類市来
35	1	1	M 10	6 下	面東+市来		7	1	M 5	6	類市来
	2	1	O 7	6	面東+市来		8	1	Y 7	6 下	類市来
	3	1	Y 7	6	面東+市来		9	1	Y 7	6 下	類市来
	4	1	O 7	6	面東+市来		10	1	J 7	4	類市来
	5	1	M 5	7	面東+市来		11	1	Y 7	7	類市来
	6	1	M 9	5	面東+市来		12	1	Y 7	6 下	類市来
	7	1	M 5	7	面東+市来		13	1	Y 7	6	類市来
	8	1	M 4	7	面東+市来		14	1	X 7	5	類市来
	9	1	P 7	7	面東+市来		15	1	N 7	7	類市来
	10	1	Y 7	表 採	面東+市来		16	1	P 7	8	類市来
	11	1	I 7	6集石	面東+市来		17	1	P 7	7	類市来
	12	1	X 7	4	面東+市来	38	1	1	P 7	9	面縄東洞
	13	1	N 7	6	面東+市来		2	1	O 7	6	面縄東洞
	14	1	M 5	6	面東+市来		3	1	M 5	6	面縄東洞
	15	1	Y 7	6	面東+市来		4	1	N 7	6	面縄東洞
	16	1	M 6	5 下	面東+市来		5	1	M 10	6	面縄東洞
	17	1	Y 7	4	面東+市来		6	1	M 9	7	面縄東洞
	18	1	D 7	3	面東+市来		7	1	X 7	5	面縄東洞

図	番号	地点	出土区	層	型式	図	番号	地点	出土区	層	型式
38	8	1	M 9	7	面縄東洞	40	18	3	A 7	4	面縄東洞
	9	1	O 7	6	面縄東洞		19	3	A 7	4	面縄東洞
	10	1	M 9	7	面縄東洞		20	1	D 7	3	面縄東洞
	11	1	Y 7	6	面縄東洞	41	1	1	M 5	7	草 野 ?
	12	1	M 6	6	面東+市来		2	1	M 10	7	面縄東洞
	13	1	P 7	7	面東+市来		3	1	M 5	7	面東+市来
39	1	1	M 4	壁	面縄東洞		4	1	M 7	6	草 野
	2	1	P 7	8	面縄東洞		5	1	M 10	7	面東+市来
	3	1	O 7	6	面縄東洞		6	3	A 7	4	草 野 ?
	4	1	J 7	6	面縄東洞		7	3	A 7	4	縄 文
	5	1	G 6	4	面縄東洞		8	1	M 10	7	縄 文
	6	1	M 5	6	面縄東洞		9	1	N 7	8	類市来
	7	1	D 7	6	面縄東洞		10	1	X 7	5	類市来
	8	1	X 7	4	面縄東洞		11	1	M 8	5	類市来
	9	1	Y 7	7	面縄東洞		12	1	P 7	7pit	類市来
	10	1	N 7	7	面縄東洞		13	1	M 5	7	類市来
	11	1	P 7	6	面縄東洞		14	1	X 7	5	類市来
	12	1	M 6	6	面縄東洞	42	1	1	M 9	6	嘉徳IA
	13	1	D 7	6	面縄東洞		2	1	M 9	6	嘉徳IA
	14	1	M 5	7	面縄東洞		3	1	M 7		面東+市来
	15	1	N 7	7pit	面縄東洞		4	1	M 6	6	面東+市来
	16	1	X 7	7	面縄東洞		5	1	M 5	7	嘉徳IA
	17	1	P 7	8	面縄東洞		6	1	M 6	6	嘉徳IA
40	1	1	O 7	6	面縄東洞		7	1	M 10	6	嘉徳IA
	2	1	Y 7		面東+市来		8	1	X 7	6	嘉徳IA
	3	1	M 4	4	面東+市来		9	1	D 7	4	嘉徳IA
	4	1	O 7	7	面縄東洞		10	1	J 7	4	嘉徳IA
	5	1	G 6	4	面縄東洞		11	1	M 16	6	嘉徳IA
	6	1	P 7	6	面縄東洞		12	1	M 6	6	嘉徳IA
	7	1	P 7	7	面縄東洞		13	1	M 8	6 下	嘉徳IA
	8			表 採			14			表 採	嘉徳IA
	9	1	M 7	6	面東+市来		15	1	M 7	5	嘉徳IA
	10	1	Y 7	6	面東+市来		16	1	P 7	7	嘉徳IA
	11	1	N 7	6	面縄東洞		17	1	J 7	6	嘉徳IA
	12	1	M 10	5	面縄東洞		18	1	M 10	6	嘉徳IA
	13	1	M 8	6 下	面縄東洞		19	1	G 7	4	嘉徳IA
	14	1	M 7	6	面東+市来	43	1	1	M 8	6	嘉徳IA
	15	1	M 7	6	面東+市来		2	1	M 6 5	6 7	嘉徳IA
	16	1	G 7	5	面縄東洞		3	1	M 10	5	嘉徳IA
	17	1	M 7	6	面東+市来		4	1	M 8	6	嘉徳IA

図	番号	地点	出土区	層	型式	図	番号	地点	出土区	層	型式
43	5	1	M 8	6	嘉徳IA	45	3	1	M 6	6	嘉徳II
	6	1	M 10	6	嘉徳IA		4	1	M 10	5	嘉徳II
	7	1	M 10	6	嘉徳IA		5	1	G 7	5 (6)	嘉徳II
	8	1	M 10	5	嘉徳IA		6	1	P 7	7	面縄前庭?
	9	1	I 7	5	嘉徳IA		7	1	P 7	7	嘉徳II
	10	1	N 7	6	嘉徳IA		8	1	P 7	6	嘉徳II
	11	1	I 7	5	嘉徳IA		9	1	D 7	4 (6)	嘉徳II
	12	1	M 10	5	嘉徳IA		10	1	G 7	5 (6)	嘉徳II
	13	1	M 5	7	嘉徳IA		11	1	D 7	5 (6)	嘉徳II
	14	1	M 8	溝	嘉徳IA		12	1	D 7	6 (7)	嘉徳II
	15	1	J 7	4	嘉徳IA		13	1	M 5	6	嘉徳II
	16	1	Y 7	6	嘉徳IA		14	1	G 7	5 (6)	嘉徳II
	17	1	M 10	5	嘉徳IA		15	1	M 5	6	嘉徳II
	18	1	M 10	5	嘉徳IA		16	1	M 5	6	嘉徳II
	19	1	Y 7	表 採	嘉徳IA		17	1	M 9	7	嘉徳II
	20	1	P 7	7	嘉徳IA		18	1	P 7	8	嘉徳II
	21	1	I 7	6	嘉徳IA		19	1	P 7	7	嘉徳II
	22	1	M 9	6	嘉徳IA		20	1	M 9	6	嘉徳II
44	1	1	P 7	8	面東+市来		21	1	Y 7	6	嘉徳II
	2	1	P 7	8	面東+市来		22	1	M 6	6	嘉徳II
	3	1	OP 7	6pit	面東+市来	46	1	1	G 7	5 (6)	凹線文
	4	1	J 7	4	嘉徳IB		2	1	M 7	6 下	凹線文
	5	1	M 9	6	嘉徳IB		3	1	M 5	6	凹線文
	6	1	X 7	6	嘉徳IB		4	1	P 7	7	凹線文
	7	1	P 7	6	嘉徳IB		5	1	G 7	5 (6)	凹線文
	8	1	M 6	5	嘉徳IB		6	1	M 4	7	嘉徳II
	9	1	G 7	5.壁(6)	嘉徳IB		7	1	N 7	6	嘉徳II
	10	1	J 7	6	嘉徳IB		8	1	M 5	6	凹線文
	11	1	M 8	5 下	嘉徳IB		9	1	M 6	6	凹線文
	12	1	M 9	4	嘉徳IB		10	1	J 7	6	凹線文
	13	1	P 7	7	嘉徳IB		11	1	M 5	6	凹線文
	14	1	M 8	溝	嘉徳IB		12	1	O 7	6	嘉徳II
	15	1	P 7	7	嘉徳IB		13	1	O 7	6	凹線文
	16	1	M 10	4	嘉徳IB		14	1	M 7	6	凹線文
	17	1	M 5	6	嘉徳IA		15	1	G 7	4 (5)	凹線文
	18	1	J 7	6集石	嘉徳IB		16	1	P 7	3	凹線文
	19	1	M 8	6 下	嘉徳IA		17	1	D 7	4 (5)	凹線文
	20	1	X 7	盛 土	嘉徳IA		18	1	Y 7	崩 れ	凹線文
45	1	1	N 7	7	嘉徳II		19	1	M 6	6	嘉徳II
	2	1	P 7	8	嘉徳II		20	1	M 5	6	嘉徳II

図	番号	地点	出土区	層	型式	図	番号	地点	出土区	層	型式
46	21	1	M	西 壁	嘉徳II	48	14	1	M 7	6 下	面縄西洞
	22	1	O 7	6	貼 付		15	1	M 5	6	面縄西洞
	23	1	M 5	7	山形・肥厚		16	1	D 7	5 (6)	面縄西洞
	24	1	M 6	6	面縄東洞		17	1	M 8	溝	面縄西洞
47	1	1	P 7	7	嘉徳II		18	1	M 7	6 下	面縄西洞
	2	1	I 7	7集石	嘉徳II		19	1	M 8	6	面縄西洞
	3	1	M 10	5	嘉徳II	49	1	1	D 7	4 (6)	面縄西洞
	4	1	M 9	5	嘉徳II		2	1	N 7	7	面縄西洞
	5	1	N 7	6	嘉徳II		3	1	N 7	7	面縄西洞
	6	1	M 8	溝	嘉徳II		4	1	O 7	6	口縁肥厚
	7	1	I 7	6	嘉徳II		5	1	O 7	6	口縁肥厚
	8	1	G 7	5 (6)	嘉徳II		6	1	N 7	7pit	口縁肥厚
	9	1	M 10	5	嘉徳II		7	1	O 7	6	押引文
	10	1	P 7	7	嘉徳II		8	1	M 16	7	面縄西洞
	11	1	X 7	7	嘉徳II		9	1	M 9	6 下	面縄西洞
	12	1	G 7	4 (5)	嘉徳IA		10	1	P 7		口縁刻目
	13	1	M 5	7	嘉徳II		11	1	M 9	6	口縁肥厚
	14	1	X 7	盛 土	嘉徳II		12	1	D 7	4	面縄西洞
	15	1	M	西 壁	嘉徳II		13	1	J 7	6 下	面縄西洞
	16	1	M 10	5	嘉徳II		14	1	N 7	7	面縄西洞
	17	1	Y 7	6	嘉徳II		15	1	O 7	7	押 引
	18	1	D 7	4 (6)	三角断面		16	1	M 9	5	面縄西洞
	19	1	I 7	5	格子文		17	1	M 9	5	面縄西洞
	20	1	O 7	6	嘉徳II		18	1	D 7	6 (7)	面縄西洞
	21	1	O 7	7	条痕文		19	1	M 5	6	嘉徳II
	22			表 採	篦削文		20	1	N 7	7	面縄西洞
	23	1	Y 7	6 下	嘉徳II		21	1	N 7	7	面縄西洞
48	1	1	P 7	6 下	面縄西洞	50	1	1	M 4	7	面縄前庭
	2	1	M 7	6	面縄西洞		2	1	M 5	7	面縄前庭
	3	1	P 7	6	面縄西洞		3	1	D 7	5 (6)	刻目貼付
	4	1	P 7	7	面縄西洞		4	1	D 7	5 (6)	刻目貼付
	5	1	M 7	6 住	面縄西洞		5	1	D 7	5 (6)	面縄前庭
	6	1	P 7	7	面縄西洞		6	1	O 7	6	面縄前庭
	7	1	M 7	6	面縄西洞		7	1	M 9	5	面縄前庭
	8	1	M 8	7	面縄西洞		8	1	O 7	6	面縄前庭
	9	1	P 7	1	面縄西洞		9	1	I 7	6	面縄前庭
	10	1	J 7	4	面縄西洞		10	1	M 9	6	面縄前庭
	11	1	N 7	5	面縄西洞		11	1	M 8	4	面縄前庭
	12	1	M 8	6	面縄西洞		12	1	O 7	6	面縄前庭
	13	1	P 7	7	面縄西洞		13	1	Y 7	6	面縄前庭

第１３表　挿図土器一覧表

図	番号	地点	出土区	層	型式
50	14	1	X 7	7	面縄貝殻
	15	1	D 7	5 (6)	面縄貝殻
	16	1	O 7	7	面縄貝殻
	17	1	O 7	6	面縄貝殻
	18	1	O 7	6	面縄貝殻
	19	1	N 7	7	面縄貝殻
	20	1	N 7	7	面縄貝殻
	21	1	M 5	7	面縄貝殻
	22	1	O 7	6	面縄貝殻
51	1	1	M 8	6	轟念Ⅰ軟
	2	1	G 7	4 (5)	轟念Ⅰ軟
	3	1	M 10	5	轟念Ⅰ硬
	4	1	Y 7	6	轟念Ⅰ軟
	5	1	M 7	6	轟念Ⅰ軟
	6	1	M 7	5	轟念Ⅰ硬
	7	1	J 7	4	轟念Ⅰ軟
	8	1	Y 7	崩れ	轟念Ⅰ軟
	9	1	J 7	6	轟念Ⅰ軟
	10	1	O 7	6	轟念Ⅰ軟
	11	1	M 7	5	轟念Ⅰ軟
	12	1	X 7	4	轟念Ⅰ軟
	13	1	M 7	6	轟念Ⅰ軟
	14	1	M 9	4	轟念Ⅰ硬
	15	1	I 7	6	轟念Ⅰ硬
	16	1	M	西 壁	轟念Ⅰ硬
	17	1	O 7	6	轟念Ⅰ軟
	18	1	M 9	5	轟念Ⅰ硬
	19	1	M 9	4	轟念Ⅰ軟
	20	1	P 7		轟念Ⅰ軟
	21	1	X 7	4	轟念Ⅰ軟
	22	1	N 7	6	轟念Ⅰ軟
	23	1	M	西 壁	轟念Ⅰ軟
	24	1	J 7	6	轟念Ⅰ軟
	25	1	M 8	5 下	轟念Ⅰ軟
	26	1	M 7	6	轟念Ⅰ硬
	27	1	M 7	5	轟念Ⅰ硬
52	1	1	D 7	6 (7)	轟念Ⅰ軟
	2	1	M 7	6 焼石	轟念Ⅰ軟
	3	1	N 7	6	轟念Ⅰ軟
	4	1	M 6	6	轟念Ⅰ軟
52	5	1	P 7	6	轟念Ⅰ軟
	6	1	P 7	6	轟念Ⅰ硬
	7	1	I 7	5	轟念Ⅰ軟
	8	1	N 7	7	轟念Ⅰ軟
	9	1	M 6	6	轟念Ⅰ硬
	10	1	M 6	6	轟念Ⅰ軟
	11	1	N 7	7	轟念Ⅰ軟
	12	1	M 7	6 焼石	轟念Ⅰ軟
	13	1	M 7	6	轟念Ⅰ軟
	14	1	M 7	6	轟念Ⅰ軟
	15	1	M 7	6	轟念Ⅰ軟
	16	1	J 7	4	轟念Ⅰ硬
	17	1	M 7	6	轟念Ⅰ軟
	18	1	M 7	6	轟念Ⅰ軟
	19	1	M 7	6	轟念Ⅰ軟
	20	1	M 8	6	轟念Ⅰ軟
	21	1	O 7	6	轟念Ⅰ軟
	22	1	P 7	7	轟念Ⅰ軟
	23	1	M 5	6	轟念Ⅰ軟
	24	1	M 7	5	轟念Ⅰ軟
	25	1	M 8	6	轟念Ⅰ軟
	26	1	Y 7	6	轟念Ⅰ軟
	27	1	M	西 壁	轟念Ⅰ硬
53	1	1	I 7	6	轟念Ⅰ硬
	2	1	I 7	6	轟念Ⅰ硬
	3	1	D 7	5 (6)	山形口縁
	4	1	I 7	6 焼石	貼，付
	5	1	N 7	7	隆帯貼付
	6	1	O 7	6	連　点
	7	1	M 5	7	連点押引
	8	1	X 7	6	口縁刻目
	9	1	M 7	5	直線文
	10	1	Y 7	6	直線文
	11	1	Y 7		直線文
	12	1	D 7	4 (6)	コブ状突起
	13	3	A 7	4	刻目帯状文
	14	1	O 7	7	刻目帯状文
	15	1	O 7	7	刻目帯状文
	16	1	M 8	5	刻目帯状文
53	17	1	D 7	3	直線文
	18	1	M 5	6	曲線文
	19	1	M 8	7	曲線文
	20	1	D 7	5	曲線文
	21	1	M 6	6	曲線文
	22	1	D 7	5	直線文
	23	1	I 7	7	条痕文
	24	1	D 7	5	曲線文
	25	1	I 7	6	連点帯状文
54	1	1	M 6	6	縦線軟
	2	1	M 6	6	上・胴部軟
	3	1	Y 7	6	上・胴部軟
	4	1	M 7	5	上・胴部軟
	5	1	N 7	6	上・胴部軟
	6	1	P 7	6	直線文軟
	7	1	M 7	6	上・胴部軟
	8	1	M 9	6	上・胴部軟
	9	1	D 7	5	直線文　硬
	10	1	M 10	5	爪形文　硬
	11	1	G 7	5	格子縦線文
	12	1	M 10	6	爪形文　硬
	13	1	M 10	6	刻目帯状軟
	14	1	M 7	6	縄文晩期軟
	15	1	M 7	5	縄文晩期軟
	16	1	O 7	6	縄文晩期軟
	17	1	I 7	6	弥生前期
	18	1	M 7	6	凸帯文弥生
	19	1	M 7	6	凸帯文弥生
	20	1	G 7	4	凸帯文弥生
55	1	1	M 5	8	条　痕
	2	1	M 5	8	条　痕
	3	1	M 5	8	条　痕
	4	1	M 5	8	条　痕
	5	1	M 5	8	条　痕
	6	1	M 5	8	条　痕
	7	1	M 5	8	条　痕
	8	1	M 5	8	条　痕
	9	1	M 5	8	条　痕
	10	1	M 5	8	条　痕
	11	1	M 5	8	条　痕
55	12	1	M 5	8	平　底
56	1	1	M 7	5	上b三角軟
	2	1	M 7	6	上b三角軟
	3	1	M 7	6	上b三角硬
	4	1	M 8	6	轟念Ⅰ式
	5	1	N 7	3	上b縄凸帯軟
	6	1	N 7	5	三角軟
	7	1	M	西 壁	轟念Ⅰ軟
	8	1	Y 7	6	轟　念
	9	1	M 6	6	上b肥厚硬
	10	1	M 7	6	上b三角軟
	11	1	M 8	5 下	上b肥厚軟
	12	1	M 6	6	上b三角軟
	13	1	N 7	6	上b三角軟
	14	1	M 7	6 下	上b肥厚硬
	15	1	M 8	6	上b肥厚軟
	16	1	O 7	6	上b肥厚硬
	17	1	M 6	5	上b三角軟
	18	1	M 5	6	上b三角軟
	19	1	M 7	5	上b三角軟
	20	1	M 7	6	上b三角軟
57	1	1	M 5	6	上a三角軟
	2	1	M 7	5	上a鉢胴軟
	3	1	M 8	5	上a鉢胴軟
	4	1	M 5	6	上a丸軟
	5	1	M	西 壁	上a胴部軟
	6	1	M 7	6	上a三角軟
	7	1	N 7	7	上a三角軟
	8	1	M 8	5	上a三角軟
	9	1	M 6	6	上a胴部軟
	10	1	M 6	5 下	上a三角軟
	11	1	M 7	6	上a胴部軟
	12	1	M 8	5	上a鉢胴軟
	13	1	M 5	6	上a丸軟
	14	1	M	西 壁	上a胴部軟
	15	1	M 7	6	上a三角軟
	16	1	N 7	7	上a三角軟
	17	1	M 8	5	上a三角軟
	18	1	M 6	6	上a胴部軟
	19	1	M 6	5 下	上a三角軟
	20	1	P 7	7	上a鉢胴軟

図	番号	地点	出土区	層	型式
57	21	1	M 5	6 下	a胴部軟
	22	1	M 7	6	a三角軟
58	1	1	M 7	6	a三角軟
	2	1	M 7	6	a胴部軟
	3	1	M	西 壁	a胴部軟
	4	1	I 7	6 焼石	a肥厚硬
	5	1	C 1	2	a三角硬
	6	1	M 5	6	a胴部軟
	7	1	M 6	6 住	a胴部軟
	8	1	M 5	6	a肥厚硬
	9	1	M 6	5 下	a三角硬
	10	1	N 7	6	a三角軟
	11	1	M 9	6	a胴部軟
	12	1	M 5	7	a胴部軟
	13	1	M	西 壁	a胴部軟
	14	1	M 7	6	a三角硬
	15	1	M 7	6	a三角硬
	16	1	M 7	6	a胴部軟
	17	1	M 5	6 下	a三角硬
	18	1	M 7	7	a三角軟
	19	1	M 6	7	a三角軟
	20	1	M 6	5	a胴部軟
	21	1	M 7	6	a胴部軟
	22	1	M 5	6	a肥厚硬
	23	1	M 6	6	a胴部軟
	24	1	M 7	6 下	a三角硬
59	1	1	I 7	6 焼石	上b胴部軟
	2	1	M 7	6	上b三角硬
	3	1	M 6	6	上b肥厚硬
	4	1	M 6	6	上b三角硬
	5	1	H 7	6	上b三角硬
	6	1	N 7	5	上b三角軟
	7	1	M 7	6	上b肥厚硬
	8	1	O 7	6	上b胴部軟
	9	1	M 5	7	上b三角硬
	10	1	P 7	6	上b三角軟
	11	1	M 7	6	上b三角軟
	12	1	N 7	7	上b三角硬
	13	1	N 7	6	上b三角軟
	14	1	M 6	6	上b三角軟
59	15	1	M 7	5	上b三角軟
	16	1	M 10	7	上b肥厚軟
	17	1	M 7	6	上b三角軟
	18	1	M 7	6	上b三角軟
	19	1	M 6	6 下住	上b肥厚硬
	20	1	N 7	6	上b胴部
	21	1	M 7	6	上b肥厚軟
	22	1	M 6	6	上b三角軟
	23	1	M 6	6	上b三角軟
	24	1	M 10	5	上b舌軟
	25	1	M 7	6 下	上b
	26	1	M 5	6	上b胴部軟
	27	1	M 7	5	上b肥厚
	28	1	M 6	6	上b三角軟
	29	1	M 5	6	上b三角軟
	30	1	I 7	5	上b三角軟
	31	1	M 6	6	上b三角軟
	32	1	N 7	6	上b三角軟
	33	1	N 7	7	上b三角
	34	1	M 7	6 住	上b舌
	35	1	M 6	6	上b三角
	36	1	M 7	6 下	上b三角
	37	1	Y 7	表採	上b三角
	38	1	I 7	5	上b肥厚
	39	1	M 7	7 pit	上b肥厚
	40				上b面口
59	41	1	M 5	6	上b肥厚
	42	1	I 7	6 焼石	上b三角
	43	1	M 7	6 下	上b三角
	44	1	N 7	7	上b三角
	45	1	M 5	6	a三角
	46	1	M 6	5 下	a三角
	47	1	M 5	6	a くの字
	48	1	M 10	5	a舌
	49	1	M 5	5 下	a三角
	50	1	M 7	6 下	a肥厚
	51	1	M 7	6 下 焼石	a肥厚硬
	52	1	M 7	7	a舌
	53	1	M 5	5	a くの字
	54	1	M 7	6 下	a三角
59	55	1	M 6	6 住	a舌
	56	1	M 6	6	a三角
	57	1	M 5	6	a三角
	58	1	M 7	6 下	a三角
	59	1	M 6	6	a鉢胴
	60	1	M 6	6	a三角
	61	1	M 6	6	a肥厚
	62	1	M 6	6	a肥厚硬
	63	1	M 7	6 下 焼石	a肥厚硬
	64	1	N 7	6	a肥厚硬
	65	1	M 7	6 焼石	a肥厚硬
	66	1	M 6	6	a三角
	67	1	M 6	6	a舌
	68	1	M 6	6	a舌
	69	1	M 5	5 下	a くの字
	70	1	M 7	6	a鉢胴
	71	1	M 6	6	a肥厚
	72	1	M 6	6	a鉢胴
	73	1	M 6	6	a三角
	74	1	M 5	7	a三角
	75	1	M 7	6	a三角
	76	1	M 6	5 下	a肥厚
	77	1	N 7	6	a三角
	78	1	M 7	6	a肥厚
	79	1	M 7	6 下	a舌
	80	1	M 7	6 焼石	a三角
	81	1	M 7	6 下	a肥厚
60	1	1	Y 7	表採	a鉢胴
	2	1	M 6	6	a肥厚
	3	1	M 5	7	a三角
	4	1	M 7	6 下	a肥厚
	5	1	I 7	4	a丸
	6	1	M	西 壁	a面口
	7	1	M 6	6	a三角
	8	1	N 7	7 pit	a鉢胴
	9	1	N 7	6	a鉢胴
	10	1	M 6	6	a鉢胴
	11	1	P 7	6	a舌
	12	1	N 7	6	a三角
	13	1	M 7	6	a鉢胴
60	14	1	M 6	6	a舌
	15	1	M	西 壁	a鉢胴
	16	1	I 7	4	a丸
	17	1	M 10	4	a鉢胴
	18	1	M 6	5 下	a丸
	19	1	N 7	6	a鉢胴
	20	1	M 7	6 下	a舌
	21	1	M 6	5 下	a三角
	22	1	M	西 壁	a鉢胴
	23	1	M 6	5 下	a三角
	24	1	N 7	6	a三角
	25	1	M 6	6	a三角
	26	1	P 7	表採	a三角
	27	1	I 7	4	a肥厚
	28	1	M 7	壁	a三角
	29	1	M 7	6	a三角
	30				a三角
	31				鉢胴
	32	1	N 7	7	肥厚
	33	1	O 7	6	三角
	34	1	M	西 壁	鉢胴
	35	1	N 9	6	三角
	36	1	M 7	6	くの字
	37	1	M 6	6	鉢胴
	38	1	M 6	6	三角
	39	1	M 7	6	三角
	40	1	M 8	6	外反
	41	1	N 6	7	肥厚
	42	1	M 7	6	鉢胴
	43				三角
	44	1	Y 7	6	鉢胴
	45	3	C 7	6	三角
	46	1	M 7	6	三角
	47	1	M 8	6 下	鉢胴
	48	1	M 6	5 下	鉢胴
	49	1	M 6	6	鉢胴
	50	1	M 7	6	鉢胴
	51	1	M 6	5	鉢胴
	52	1	M 8	6	鉢胴
	53	1	N 7	6	鉢胴

第１４表　挿図土器一覧表

図	番号	地点	出土区	層	型式
60	54			表採	肥厚
	55	1	M 7	6	鋸歯
	56	1	M 7	6	鋸歯
	57	1	J 7	4	三角
	58	1	N 7	6	鋸歯
	59	1	M 8	5	鋸歯
	60	1	M 5	6	三角
	61	1	M 7	6	肥厚
	62	1	M 7	6	肥厚
	63	1	M 6	6	く字
	64	1	N 7	6	鋸歯
	65	1	D 7	6	鋸歯
	66	1	M 6	6	舌
	67	1	M 6	6 住	鋸歯
	68	1	M 7	6	鋸歯
	69	1	P 7	7	肥厚
	70	1	M 7	6 下	肥厚
	71	1	N 7	7	舌
	72	1	M 6	6	肥厚
	73	1	M 7	6 集石	肥厚
	74	1	M 6	6	肥厚
	75	1	M 8	6	肥厚
	76	1	M 7	6	肥厚
	77	1	M 7	6 下	肥厚
	78	1	N 7	6	三角
	79	1	M	西壁	肥厚
	80	1	M 7	6	三角
	81	1	M 7	6	三角
	82	1	O 7	6	舌
	83	3	C 1	2	く字
	84	1	M 5	6	三角
	85	1	M 5	6	三角
	86	1	I 7	5	三角
	87	1	N 7	6	三角
	88	1	M 7	6 下	鋸歯
	89	1	M 5	7	舌
	90	1	M 5	6	肥厚
	91	1	M 7	6	三角
	92	1	M 7	6	く字
	93	1	M 6	6	三角

図	番号	地点	出土区	層	型式
60	94	1	M 7	6	三角
	95	1	M 5	7	三角
	96	1	M	西壁	三角
	97	1	M	〃	肥厚
	98	1	M 5	6 上	舌
	99	1	M 7	6	舌
	100	1	O 7	6	く字
	101	1	M 6	6	三角
	102	1	M 7	6	三角
	103	1	M 7	6	く字
	104	1	M 5	6	三角
	105	1	M 7	6	三角
	106	1	M 5	6	三角
	107	1	M 5	6 上	三角
	108	1	M 5	6	肥厚
	109	1	M 7	6 下	肥厚
	110	1	M 7	6 下	三角
	111	1	M 7	6	鋸歯
	112	1	N 7	6	三角
	113	1	I 7	6	鋸歯
	114	1	M 6	6	く字
	115	1	M 7	6 下	三角
	116	1	M 9	5	三角
	117	1	M 6	6	直口
	118	1	M 7	6 下	三角
	119	1	M 6	6	舌
	120	1	M 7	6	三角
	121	1	M 4	4	舌
	122	1	M 6	6	三角
	123	1	M 7	6 下	直口
	124	1	M 6	6	直口
	125	1	M 6	6	三角
	126	1	M 6	6	外反
	127	1	M 6	6	舌
	128	1	M 6	6	上b舌
	129	1	I 7	6 集石	鋸歯
	130	1	M	西壁	舌
	131	1	M 7	6 下	舌
	132	1	P 7	6	肥厚
	133	1	M 6	6	上b 鋸歯

図	番号	地点	出土区	層	型式
65	1				鋸歯
	2	1	M 7	6	舌
	3	1	M 7	6 下	内外はり出し
	4	1	M 6	6 下	三角
	5	1	M 7	6	鋸歯
	6	1	M 7	6 下	肥厚
	7	1	M 7	6	舌
	8	1	M 7	6	三角
	9	1	M 6	6 (住)	丸平底
	10	1	M 6	6 (住)	丸平底
	11	1	M 6	6 (下)	直口
	12	1	M 7	6 住	丸平底
	13	1	M 7	6 住	平底
	14	1	M 6	住	丸平底
	15	1	M 6	6 住	丸底に近い
	16	1	M 7	6 住	丸底
	17	1	M 6	6 住	丸底
	18	1	M 6	6 住	丸平底
	19	1	M 6	6 下住	丸平底
	20	1	M 6	6 下住	丸底
	21	1	M 6	6 下住	丸底
	22	1	M 6	6 住	弥生上げ底
	23	1	M 6	6 下住	丸底
	24	1	M 7	6 住	平底
	25	1	M 7	6 住	平底
	26	1	M 7	6 下住	弥生上げ底
66	1	1	M 6	6 下	上b肥厚軟
	2	1	M 7	6 住	上b三角軟
	3	1	M 6	6 下	上b丸軟
	4	1	M 6	住	上b鋸歯軟
	5	1	M 6	6 下住	上b鋸歯軟
	6	1	M 6	6 住	上b三角軟
	7	1	M 6	6 下	上b三角硬
	8	1	M 7	6 住	上a三角軟
	9	1	M 7	住	上a三角軟
	10	1	M 7	6 住	上b三角軟
	11	1	M 6	6 住	上b三角硬
	12	1	M 7	6 住	上a三角軟
	13	1	M 6	6 下住	上a肥厚軟
	14	1	M 7	6 下住	上a肥厚軟

図	番号	地点	出土区	層	型式
66	15	1	M 7	6 住	上a鋸歯軟
	16	1	M 7	6 住	上a鋸歯軟
	17	1	M 7	6 住	上a鋸歯軟
	18	1	M 6	6 住	上a肥厚軟
	19	1	M 7	6 住	上a肥厚軟
	20	1	M 6	6 下住	直口軟
	21	1	M 6	6 下住	凸帯硬
	22	1	M 6	6 住	喜念I軟
	23	1	M 7	6 住	喜念I軟
	24	1	M 7	6 住	嘉徳I軟
	25	1	M 6	6 下住	面東＋市来
	26	1	M 6	6 下住	面東＋市来
	27	1	M 7	6 住	押引
	28	1	M 7	6 下住	嘉徳IA
	29	1	M 6	6 住	喜念I軟
	30	1	M 6	6 住	沈線文
	31	1	M 7	6 下住	面東＋市来
	32	1	M 6	6 下住	面東＋市来
	33	1	M 6	6 住	三角断面
67	1	1	M 6	6 下住	篦磨き硬
	2	1	M 7	6 住	面縄西洞軟
	3	1	M 7	6 住	面縄西洞軟
	4	1	M 8	7	線刻
	5	1	M 7	6 住	線刻
	6	1	M 7	6 下住	貼付
	7	1	M 6	6 下住	面縄西洞
	8	1	M 6	6 住	面東＋市来
	9	1	M 7	6 住	線刻
	10	1	M 7	6 住	線刻
	11	1	M 6	6 下住	面東＋市来
	12	1	M 7	6 住	面東＋市来
	13	1	M 5	6 住	面東＋市来
	14	1	M 7	6 住	面東＋市来
	15	1	M 7	6 下住	連点
	16	1	M 7	6 下住	連点
	17	1	M 7	6 下住	面東＋市来
	18	1	M 7	6 下住	口唇刻目
	19	1	M 7	6 住	口唇刻目
	20	1	M 7	6 住	口唇刻目
	21	1	M 6	6 下住	面東＋市来

図	番号	地点	出土区	層	型式
60	134	1	N 7	6	上b鋸歯
	135	1	N 7	6	舌
	136	1	M 6	6	肥厚
	137	1	M 5	6	舌
	138	1	M 7	6	上b鋸歯
	139	1	M 5	6	上b鋸歯
	140	1	M 5	7	三角
	141	1	M 5	5	上b三角
	142	1	M 7	6 下	上b三角
	143	1	N 7	6	外反
	144	1	N 7	6	上b鋸歯
	145	1	M 7	6 下	外反
	146	1	M 7	壁	上b肥厚
	147	1	M 7	6 下	上b鋸歯
	148	1	M 7	6	肥厚
	149	1	M 7	6	肥厚
	150	1	M 5	6	く字
	151	1	M 7	5	三角
	152	1	I 8	6 集石	鋸歯
	153	1	M 5	6	舌
	154	1	M 7	6 下	鋸歯
61	1	1	P 7	7	沈線文
	2	1	O 7	7	沈線文
	3	1	P 7	7	沈線文
	4	1	O 7	7	沈線文
	5	1	P 7	7	線刻
	6	1	O 7	7	沈線文
	7	1	P 7	7	刻目帯状文
	8	1	O 7	7	沈線文
	9	1	O 7	7	沈線文
	10	1	P 7	7	面・市来
	11	1	O 7	7	線刻
	12	1	P 7	7	面縄東洞
	13	1	P 7	7	線刻
	14	1	P 7	7	線刻
	15	1	O 7	7	線刻
	16	1	P 7	7	平底
	17	1	O 7	7	線刻
	18	1	P 7	7	縄文
	19	1	O 7	7	平底

図	番号	地点	出土区	層	型式
61	20	1	O 7	7	平底
	21	1	P 7	7	平底
62	1	1	P 7	7	面東＋市来
	2	1	P 7	7	面東＋市来
	3	1	P 7	7	面東＋市来
	4	1	P 7	7	沈線文
	5	1	P 7	7	沈線文
	6	1	P 7	7	沈線文
	7	1	P 7	7	面東＋市来
	8	1	P 7	7	沈線文
	9	1	P 7	7	貝殻条痕
	10	1	P 7	7	貝殻条痕
	11	1	P 7	7	貝殻条痕
	12	1	P 7	7	貝殻条痕
63	1	1	O 7	6	貝殻条痕
	2	1	N 7	7	貝殻条痕
	3	1	M 5	7	貝殻条痕
	4	1	M 5	7	貝殻条痕
	5	1	D 7	4	貝殻条痕
	6	1	Y 7	4	貝殻条痕
	7	1	P 7	9	貝殻条痕
	8	1	N 7	7	貝殻条痕
	9	1	P 7	9	貝殻条痕
	10	1	M 4	6	貝殻条痕
	11	1	N 1	7 pit	貝殻条痕
	12	1	P 7	8	貝殻条痕
64	1	1	P 7	8	貝殻条痕
	2	1	M 5	7	貝殻条痕
	3	1	P 7	9	貝殻条痕
	4	1	P 7	9	刷毛目
	5	1	M 5	7	貝殻条痕
	6	1	X 7	上内	貝殻条痕
	7	1	O 7	5	貝殻条痕
	8	1	M 6	6 下	貝殻条痕
	9	1	P 7	6 A 攪乱	刷毛目
	10	1	M 6	6	刷毛目
62	1	1	I 7	6 集石	刷毛軟
	2	1	M 6	5 下	刷毛軟
	3	1	N 7	7	貝殻・沈刻
	4	1	D 7	4	貝殻・沈刻

図	番号	地点	出土区	層	型式
67	22	1	M 7	6 下住	平底
68	1	1	P 7	7 壁	上げ底
	2	1	M 10	5	平底
	3	1	M 8	壁	はり出し平底
	4	1	I 7	6 集石	はり出し平底
	5	1	G 6	5	平底
	6	1	N 7	6	平底
	7	1	M 6	5	はり出し平底
	8	1	M 7	5	はり出し平底
	9	1	M 9	6	上げ底
	10	1	O 7	6	はり出平底
	11	1	M 6	6 下	平底
	12	1	P 7	7	はり出し上げ底
	13	1	M 5	7	上げ底
	14	1	G 7	4	平底
	15	1	P 7	6 下	上げ底
	16	1	M 6	6	上げ底
	17	1	P 7	8	平底
	18	1	M 4	7	平底
	19	1	M 9	6	平底
	20	1	M	西壁	平底
	21	1	M 6	6	平底
	22	1	P 7	6	平底
	23	1	O 7	7	上げ底
	24	1	P 7	7	平底
	25	1	M 10	7	平底
	26	1	P 7	6	平底
	27	1	M 13	7	平底
	28	1	O 7	6	平底
	29	1	J 7	6	平底
	30	1	M 10	5	平底
	31	1	P 7	7	平底
	32	1	M 10	5	平底
	33	1	M 6	6	平底
	34	1	N 7	6	上げ底
	35	1	M 5	6	平底
	36	1	M 10	6 下	はり出平底
	37	1	M 7	5	平底
	38	1	M 7	壁	平底
	39	1	N 7	6	平底

図	番号	地点	出土区	層	型式
68	40	1	J 7	4	はり出平底
	41	1	Y 7		平底
	42	1	M 7	6 (住)	平底
	43	1	O 7	4	平底
	44	1	O 7	6	丸平底
	45	1	O 7	6	平底
	46	1	M 8	6	上げ底
	47	1	M 7	6	平底
	48	1	G 6	5	平底
	49	1	I 7	6	平底
	50	1	N 7	7 pit	平底
	51	1	P 7	8	平底
	52	1	M 10	6	平底
	53	1	I 7	4	木葉圧痕
	54	1	G 7	4	丸平底
	55	1	I 7	7	上げ底
	56	1	M 9	6	上げ底
	57	1	O 7	6	平底
	58	1	G 7	1	平底
	59	1	N 7		平底
	60	1	M 6	5	丸底
	61	1	P 7	8	平底
	62	1	M 6	6 下	丸底
69	1	1	M 6	5	平底
	2	1	M 8	6	上げ底
	3	1	M 7	6	平底
	4	1	J 7	4	平底
	5	1	M 6	6	上げ底
	6	1	M 9	6	平底
	7	1	P 7	7	平底
	8	1	P 7	7	上げ底
	9	1	M 6	6	上げ底
	10	1	I 7	6 集石	上げ底
	11	1	M 7	6	平底
	12	1	M 9	5	上げ底
	13	1	P 7	7	平底
	14	1	M 10	6	丸平底
	15	1	J 7	6	上げ底
	16	1	P 7	6	平底
	17	1	M 5	5	丸平底

第15表　挿図土器一覧表

図	番号	地点	出土区	層	型式	図	番号	地点	出土区	層	型式
69	18	1	M10	5	平底	70	4	1	M6	6	丸底
	19	1	M6	5下	丸平底		5	1	G7	1	丸底
	20	1	I7	5	平底		6	1	M7	6	丸底
	21	1	I7	6礫石	平底		7	1	M5	7	丸底
	22	1	I7	5	上げ底		8	1	M8	5	丸平底
	23	1	Y7	6	平底		9	1	M6	6	丸平底
	24	1	M10	5	平底		10	1	O8	7	丸底
	25	1	J7	4	平底		11	1	M5	6	丸底
	26	1	M8	6	平底		12	1	M6	5下	丸底
	27	1	G7	1	上げ底		13	1	M8	5	丸平底
	28	1	G7	4	丸平底		14	1	M7	壁	丸平底
	29	1	J7	4	平底		15	1	P7	7	丸平底
	30	1	G7	4	平底		16	1	M6	5下	丸底
	31	1	P7	7	上げ底		17	1	P7	5	丸平底
	32	1	N7	6	丸平底		18	1	G7	4	丸底
	33	1	M9	7	丸平底		19	1	M6	6下	丸底
	34	1	I7	5	平底		20	1	M6	6	丸底
	35	1	M7	6下	丸平底		21	1	Y7	6	丸平底
	36	1	I7	6礫石	丸平底		22	1	M8	6	丸底
	37	1	M8	6	丸平底		23	1	M6	5下礫石	丸底
	38	1	I7	5	丸平底		24	1	M5	7	丸平底
	39	1	M7	6	丸平底		25	1	M6	5	丸平底
	40	1	M7	5	丸平底		26	1	M7	6	丸平底
	41	1	M7	6	丸平底		27	1	M6	5	丸底
	42	1	M7	6下	丸平底		28	1	P7	6	丸底
	43	1	G7	1	丸平底		29	1	M6	5下礫石	丸底
	44	1	O7	7	丸平底		30	1	M5	6	丸底
	45	1	Y7	4	丸平底		31	1	N7	7pit	丸底
	46	1	J7	4	丸平底		32	1	M6	6	丸平底
	47	1	M7	6	上げ底		33	1	M5	6	丸平底
	48	1	M7	6下	丸平底		34	1	M6	6	丸底
	49	1	M6	6	丸平底		35	1	O7	6	丸平底
	50	1	M6	6	丸平底		36	1	M5	6	丸平底
	51	1	M5	6	丸平底		37	1	M8	6	貼付丸底
	52	1	M10	5	丸平底		38	1	N7	5	丸平底
	53	1	M7	6下	丸平底		39			表採	丸底
	54	1	N7	6	丸平底		40	1	M6	6	丸底
70	1	1	M6	6	丸平底		41	1	M7	6	丸平底
	2	1	M6	5下	貼付丸平底		42	1	O7	5	丸底
	3	1	G7	1	丸底		43	1	M5	6	丸平底

図	番号	地点	出土区	層	型式	図	番号	地点	出土区	層	型式
73	23	3	A	1.9～2.0		73	63	3	C1	2	小形平底
	24	3	A	2.1～2.45			64	3	C1	2	弥生凸帯
	25	3	A	攪乱 1.8～1.9	喜念I	32	1	3	C2	2	小形平底硬
	26	3	A	2.1～2.45	喜念I	74	1	1	M8	4	須恵器
	27	3	A	2.1～2.45	面縄西洞		2	1	M10	4	須恵器
	28	3	A	2.1～2.9	[illegible]鉢		3	1	M8	3	須恵器
	29	3	A	2.1～2.45	[illegible]鉢		4	1	M7	2	須恵器
	30	3	A	2.7～3.16	三角		5	1	M9	4	須恵器
	31	3	A	2.1～2.9	三角		6	1	M4	4	須恵器
	32	3	A	2.7～3.16	上b [illegible]鉢		7	1	P7	4	須恵器
	33	3	A	2.1～2.9	上b 三角		8	1	J7	3	須恵器
	34	3	A	2.7～3.16	上b 三角		9	1	M8	6	須恵器
	35	3	A	2.1～2.9	上b 三角		10	1	M5	4	須恵器
	36	3	A	2.7～	上b 三角		11	1	M5	4	須恵器
	37	3	A	攪乱 0.8～0.95	上b 三角		12	1	M7	4	須恵器
	38	3	A	1.8～1.9	[illegible]鉢		13	1	M5	4	須恵器
	39	3	A	2.1～2.9	舌		14	1	M7	4	須恵器
	40	3	A東6		舌		15	1	M9	4	須恵器
	41	3	A		上げ底		16	1	M9	4	須恵器
	42	3	A東	2.1～2.9	弥生凸帯		17	1	P7	4	須恵器
	43	3	A	2.1～2.45	凸帯		18	1	M7	壁	須恵器
	44	3	A東6	1.9～2.0	弥生凸帯		19	1	M8	溝	須恵器
	45	3	A東6	2.0～2.1	弥生凸帯		20	1	P7	4	須恵器
	46	3	A	2.1～2.45	弥生凸帯		21	1	M10	4	須恵器
	47	3	A	2.1～2.45	弥生口縁		22	1	O7	3	須恵器
	48	3	A	2.1～2.9	弥生凸帯		23	1	M9	4	須恵器
	49	3	A	2.1～2.45	弥生櫛文		24	1	N7	1	須恵器
	50	3	A	1.8～1.9	土製円盤		25	1	D7	4	須恵器
	51	3	A	1.8～1.9	滑石製品		26	1	M8	4	須恵器
	52	3	C1	2	面縄西洞	75	1	1	M10	5	須恵器
	53	3	C2	2	[illegible]鉢		2	1	M10	4	須恵器
	54	3	C2	下	外反		3	1	M10	4	須恵器
	55	3	C2	下	格子文		4	1	M8	4	須恵器
	56	3	C3	2	格子文		5	1	M8	4	須恵器
	57	3	C	表土	肥厚		6	1	M9	4	須恵器
	58	3	C1	2	三角		7	1	M7	4	須恵器
	59	3	C3	2	肥厚		8	1	M8	4	須恵器
	60	3	C3	2	喜念I?		9	1	M10	4	須恵器
	61	3	C2	2	嘉徳I		10	1	M8	4	須恵器
	62	3	C1	2	喜念I		11	1	T7	3	須恵器

図	番号	地点	出土区	層	型式	図	番号	地点	出土区	層	型式
70	44	1	G7	5	丸底	72	20		保北壁		[illegible]鉢
	45	1	M	西壁	丸平底		21		保北壁		三角
	46	1	M7	5	丸平底		22		保北壁		平底
	47	1	M6	6	丸平底		23		保北壁		丸底
	48	1	M6	6	丸平底		24		保北壁		丸平底
	49	1	M6	6下住	丸平底		25		保北壁		丸平底
	50	1	M7	6	丸底		26		保北壁		平底
	51	1	M7	5下礫石	丸平底		27		保北壁		平底
	52	1	M7	6	丸平底		28		大瀬表採		弥生凸帯
	53	1	M8	5	丸平底		29		大瀬表採		弥生口縁
	54	1	M6	6	丸平底		30		大瀬表採		弥生口縁
	55	1	M6	5下	上げ底		31		大瀬表採		弥生凸帯
	56	1	M8	5	器台		32		大瀬表採		弥生凸帯
	57	1	M5	6	弥生脚台		33		大瀬表採		弥生凸帯
	58	1	P7	9	上げ底		34		大瀬表採		弥生櫛文
	59	1	M7	6	弥生口縁		35		大瀬表採		弥生櫛文
	60	1	P7	8	弥生脚台		36		大瀬表採		弥生上げ底
	61	1	Y7	崩れ	弥生脚台		37		大瀬表採		弥生外耳
	62	1	M4	6	弥生手捏	73	1	2	F12	3	弥生外耳
71	1	1	M5	7礫石	面東+市来		2	2	F9	3上	三角
	2	1	M5	7	市来		3	2	F9	1	[illegible]鉢
72	1		保北壁		刻目帯状文		4	2	E9	3	弥生凸帯
	2		保北壁		嘉徳I		5			表採	研磨
	3		保北壁		嘉徳I滑石入		6	2	F9	3	丸底
	4		保北壁		面縄西洞		7	2	F12	3	平底
	5		保北壁		面縄西洞		8	2	F9	3	平底
	6		保北壁		櫛文・滑石入		9	2	F9	3	平底
	7		保北壁		面縄西洞		10	3	A東	2.1m～2.9m	面東+市来
	8		保北壁		面縄西洞		11	3	A	0～0.8	刻線
	9		保北壁		喜念I		12	3	A	攪乱	
	10		保北壁		上b肥厚		13	3	A	2.1～2.9	刻線
	11		保北壁		肥厚		14	3	A東	2.1～2.9	凹線文
	12		保北壁		肥厚		15	3	A	2.1～2.45	刻線
	13		保北壁		[illegible]鉢		16	3	A	2.1～2.45	刻目口縁
	14		保北壁		三角		17	3	A	2.1～2.45	刻目口縁
	15		保北壁		三角		18	3	A	2.1～2.9	嘉徳I
	16		保北壁		三角		19	3	A	0～0.8	面縄西洞
	17		保北壁		肥厚		20	3	A	～2.7	面縄西洞
	18		保北壁		肥厚		21	3	A	2.1～2.45	
	19		保北壁		[illegible]鉢		22	3	A	2.1～2.45	刻線

図	番号	地点	出土区	層	型式	図	番号	地点	出土区	層	型式
75	12	1	Y7	2	須恵器	77	21	1	P7	9	市来
	13	1	M5	4	須恵器		22	1	P7	9	平底
	14	1	N7	3	須恵器		23	1	P7	9	平底
	15	1	M10	4	須恵器		24	1	P7	9	平底
76	1	1	M8	4	須恵器		25	1	P7	9	口唇刻目
	2	1	N7	3	須恵器		26	1	P7	9	丸底
	3	1	N7	3	須恵器	78	1	1	M16	7	嘉徳IA
	4	3	A	攪乱礫石	須恵器		2	1	M7	6	線刻
	5	1	M7	4	須恵器		3				線刻
	6	1	M7	7	須恵器		4	1	M5	6下	凹線文
	7	1	M4	4	須恵器		5	1	P7	7	面縄西洞
	8	1	M7	3	須恵器		6	1	M10	5	鋸歯文
	9	3	A	攪乱礫石	須恵器		7	1	M10	5	鋸歯文
	10	1	O7	3	須恵器		8		M9	4	鋸歯文
	11	1	P7	4	須恵器		9		M10	5	鋸歯文
	12	1	M5	4	須恵器		10	1	M10	5	鋸歯文
	13	1	M8	3	須恵器		11	1	M10	5	鋸歯文
	14	1	M9	4	須恵器		12		M10	5	鋸歯文
	15	1	P7	4	須恵器		13	1	P7	7	平底
	16	1	M	西壁	須恵器	29		1	M10	6	面縄東洞
77	1	1	P7	9	面東+市来	31		1	M10	5	布目圧痕
	2	1	P7	9	連点	79	1	3	A	1.8～1.9	須恵器
	3	1	P7	9	市来		2	3	A	攪乱 0～0.8	須恵器
	4	1	P7	9	面縄東洞		3	3	A		須恵器
	5	1	P7	9	面東+市来		4	3	A	攪乱	須恵器
	6	1	P7	9	面東+市来		5	3	A	攪乱 0～0.8	須恵器
	7	1	P7	9	面縄東洞		6	3	A	攪乱 1.8～1.9	須恵器
	8	1	P7	9	線刻		7	1	M7	2	青磁
	9	1	P7	9			8			表採	青磁
	10	1	P7	9	面東+市来		9	1	X7	3	青磁
	11	1	P7	9	面東+市来		10	3	A	攪乱	青磁
	12	1	P7	9	面東+市来		11	2	F12	3	青磁
	13	1	P7	9	面縄東洞		12	1	M8	4	青磁
	14	1	P7	9	線刻		13	1	M16	2	青磁
	15	1	P7	9	口唇刻目		14	2	F12	3	白磁
	16	1	P7	9	面東+市来		15	1	M28	1	青磁
	17	1	P7	9	市来		16	1	M25	1	青磁
	18	1	P7	9	面縄東洞		17	1	N7	1	青磁
	19	1	P7	9	線刻		18			表採	青磁
	20	1	P7	9	線刻		19	1	M5	3	青磁

第１６表　挿図土器一覧表

図	番号	地点	出土区	層	型式
79	20	1	M 5	3	青磁
	21	1	M 6	3	青磁
	22	1	M 5	4	青磁
80	1	1	M 10	4	白磁
	2	1	M 8	2	白磁
	3	1	M 4	6	白磁
	4	1	M 7	4	白磁
	5	1	M 10	4	白磁
	6	1	M 7	2	白磁
	7	1	M 19	1	白磁
	8	1	M 9	3上	白磁
	9	1	O 7	6	白磁
	10	1	M 8	4	白磁
	11	1	M 6	3	染付
	12	1	N 7	1	染付
	13	1	M 5	5	染付
	14	1	M 10	2	染付
	15	3	A	撹乱 0～0.8	染付
	16	1	M 25	1	染付
	17	3	A	0～0.8	染付
	18	1	M 7	2	染付
	19	1	P 7	2	染付
	20	1	N 7	2	染付
	21	1	M 10	7	染付
	22	1	D 7	2	染付
	23	1		表採	染付
	24	1	M 16	2	染付
	25	1	M 25	1	染付
	26	3	A	礫石	染付
	27	3	A	礫石	染付
	28	3	A	礫石	染付
	29	1	D 7	1	染付
	30	3	A	撹乱 0～0.8	染付
0	1	1	P 7	2	陶器
	2	1	M 8	5	陶器
	3	1	M 9	3上	陶器
	4	3	A	0～0.8	陶器
	5	1	G 7	1	陶器
	6	1	P 7	2	陶器
	7	1	M 8	3	陶器
0	8	1	M 6	5	白磁
	9	1	M 9	6	陶器
	10	3	A	0～0.8	陶器
	11	3	A	撹乱 0～0.8	陶器
	12	1	I 7	3	陶器
	13	1	M 10	4	陶器
	14	1	M 10	2	陶器
	15	1	P 7	2	陶器
	16	1	P 7	4	陶器
	17	1	P 7	2	陶器

＊　0図は削除した。

第１７表　貝器・装飾品一覧表

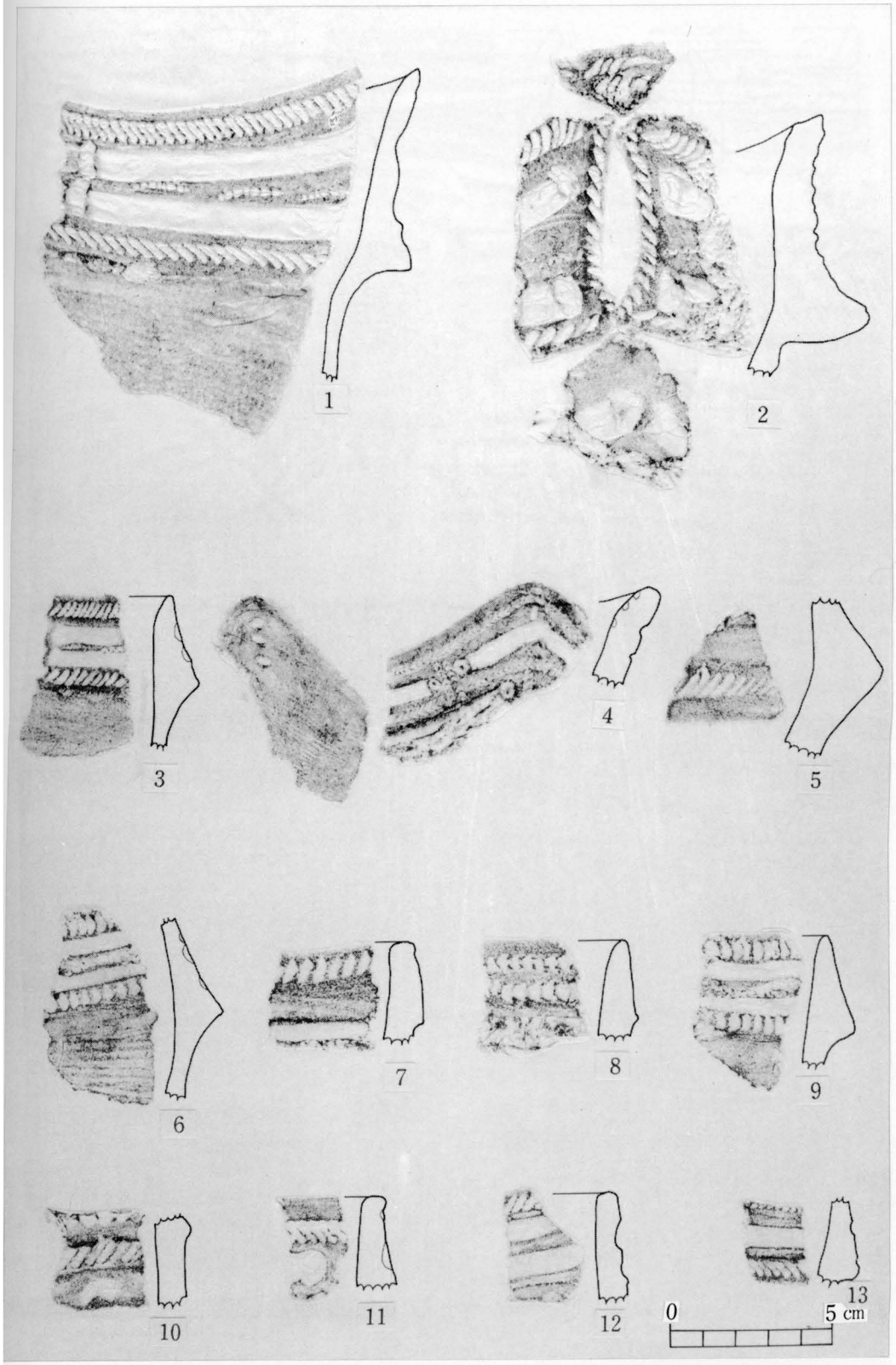
図	番号	品名	地点	出土区	層	種別	備考
91	1	貝輪	1	M－5	8	スイジガイ	半欠
	2	穿孔貝	3	Aトレンチ		スイジガイ	管状部研磨
	3	穿孔貝	3	Aトレンチ	礫石	ヤコウガイ	
92	1	貝匙	1	M－4	7	ヤコウガイ	表面研磨
	2	貝匙	1	M－5	6F	ヤコウガイ	
	3	貝匙	1	M－5	6下	ヤコウガイ	
	4	貝匙	1	M－5	6F	ヤコウガイ	縁研磨
	5	貝匙	1	M－5	6下	ヤコウガイ	縁研磨
	6	貝匙	1	P－7	7	ヤコウガイ	縁研磨・ピット
	7	貝匙	1	M－5	7	ヤコウガイ	縁研磨
	8	貝匙	1	P－7	9	ヤコウガイ	
	9	加工品	3	Cトレンチ	2	シャコガイ	縁・物研磨
93	1	穿孔貝	3	Aトレンチ	礫石	タカラガイ	穿孔部摩滅
	2	穿孔貝	3	Aトレンチ	礫石	タカラガイ	穿孔部摩滅
	3	穿孔貝	3	Aトレンチ	礫石	タカラガイ	穿孔部摩滅
	4	穿孔貝	3	Aトレンチ	礫石	タカラガイ	穿孔部摩滅
	5	穿孔貝	3	Aトレンチ	礫石	タカラガイ	穿孔部摩滅
	6	貝輪	1	O－7	7	サラサバテイ	2号ピット・背腹面研磨
	7	貝輪	1	M－4	7	メンガイ	一部研磨
94	1	貝斧	2	C－6	1	ヤコウガイの蓋	
	2	貝斧	1	G－7	6	ヤコウガイの蓋	
	3	貝斧	1	J－7	6	ヤコウガイの蓋	
	4	貝斧	1	M－5	6F	ヤコウガイの蓋	縁一部研磨
	5	貝斧	1	M－5	7	ヤコウガイの蓋	
	6	貝斧	1	M－5	8	ヤコウガイの蓋	
	7	貝斧	1	M－6	6下	ヤコウガイの蓋	住居址内・食一部欠
	8	貝斧	1	P－7	7	ヤコウガイの蓋	ピット内・食一部欠
	9	貝斧	1	P－7	9	ヤコウガイの蓋	
	10	貝斧	3	Aトレンチ	礫石	ヤコウガイの蓋	
	11	貝斧	3	Aトレンチ	礫石	ヤコウガイの蓋	
	12	加工品	1	J－7	5	サンゴ礁	片側に刻みあり
95	1	垂飾	1	O－7	2	マガキガイ	紐通穿孔
	2	垂飾	1	O－7	2	マガキガイ	紐通穿孔
	3	垂飾	1	P－7	7	マガキガイ	3号ピット・表裏研磨
	4	垂飾	2	E－9	1・B	マガキガイ	表より穿孔
	5	垂飾	2	F－9	1・B	マガキガイ	
	6	垂飾	3	Aトレンチ	不明		全面研磨
	7	貫玉	2	F－9	1・B	ツノガイ	全面研磨
	8	小玉	1	表採		巻貝	両面研磨
	9	加工品	1	M－10	7	ヤコウガイ	断片
	10	加工品	1	M－13	3	不詳	側部研磨穿孔
	11	円盤	1	M－5	6下	骨	全面研磨
	12	垂飾	1	M－8	6上	魚類骨	穿孔・研磨
	13	垂飾	1	M－10	6下	鹿牙	穿孔
	14	垂飾	2	F－9	1	鹿牙	穿孔
	15	垂飾	1	M－10	6	骨	両側より穿孔
	16	垂飾	1	G－6	4	骨	穿孔
	17	垂飾	1	P－7	7	骨	穿孔
	18	かんざし	3	Aトレンチ	－245㎝	骨	格子状刻目
	19	穿孔貝	1	Y－7	4	タカラガイ	内外に線刻あり
	20	穿孔貝	1	M－6	4	タカラガイ	穿孔面研磨

第１８表　図版・魚骨一覧表

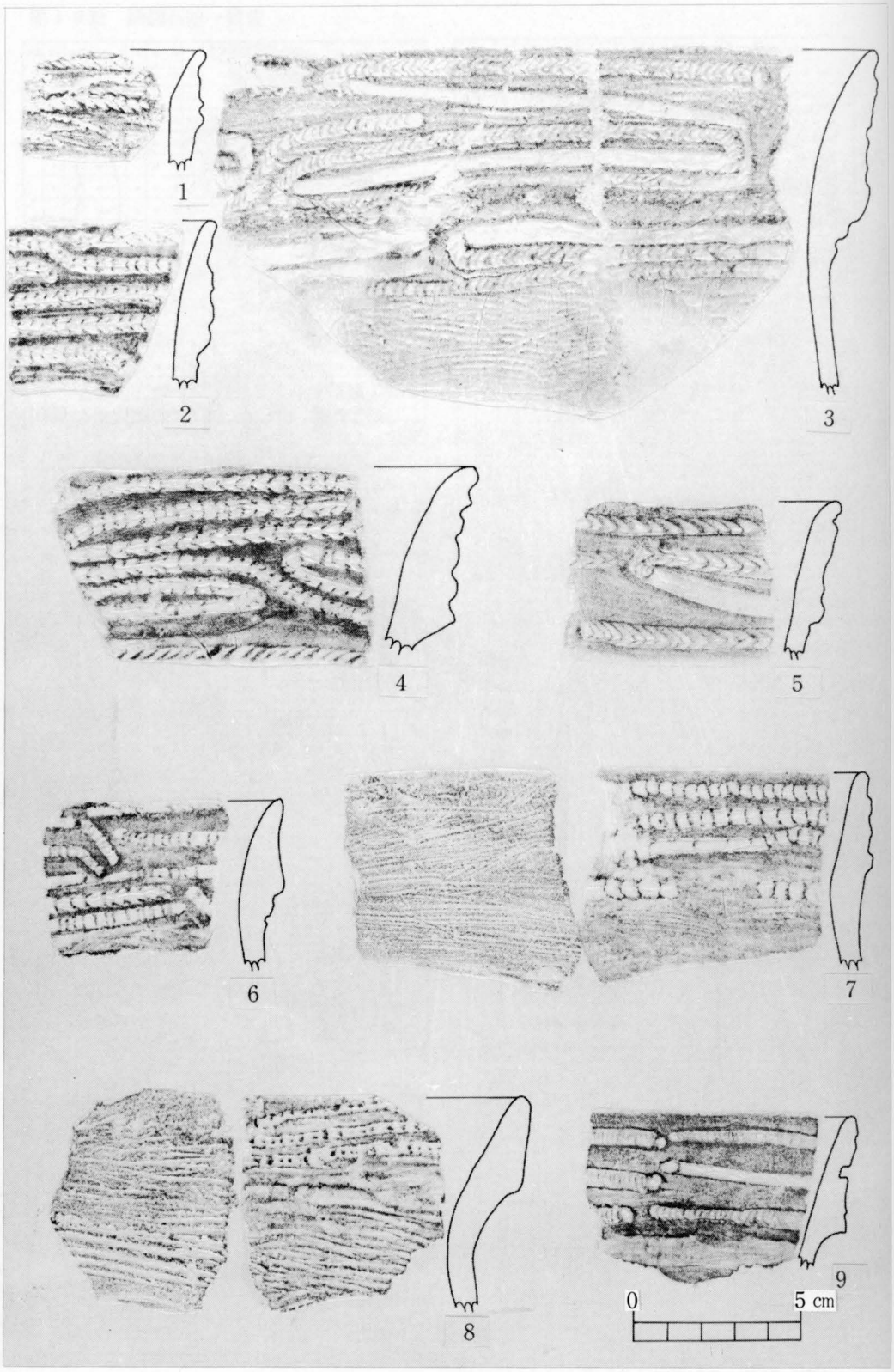
図版番号	写真番号	名称	地点	区・層	素材	電電・大きさ順	備考
36	1	前上顎骨	第1地点	O－7－7	クロダイ属	魚骨	側面
	2	前上顎骨	第1地点	O－7－7	クロダイ属	魚骨	内面
	3	歯骨	第1地点	M－7－5	クロダイ属	魚骨	側面
	4	歯骨	第1地点	M－7－5	クロダイ属	魚骨	背面
	5	前上顎骨	第1地点	O－7－7	フエフキダイ属	魚骨	外面
	6	前上顎骨	第1地点	O－7－7	フエフキダイ属	魚骨	内面
	7	歯骨	第1地点	M－5－6	フエフキダイ属	魚骨	側面
	8	歯骨	第1地点	M－5－6	フエフキダイ属	魚骨	背面
37	9	前上顎骨	第1地点	M－5－6	ブダイ科	魚骨	外面
	10	前上顎骨	第1地点	M－5－6	ブダイ科	魚骨	内面
	11	歯骨	第1地点	M－5－6	ブダイ科	魚骨	外面
	12	歯骨	第1地点	M－5－6	ブダイ科	魚骨	内面
	13	上咽頭骨	第1地点	P－7－8	ブダイ科	魚骨	腹面
	14	上咽頭骨	第1地点	P－7－8	ブダイ科	魚骨	側面
	15	下咽頭骨	第1地点	M－10－7	ブダイ科	魚骨	背面
38	16	前上顎骨	第1地点	M－6－6F(住)	スズキ科	魚骨	内面
	17	関節骨	第1地点	M－9－6	スズキ科	魚骨	側面
	18	上咽頭骨	第3地点	C－3－2	ベラ科	魚骨	腹面
	19	下咽頭骨	第1地点	P－7－7	ベラ科	魚骨	背面
	20	上顎骨	第1地点	M－5－6	ハリセンボン科	魚骨	前面
	21	上顎骨	第1地点	M－5－6	ハリセンボン科	魚骨	内面

第19表　挿図石器一覧表

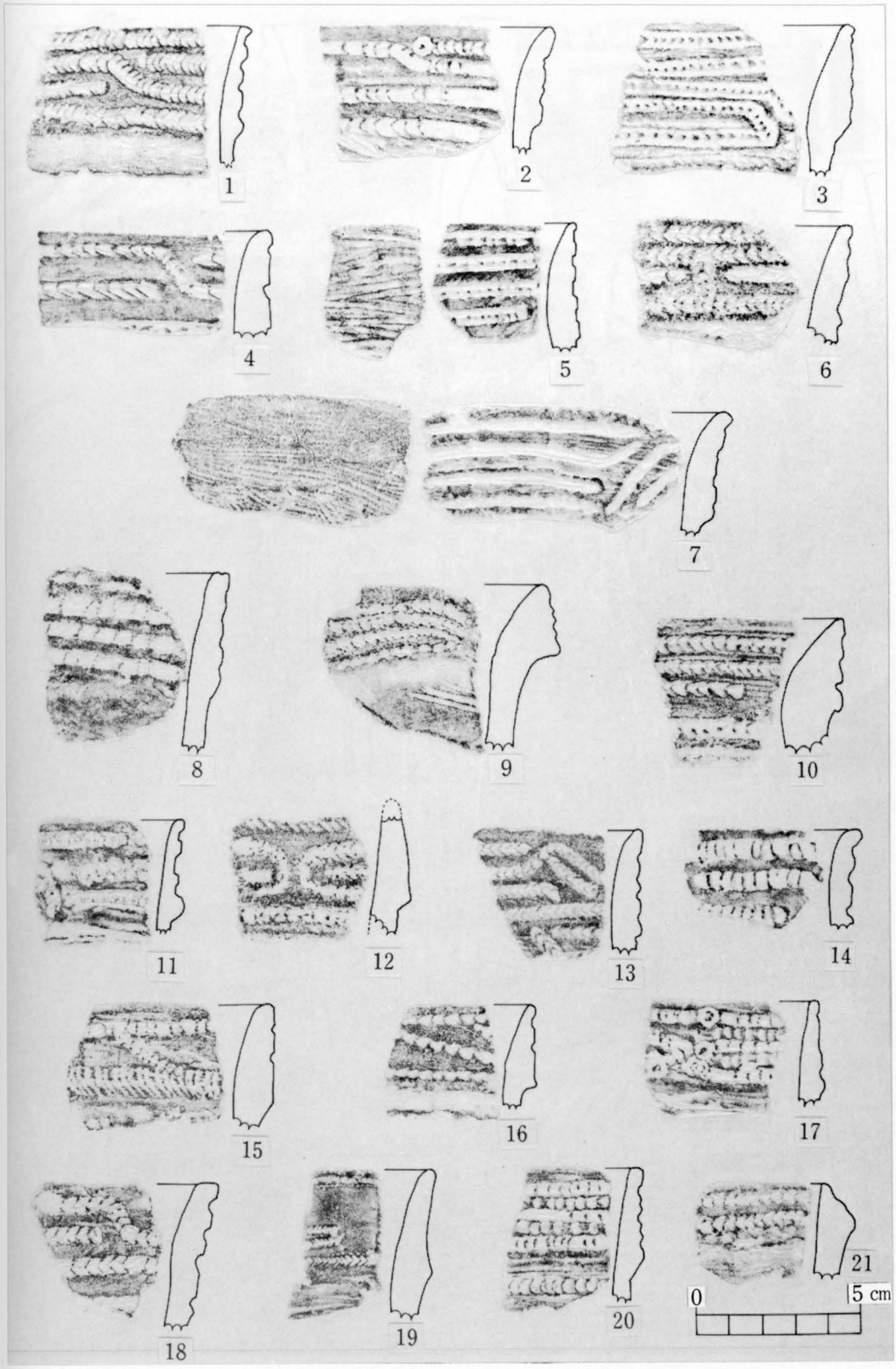
図番	番号	地点	出土区	層	型式	形	長径×短径 (cm)(cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	備考
1	1	1	X～7	6	石斧	完	9.1×4.4	2.25	138.5	砂岩	
	2	1	M～7	集石	石斧	半欠	7.0×5.85	3.1	167.1	シルト岩	磨製
	3	1	G～7	5	石斧	半欠	8.3×4.9	2.7	193.2	砂岩	石英脈あり
	4	3	Aトレンチ東		石斧	半欠	6.35×5.3	1.65	73.2	砂岩	2.1～2.9 黒褐色粘質砂層
	5	1	M～?		石斧	完	8.6×5.55	3.35	146.5	砂岩	西崩れ土
	6	1	M～7	6	石斧	完	6.0×5.45	2.8	251.2	砂岩	たゝき石を二次使用
	7	1	M～7	6	石斧	半欠	5.7×5.05	2.4	96.4	頁岩	
	8	1	P～7	4	石斧	半欠	7.25×6.5	2.9	191.0	砂岩	
	9	3	Aトレンチ	撹乱	石斧	破片	4.1×2.5	1.5	27.2	シルト岩	石器破片 0.8～0.9
	10	1	N～7	3	石斧	半欠	5.6×5.35	3.45	155.0	頁岩	
	11	1	G～7	5下	石斧	完	16.3×9.4	6.0	1307.0	シルト岩	南壁断面
	12	1	G～7	5下	石斧	完	19.0×11.0	5.45	1835.0	シルト質砂岩	南壁断面
2	1	1	M～5	5	剥片石器	完	6.9×6.05	2.15	112.25	砂岩	
	2	1	G～6	4	剥片石器	完	8.4×7.7	2.35	199.7	砂岩	
	3	1	M～10	5	剥片石器	完	7.3×6.5	1.8	134.3	石英質砂岩	白長石 半透明石英
	4	1	M～7	6	剥片石器	完	7.2×5.85	1.8	85.25	硬質砂岩	
	5	1	M～1	1	剥片石器	半欠	10.35×6.2	3.8	297.5	砂岩	
	6	1	P～7	8	剥片石器	完	7.6×4.3	1.8	64.5	砂岩	
	7	1	P～7	8	剥片石器	完	7.5×7.4	2.0	127.8	砂岩	
	8	1	M～6	集石	剥片石器	完	12.05×5.4	4.9	412.25	硬質砂岩	
	9	1	N～7	7	石核石器	完	7.7×7.25	3.0	208.5	硬質砂岩	
	10	1	M～6	5	石核石器	完	15.8×9.15	4.3	765.0	砂岩	集石
	11	1	I～7	7	石核石器	完	8.6×7.5	7.0	413.0	硬質砂岩	
3	1	1	M～8	6	石核	半欠	7.9×7.85	8.35	766.25	硬質砂岩	
	2	1	M～6	5下	敲石	破片	6.4×6.2	3.1	161.2	砂岩	集石
	3	1	M～5	6	石核	半欠	9.9×8.5	6.85	766.4	硬質砂岩	細粒砂岩
	4	1	N～7	6	敲石	破片	8.5×4.1	6.4	282.5	砂岩	
	5	1	M～10	6	敲石	完	12.4×11.5	6.1	1325.0	砂岩	
	6	1	N～7	5	敲石	破片	12.5×11.5	6.15	96.6	砂岩	
	7	1	M～7	5	敲石	破片	7.6×1.8	4.4	66.4	砂岩	
	8	1	I～7	6	敲石	完	10.55×9.4	5.1	766.0	砂岩	凹石にも使用
	9	1	M～6	集石	敲石	半欠	9.7×8.5	5.15	695.0	砂岩	
	10	1	P～7	8	敲石	完	11.7×10.2	6.3	1150.25	細粒[illegible]	
	11	1	M～6	6	敲石	半欠	11.1×10.1	5.7	800.0	砂岩	
4	1	1	M～5	6下	敲石	完	6.3×5.7	2.45	129.4	砂岩	掌大
	2	1	C～7	6	敲石	完	6.1×5.6	3.1	118.5	砂岩	掌大
	3	1	M～16	7	敲石	完	5.95×5.85	3.7	155.2	砂岩	掌大
	4	1	N～7	6	敲石	完	7.3×6.6	3.2	228.7	砂岩	掌大
	5	1	N～7	5	敲石	完	7.85×5.4	2.2	130.7	砂岩	掌大
	6	1	M～6	5下	敲石	完	8.0×6.25	3.7	239.8	砂岩	集石，掌大焼石
	7	1	M～6	5下	敲石	完	8.3×7.3	3.8	303.0	[illegible]岩	集石，掌大
	8	1	M～7	6	敲石	半欠	6.6×5.15	3.4	124.0	砂岩	掌大
	9	1	I～7	5	敲石	半欠	8.2×6.7	4.5	339.4	シルト岩	掌大
	10	1	M～7	5	敲石	破片	4.8×4.0	4.35	136.2	砂岩	
	11	1	M～6	集石	敲石	破片	5.6×4.9	4.75	234.0	硬質砂岩	焼石
	12	1	M～7	6下	敲石	完	10.45×8.2	4.4	522.2	砂岩	側面使用
	13	1	M～7	6下	敲石	完	11.1×9.0	9.0	698.0	砂岩	焼石
	14	1	J～7	6	敲石	完	9.2×6.55	2.3	189.7	砂岩	側面使用
	15	1	M～7	6下	敲石	完	8.1×5.45	2.5	138.8	砂岩	側面使用
	16	1	M～13	7	敲石	完	15.1×12.2	4.0	650.0	さんご	
	17	1	N～7	6	敲石	完	8.45×5.35	2.25	156.0	砂岩	棒状
5	1	1	M～10	6	敲石	完	11.4×7.0	3.7	561.4	砂岩	石皿型凹石にも使用
	2	1	M～6	5	敲石	完	8.9×7.0	5.75	499.5	砂岩	集石棒状
	3	3	C～2	2	敲石	完	10.7×5.6	3.95	328.4	砂岩	棒状凹石にも使用
	4	1	M～16	7	敲石	完	9.7×5.4	3.0	200.2	砂岩	側面使用
	5	3	Aトレンチ	集石	敲石	完	9.5×6.25	5.6	407.6	砂岩	棒状焼
	6	1	M～6	集石	敲石	完	10.7×5.5	3.8	325.8	砂岩	棒状
	7	1	O～7	7	敲石	完	12.1×7.1	5.7	705.2	砂岩	pit 棒状
	8	1	M～16	2	敲石	完	7.9×4.85	3.95	201.0	砂岩	棒状
	9	3	Aトレンチ		敲石	半欠	7.2×5.45	4.4	237.5	砂岩	棒状 1.8～1.9
	10	1	N～7	6	凹石	半欠	10.2×5.7	4.5	551.5	硬質砂岩	
	11	1	G～6	4	凹石	完	11.0×9.3	4.0	467.8	砂岩	焼石
	12	1	M～6	集石	凹石	半欠	11.3×9.5	6.4	1170.0	砂岩	熱を受ける 石皿転用
	13	1	I～7	6	凹石	完	9.7×7.2	4.9	448.0	砂岩	
6	1	1	M～5	7	凹石	完	9.1×7.7	4.1	437.3	砂岩	酸化鉄の皮膜 敲石にも使用
	2	1	N～7	6	凹石	完	8.2×6.2	5.0	432.9	[illegible]岩	火を受けてひびが入る
	3	1	N～7	5	磨石	破片	8.8×5.4	4.0	232.0	硬質砂岩	
	4	1	N～7	7	磨石	半欠	8.8×4.65	6.0	386.25	砂岩	
	5	1	M～6	集石	凹石	半欠	13.65×10.8	4.85	850.0	砂岩	両面
	6	1	M～9	6下	磨石	完	12.35×10.7	5.3	1055.0	[illegible]岩	
	7	3	Aトレンチ	撹乱	磨石	破片	5.9×2.8	2.0	37.8	砂岩	0～0.8 光沢有り
	8	1	M～7	6	磨石	完	10.3×6.8	3.5	383.0	砂岩	集石
	9	1	Y～7	1	磨石	半欠	7.8×7.2	4.2	404.4	頁岩	表採
	10	1	M～8	6下	磨石	完	16.45×11.25	4.9	1740.0	砂岩	
	11	1	P～7	6	磨石	破片	6.5×4.65	3.4	163.0	砂岩	光沢有り
	12	1	表採		磨石	破片	11.2×3.8	4.2	263.7	[illegible]岩	光沢有り
7	1	1	G～7	6	石皿	破片	24.4×19.9	5.6	3200.0	砂岩	焼
	2	1	J～7	6	石皿	完	36.2×23.6	8.9	13700.0	砂岩	焼
8	1	1	M～7	6	石皿	半欠	13.6×11.8	5.8	1690.0	砂岩	焼石
	2	1	M～7	6	石棒	完	11.2×10.85	7.35	1260.0	砂岩	
	3	1	A～7	4下	石皿	半欠	18.65×10.8	8.0	2100.0	安山岩系	焼
	4	1	M～6	5	石皿	破片	8.5×4.6	3.5	212.2	砂岩	集石，焼
	5	1	P～7	7	石皿	半欠	15.0×8.6	2.85	626.0	砂岩	割れた後砥石に使用
	6	1	M～6	6	石皿	完	20.4×15.7	6.4	2600.0	砂岩	焼
	7	1	I～7	1	石皿	破片	12.5×8.3	8.1	1500.0	硬質砂岩	両面，焼
9	1	1	M～8	6	ノリ型石斧	半欠	3.1×2.6	1.3	17.9	シルト質砂岩	
	2	1	I～7	5	石斧	破片	2.0×1.8	0.7	3.2	頁岩	
	3	1	X～7	6	石斧	破片	4.5×1.95	0.8	8.4	シルト岩	磨製石斧刃部破片
	4	1	I～7	5	石斧	破片	2.7×1.3	1.2	11.2	シルト岩	
	5	1	N～7	6	その他	破片	2.07×1.5	0.6	1.8	黒曜石	剥片
	6	1	D～7	5	その他	破片	3.35×2.3	1.9	16.6	チャート	残核
	7	3	Aトレンチ東	6	石斧	半欠	3.7×3.5	1.35	31.1	シルト岩	1.9～2.0
	8	1	N～7	6	その他	破片	3.45×2.85	1.25	20.0	チャート（玉ずい）	石器？
	9	1	表採	1	その他	破片	5.2×3.45	2.0	48.35	チャート	残核
	10	1	M～5	7	石棒	完	3.73×2.8	2.15	32.4	シルト岩	
	11	1	O～7	7	石製加工品	半欠	2.5×2.3	1.5	13.75	砂岩	pit
	12	2	F～9	3	垂飾品	半欠	3.4×2.9	2.3	25.75	シルト質砂岩	石製垂飾，孔は一方より貫通
	13	3	Aトレンチ		垂飾品	半欠	3.1×2.2	0.8	7.75	頁岩	石製品？ 1.8～1.9
	14	1	M～10	4	垂飾品	半欠	2.75×2.1	1.0	5.5	頁岩	
	15	1	M～8	6下	卵形礫	完	3.15×3.1	2.9	39.0	砂岩	
	16	1	D～7	3	卵形礫	完	5.7×4.1	3.3	101.0	砂岩	
	17	1	I～7	6	卵形礫	完	2.2×2.1	1.8	11.7	頁岩	研磨
	18	1	I～7	6	卵形礫	完	3.9×3.85	3.35	61.7	砂岩	
	19	1	N～7	6下	卵形礫	完	4.5×3.7	3.15	55.2	砂岩	
	20	1	O～7	6	卵形礫	完	3.3×3.3	2.5	34.9	砂岩	
10	1	1	N～7	7	加工円礫	完	4.8×3.5	1.9	52.4	砂岩	
	2	1	M～7	6下	研磨器	破片	2.1×2.05	1.4	6.9	砂岩	
	3	1	I～7	6	研磨器	破片	2.35×1.8	1.45	4.85	砂岩	
	4	1	P～7	7	研磨器	破片	5.1×2.8	1.3	28.8	砂岩	
	5	1	M～7	6	加工円礫	完	8.4×6.05	3.85	285.4	砂岩	
	6	1	I～7	1	石製加工品	破片	9.95×3.85	2.1	130.5	砂岩	[illegible]はん？
	7	1	G～7	5	石製加工品	完	8.6×4.35	2.8	159.4	シルト岩	全面研磨 凹み有り
	8	1	O～7	6	加工円礫	半欠	6.5×3.95	2.0	67.9	砂岩	
	9	1	M～6	集石	研磨器	半欠	7.2×4.8	2.6	190.8	砂岩	
	10	1	M～6	集石	砥石	半欠	9.5×7.2	5.9	826.7	砂岩	
11	1	1	G～6		石皿	半欠	11.15×8.8	6.7	837.5	砂岩	人骨・足・石
12	1	1	G～6	3	磨製小形石器	完	4.2×2.4	0.5	7.5	頁岩	遺構内 人骨上埋土中



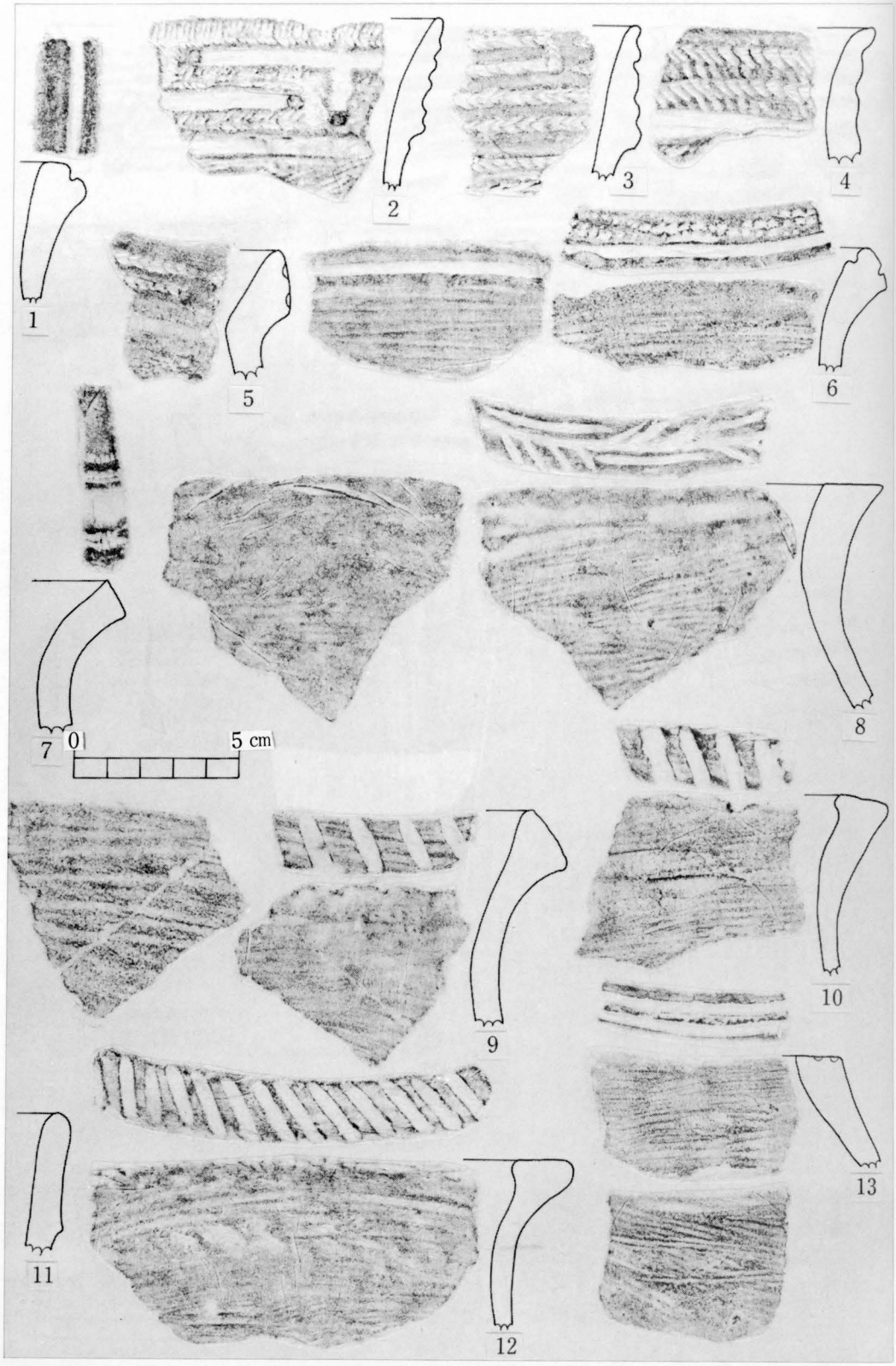
第33図　土　　器



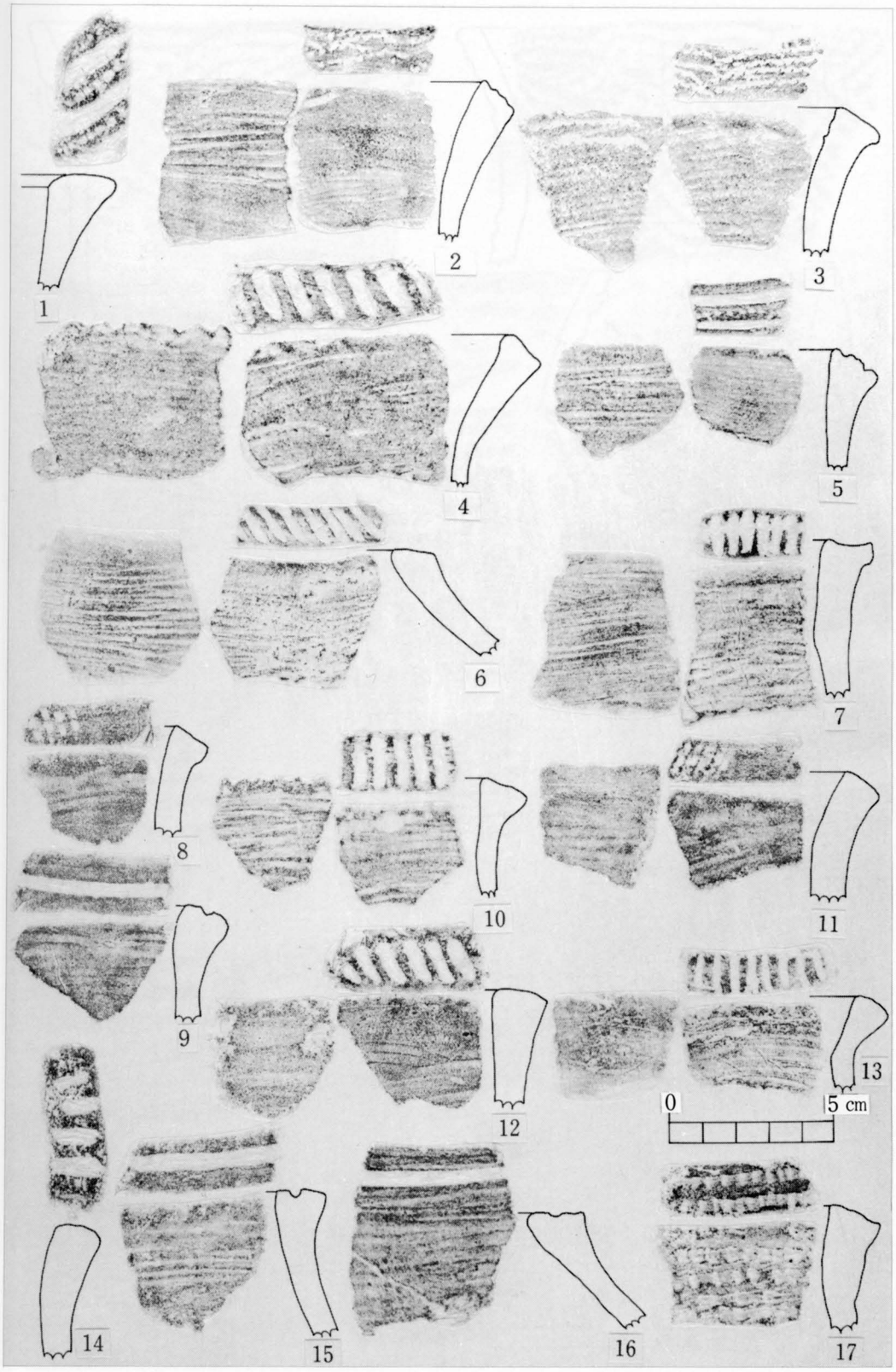
第34図　土　器



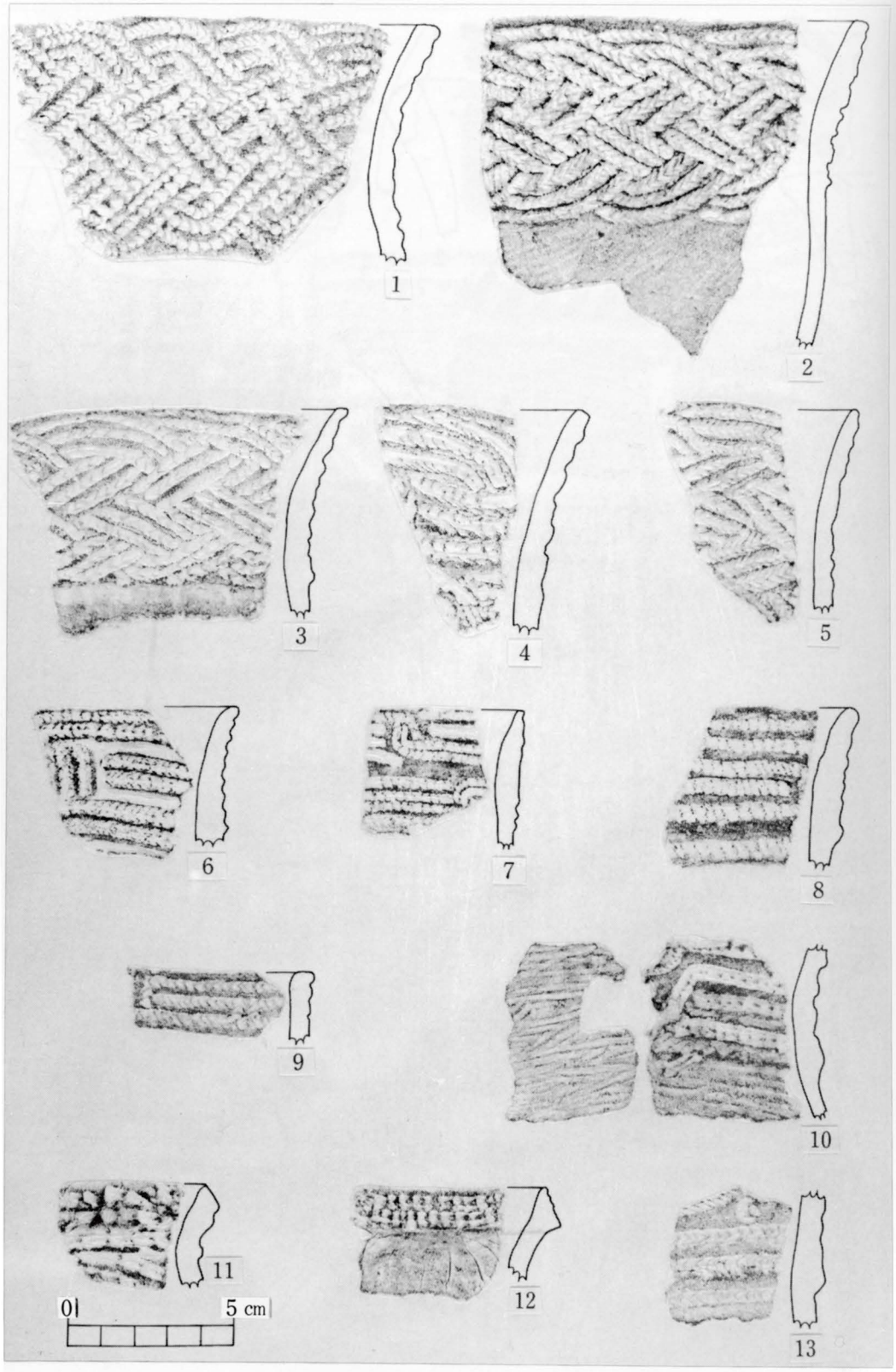
第３５図　土　器



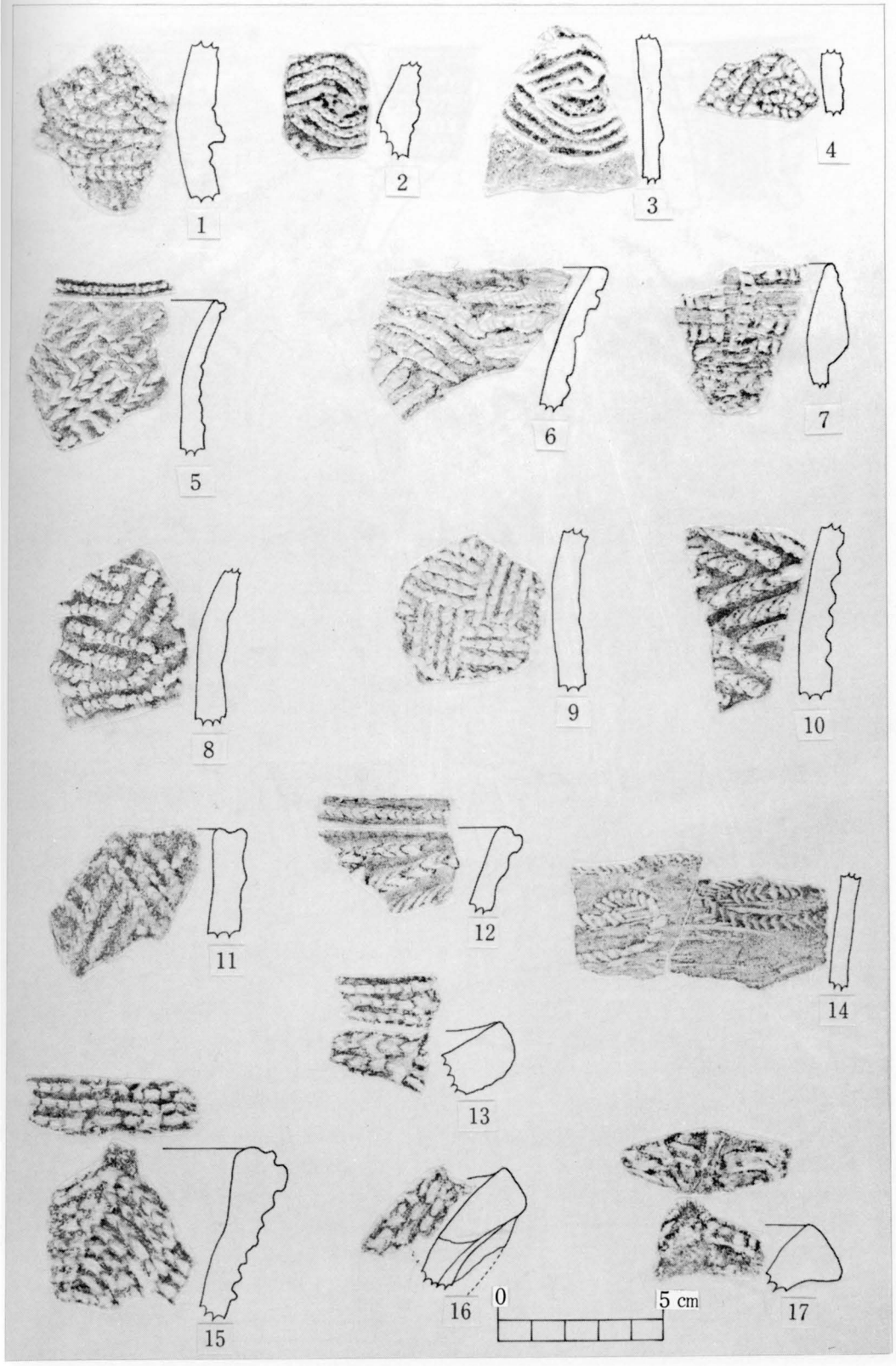
第36図　土　器



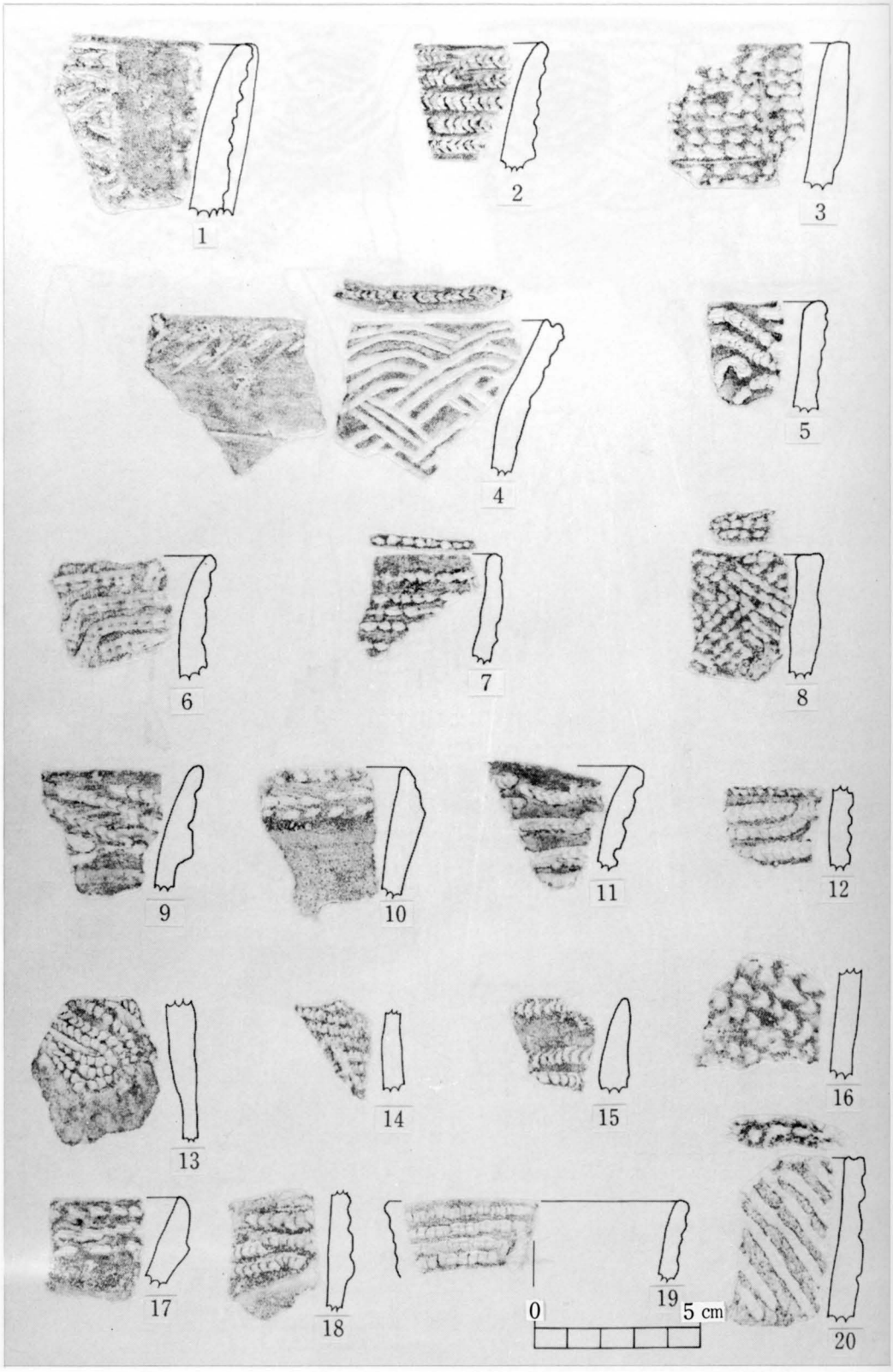
第37図　土　器



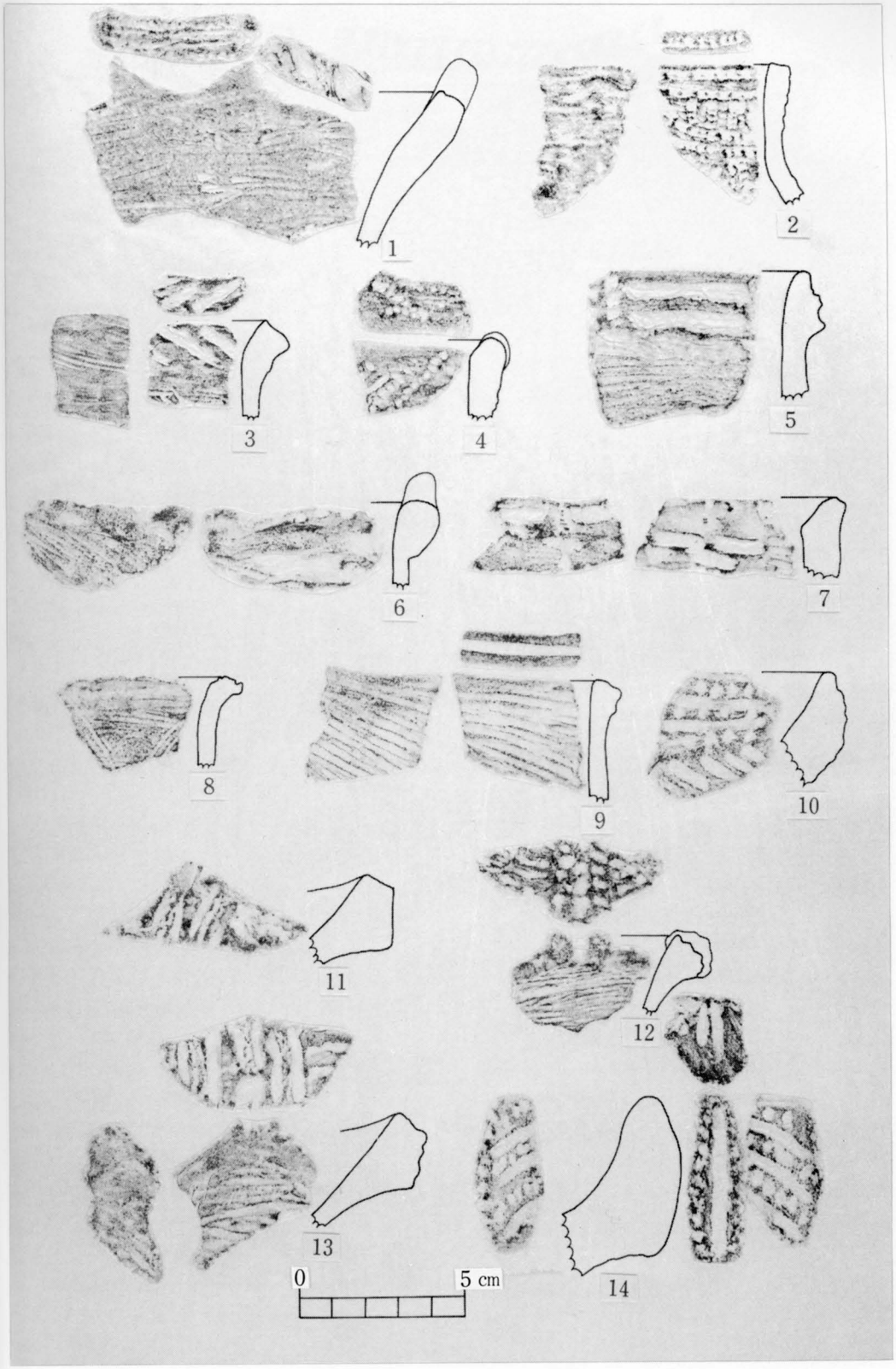
第38図　土　器



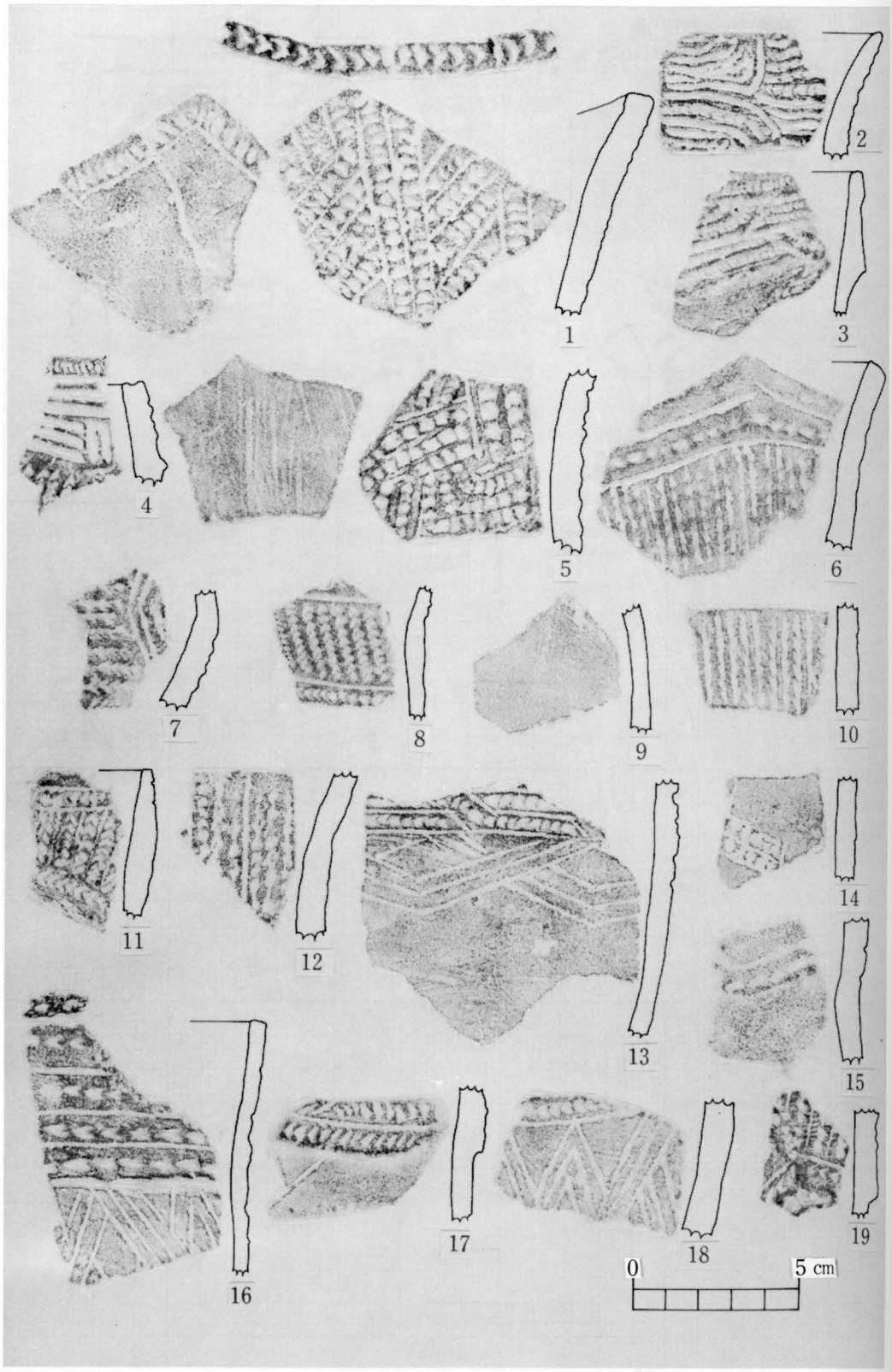
第３９図　土　器



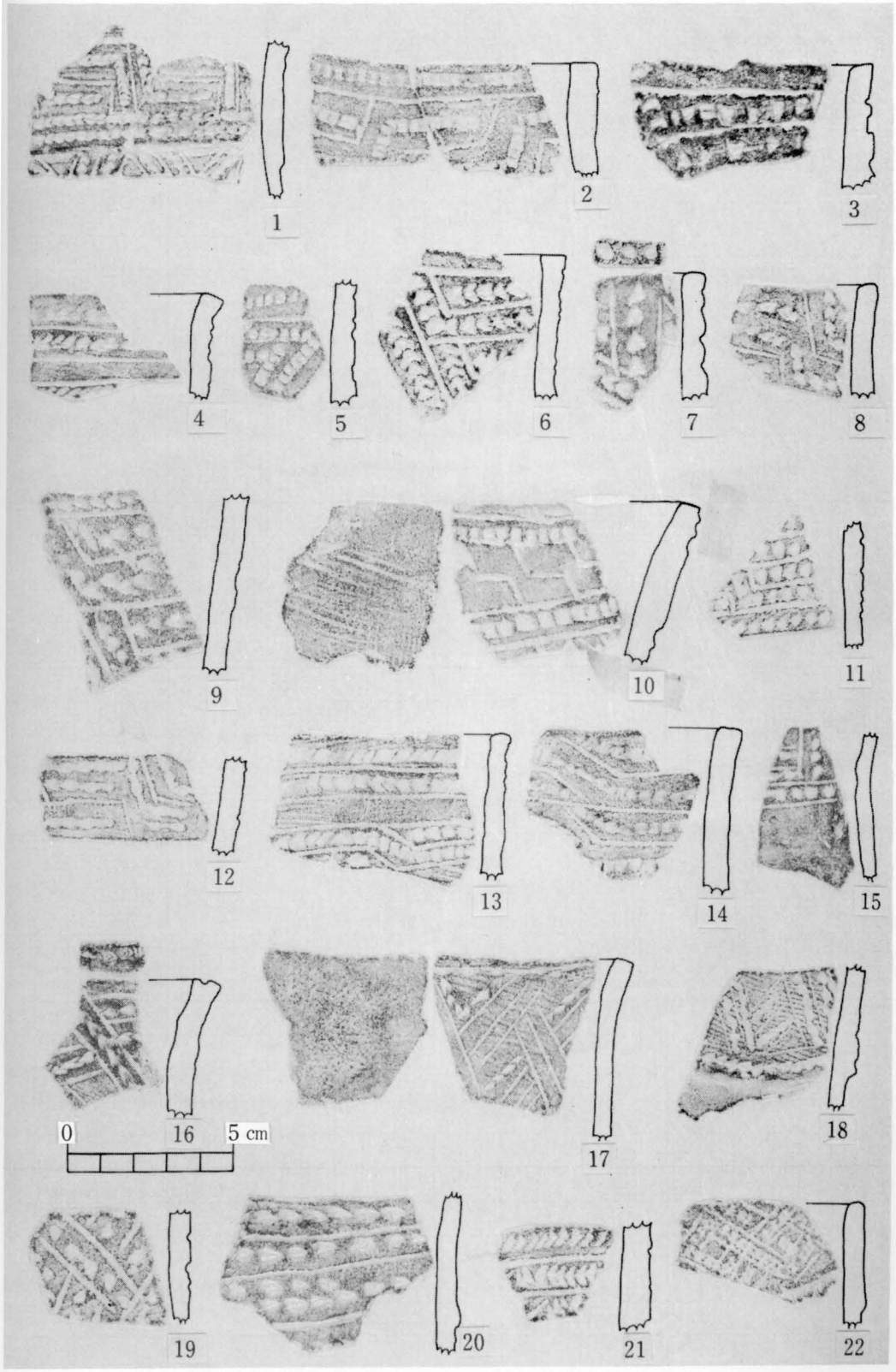
第40図　土　器



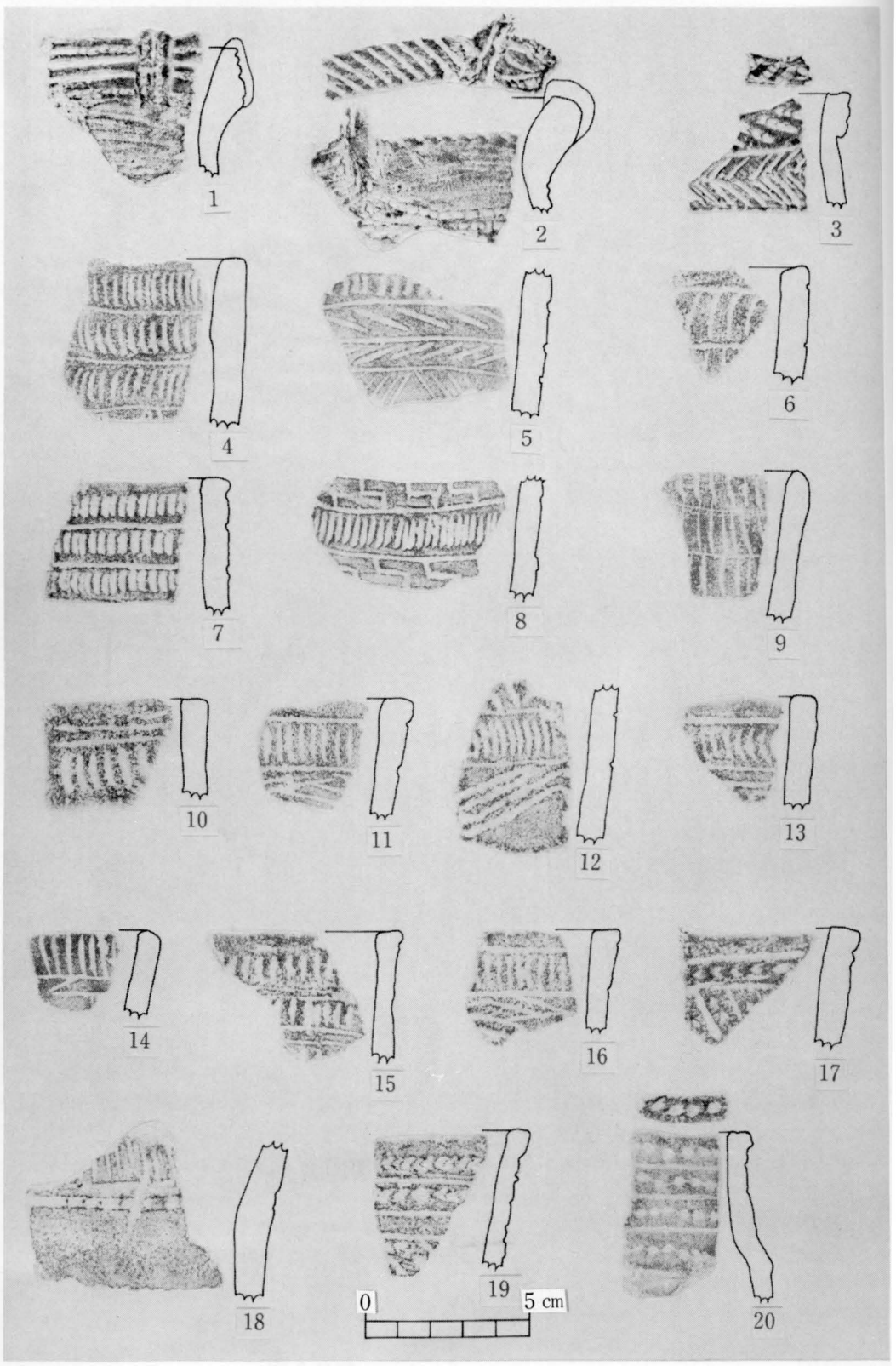
第41図　土　器



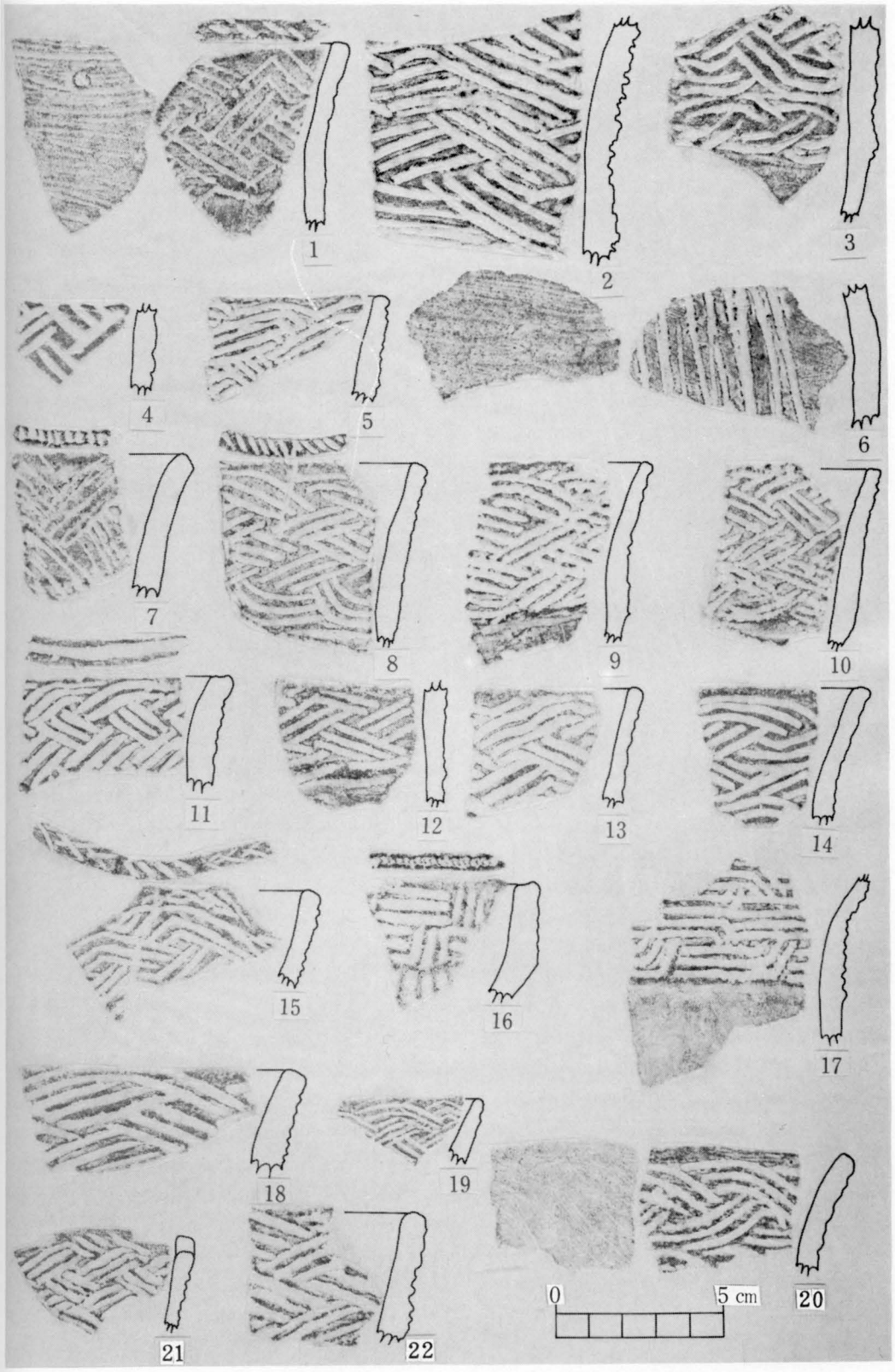
第42図　土　器



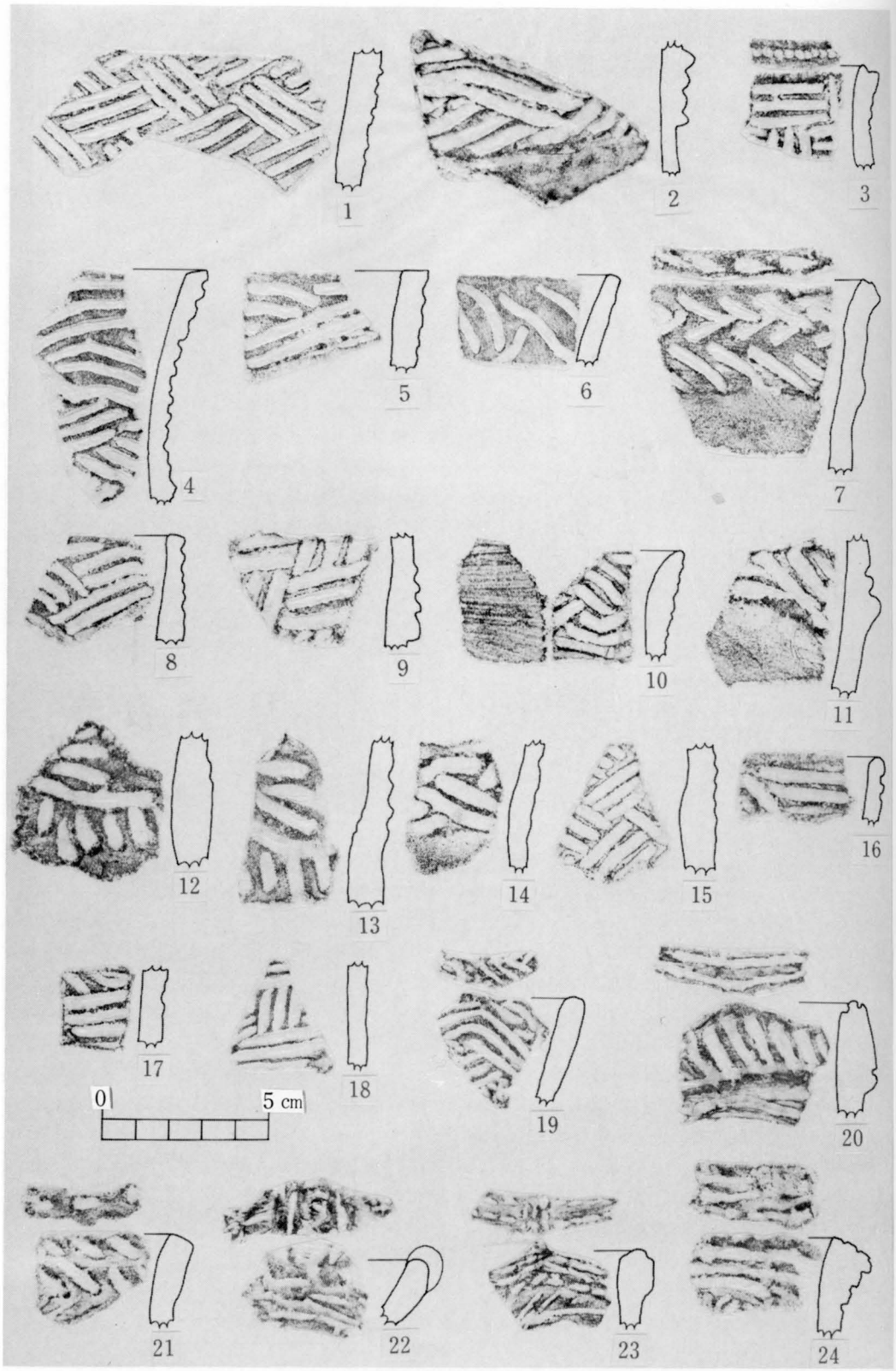
第43図　土　器



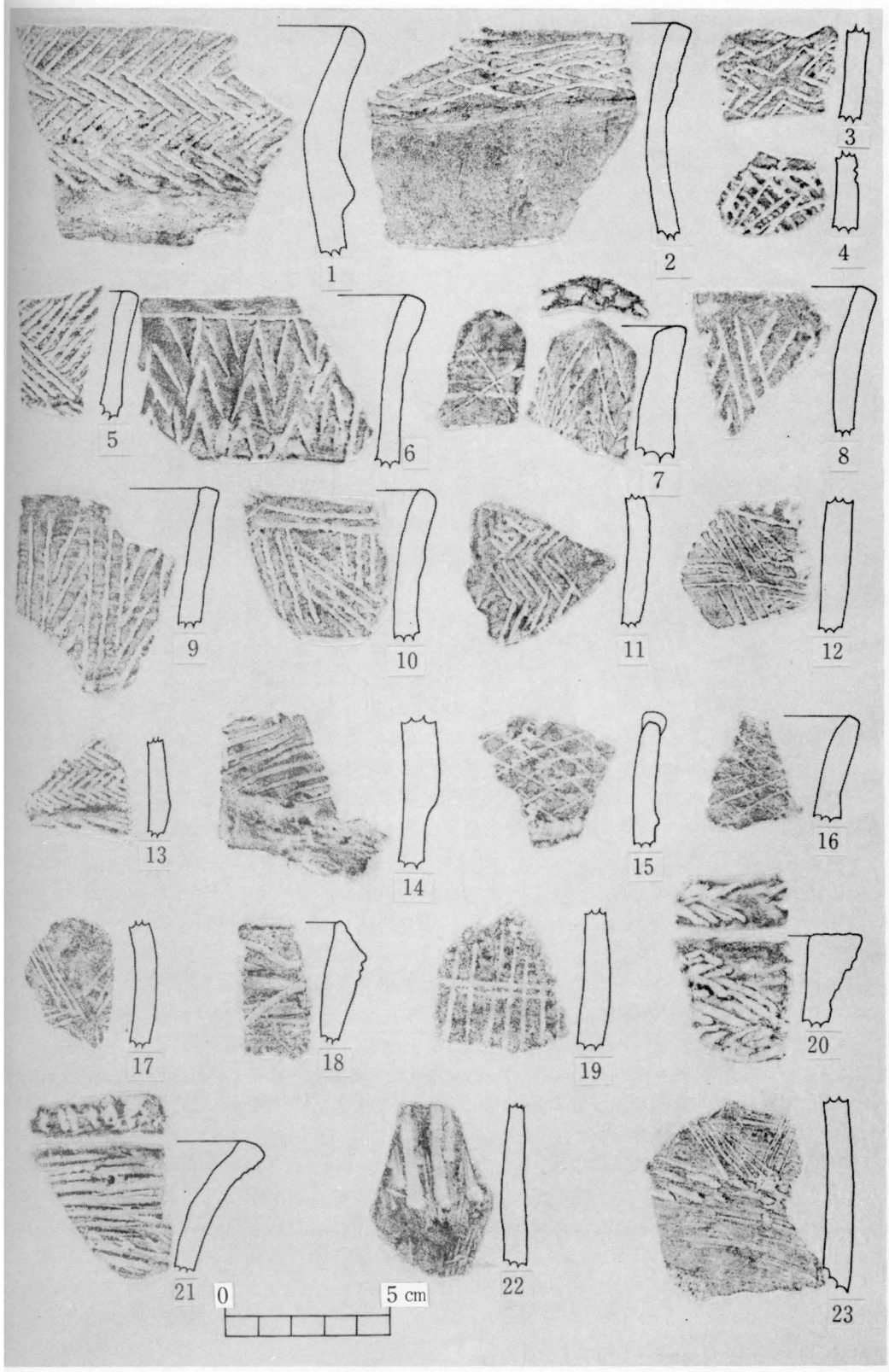
第44図　土　器



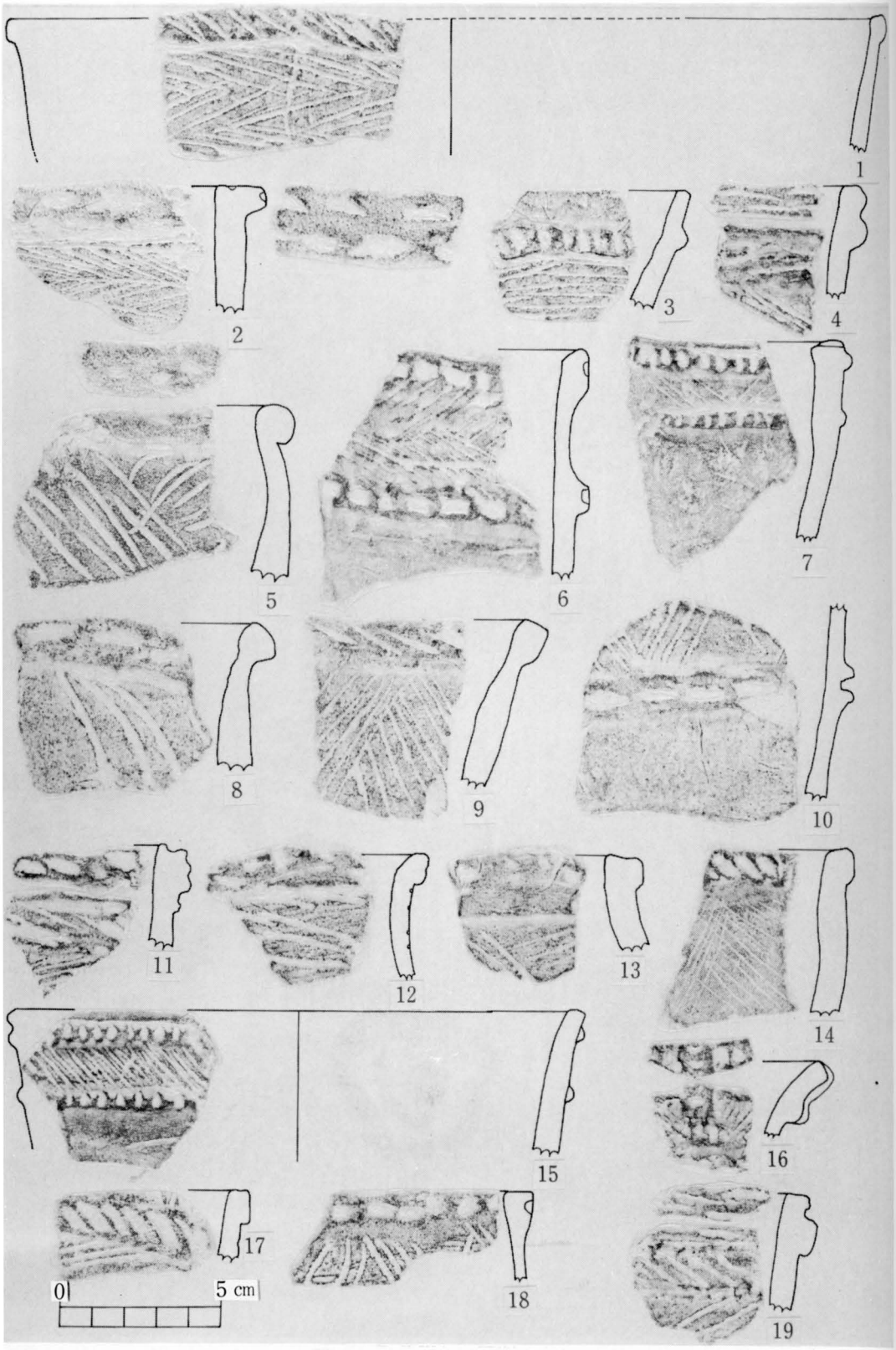
第45図　土　器



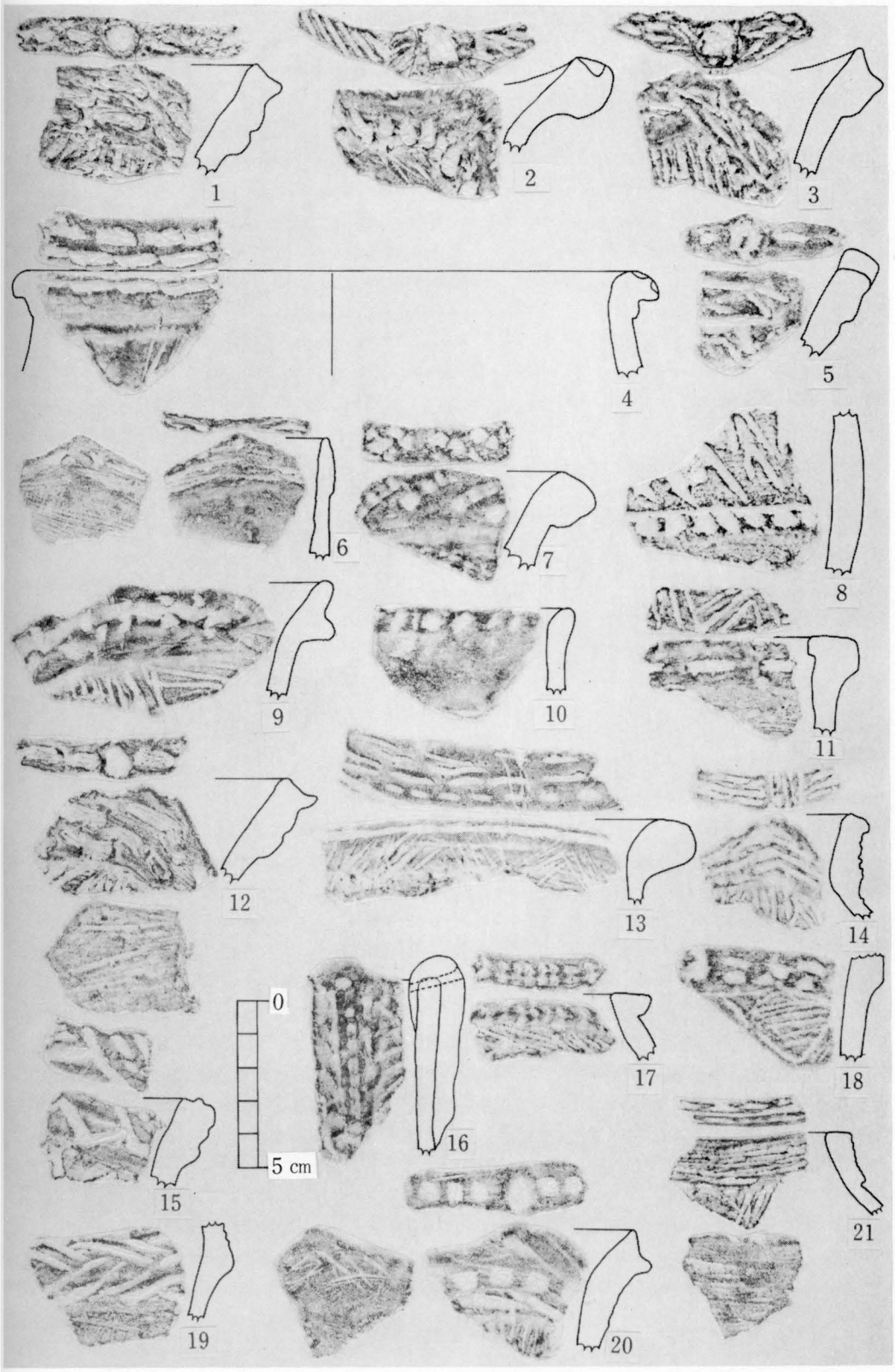
第46図　土　器



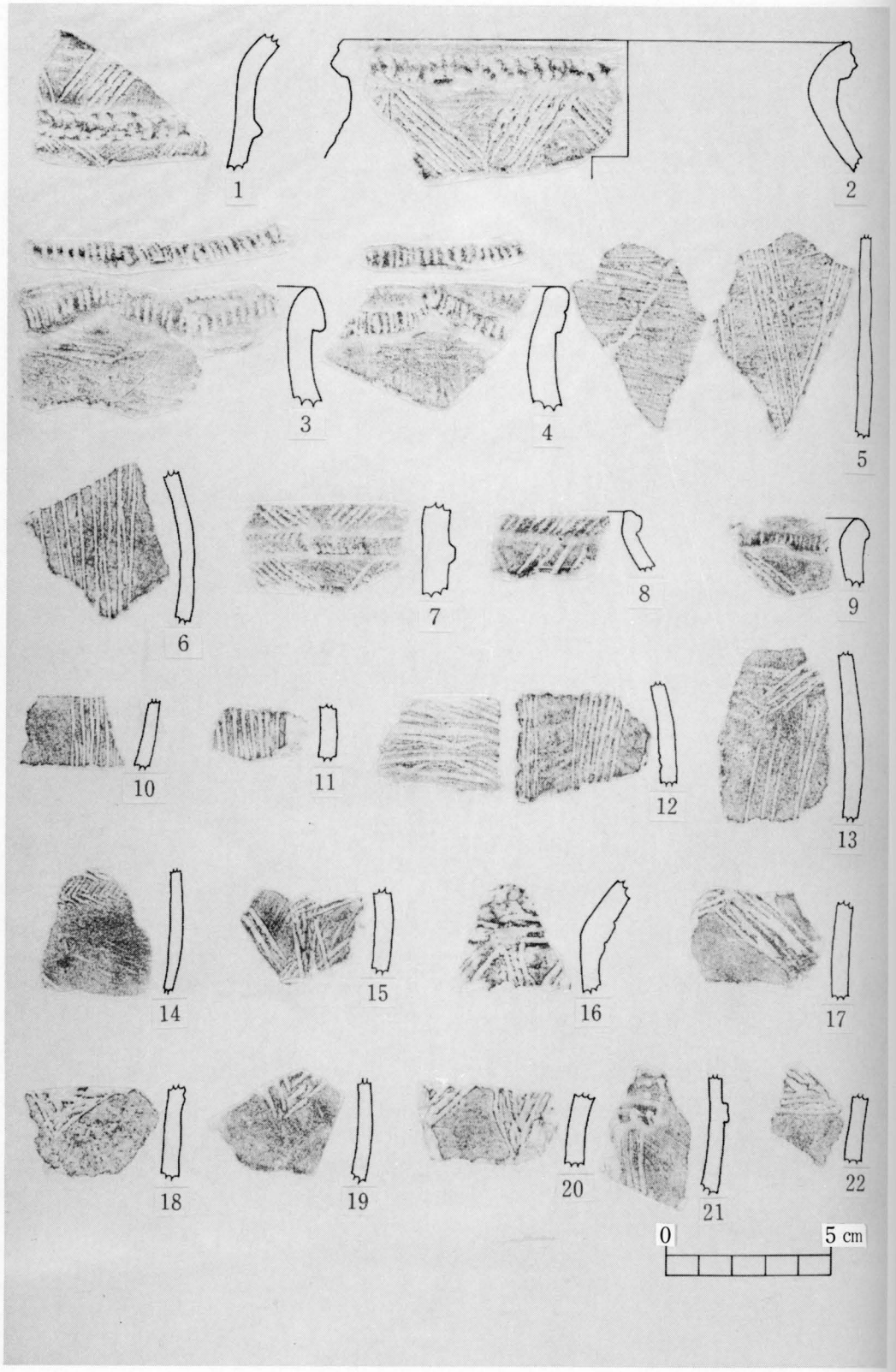
第47図　土　器



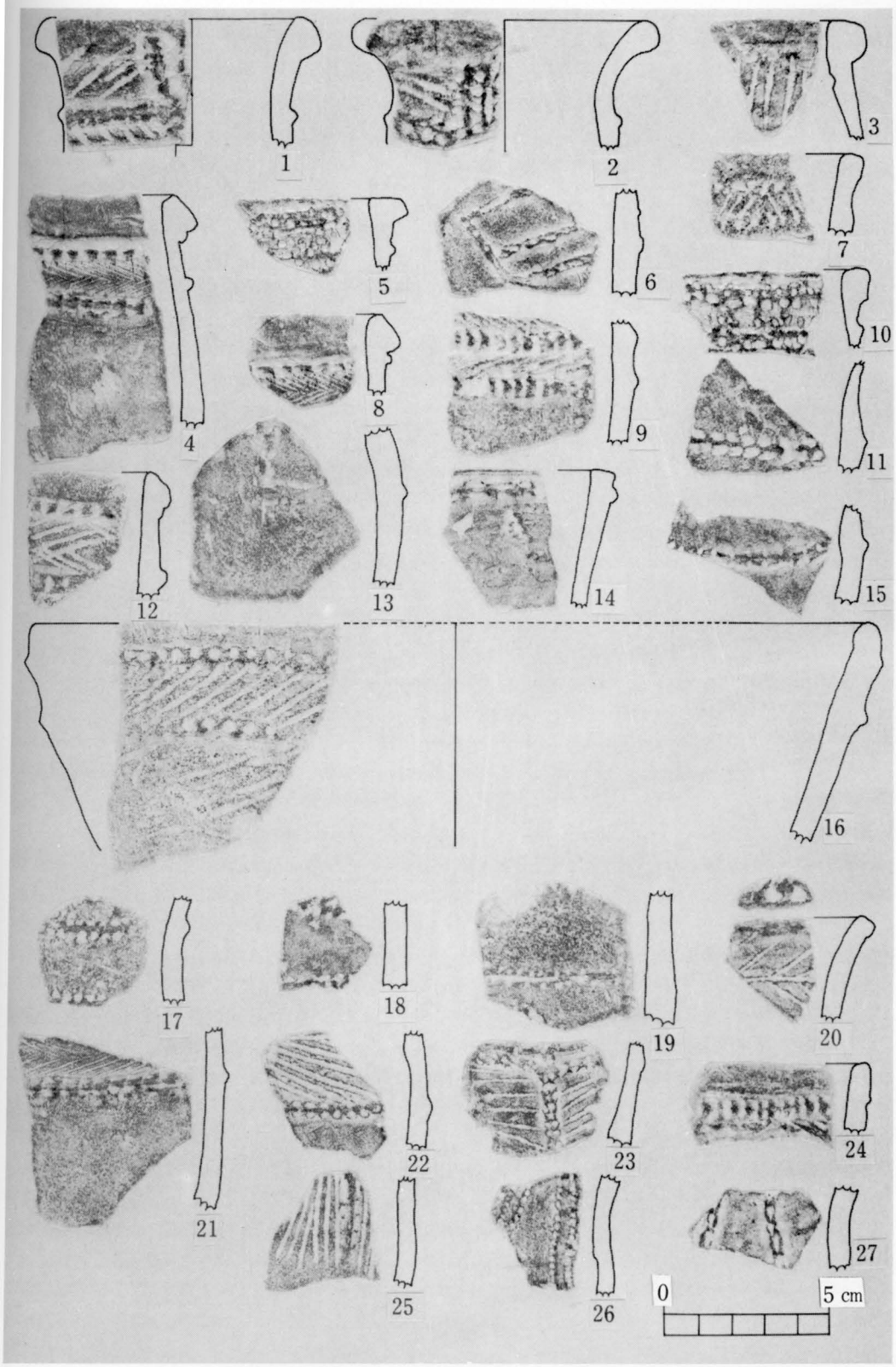
第48図　土　器



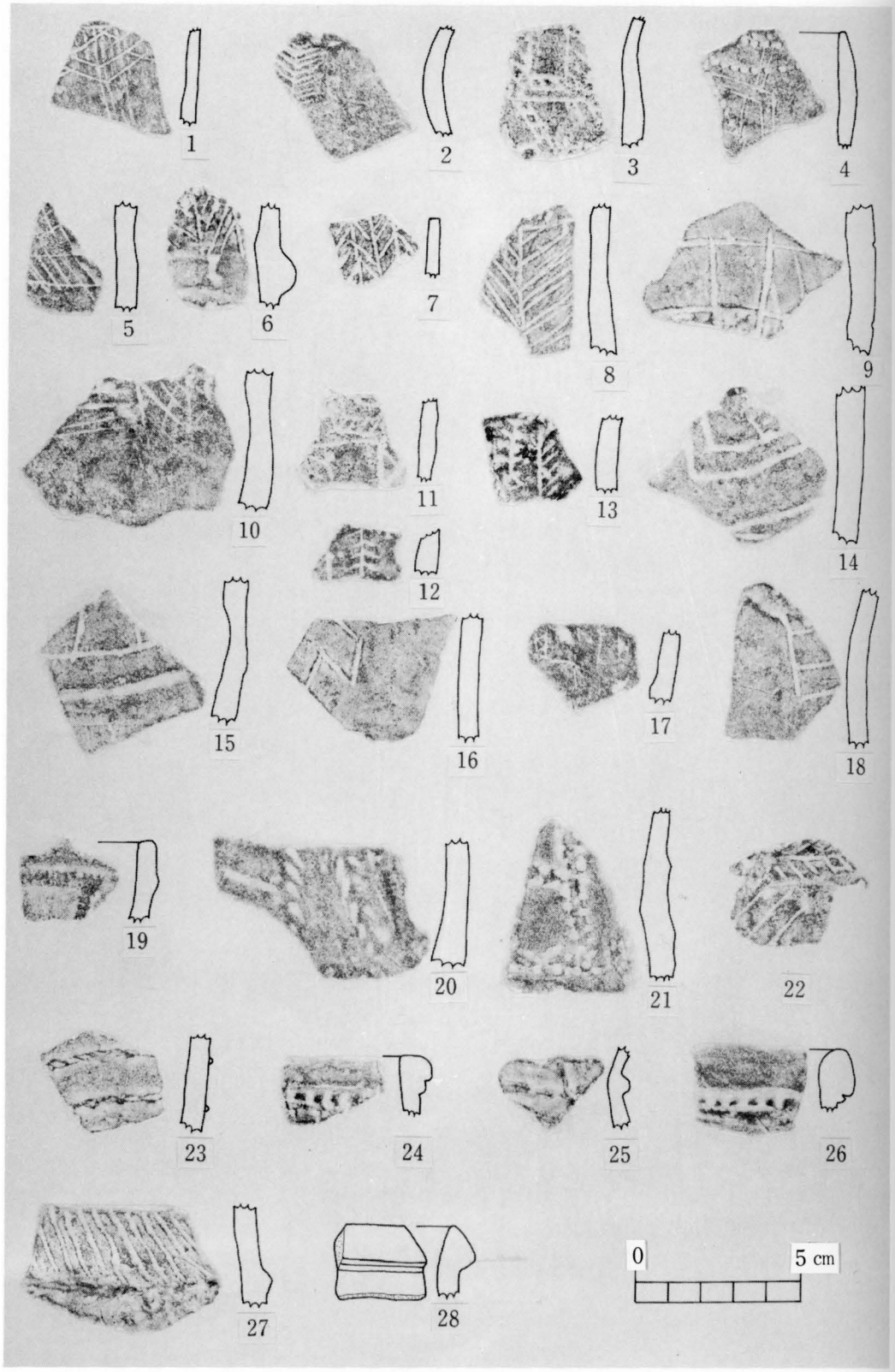
第49図　土　器



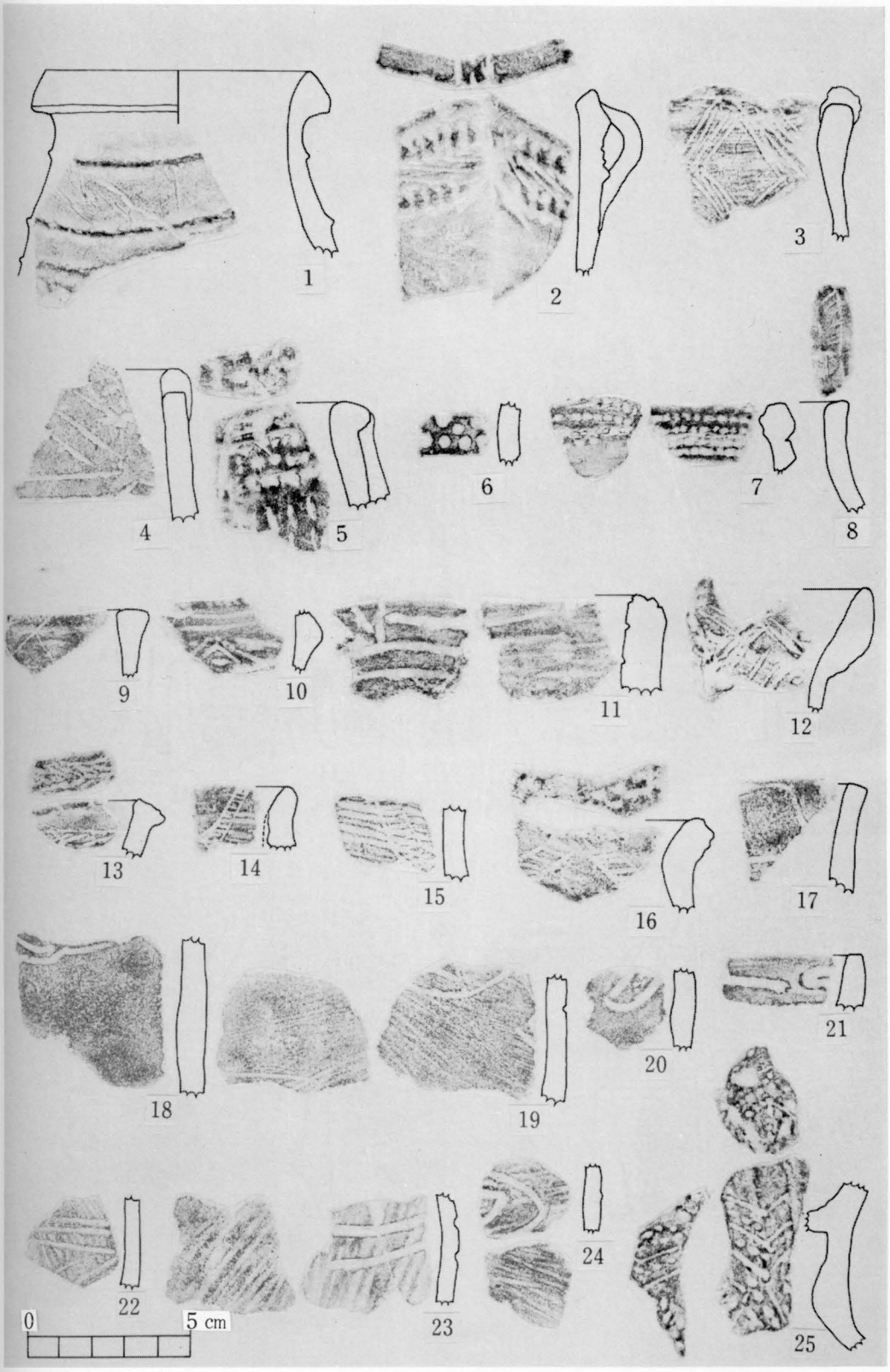
第50図　土　器



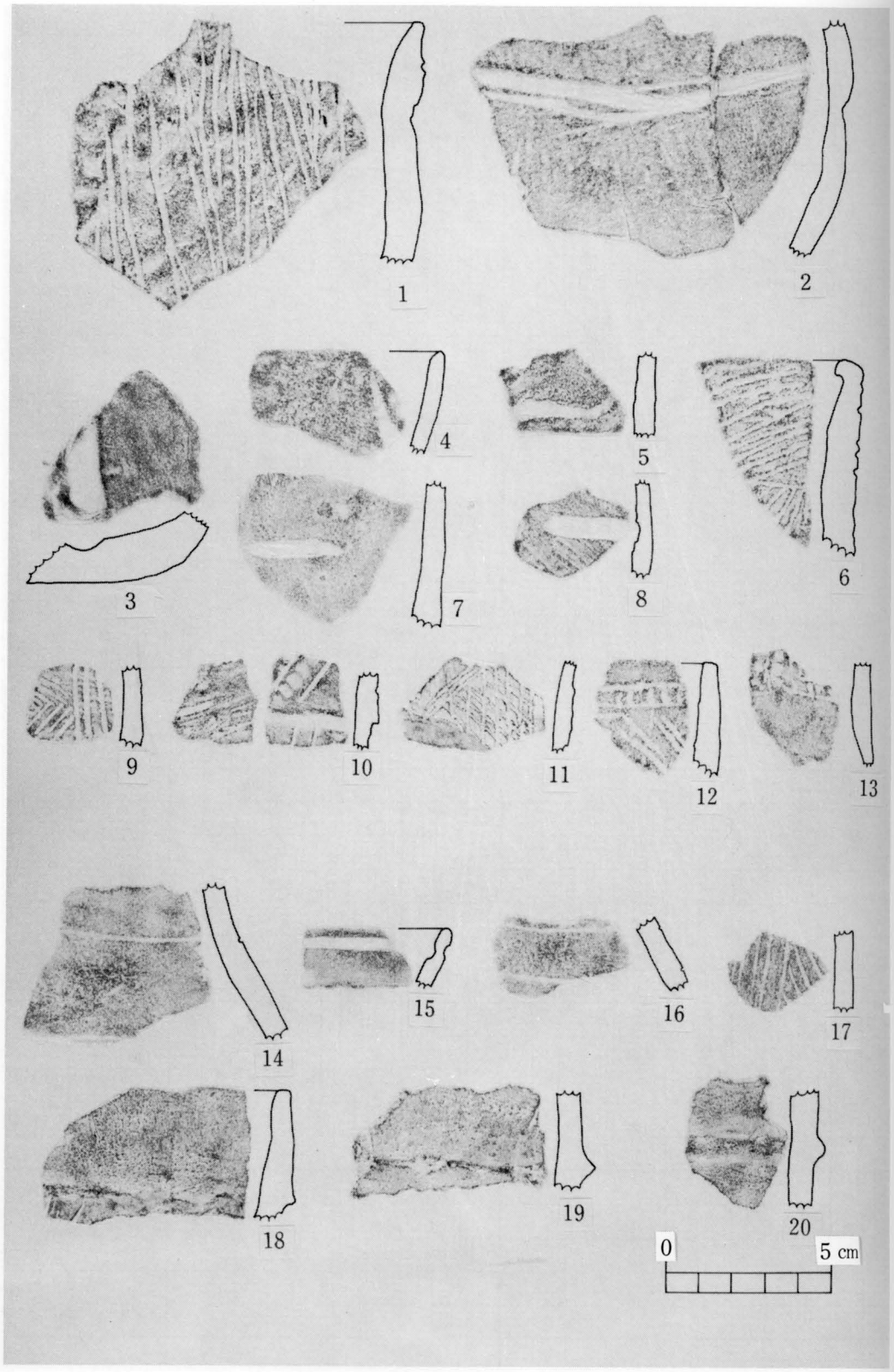
第５１図　土　器


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
0
5 cm

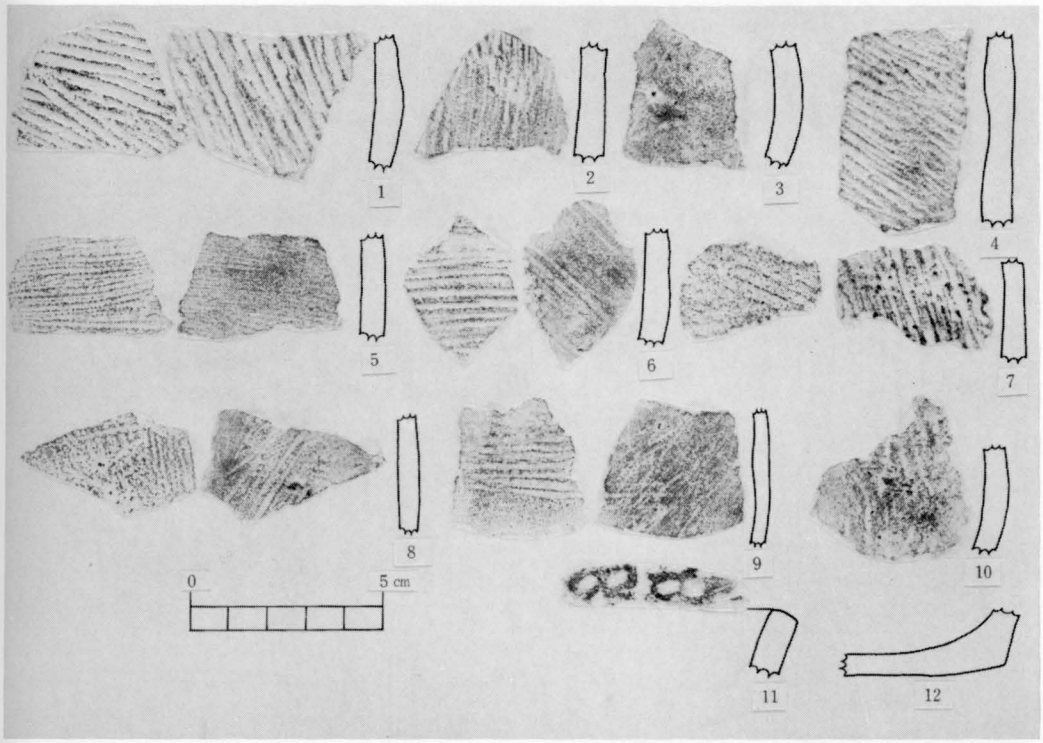
第52図　土　器



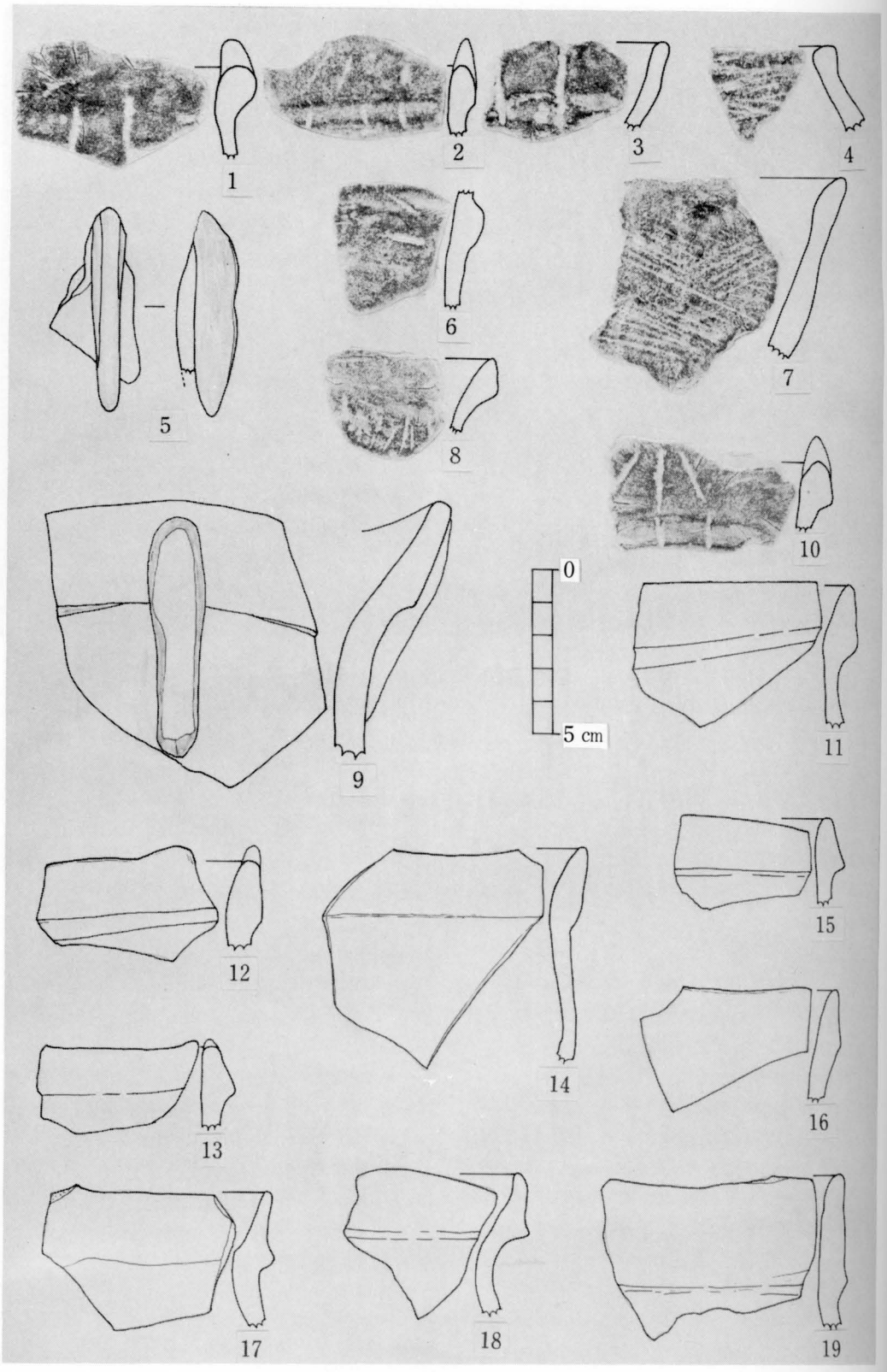
第５３図　土　器



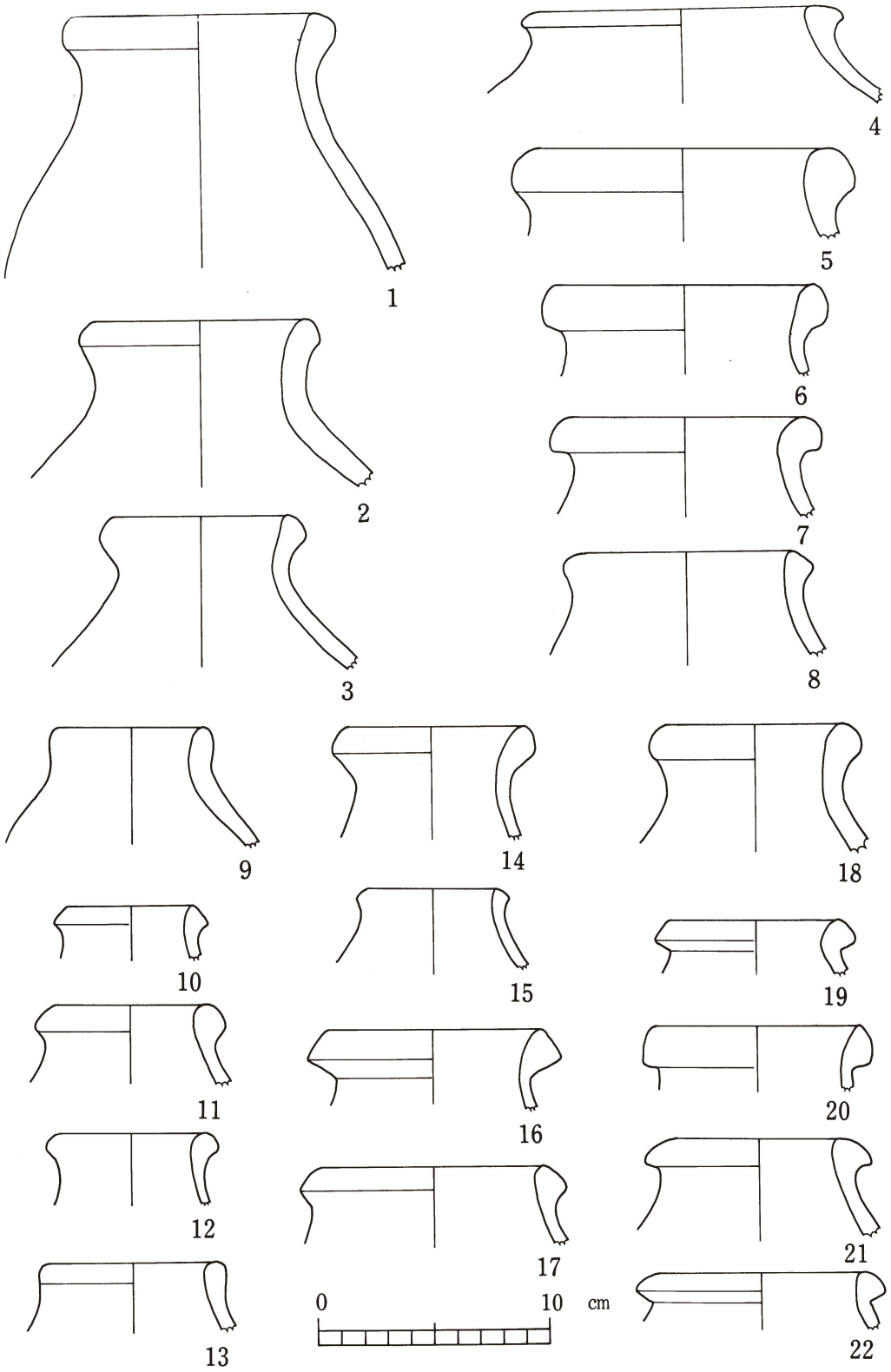
第54図　土　器



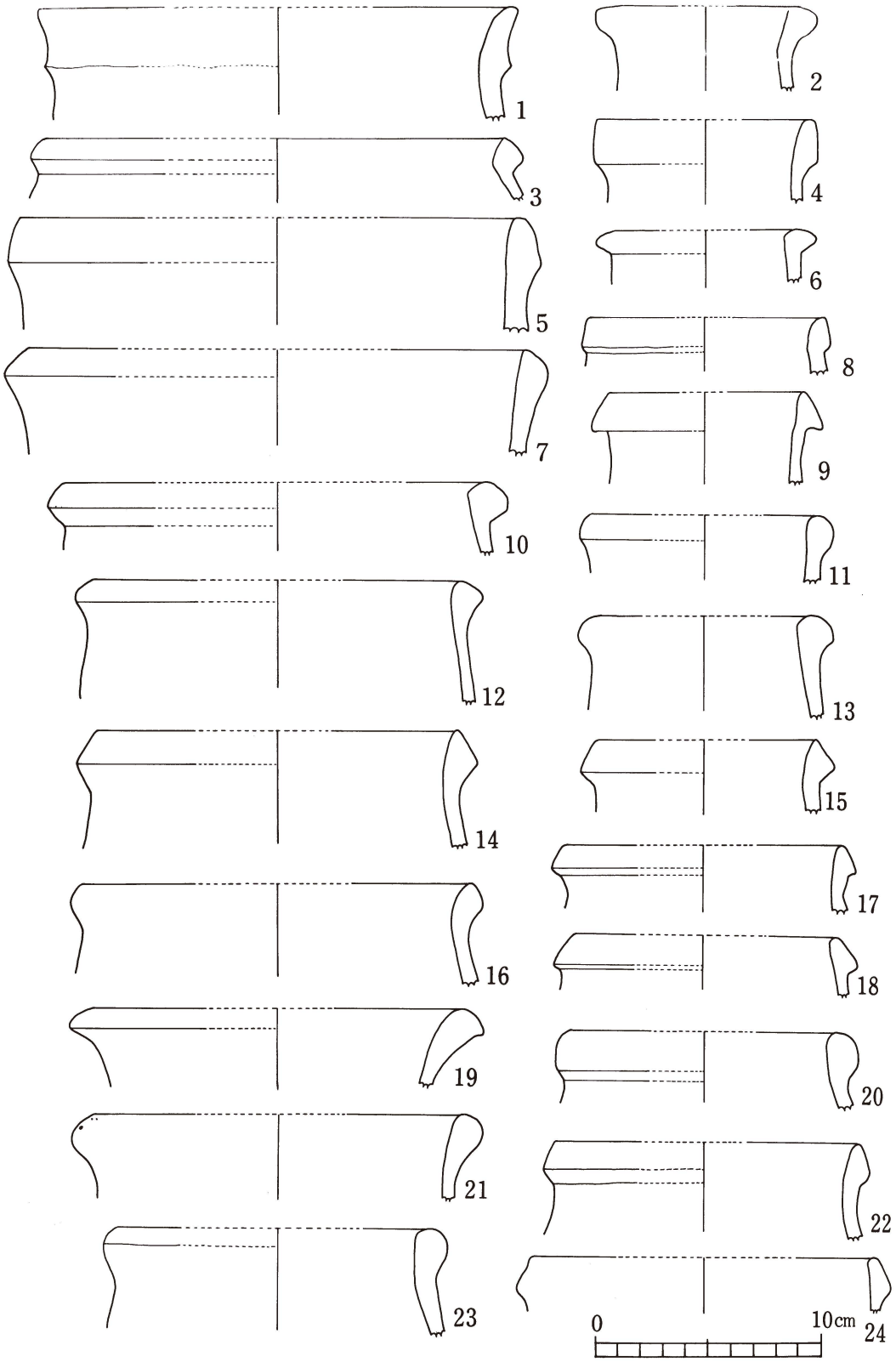
第55図　土　　器



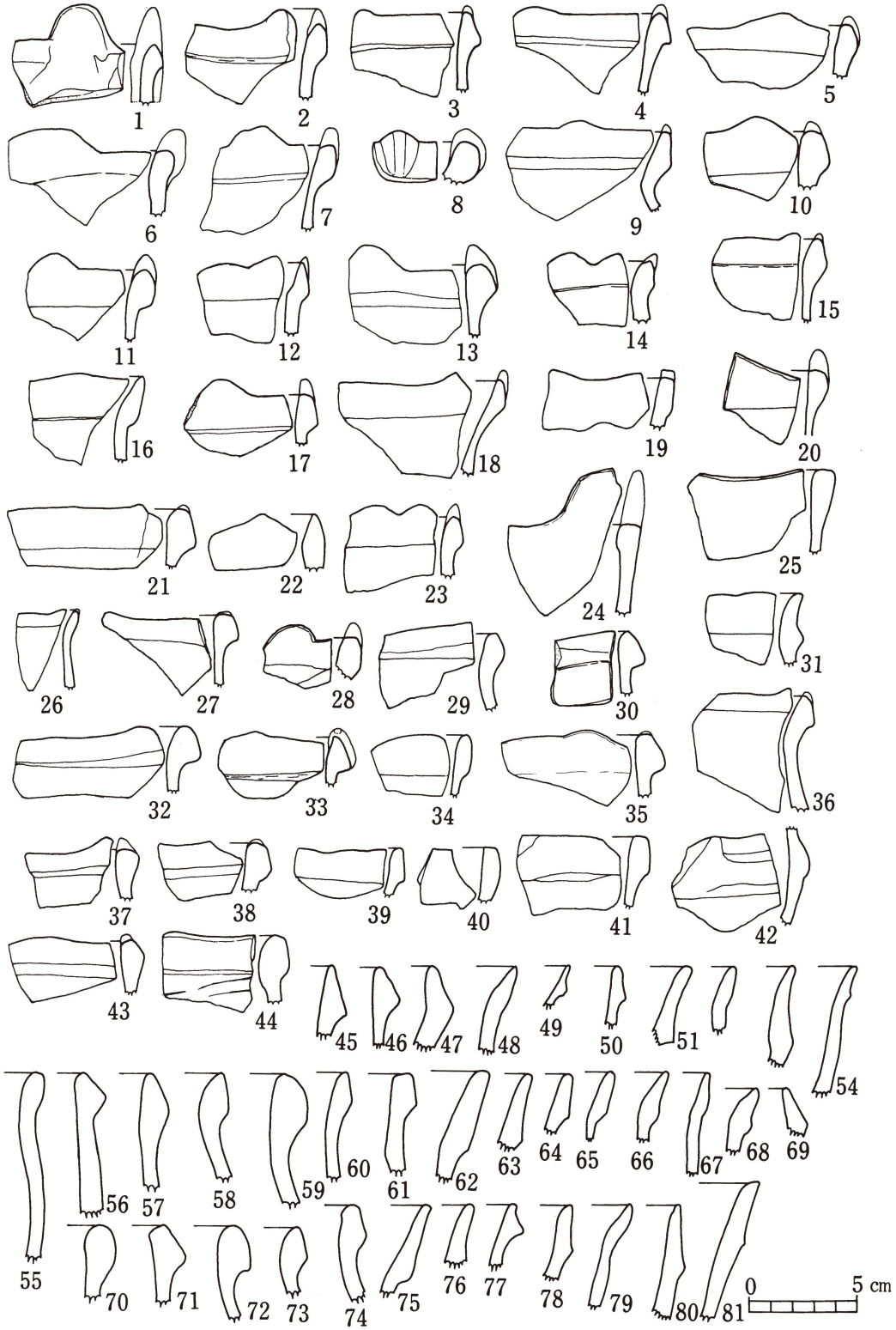
第56図　土　　器



第５７図　土　　器

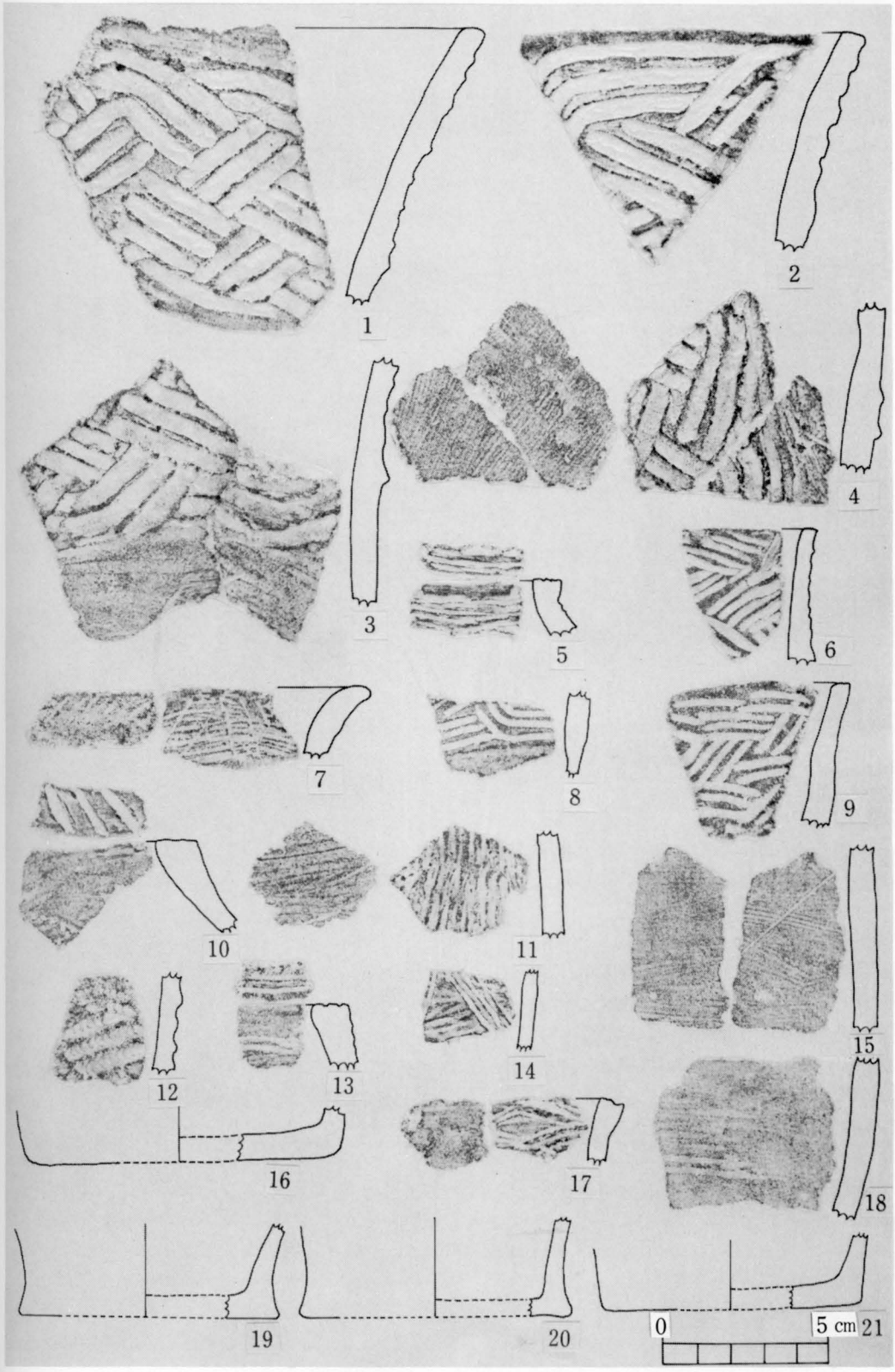


第58図　土　器

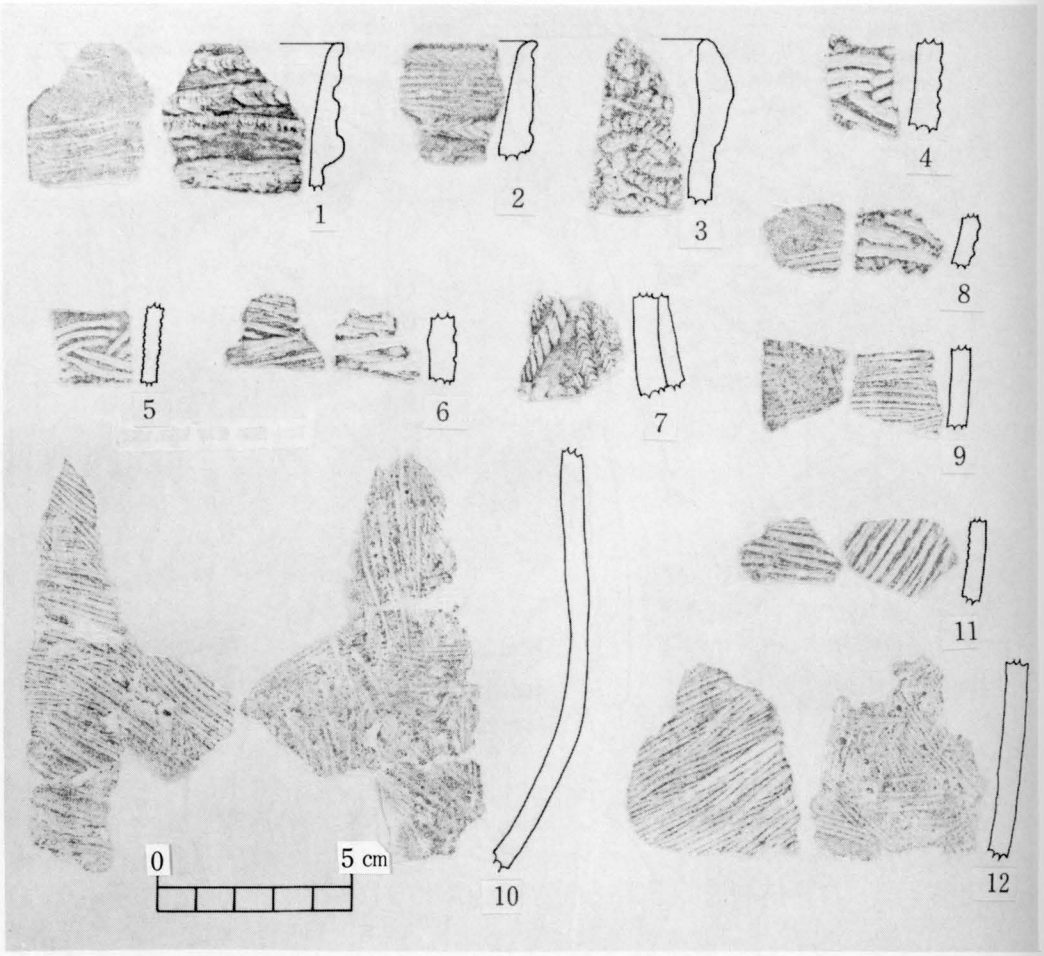

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
0
5 cm

第59図　土　　器

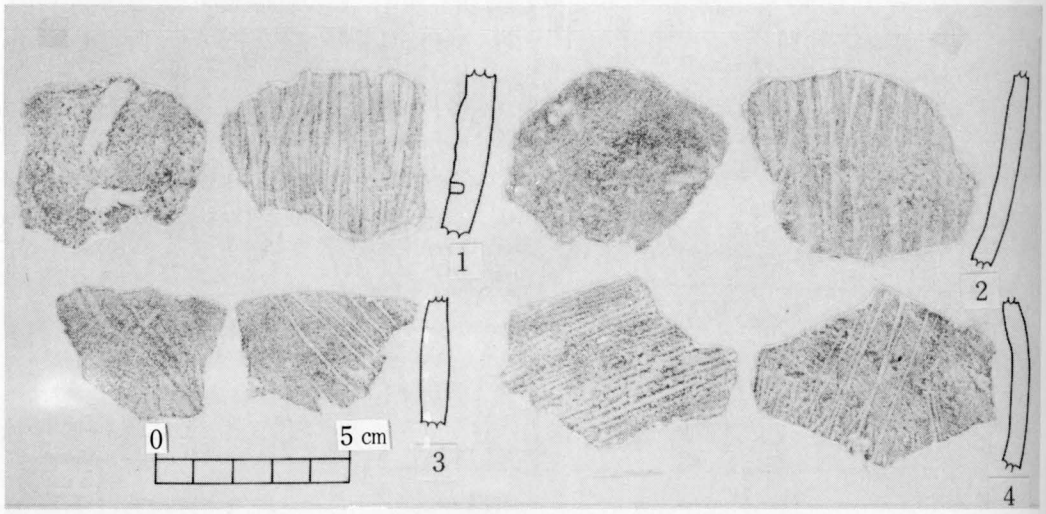
第60図　土　器



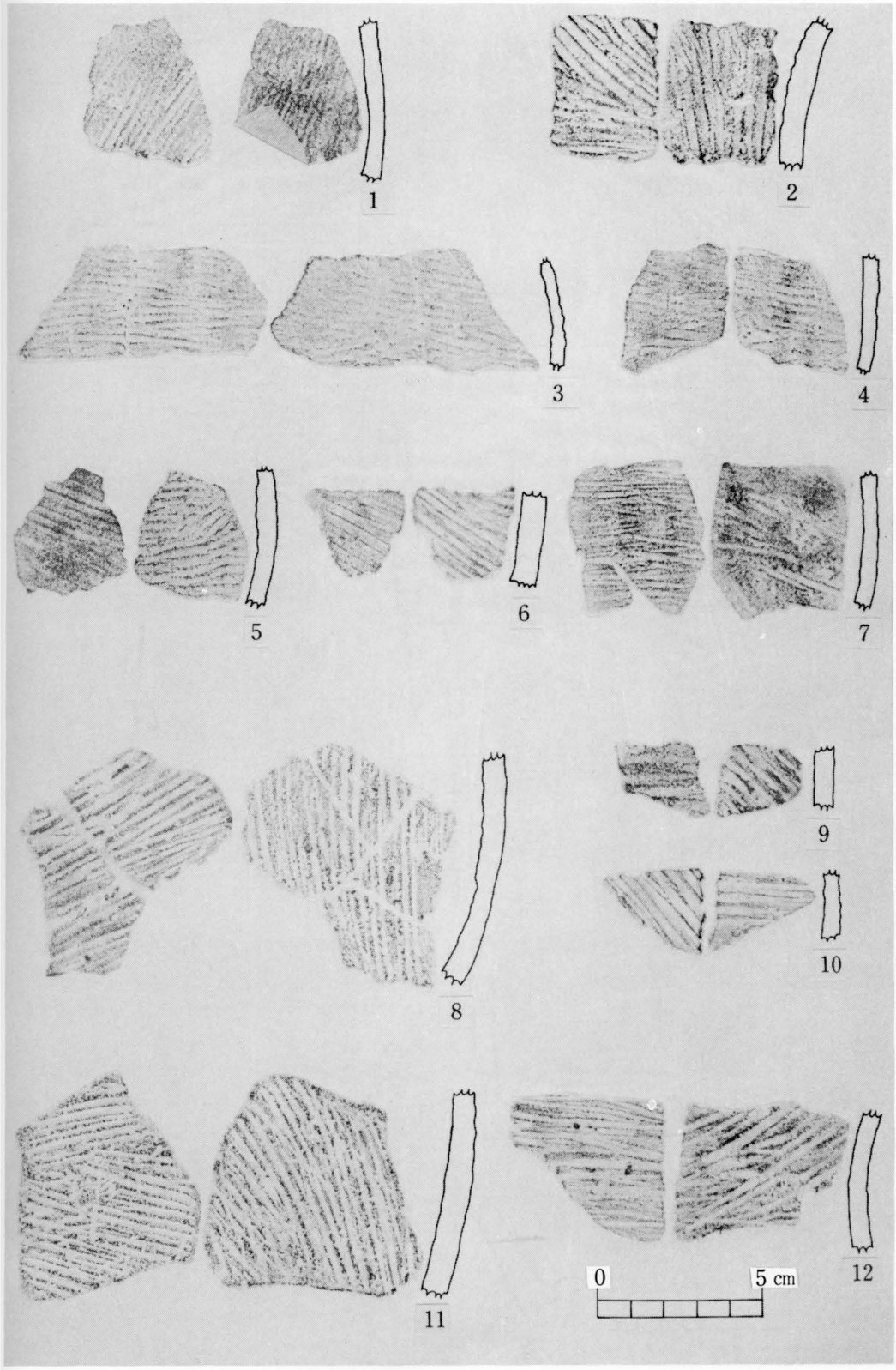
第61図　土　　器



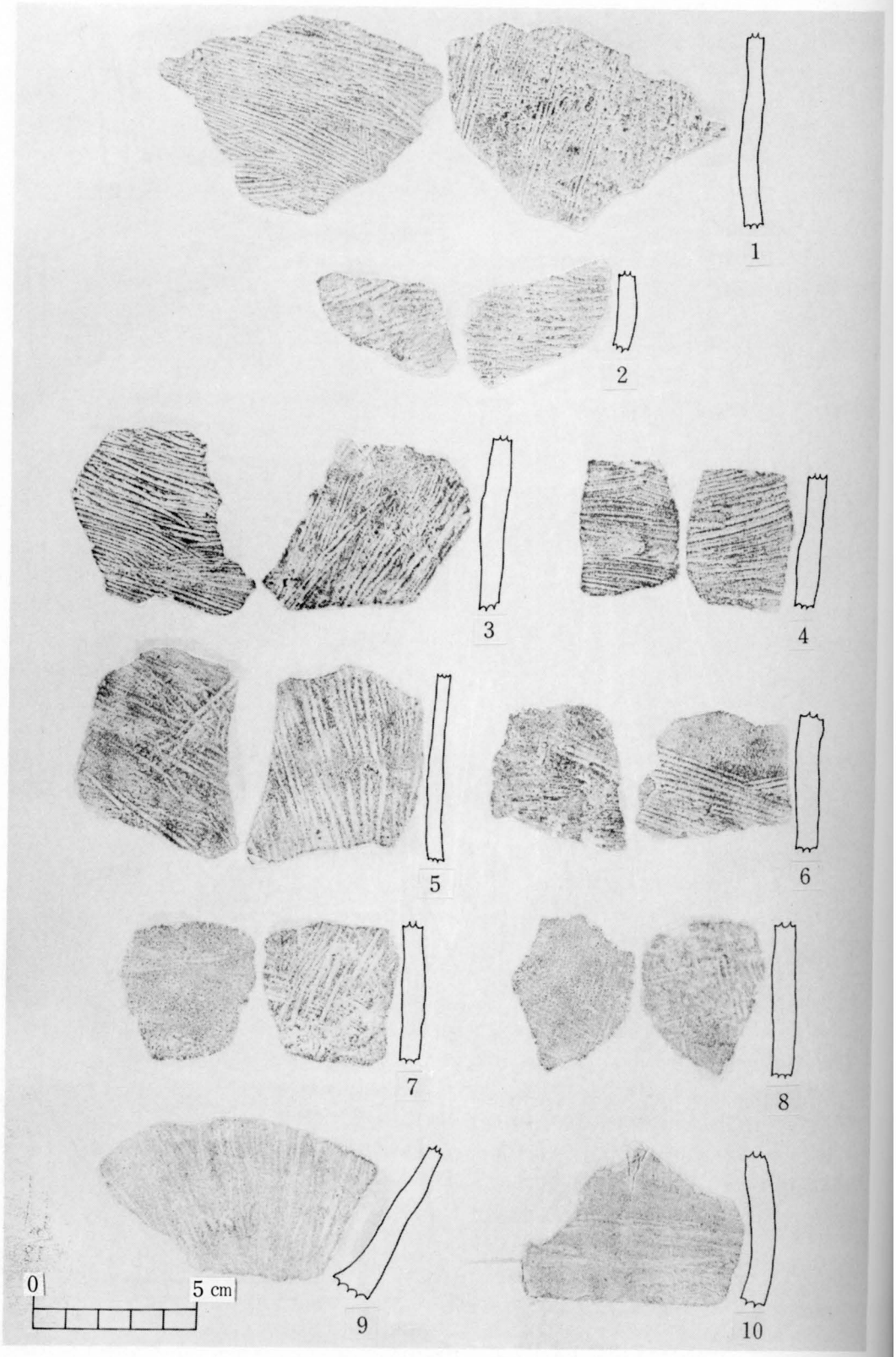
第６２図Ａ　土　　器



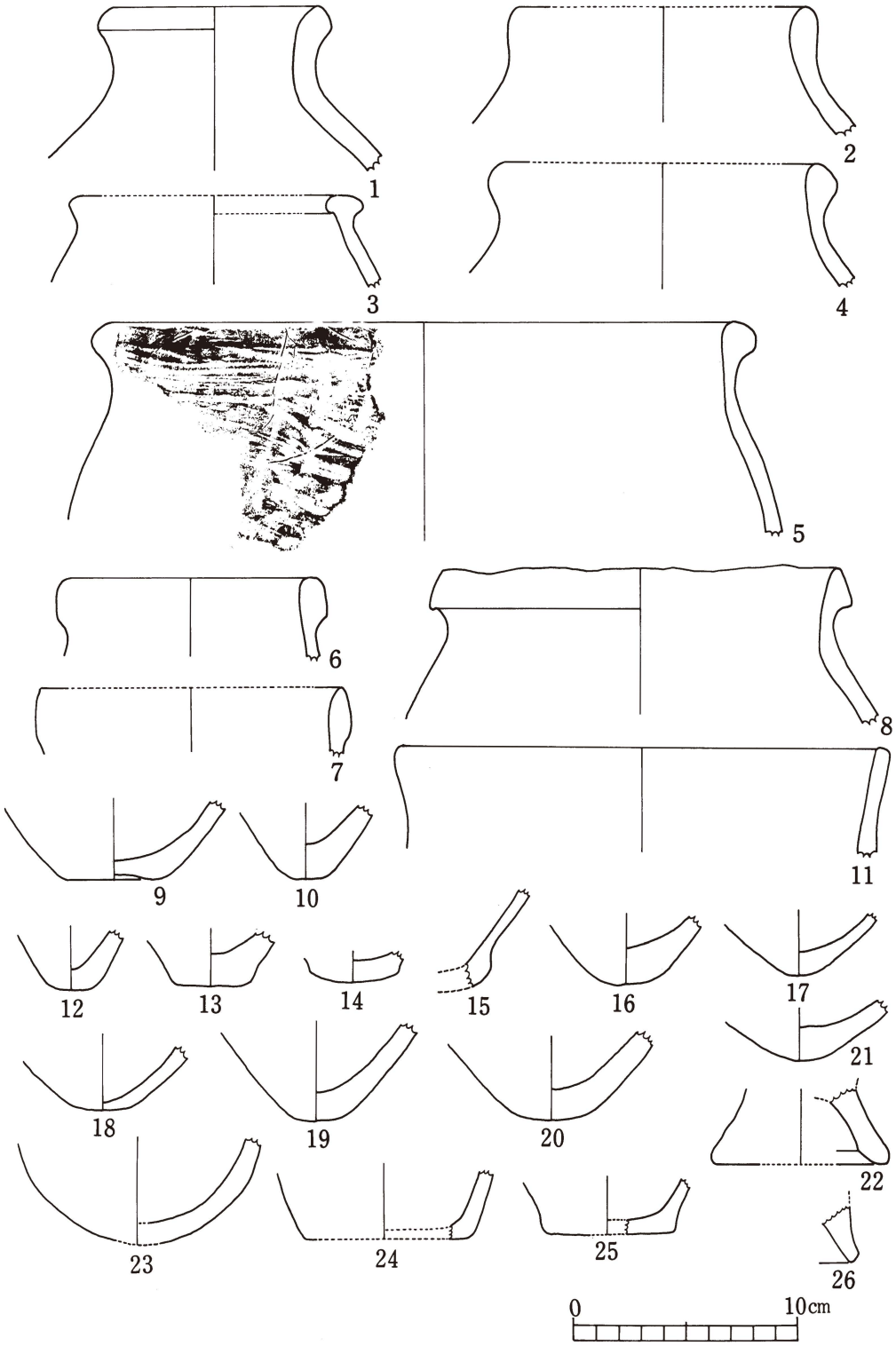
第６２図Ｂ　土　　器



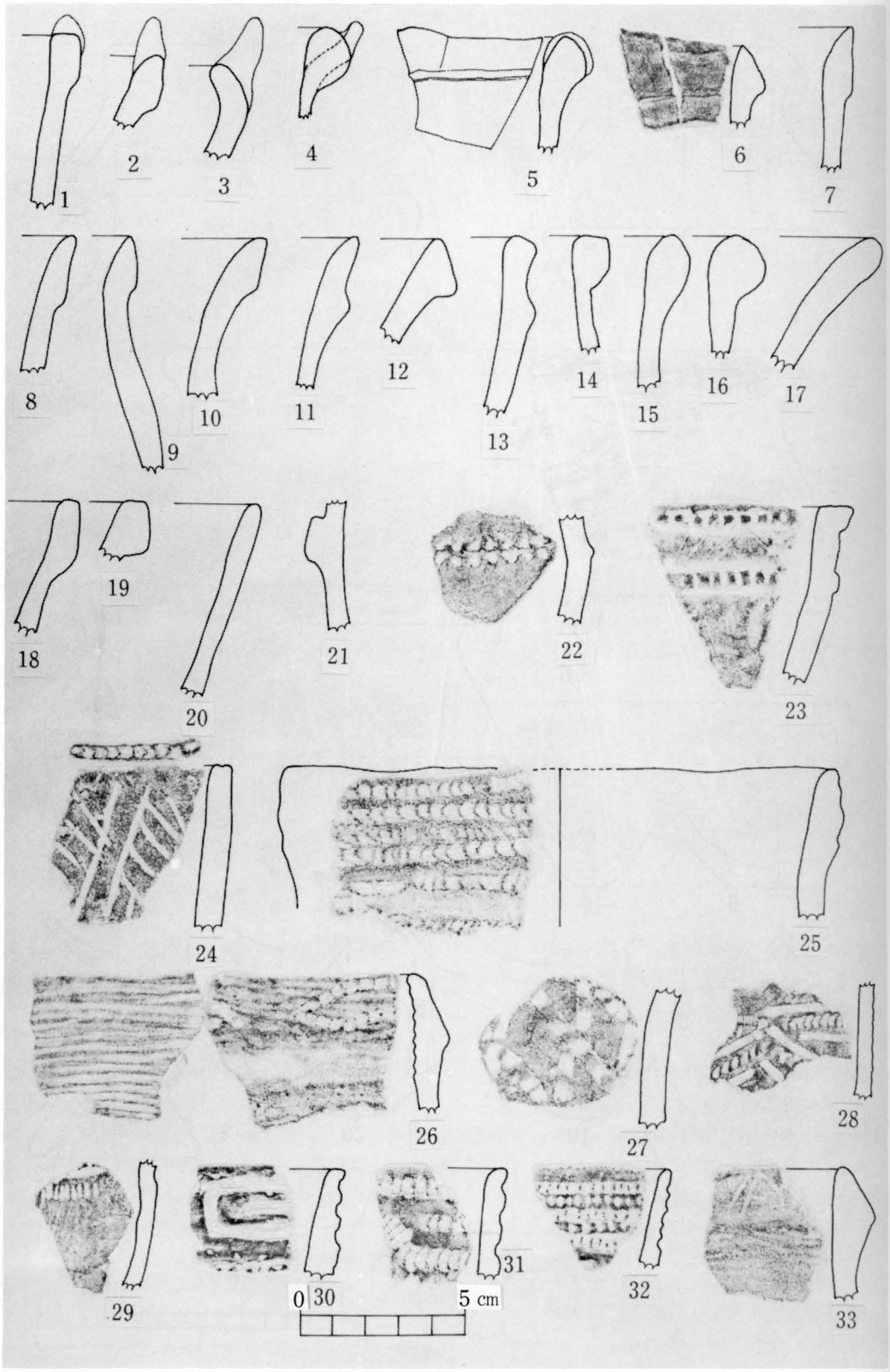
第63図　土　器



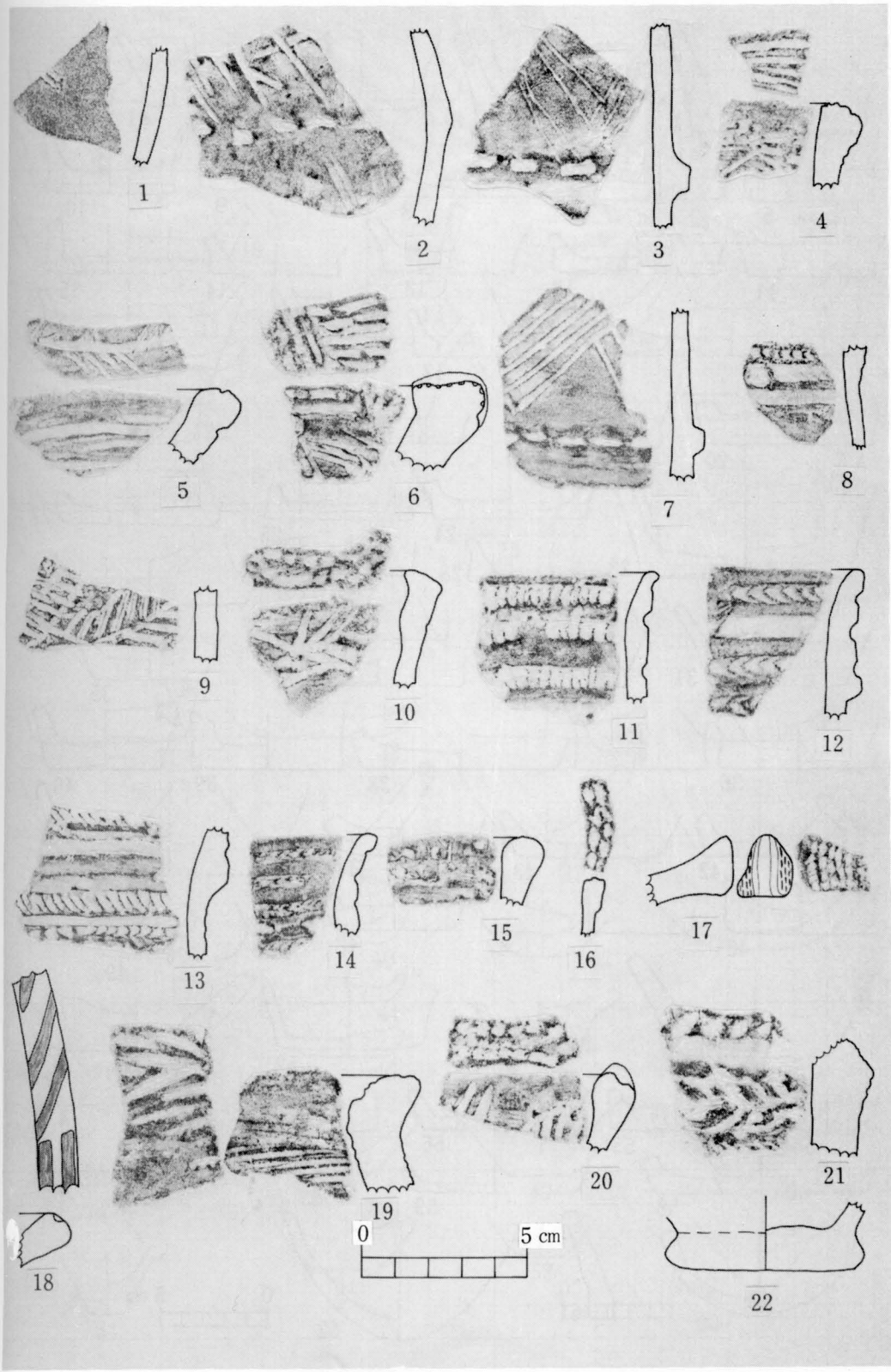
第64図　土　器



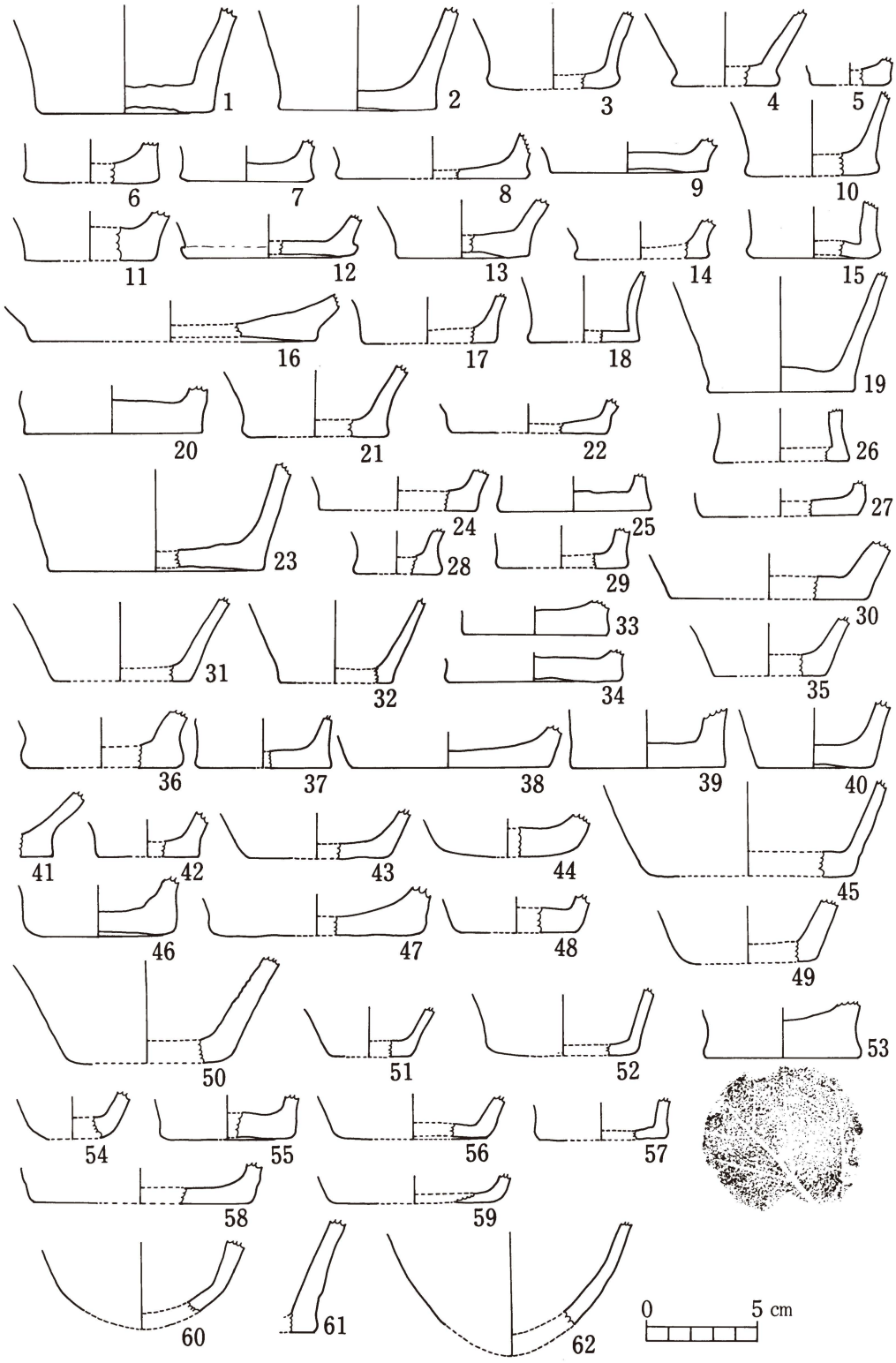
第65図　土　　器


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
0
5 cm

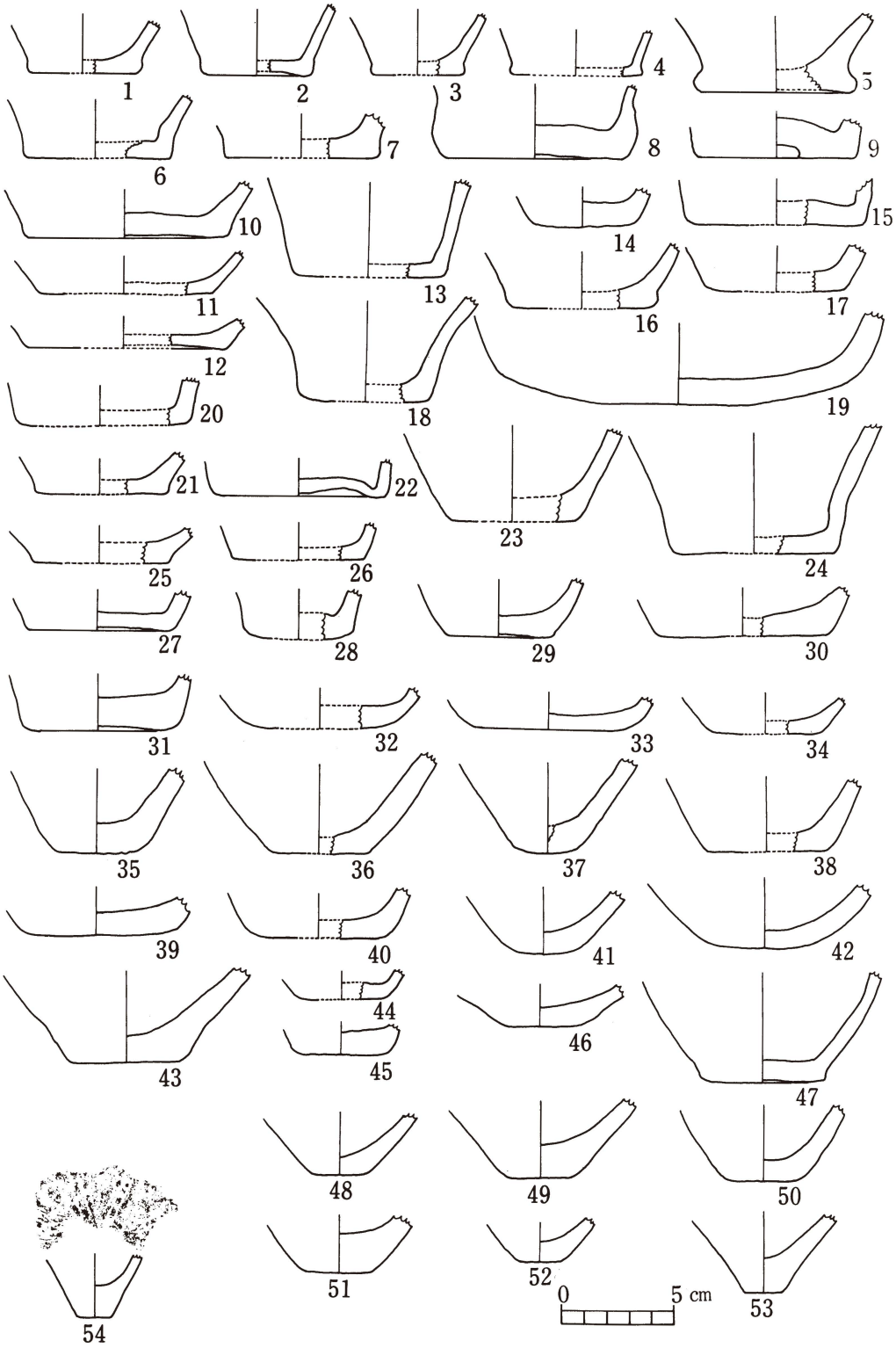
第66図　土　器



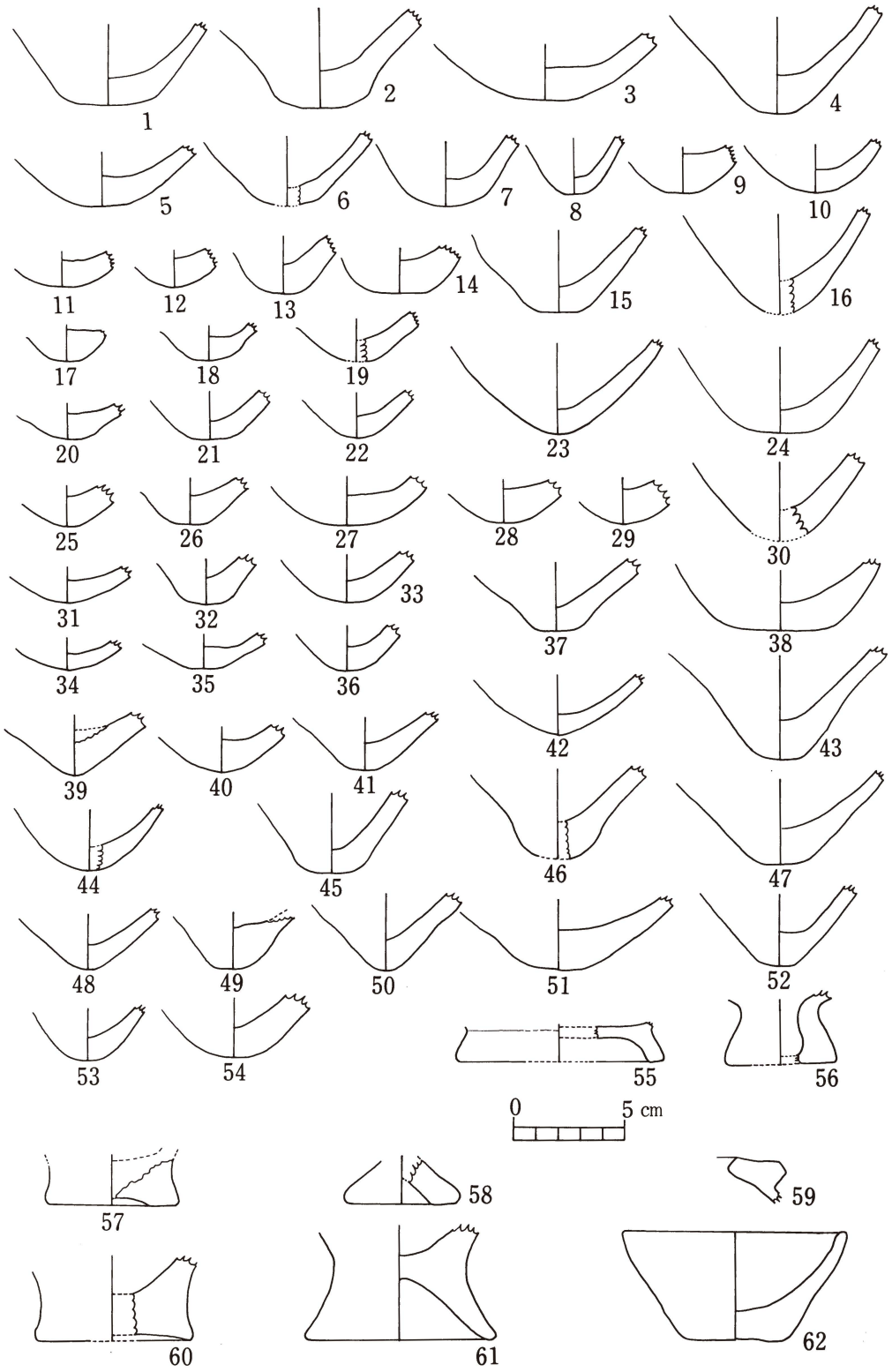
第67図　土　器


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
26
23
24
25
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
0
5 cm

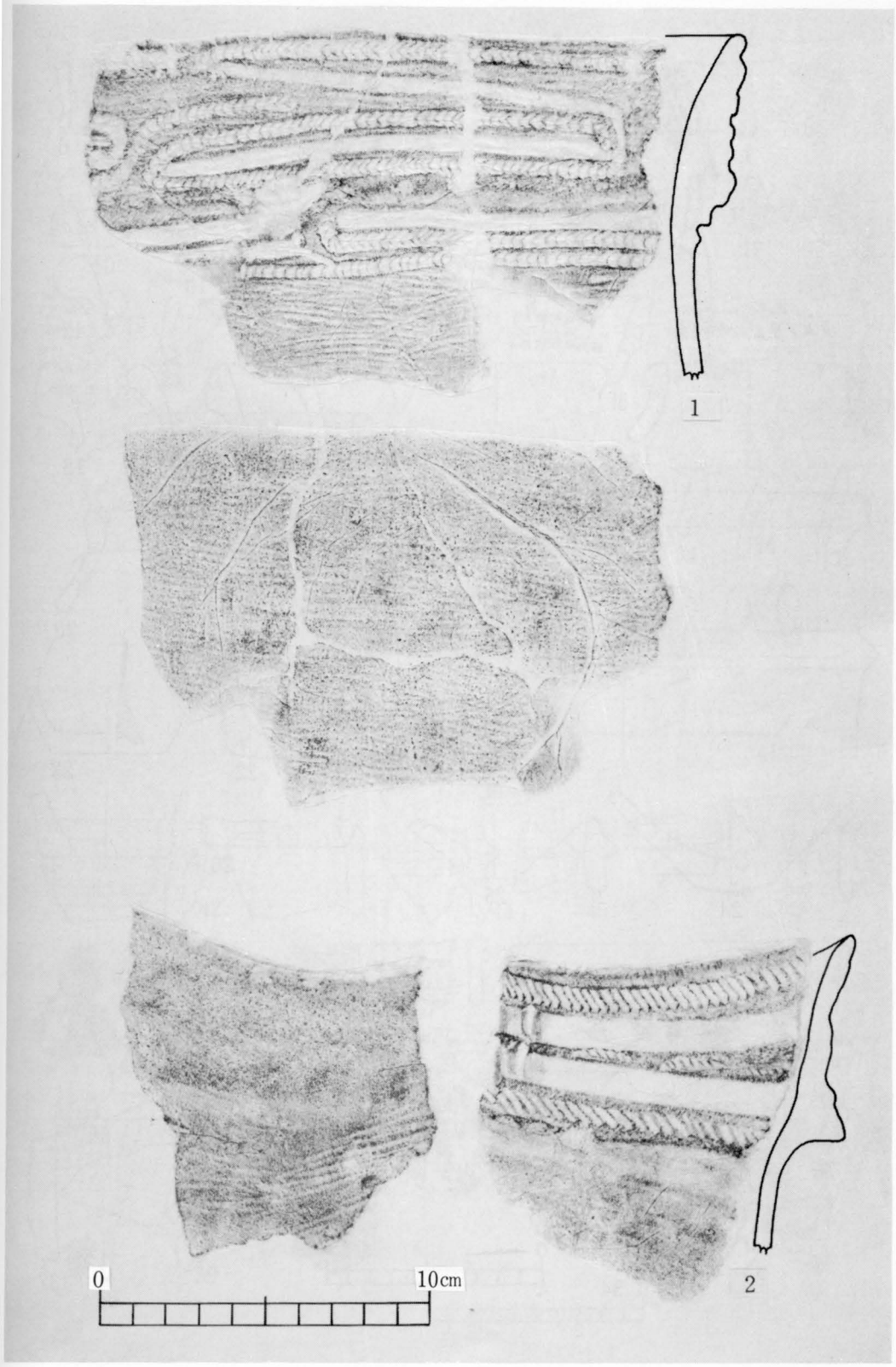
第６８図　土　　器


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
0
5 cm

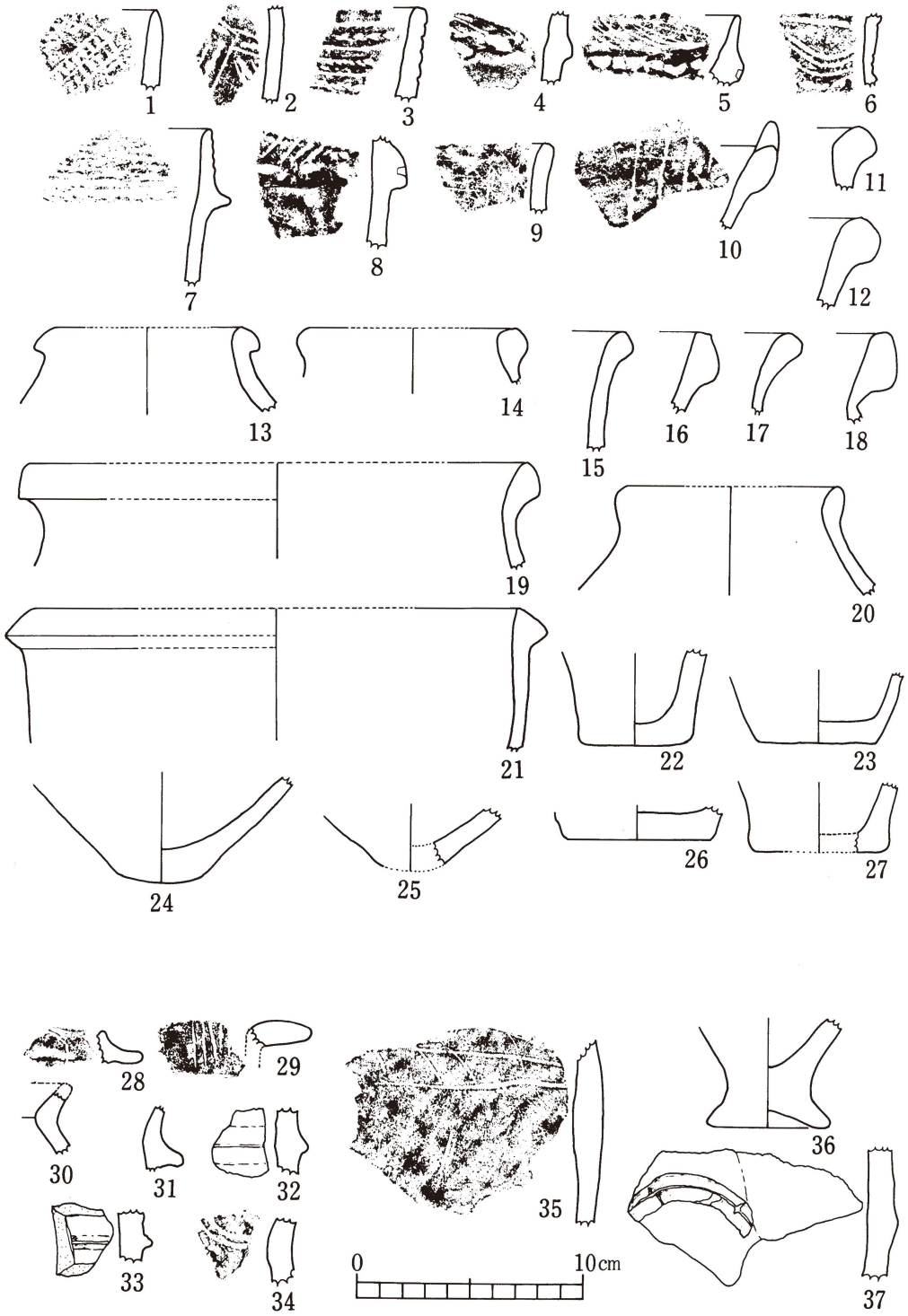
第69図　土　　器


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
0
5 cm
57
58
59
60
61
62

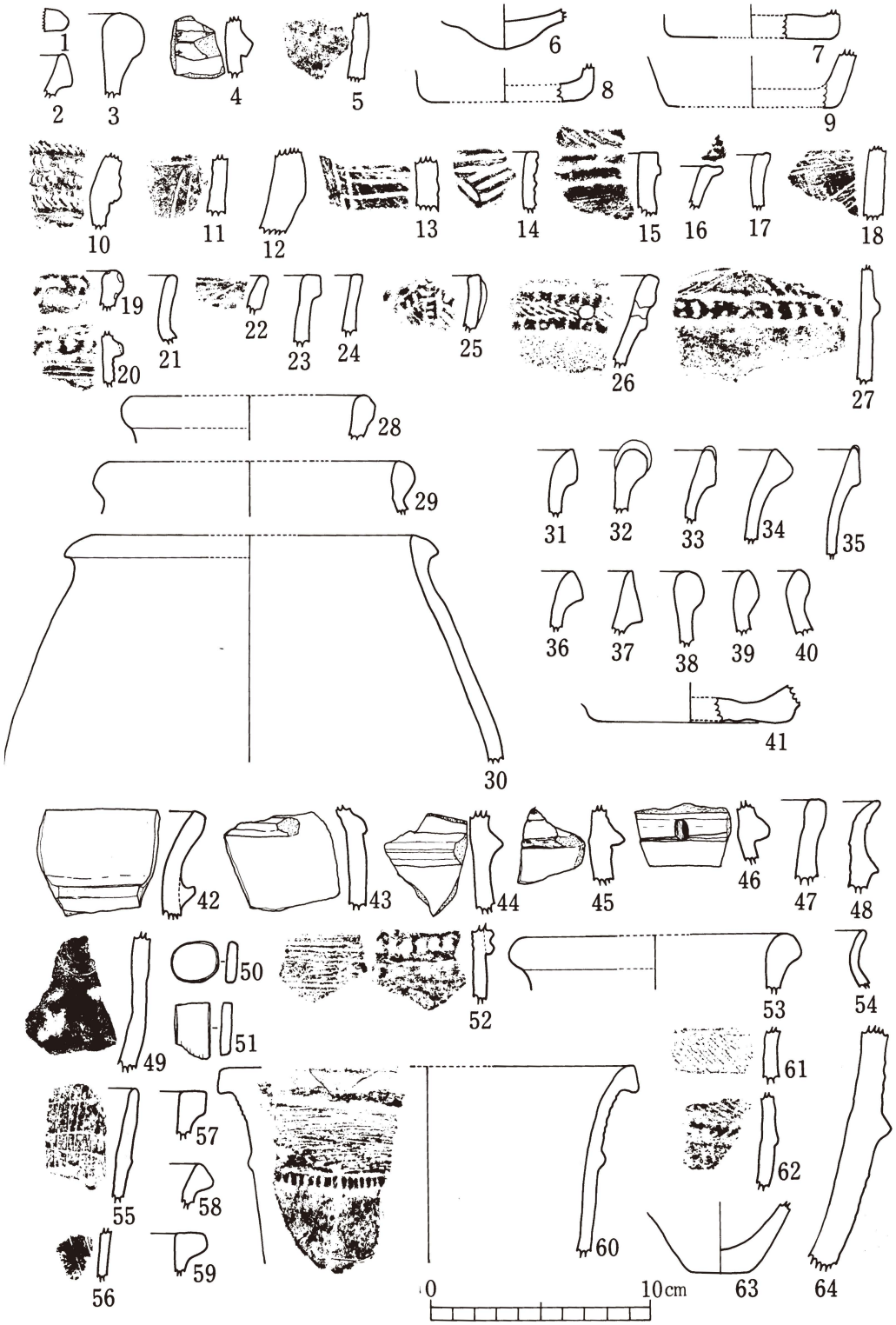
第７０図　土　　器



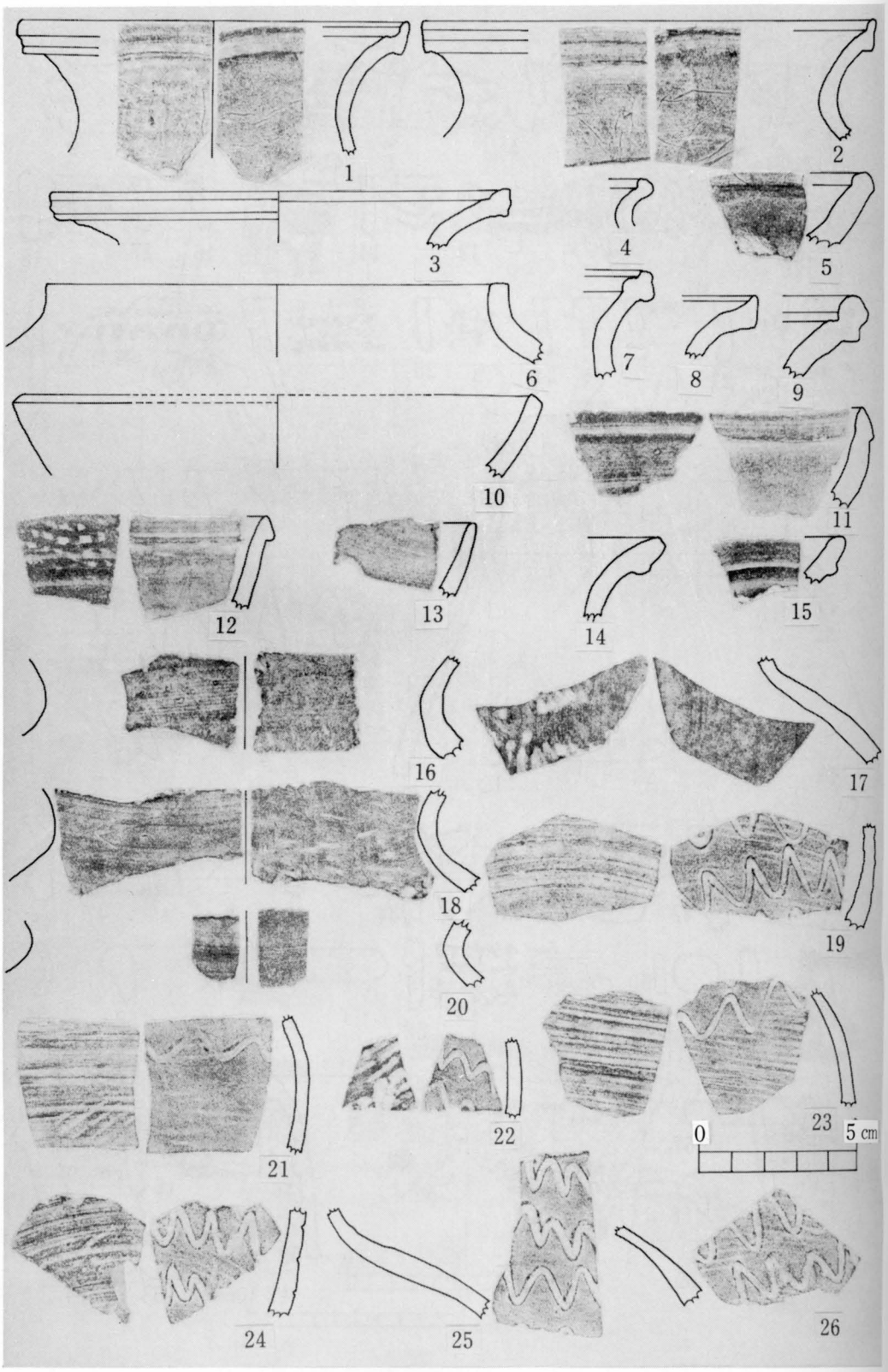
第71図　土　器


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
0
10cm

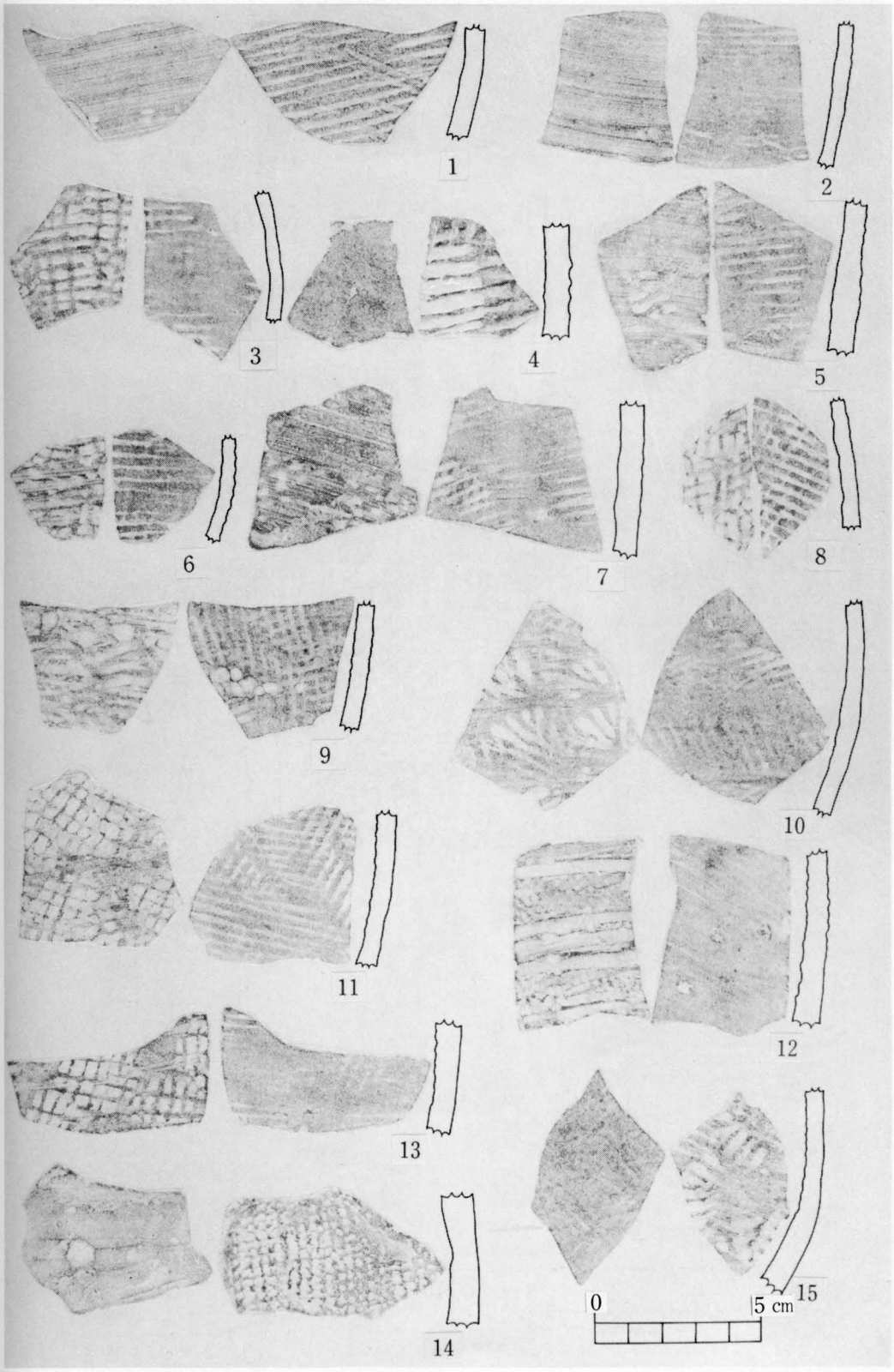
第72図　土　　器


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
0
10cm

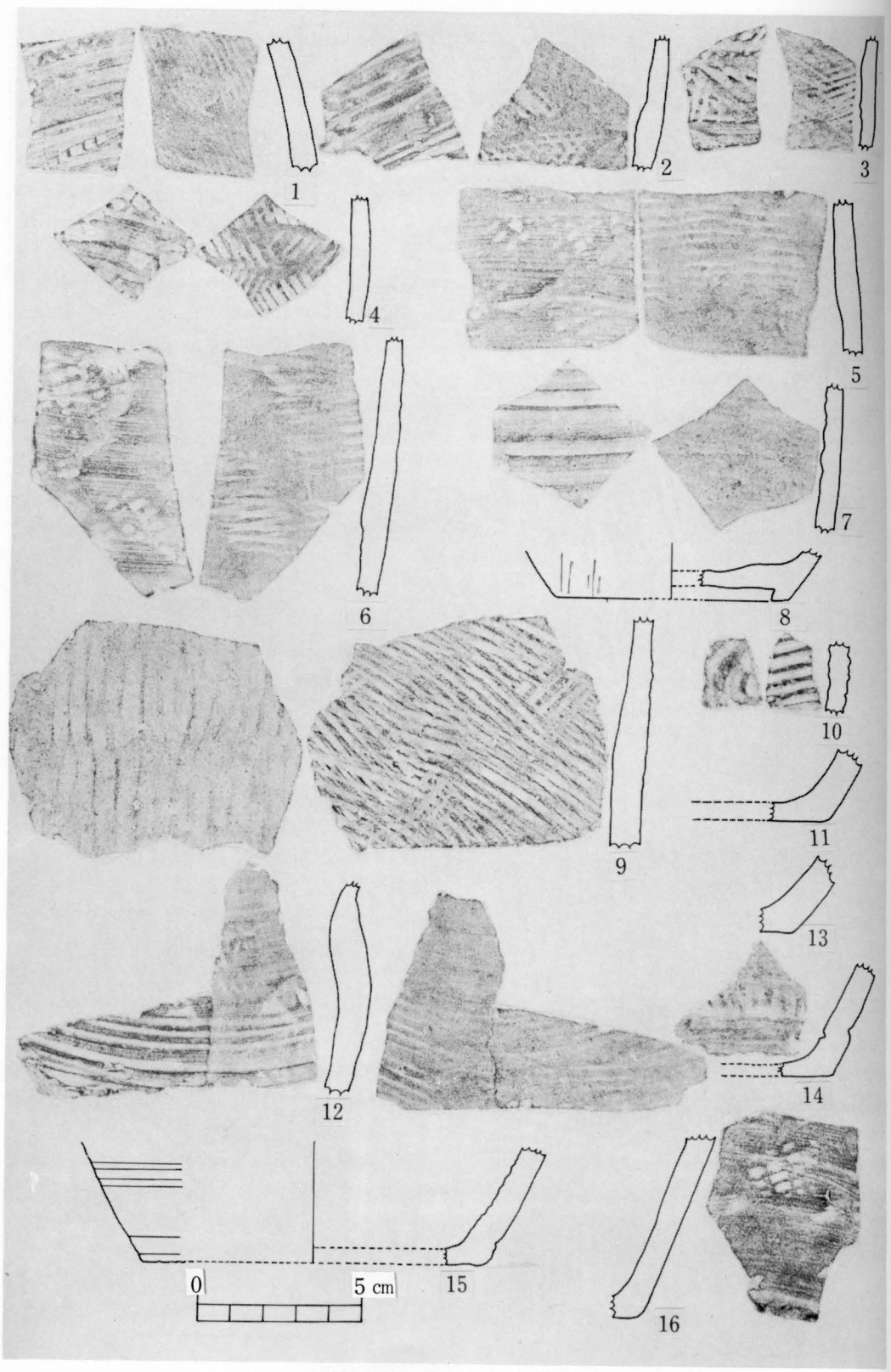
第７３図　土　　器



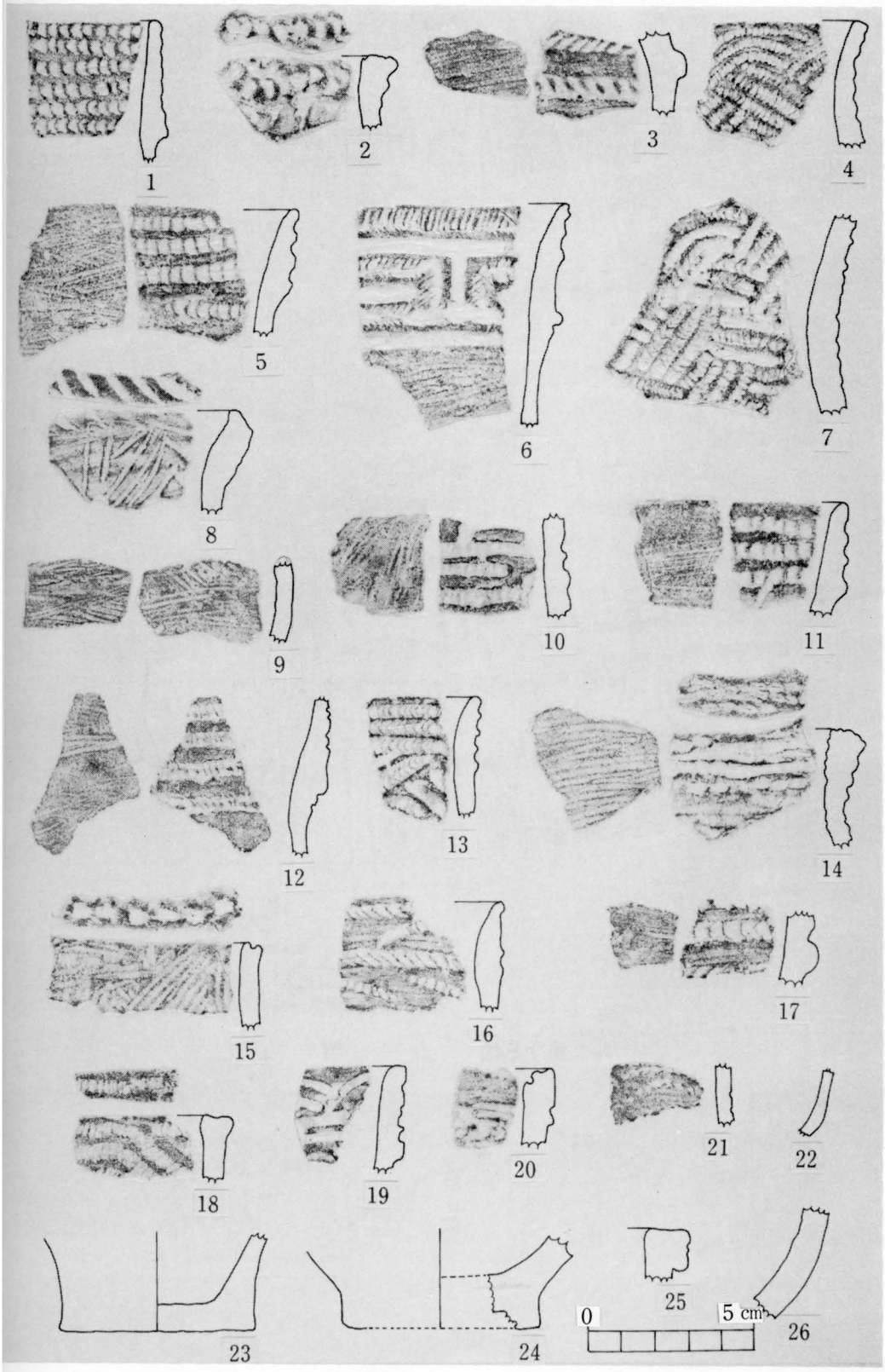
第74図　須恵器



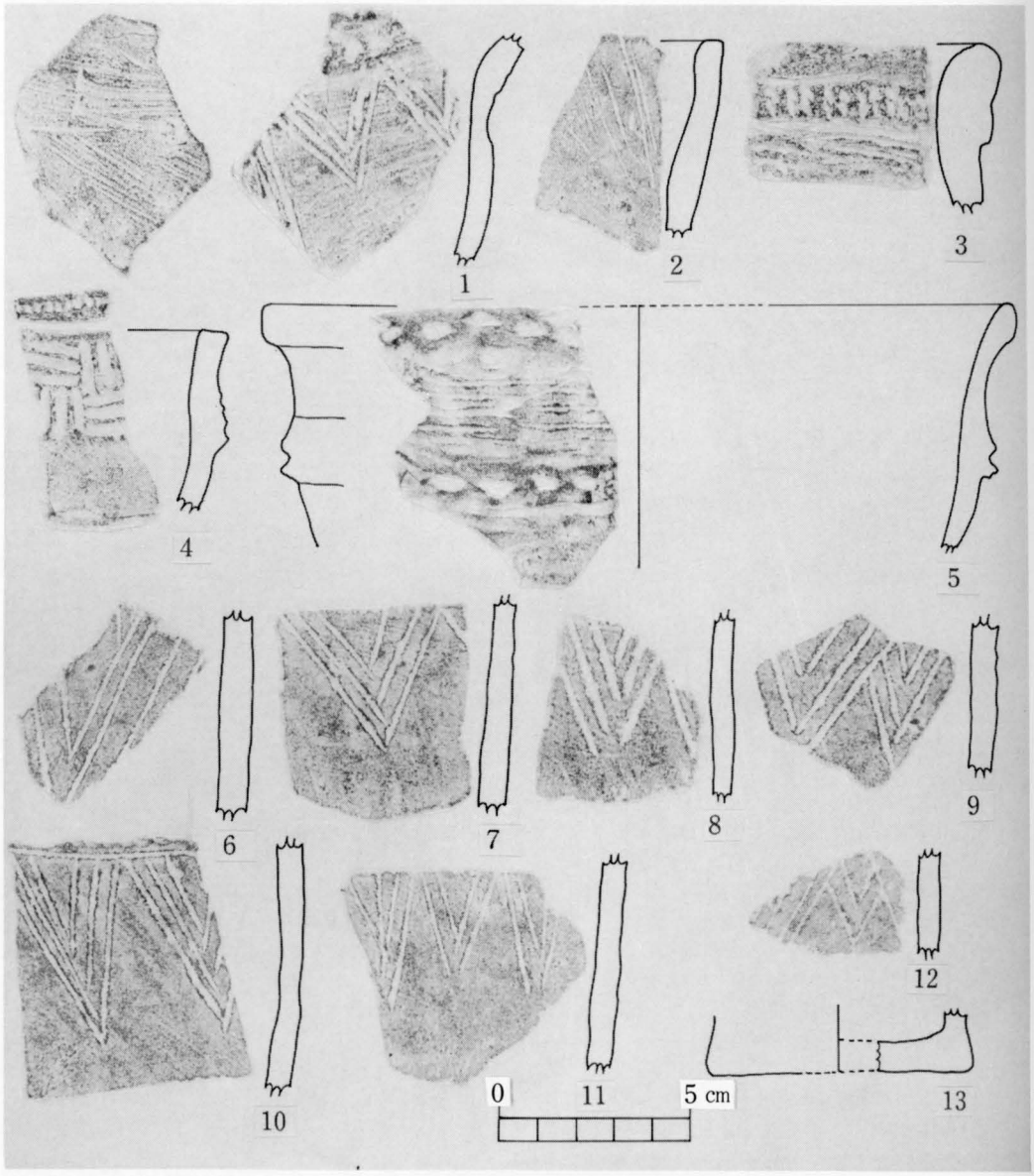
第75図　須恵器



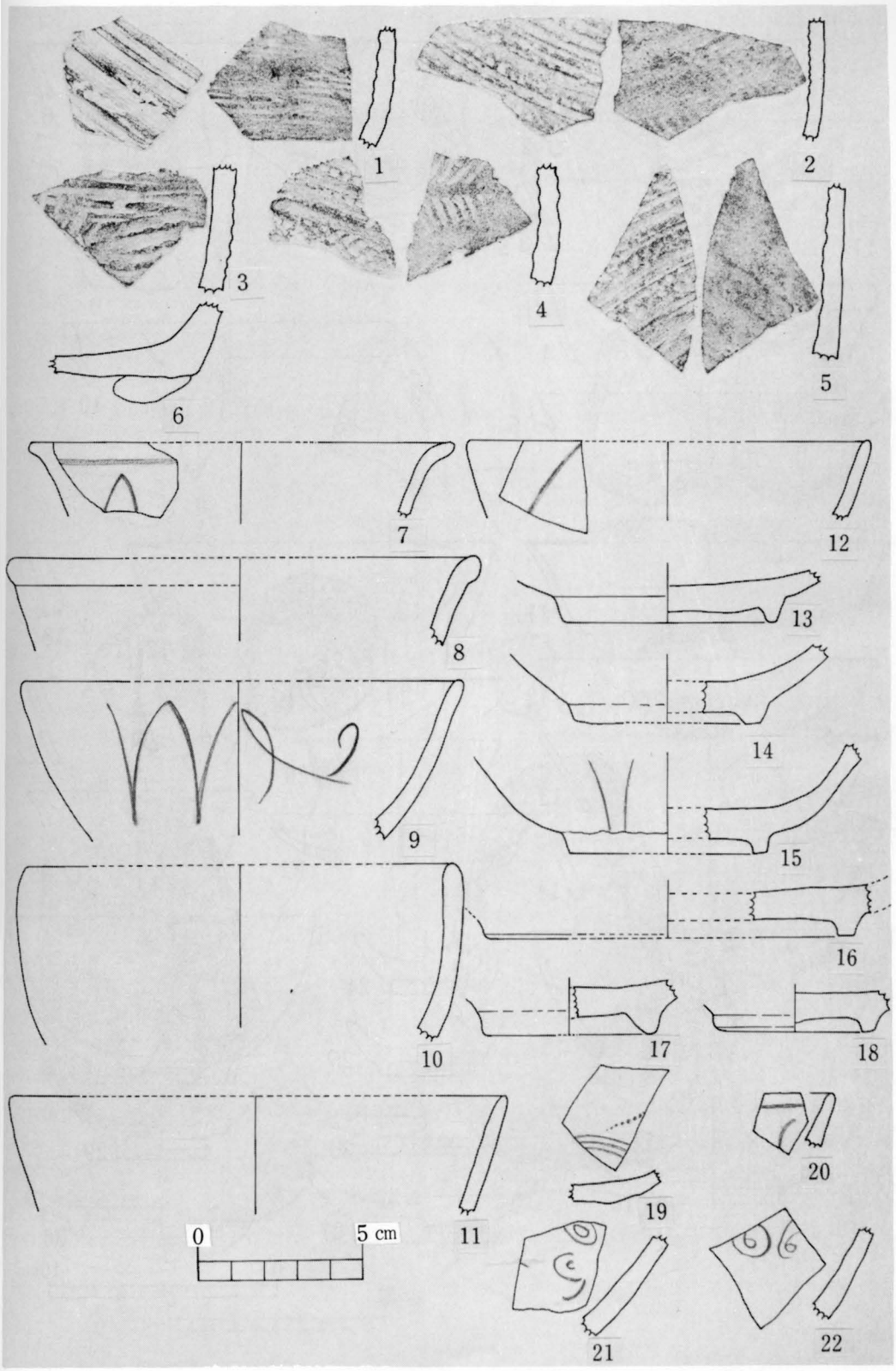
第76図　須恵器



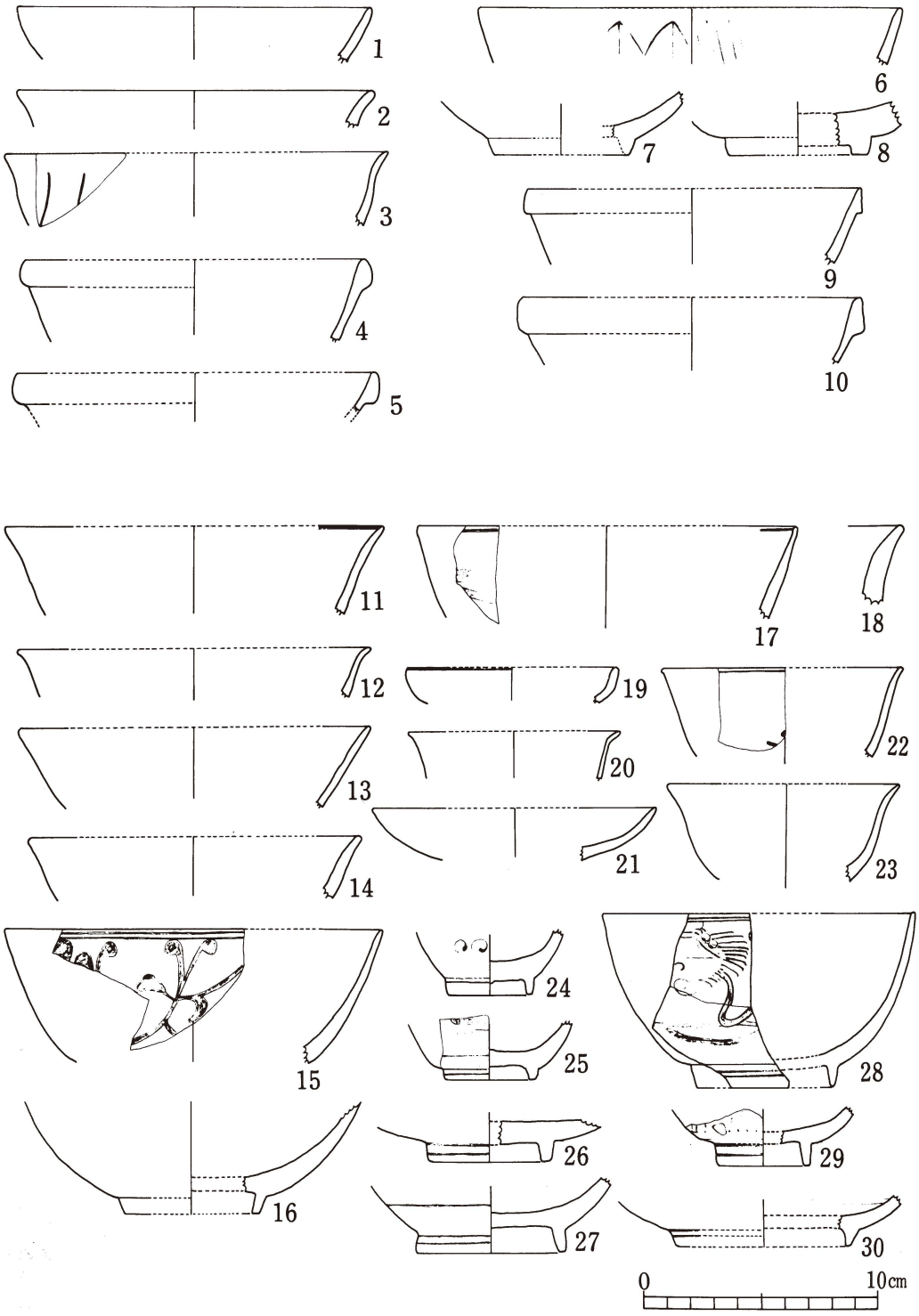
第77図　土　器



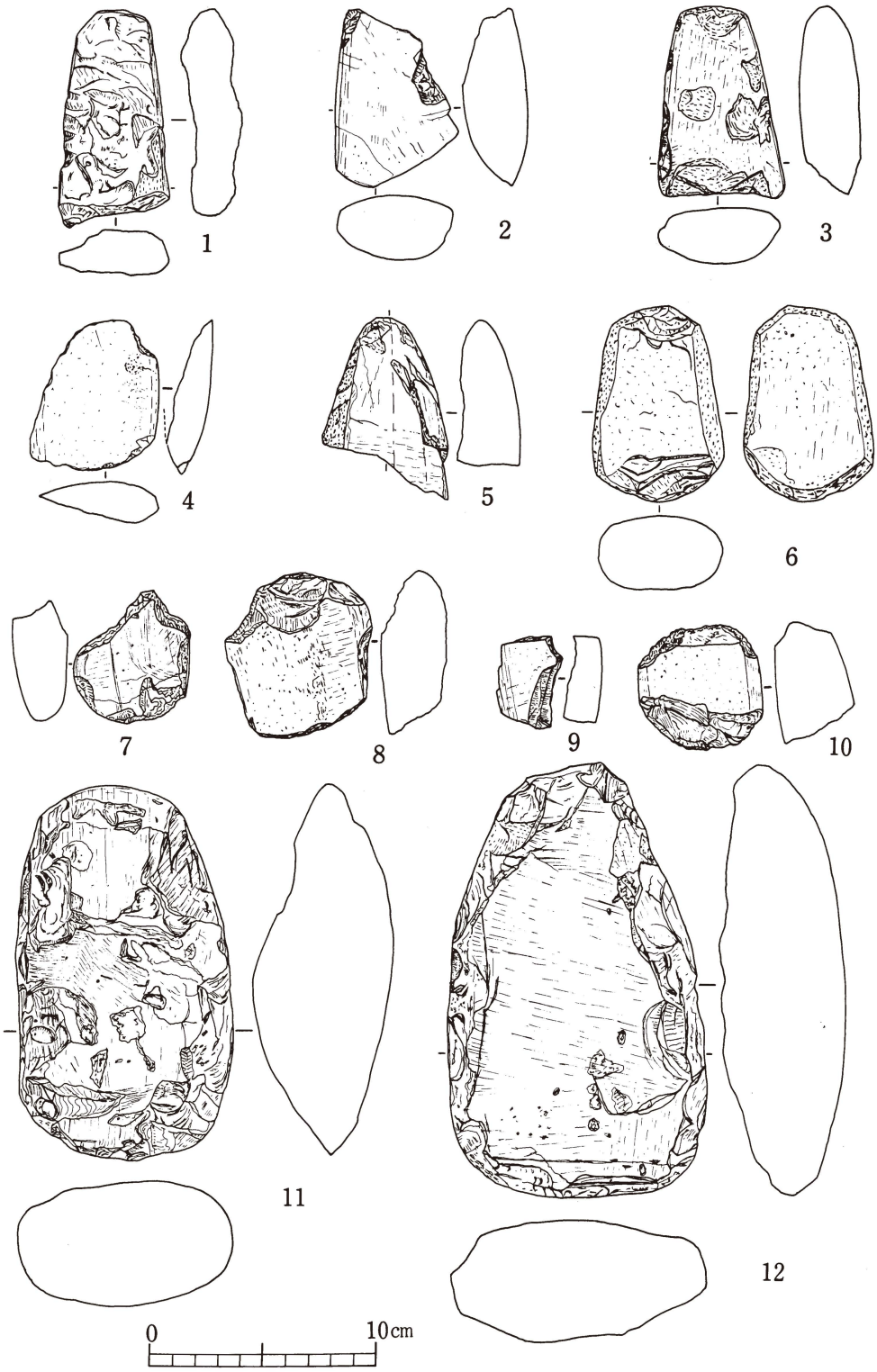
第78図　土　　器



第７９図　須恵器・青瓷

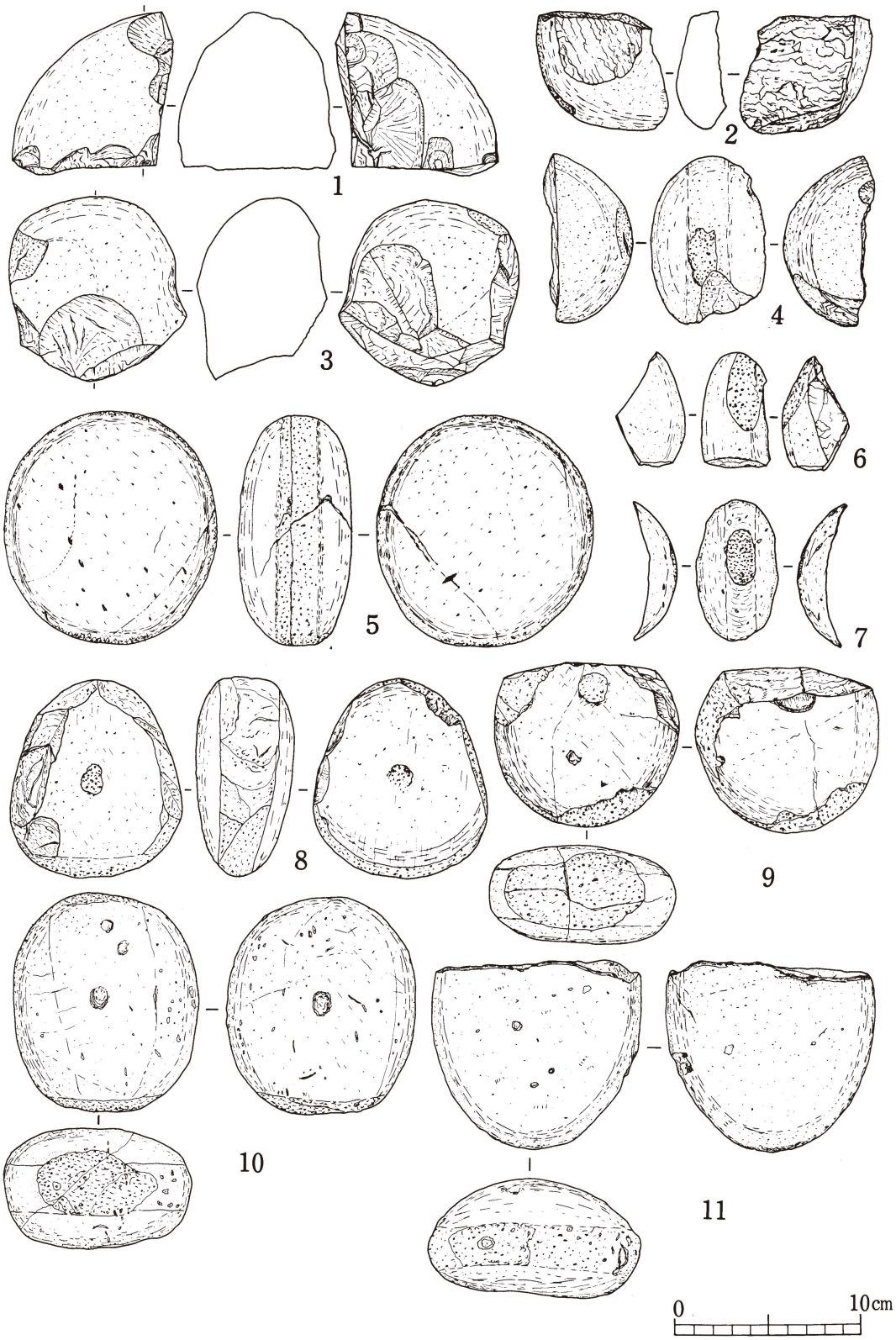

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
0
10cm

第８０図　土　　器

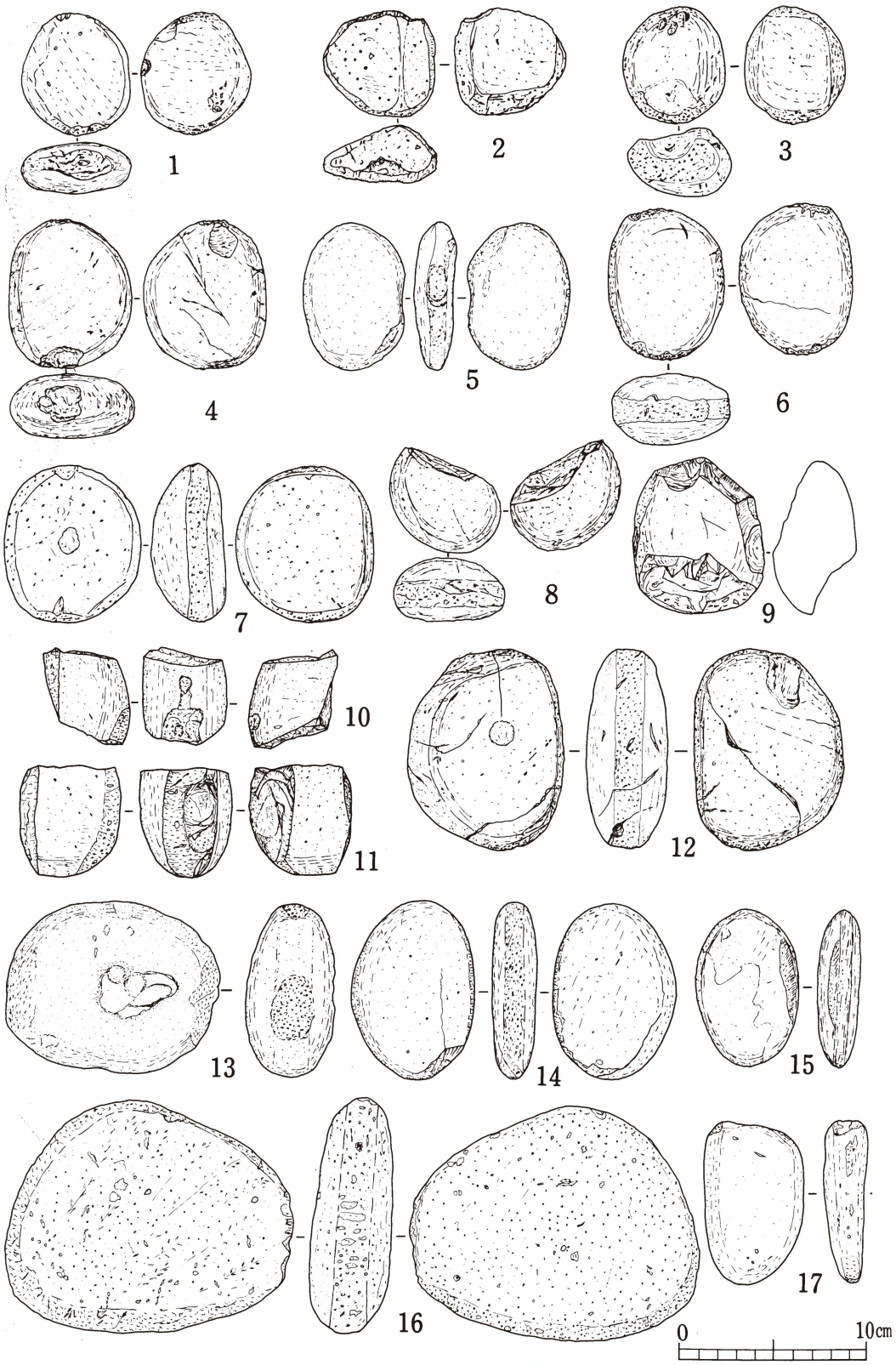


第81図　石　　器

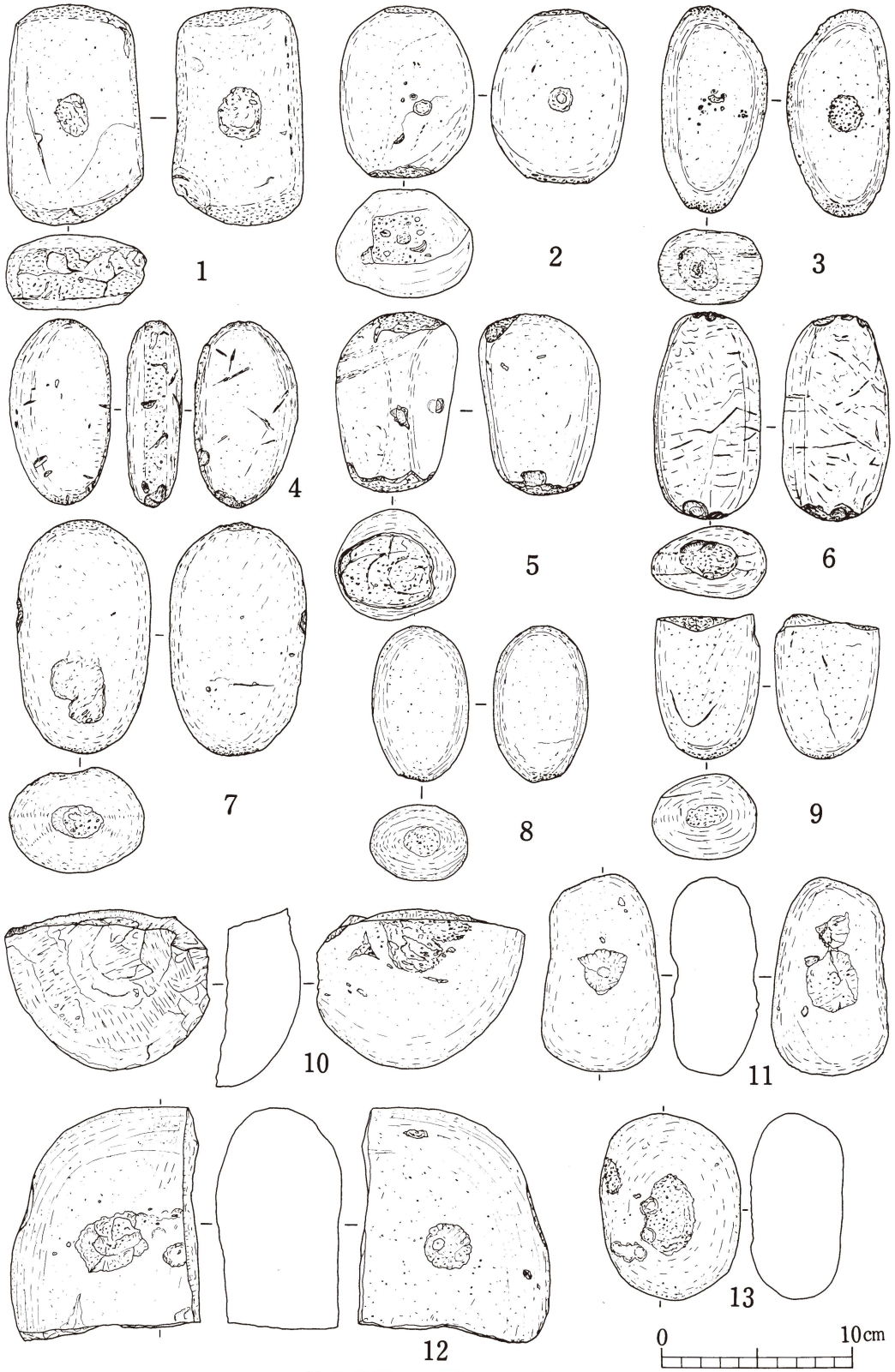
第８２図　石　　器



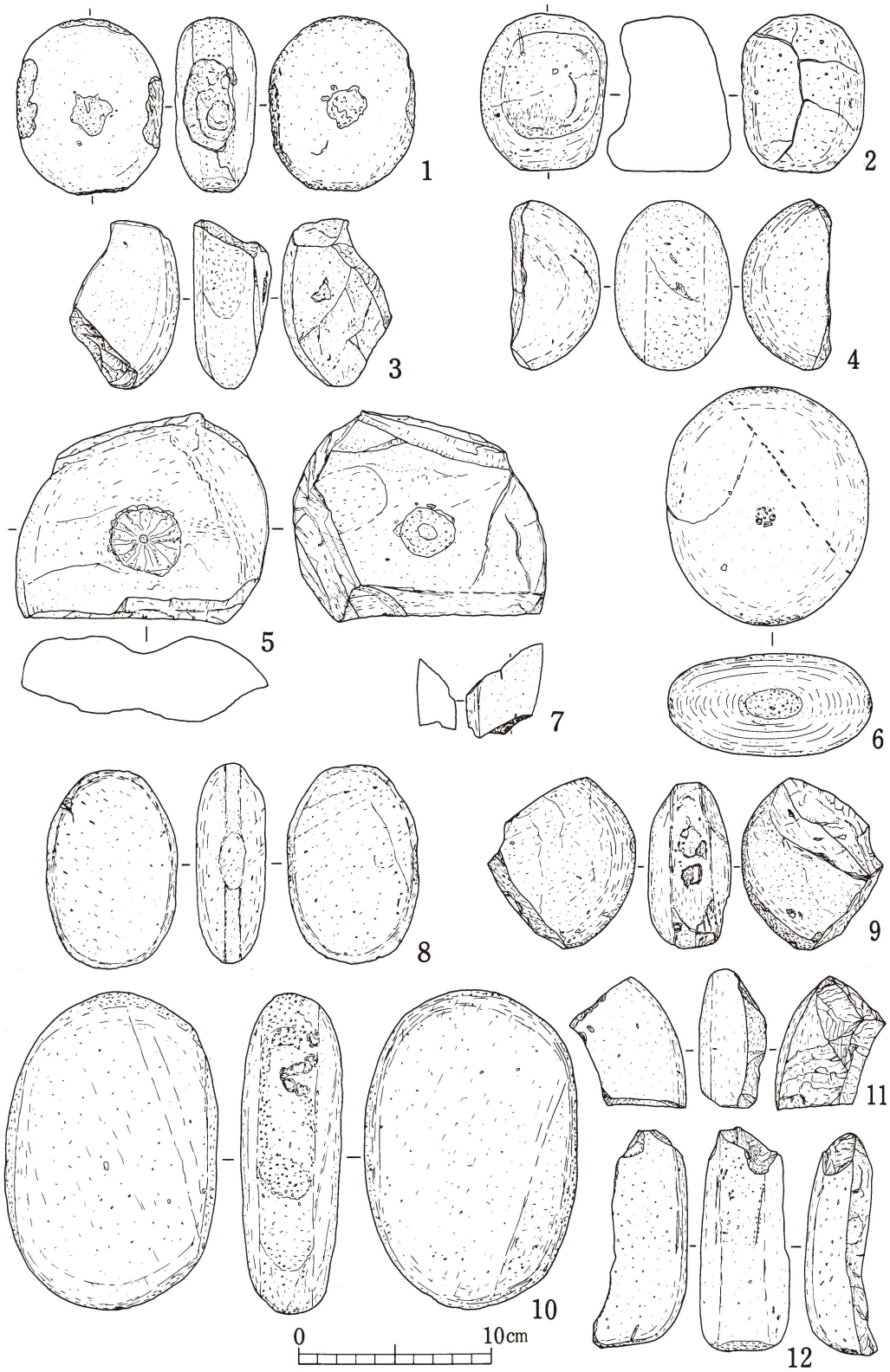
第83図　石　　器



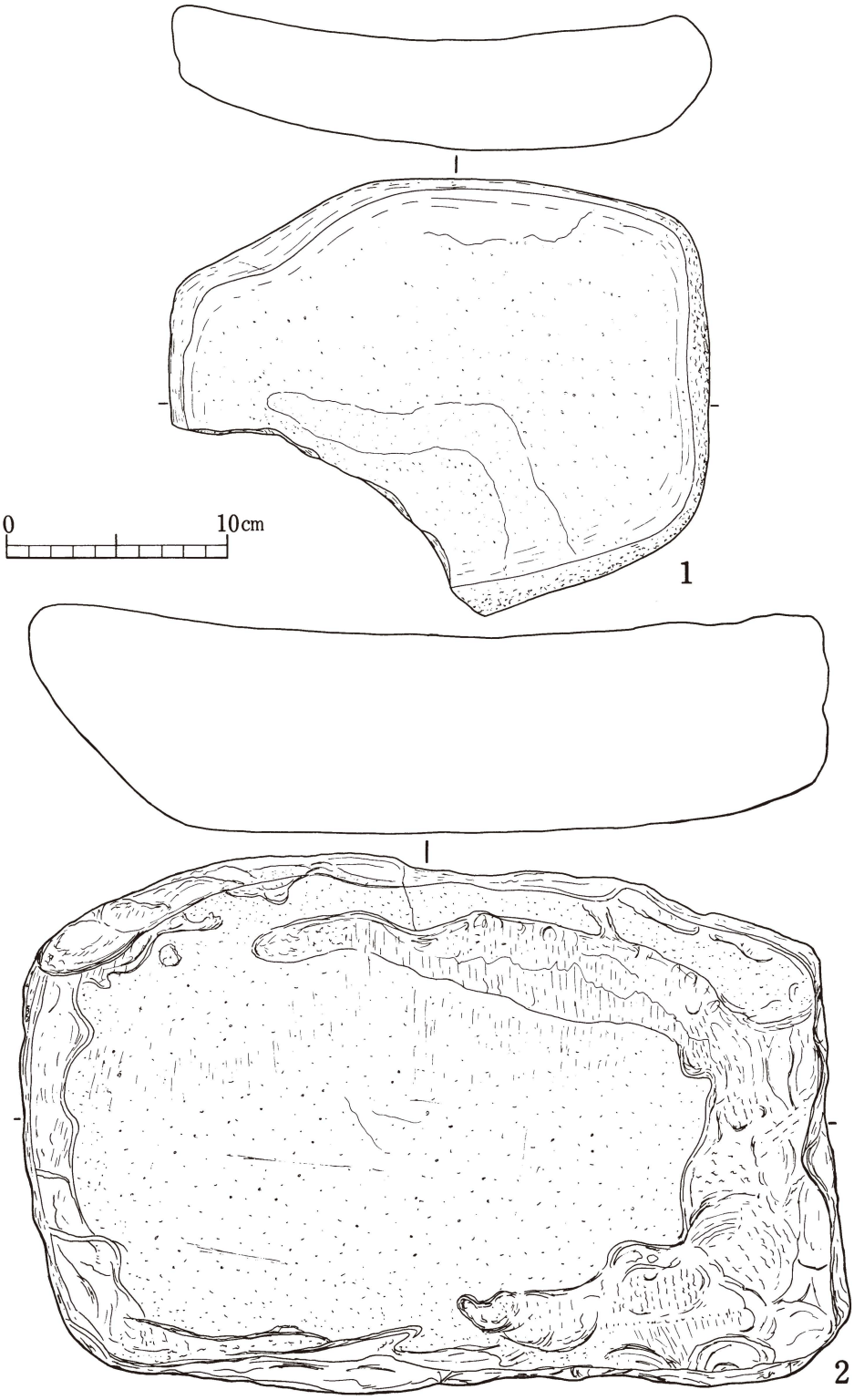
第84図　石　　器



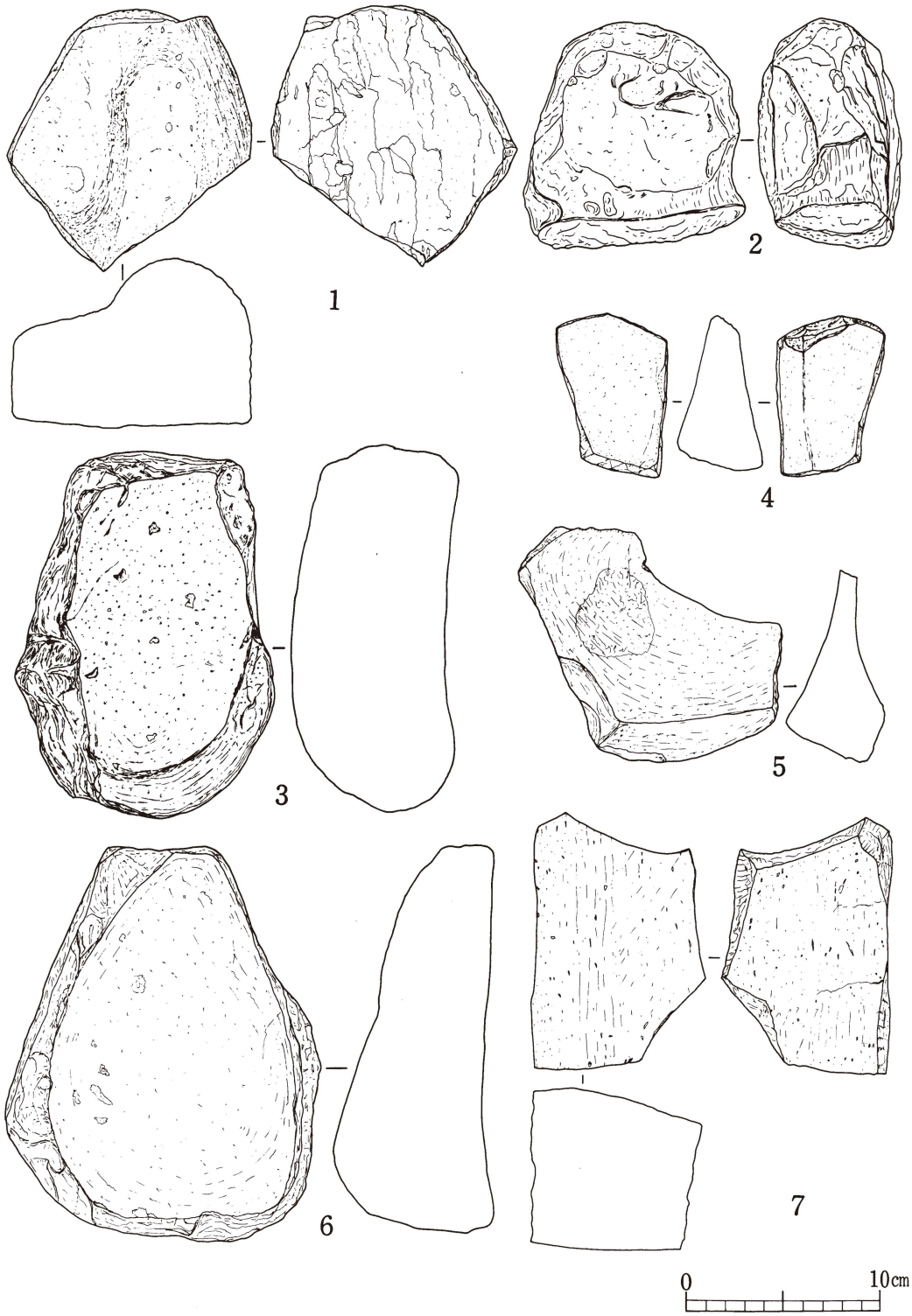
第85図　石　　器



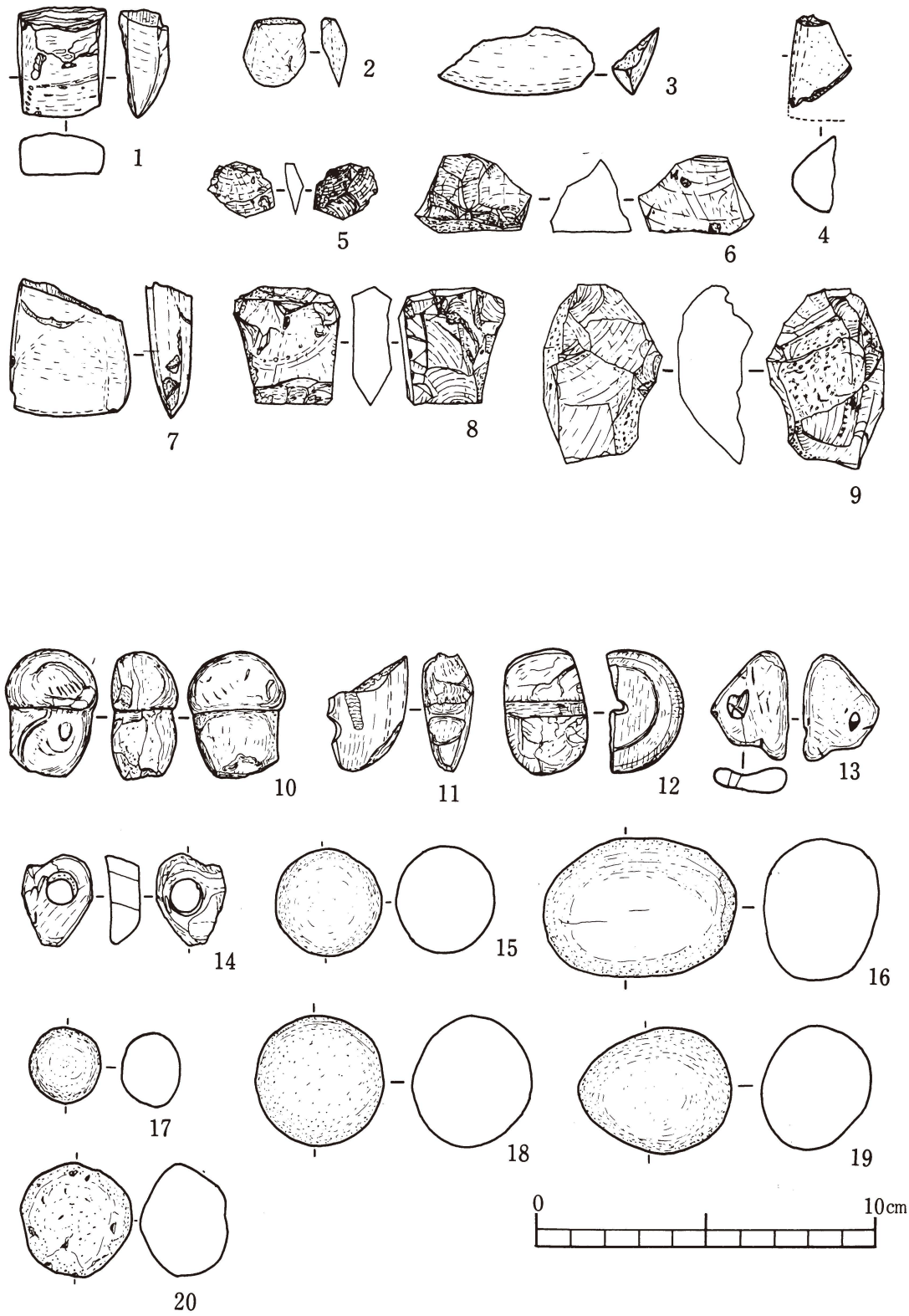
第86図　石　　器



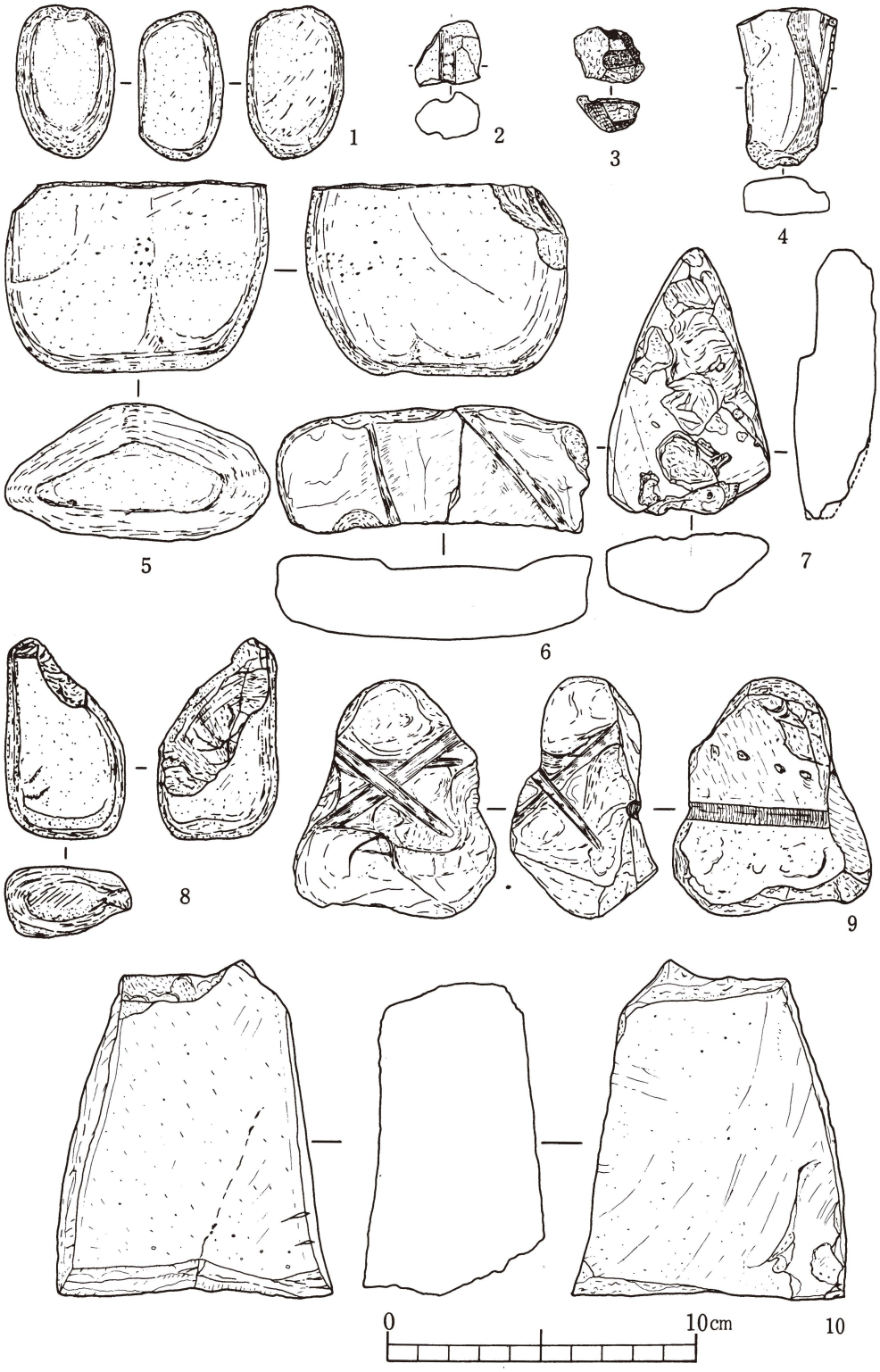
第87図　石　　器



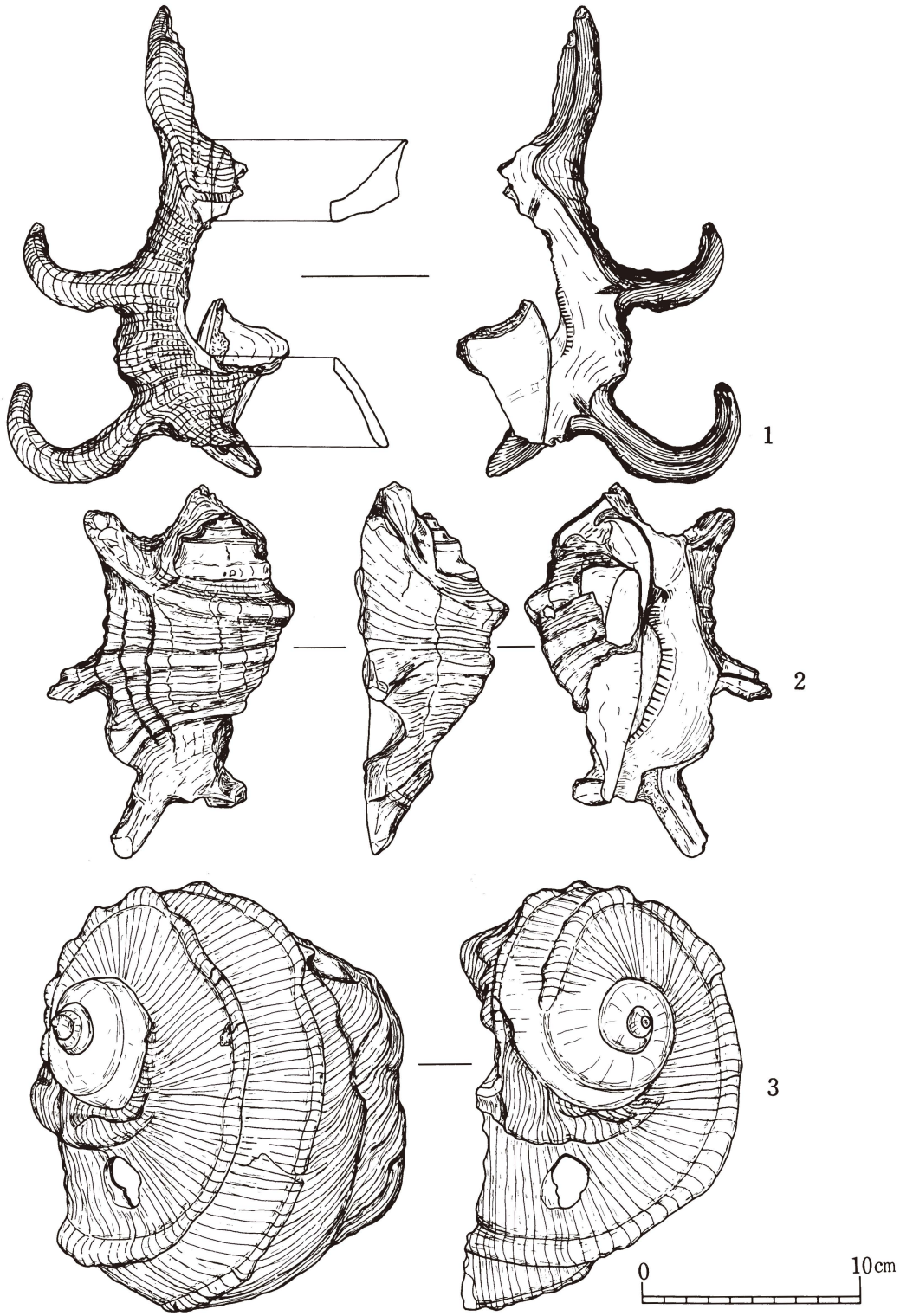
第88図　石　　器



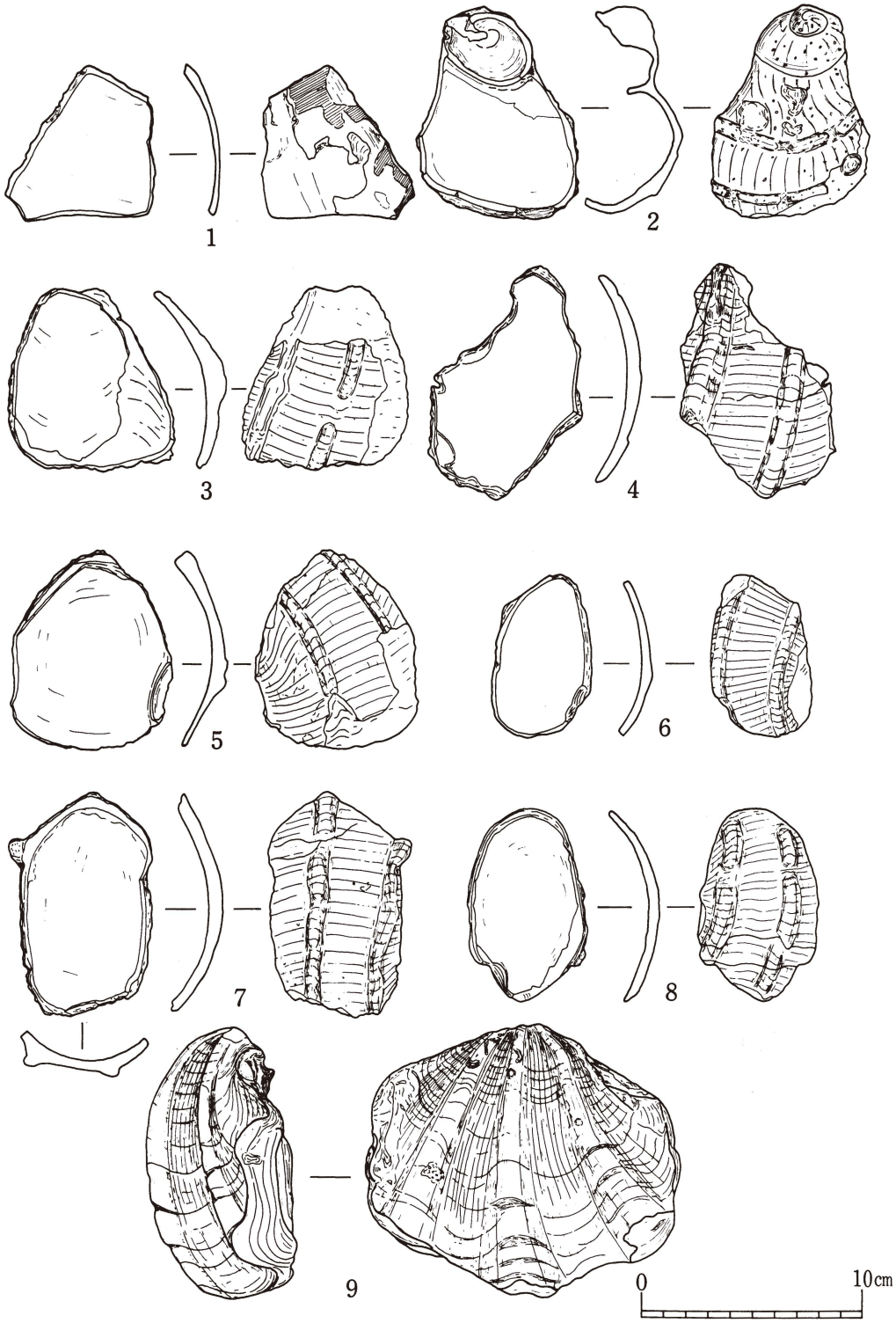
第89図　石　　器



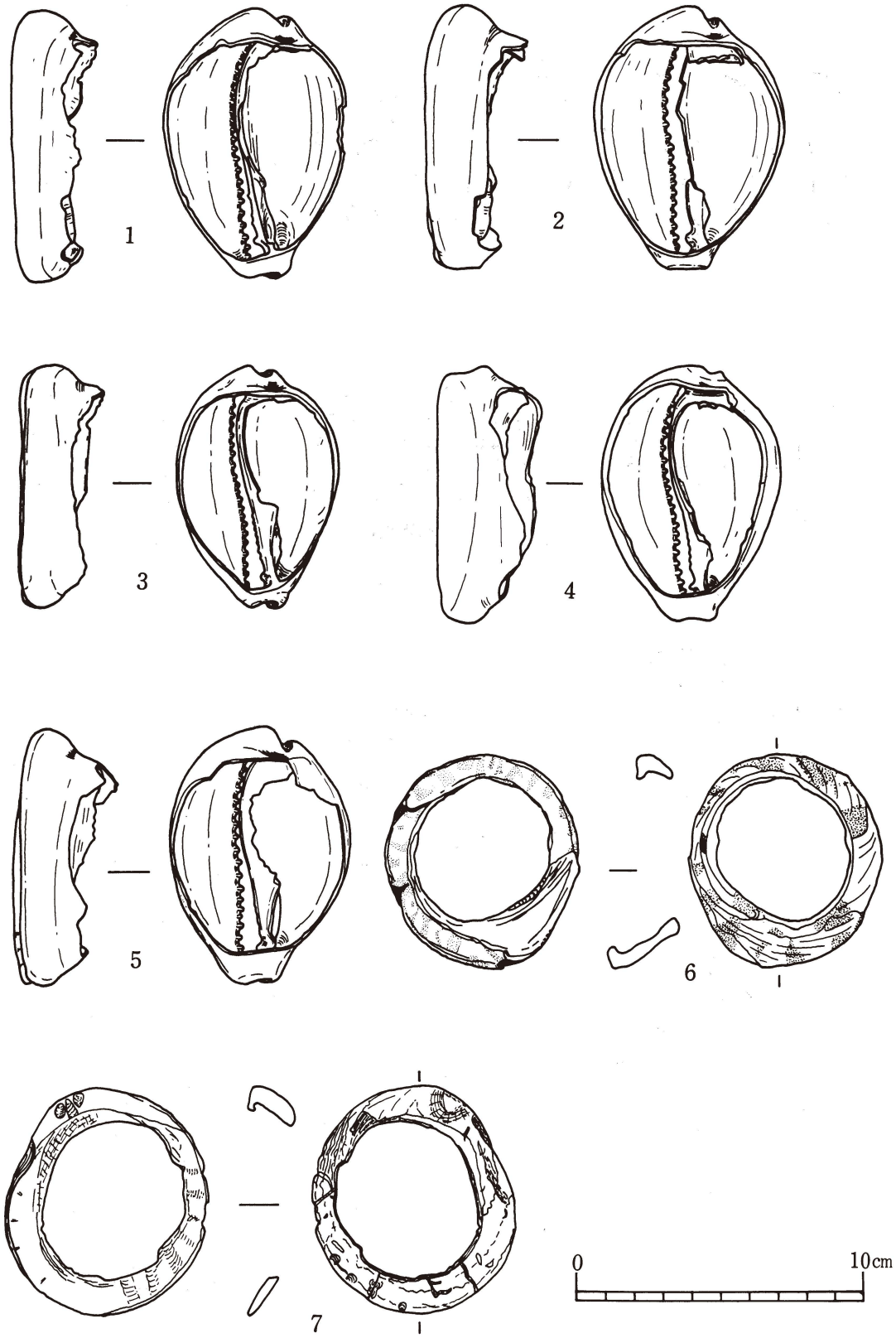
第90図　石　　器



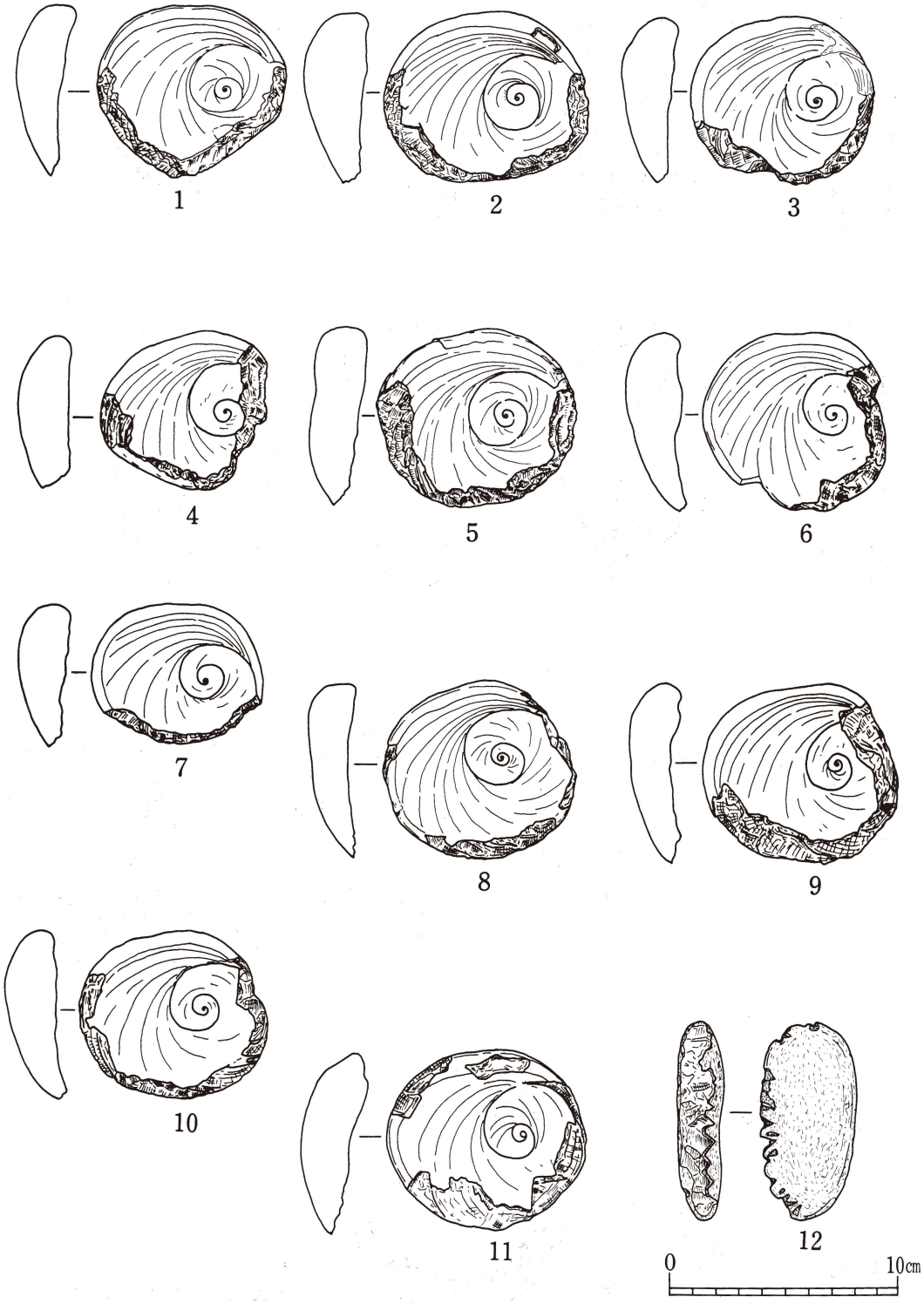
第91図　貝　　器



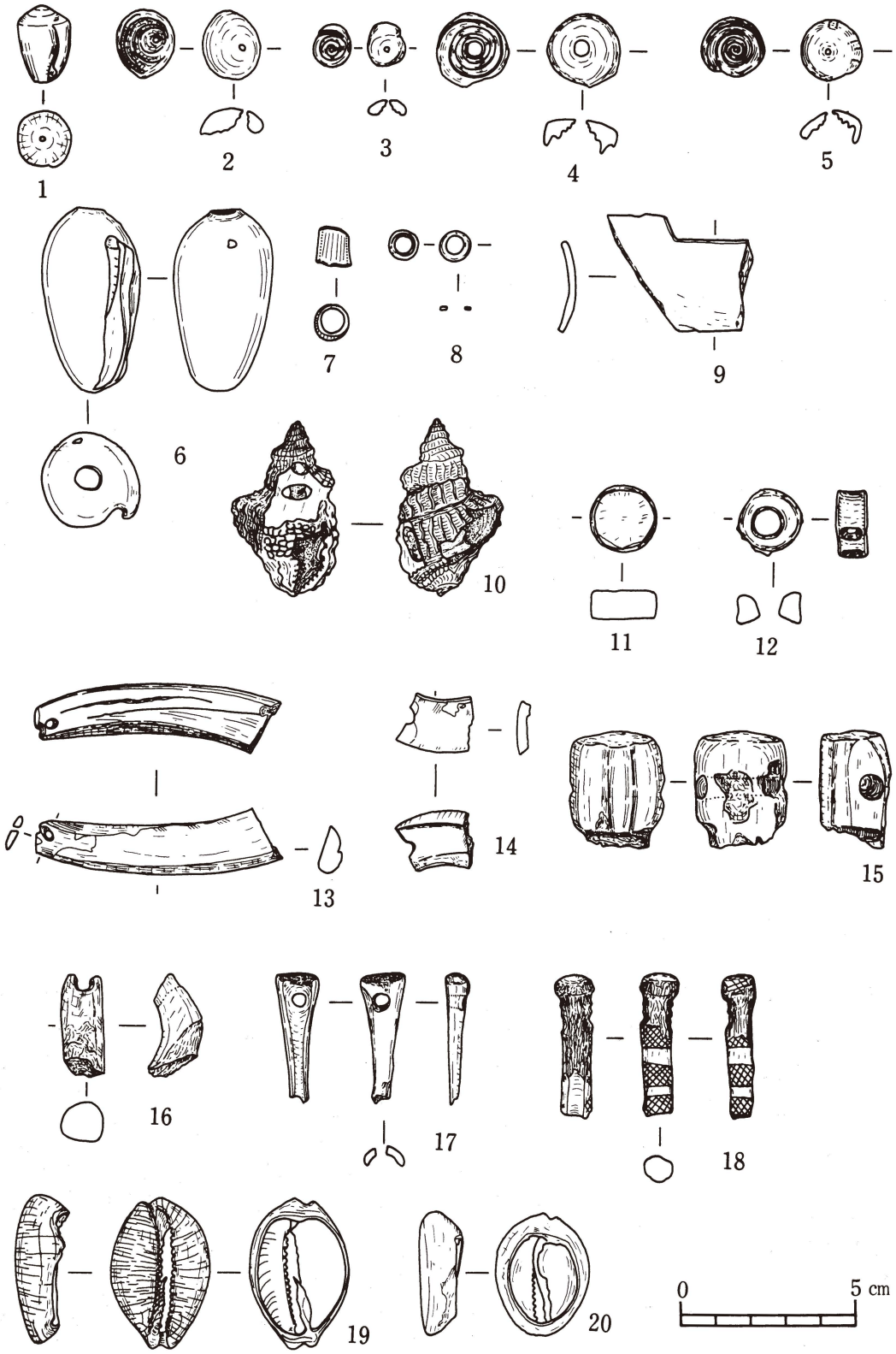
第92図　貝　　器



第93図　貝　　器



第９４図　　貝器、サンゴ加工品



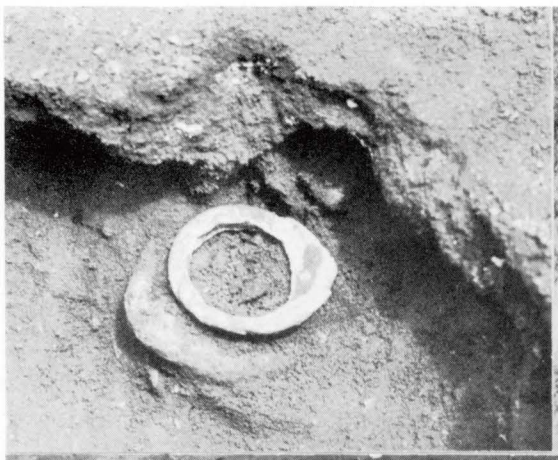
第95図　装飾品ほか

宇宿貝塚全景

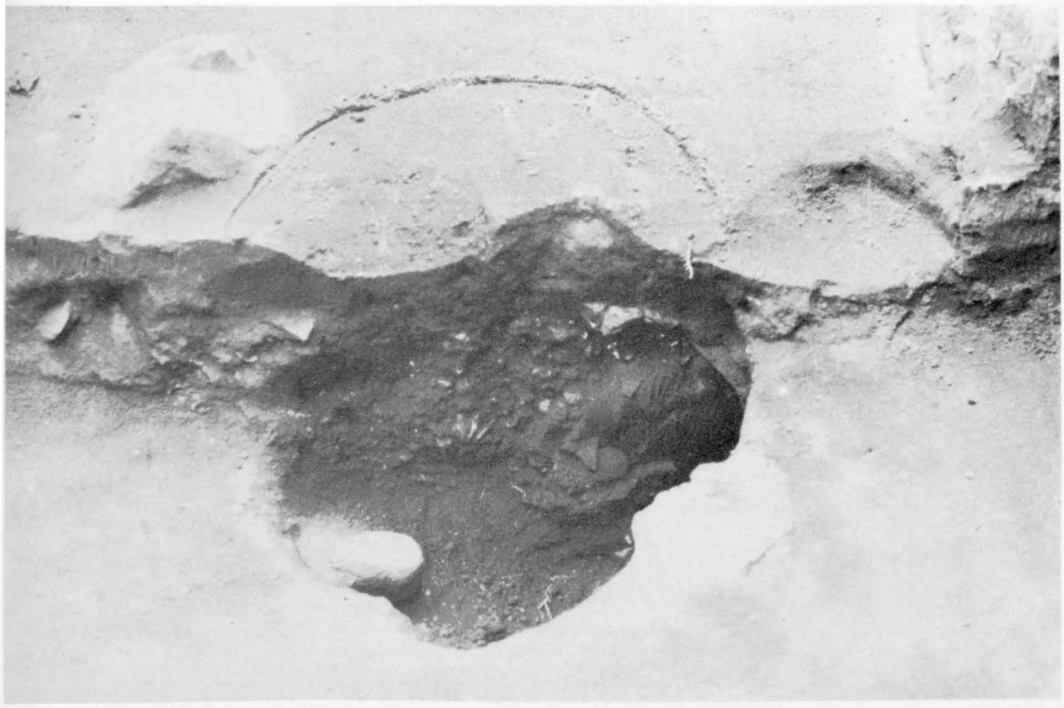
宇宿貝塚第１地点の調査

M－6・7区住居址を被覆する礫群

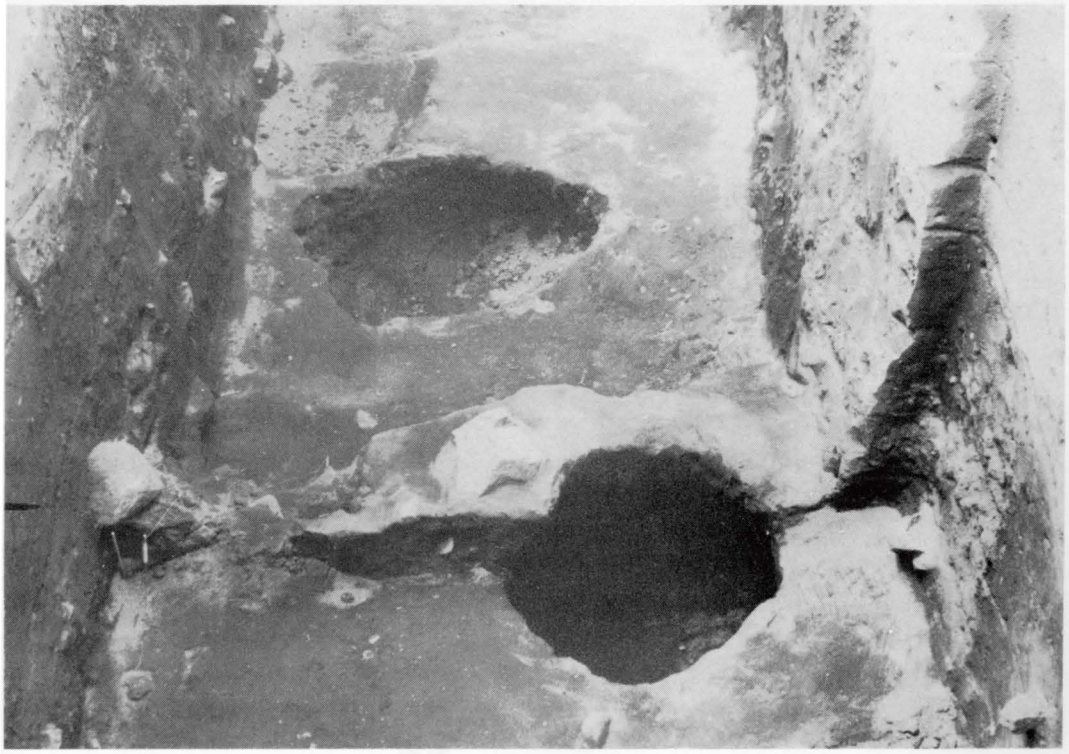
M－6・7区石組住居址



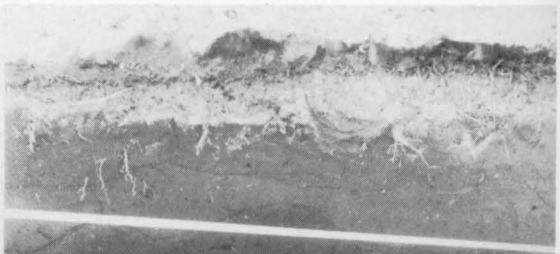
左上：第2貯蔵穴より出土貝輪
右上：M8区　夜光貝中出土の魚骨垂飾
中　：M8区6層出土状況
下　：石組住居址内一括土器出土状況

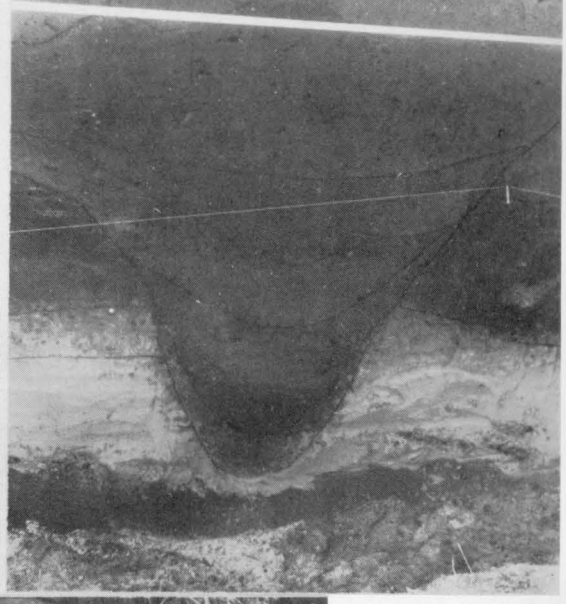


第3貯蔵穴　土器・貝・骨等出土



上：第2貯蔵穴　下第3貯蔵穴



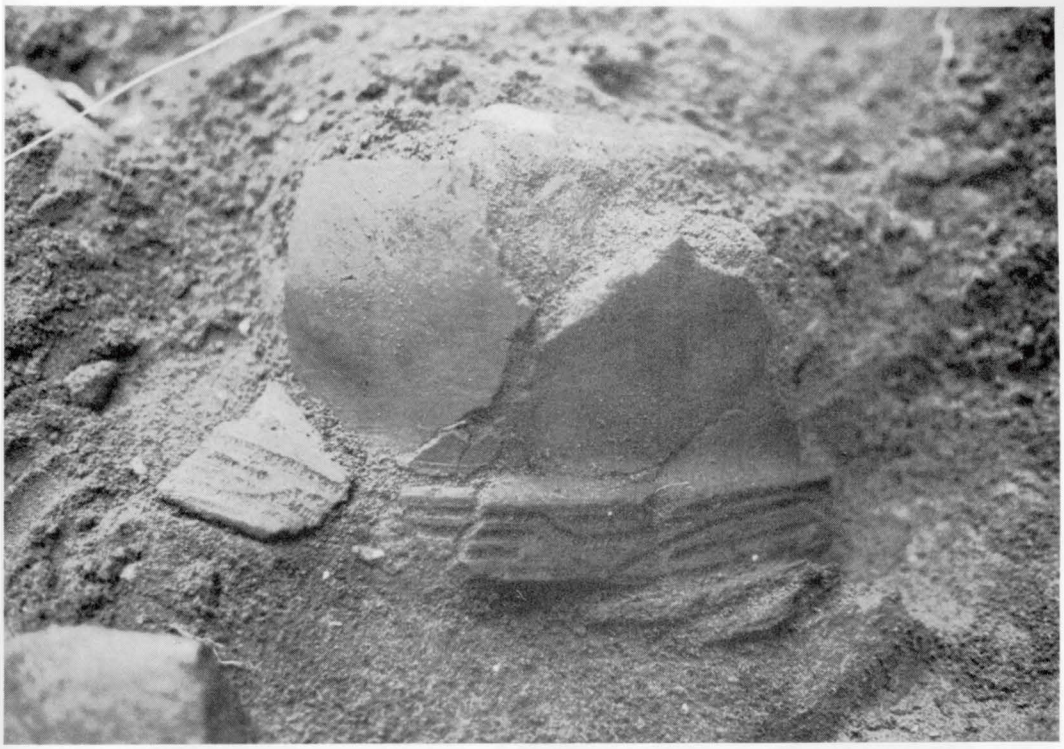


左上：玉類出土状況
（頭骨裏面より写す）

左中：1－7区石組遺構

左下：Aトレンチ発掘状況

右　：M－8区溝状遺構断面



M－5区集石遺構内土器出土状況

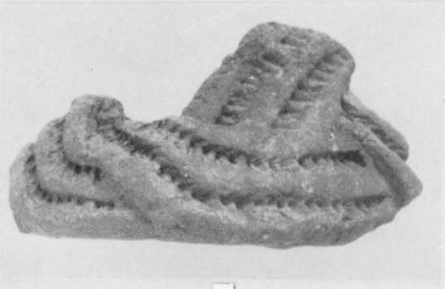
M5－区集石遺構内　市来式土器出土状況

図版7　M－5区7層　集石遺構

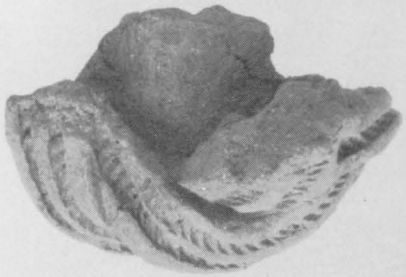
1

2

3

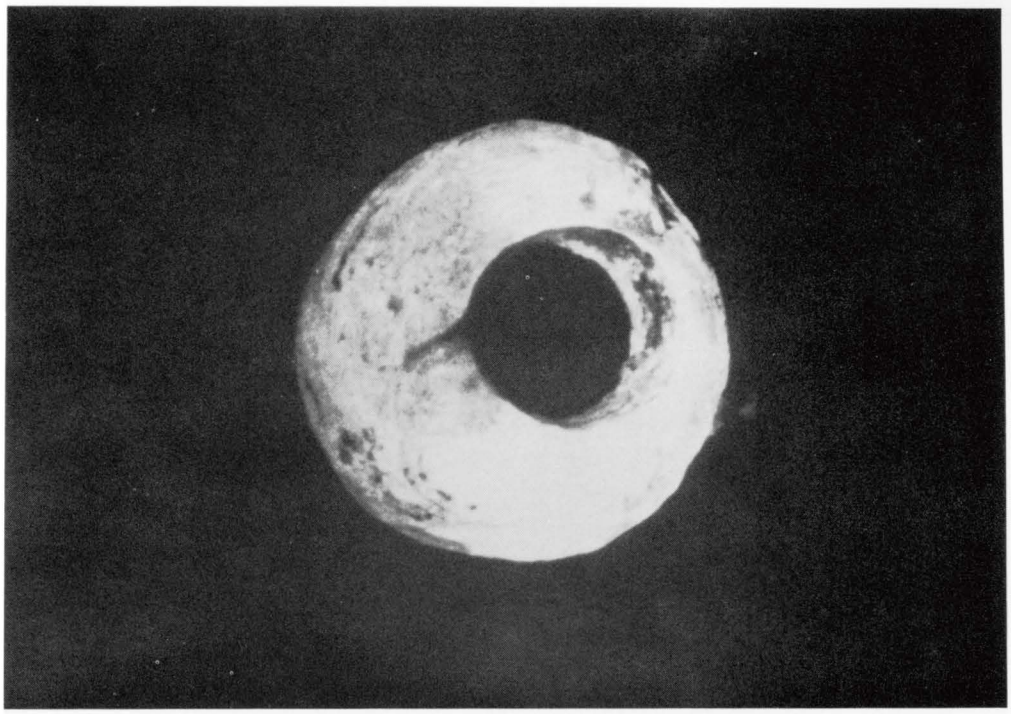


4

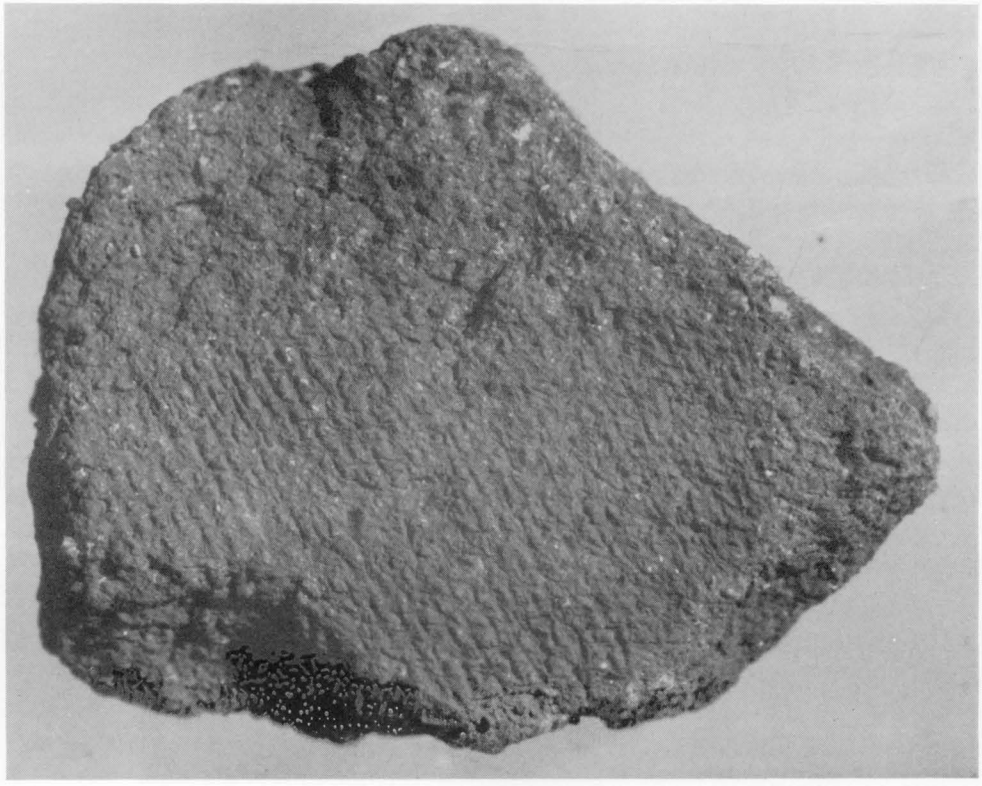


5

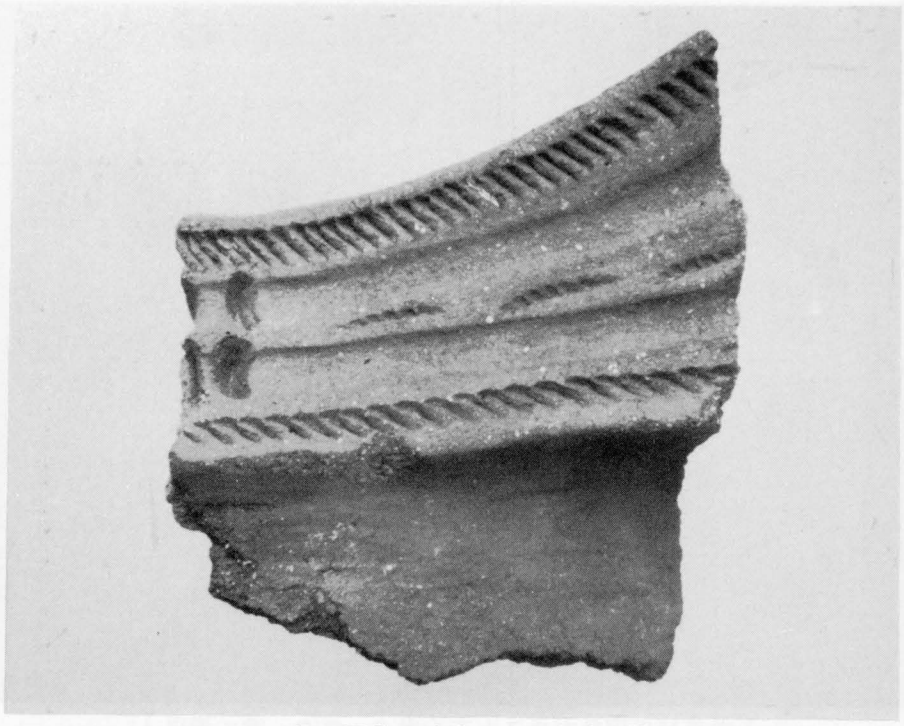
1：ノミ形石斧　2：磨製小形石器　3：石棒　4・5面縄東洞式器台



人骨着装の青色ガラス小玉（黒点：気泡、線：巻痕）

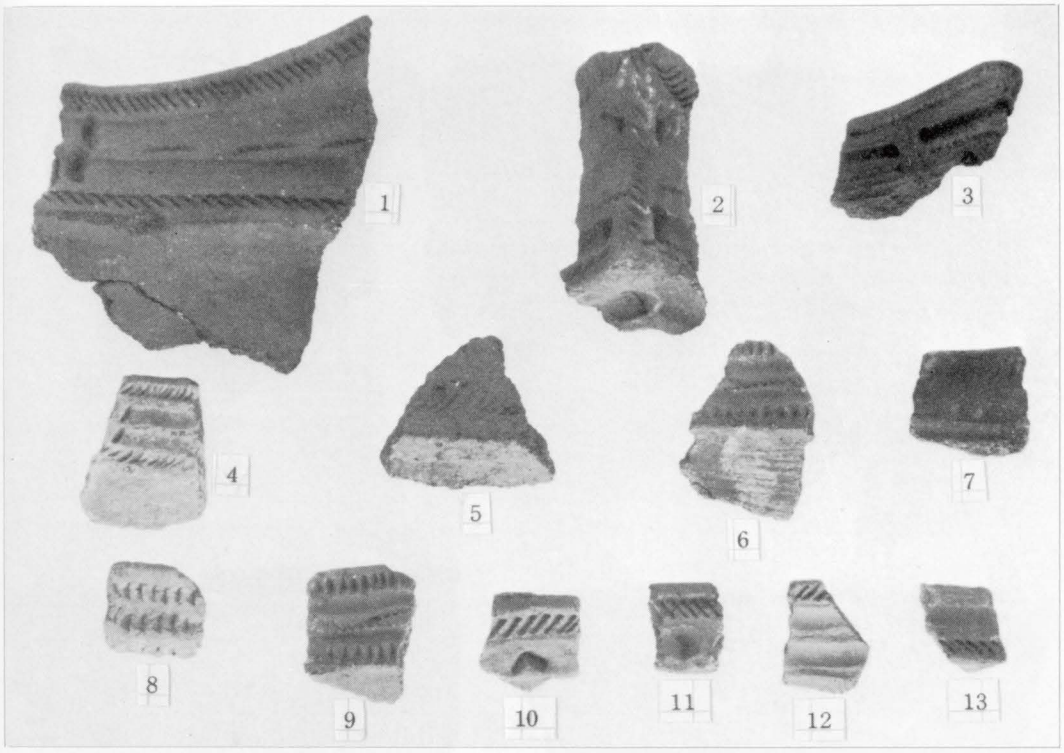


M－10区出土の布目痕土器

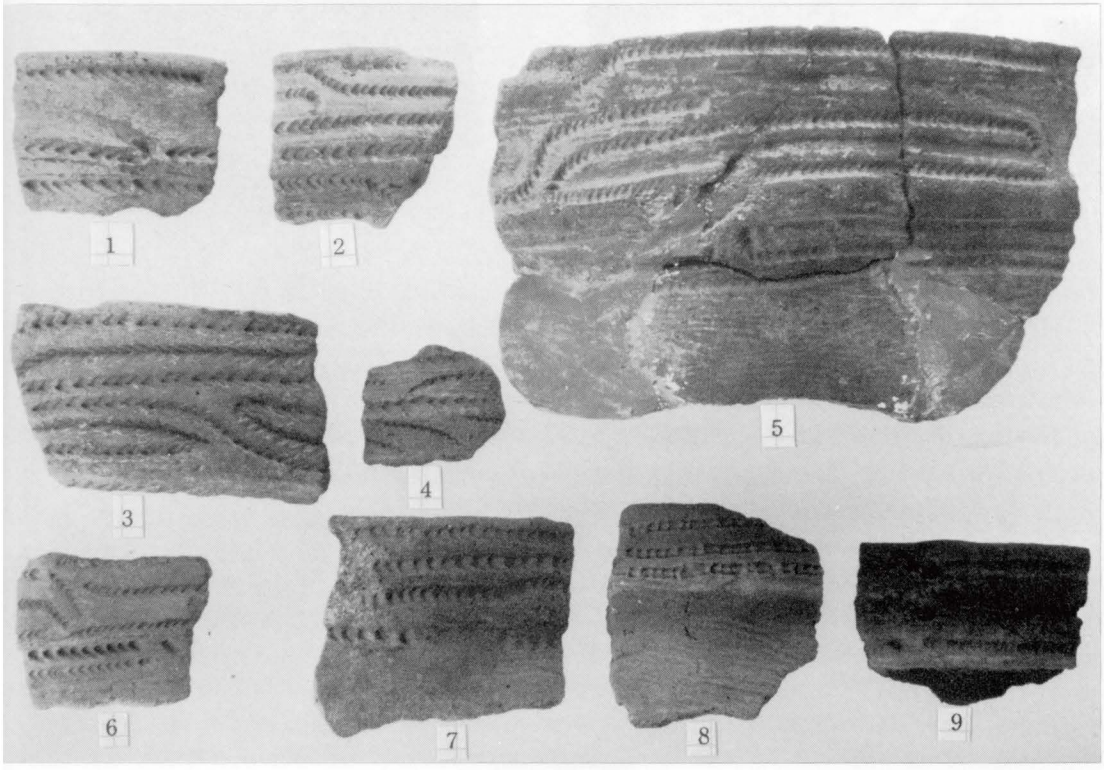


M５－区集石遺構出土市来式土器

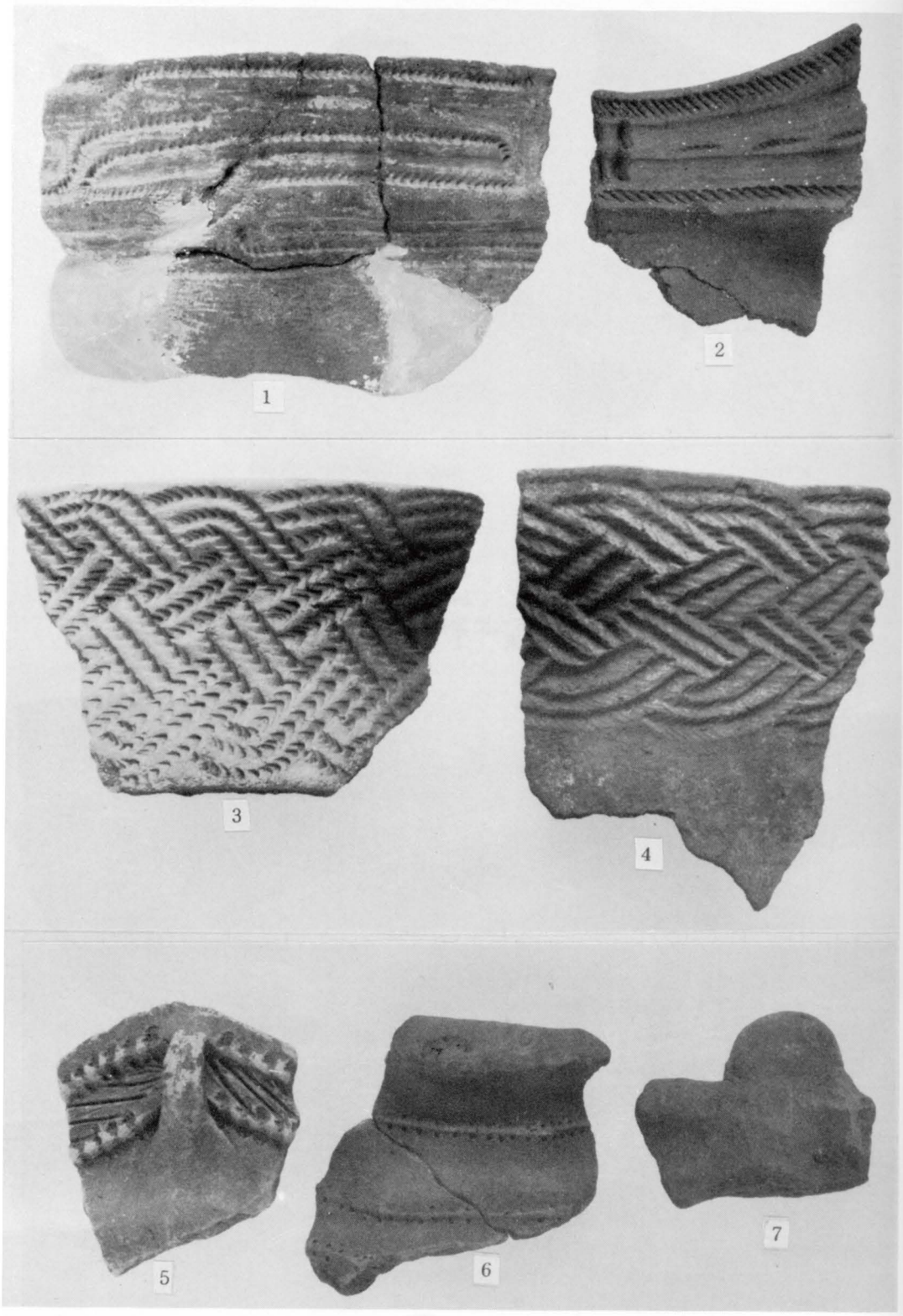
M－５区集石遺構出土面縄東洞十市来の土器



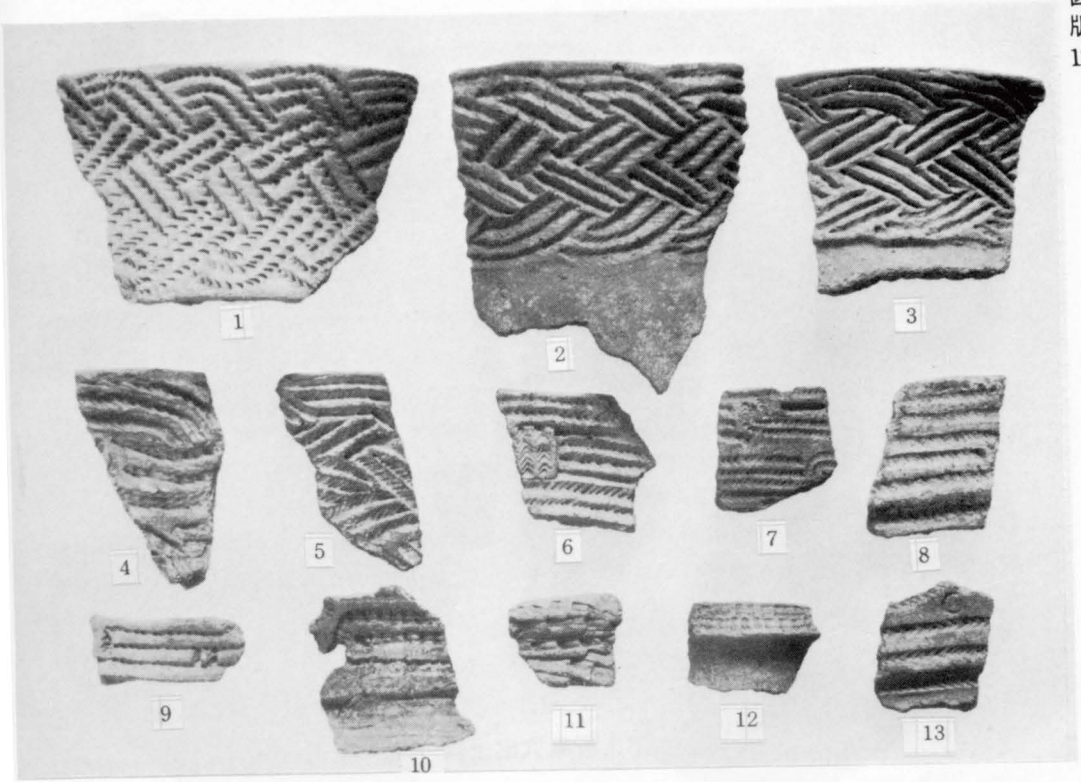
3：面縄東洞十市来　1・2・4～13：市来式



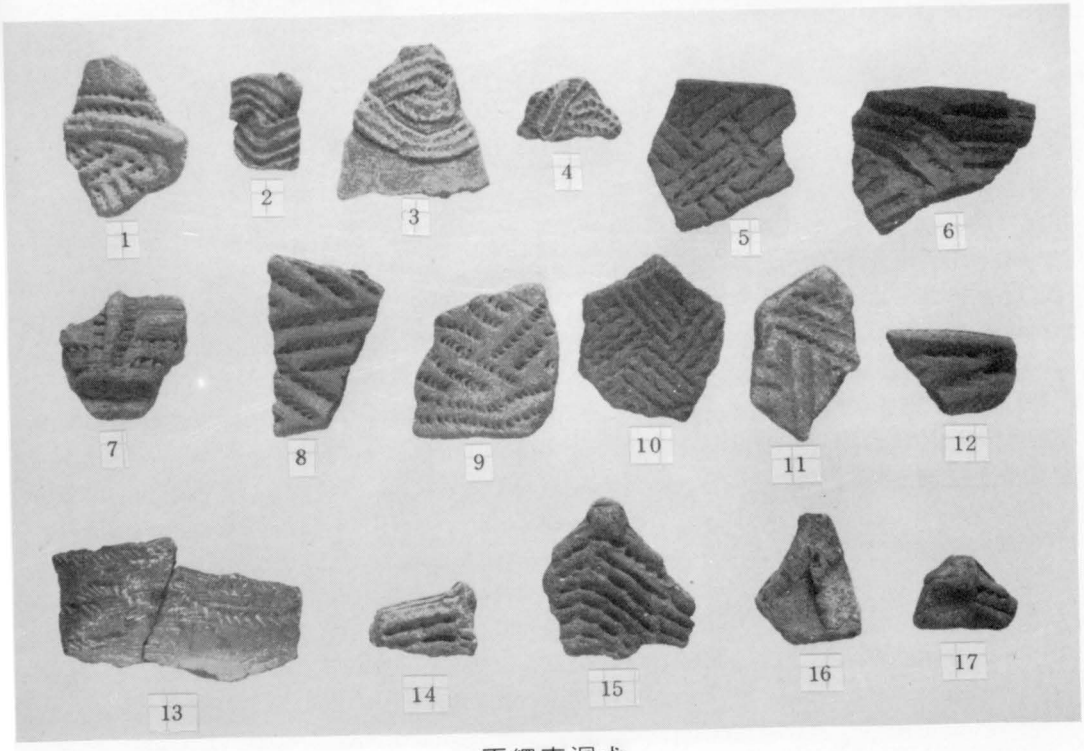
面縄東洞十市来



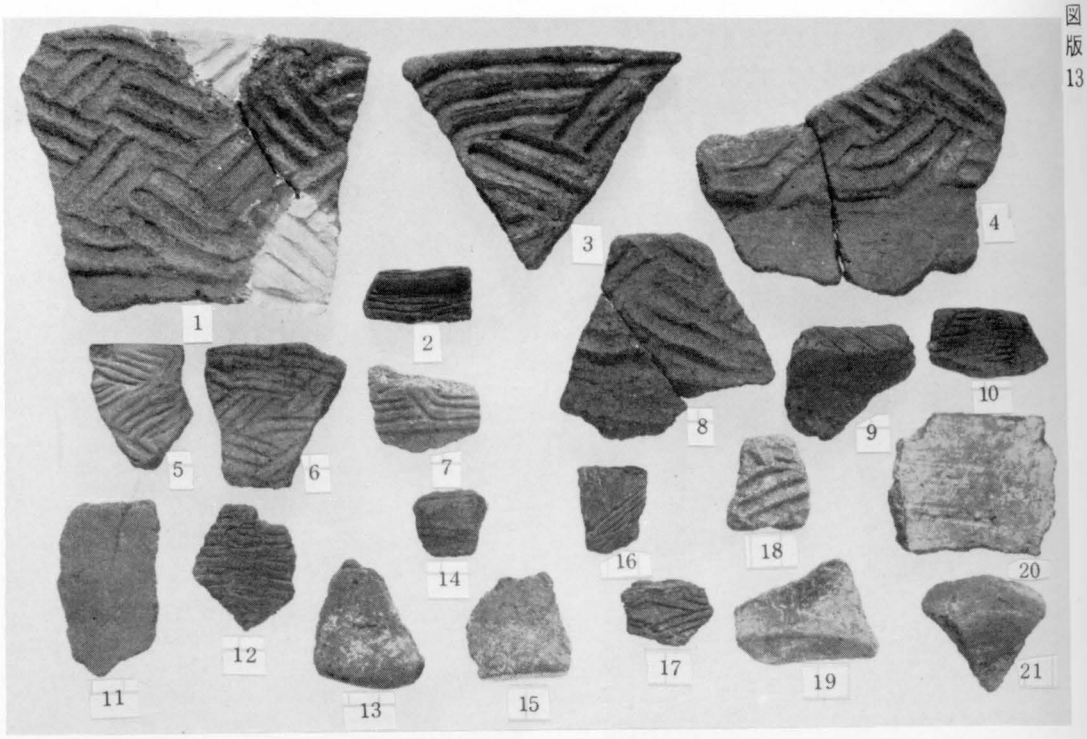
市来式・面縄東洞式・喜念Ⅰ式



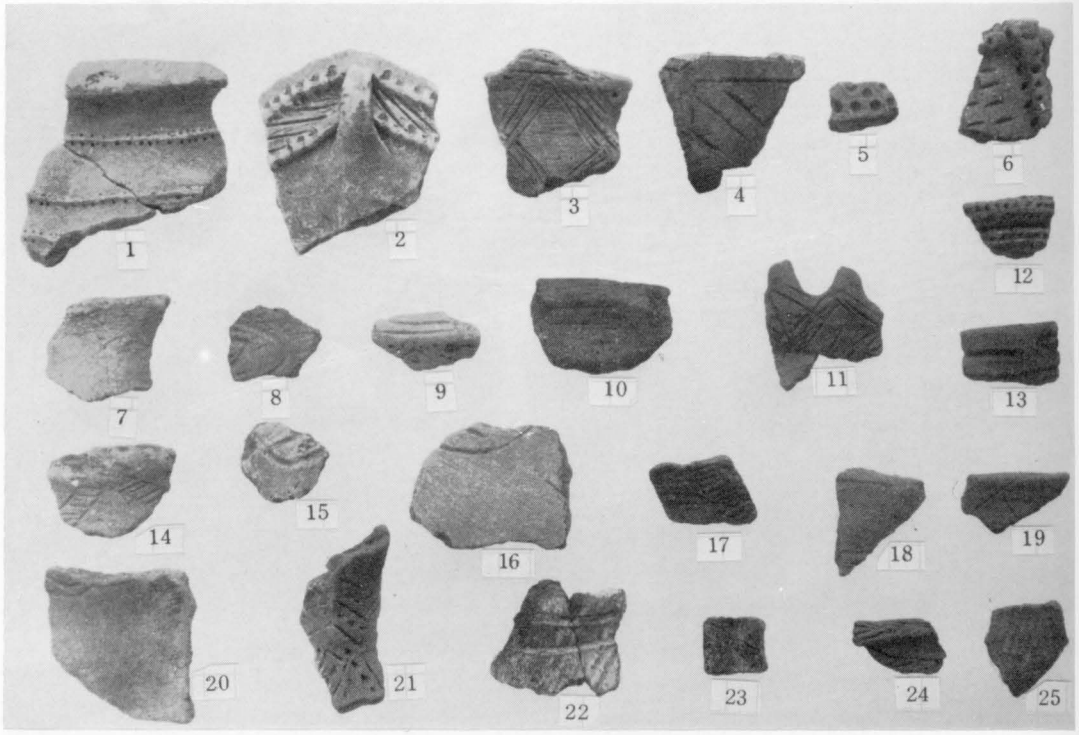
面縄東洞式



面縄東洞式

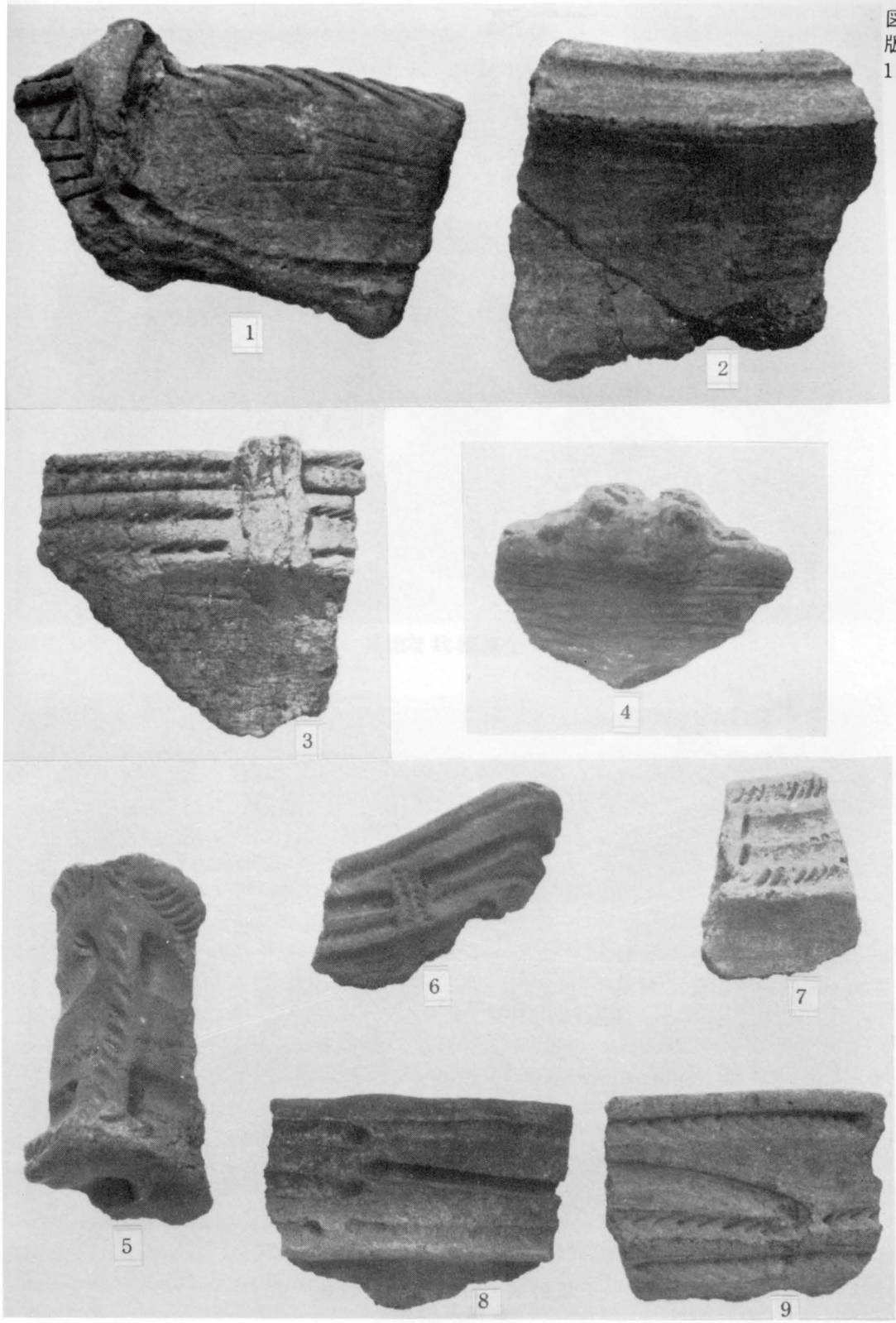


第3 貯蔵穴出土器

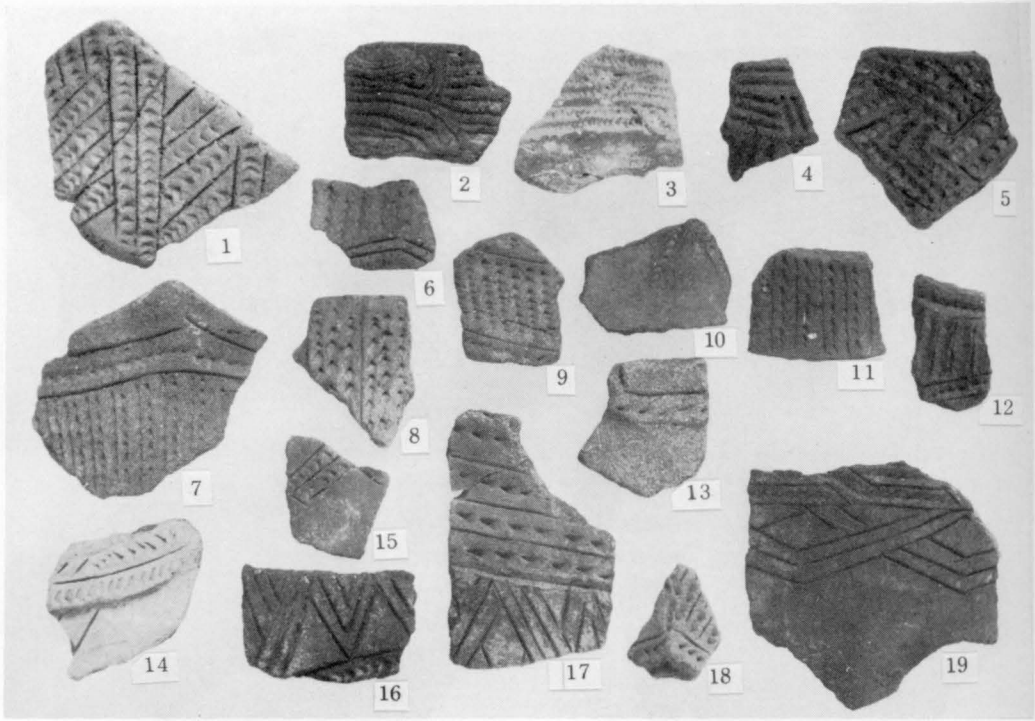


喜念I式　他

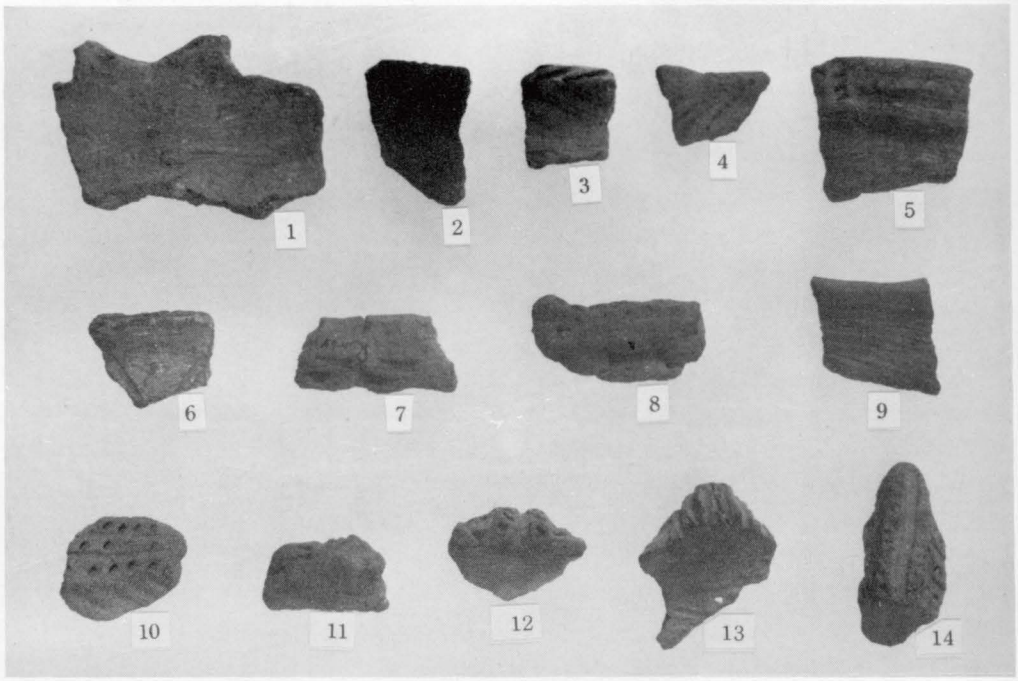
図版14



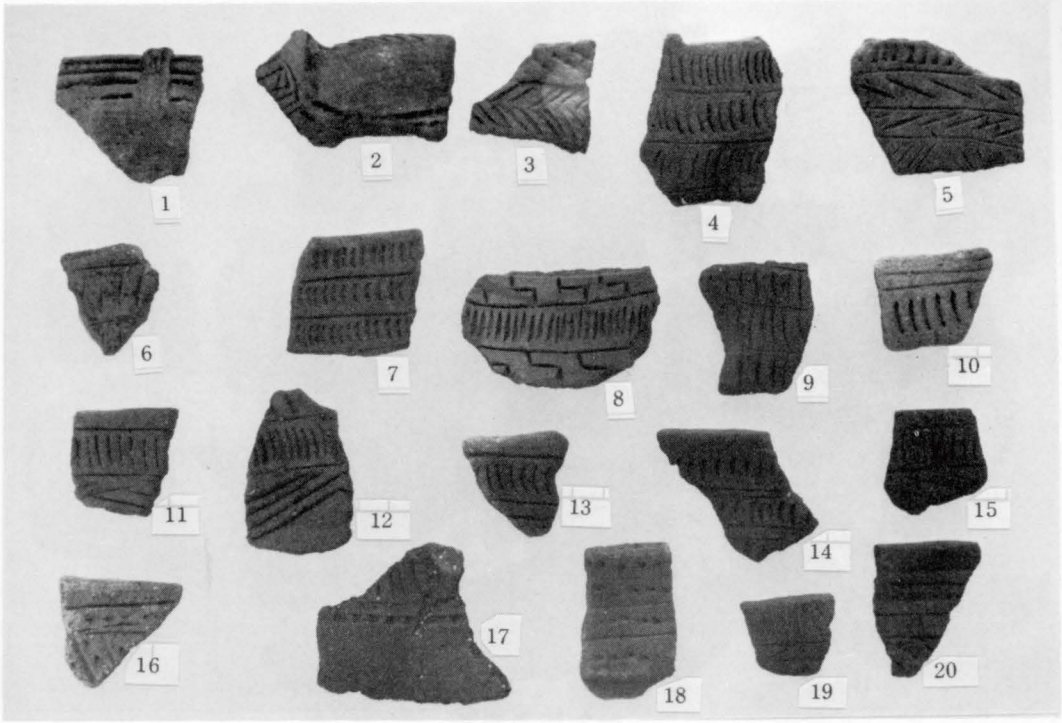
1～3：類市来式　5・7：市来式　6・8・9：面縄東洞十市来　4：把手付



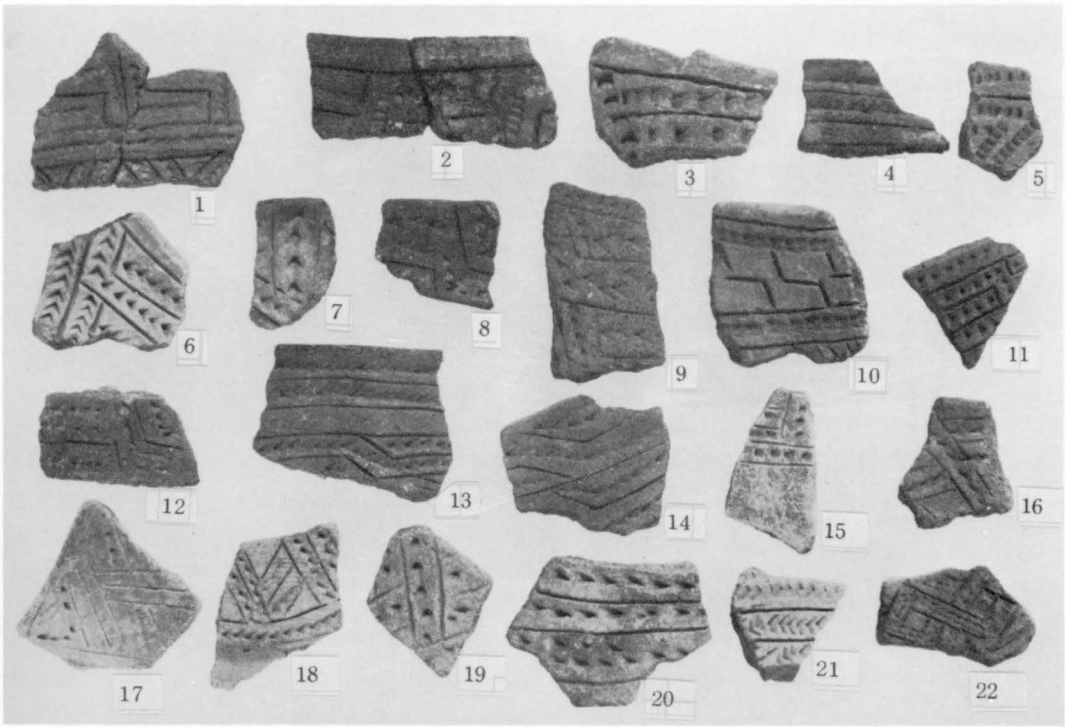
嘉徳 I式



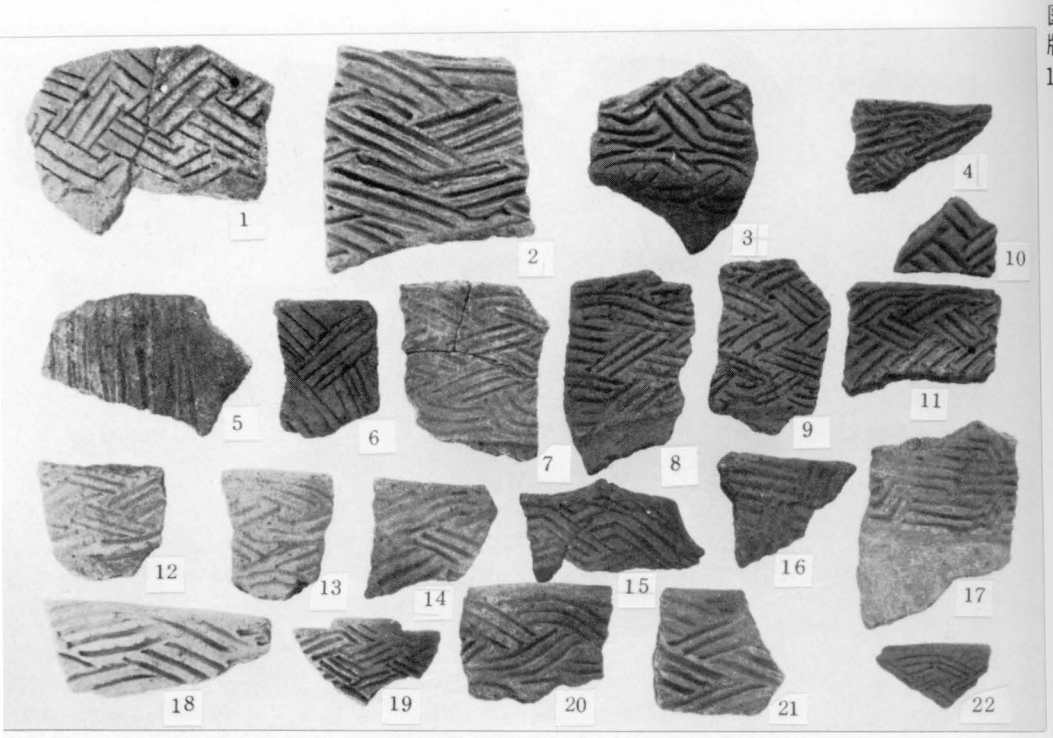
草野式・台付皿形土器他



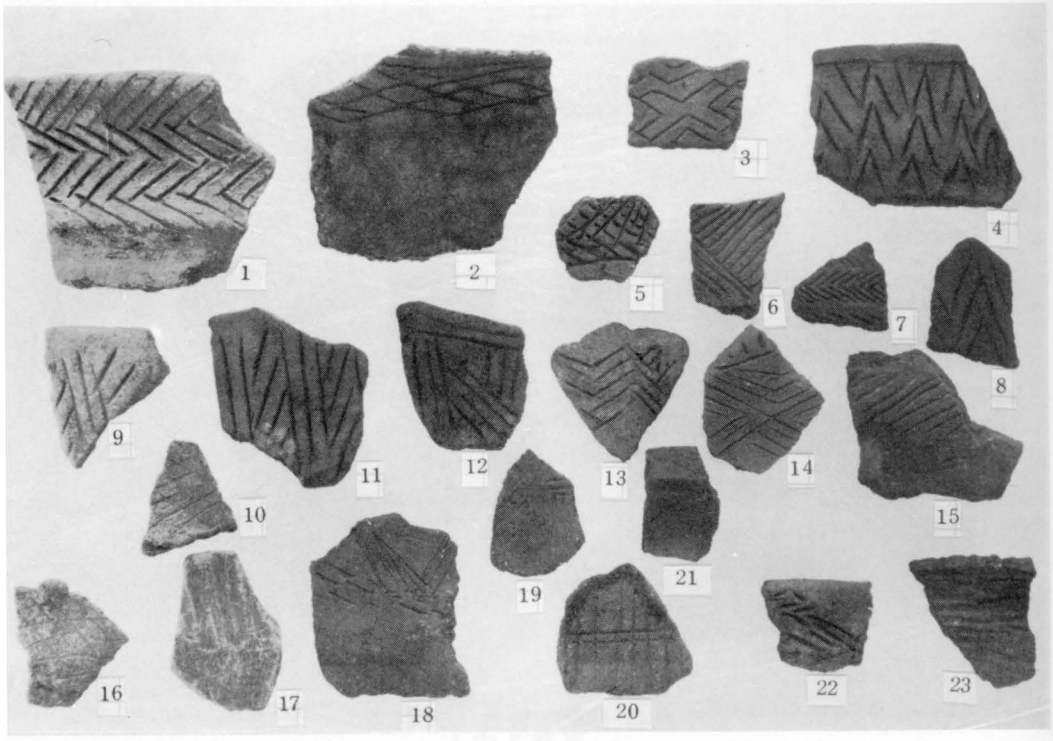
嘉徳Ⅰ式A、仝B



嘉徳Ⅰ式A

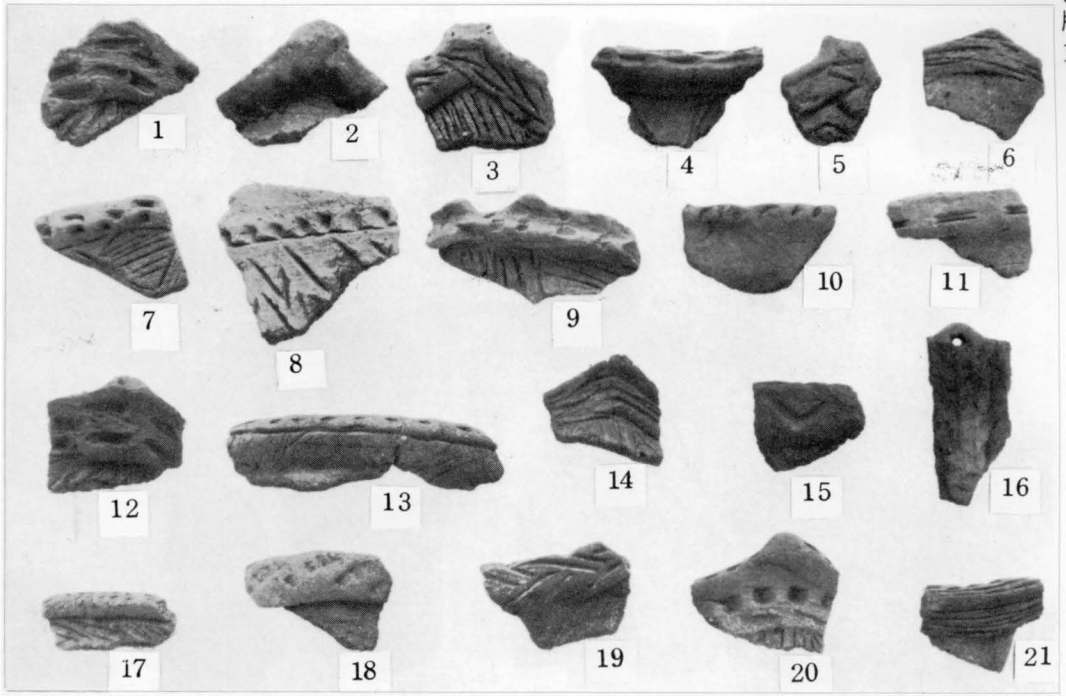


嘉徳 II式

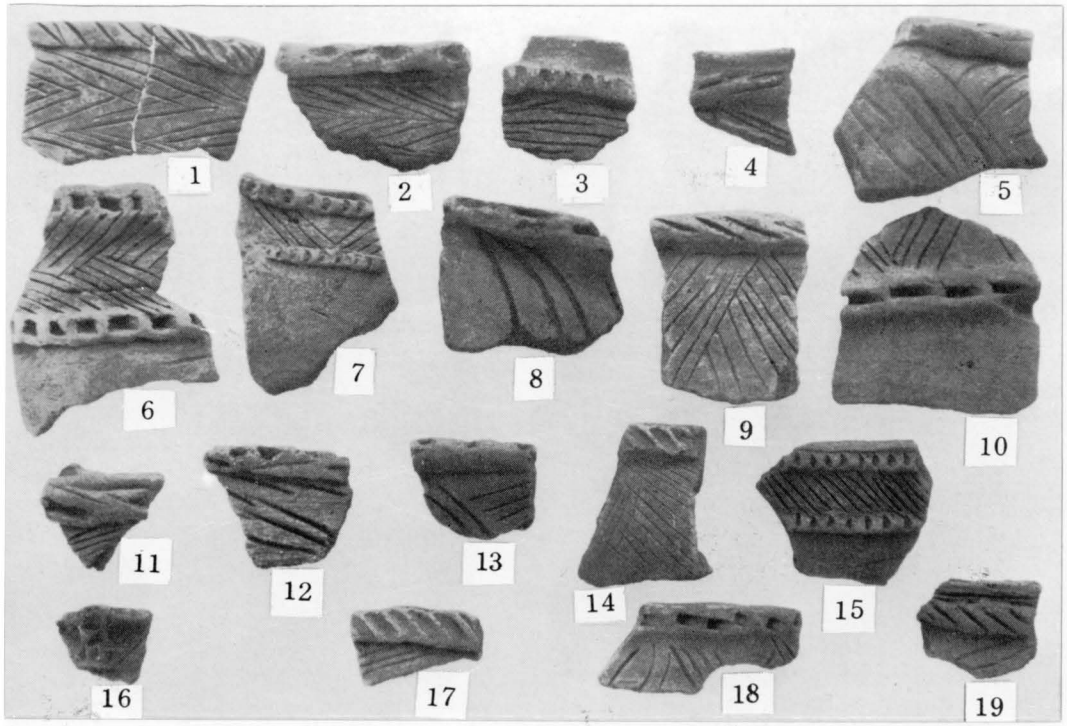


嘉徳 II式 他

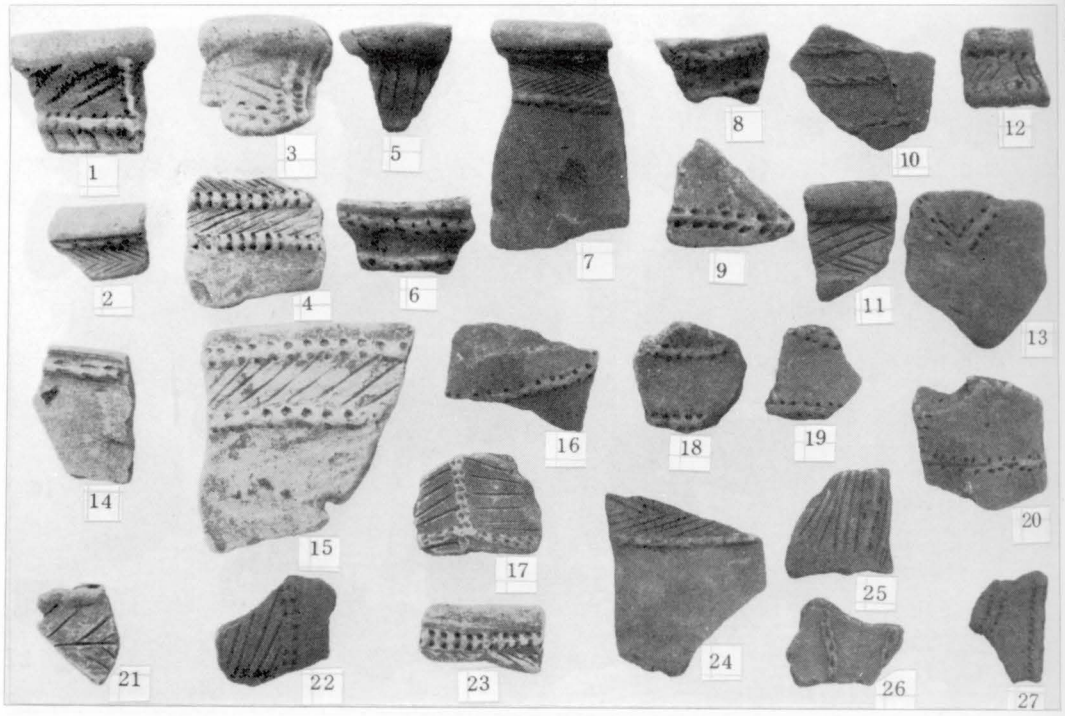
図版18



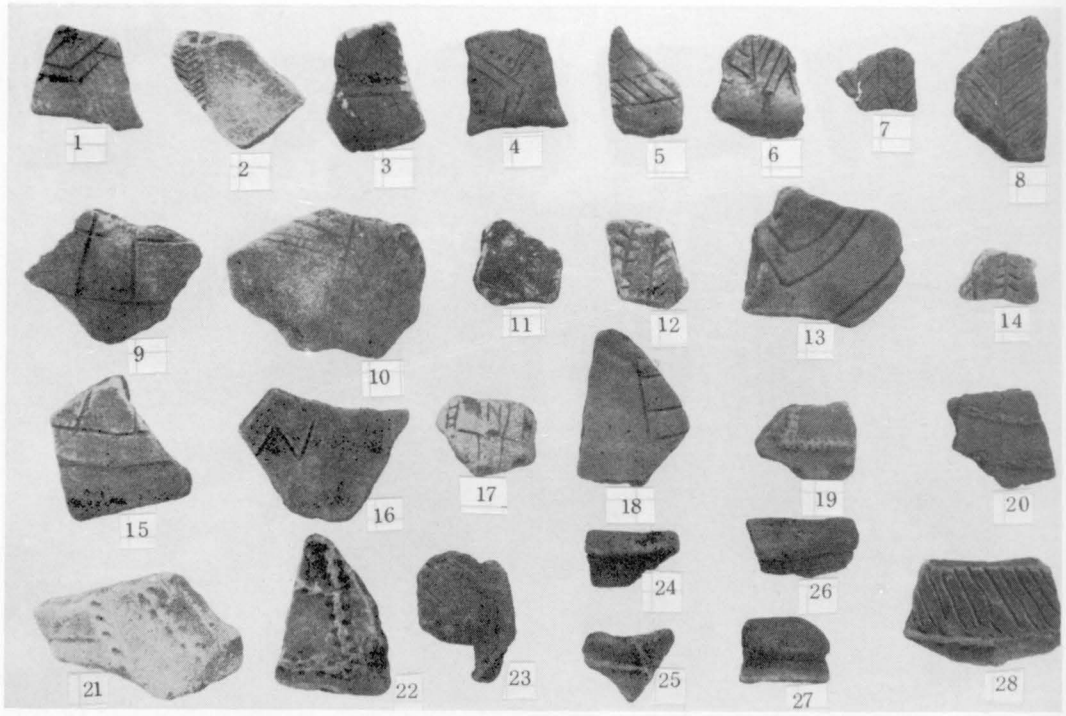
面縄西洞式他



面縄西洞式

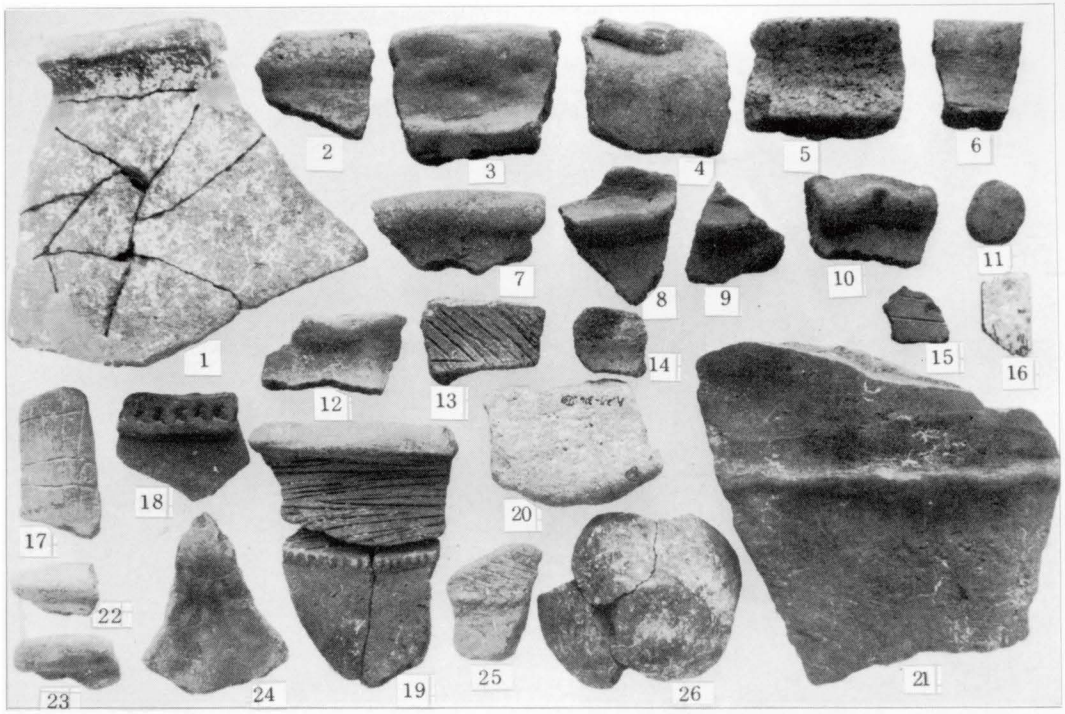

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27

喜念Ⅰ式

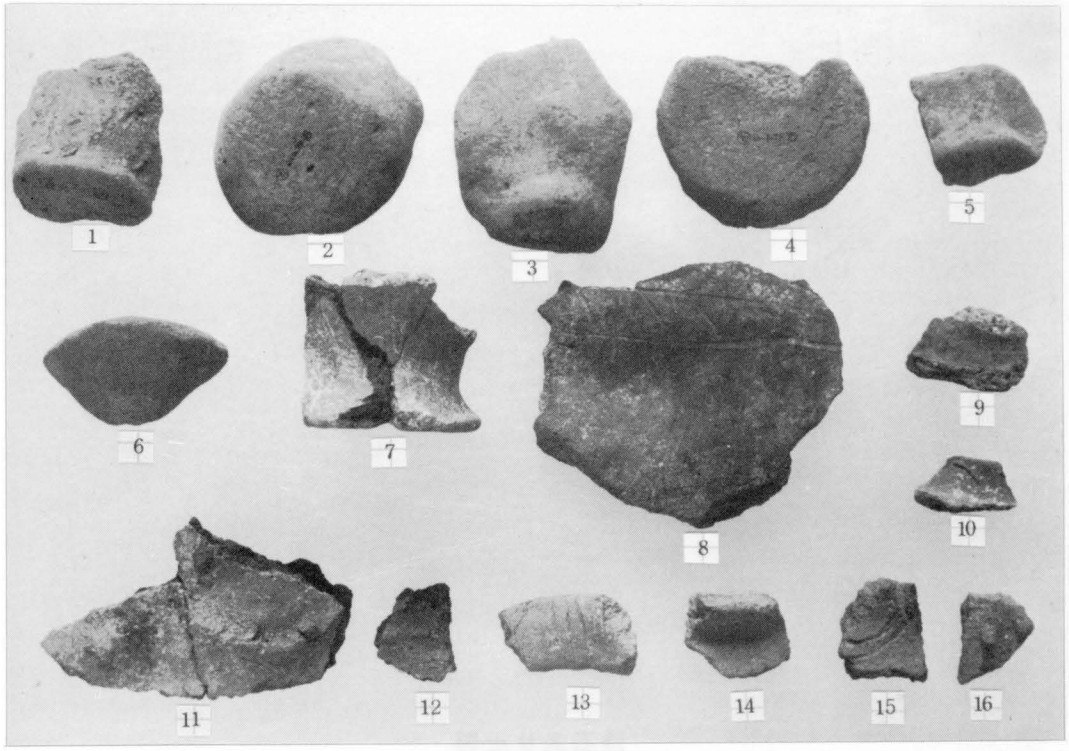

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28

喜念Ⅰ式

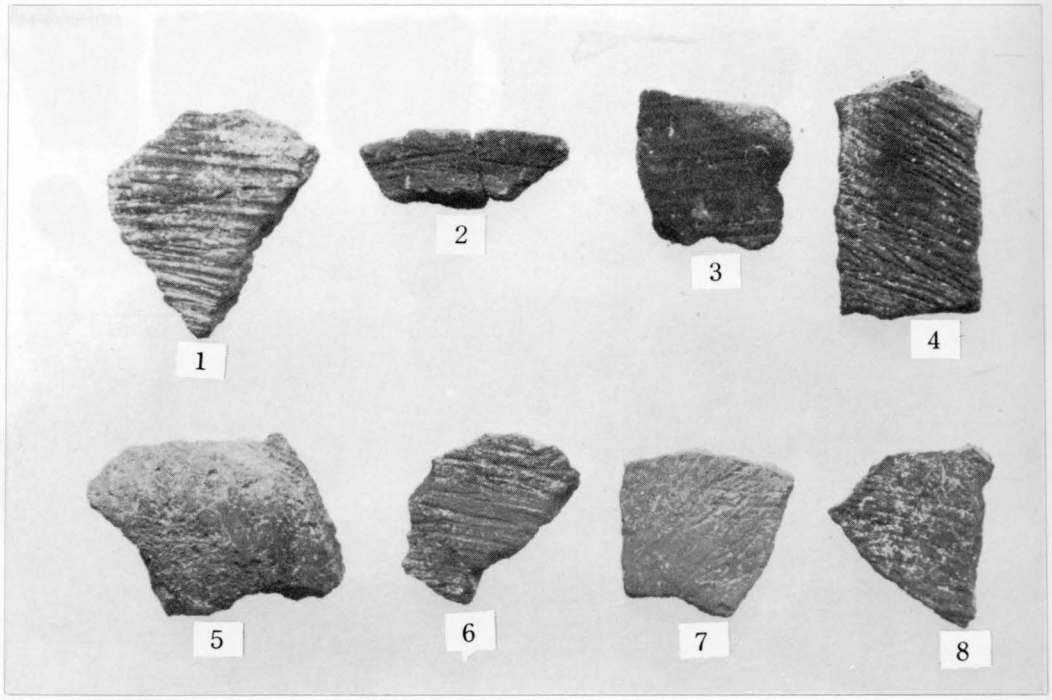
図版20



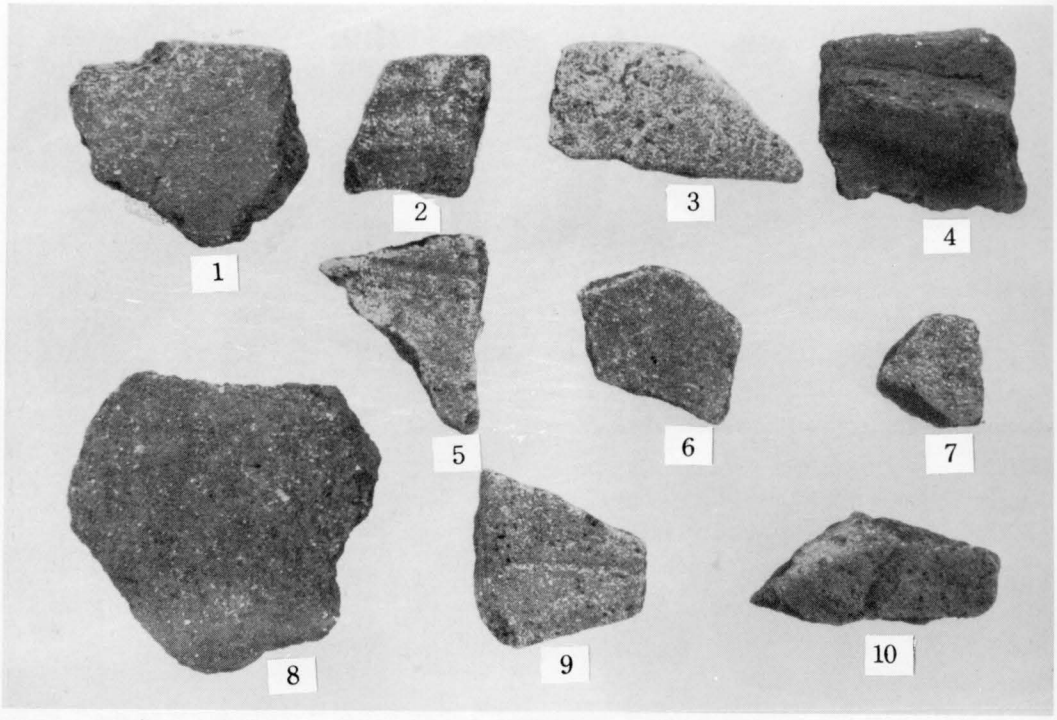
Cトレンチの土器　3～6、8～10、21：弥生式土器



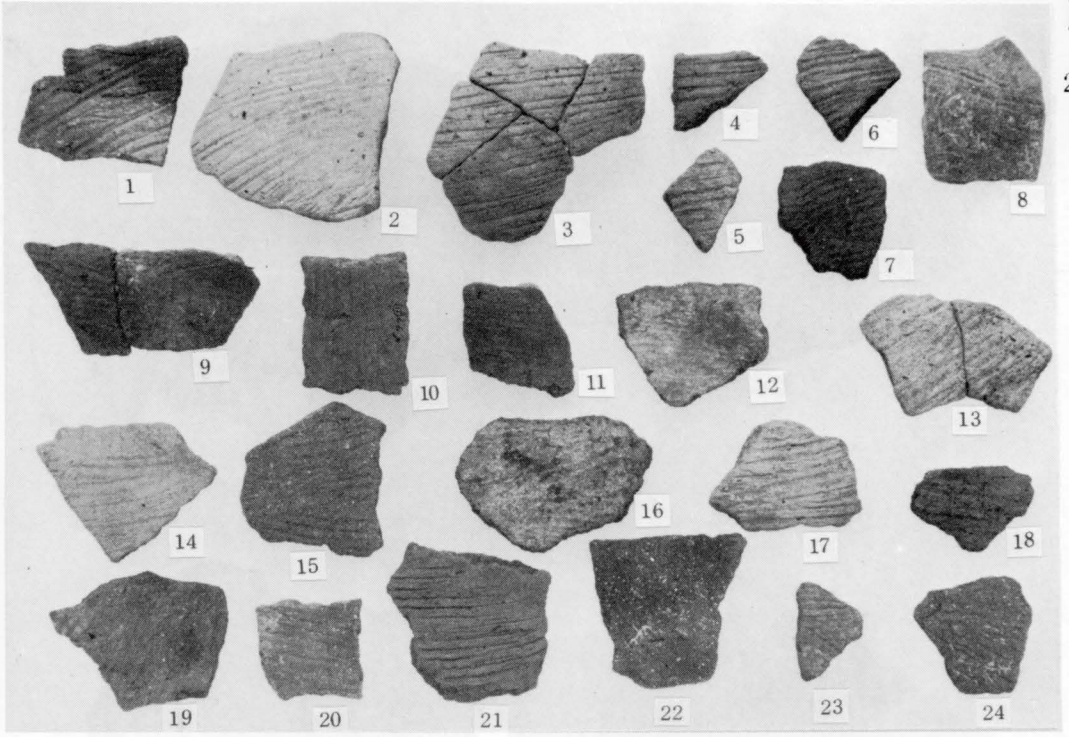
大瀬の土器　弥生式



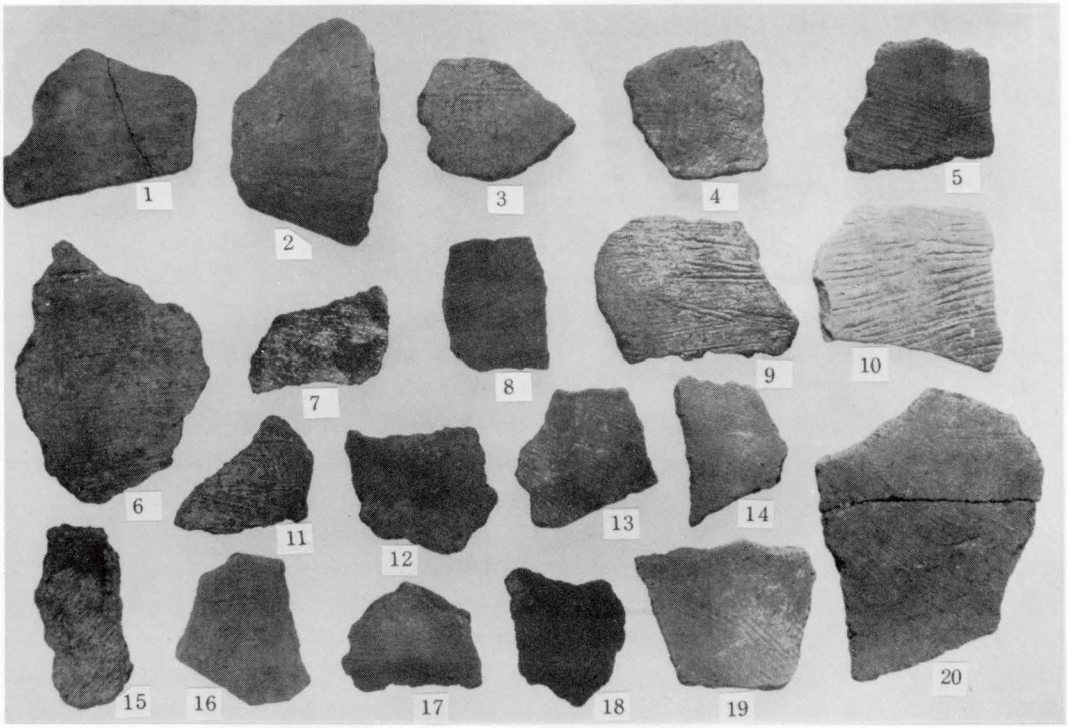
M－5区　8層の土器



滑石入り土器

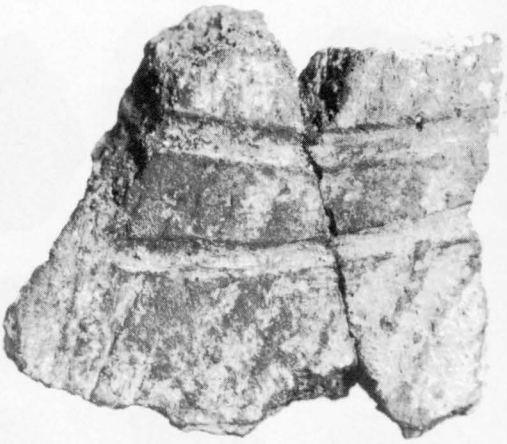


条痕ある土器



条痕ある土器

1



2

3

4

5

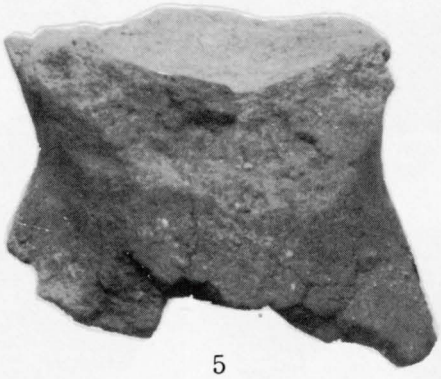
宇宿貝塚出土の縄文式土器（中期を下らないと思われる）

1

2

3

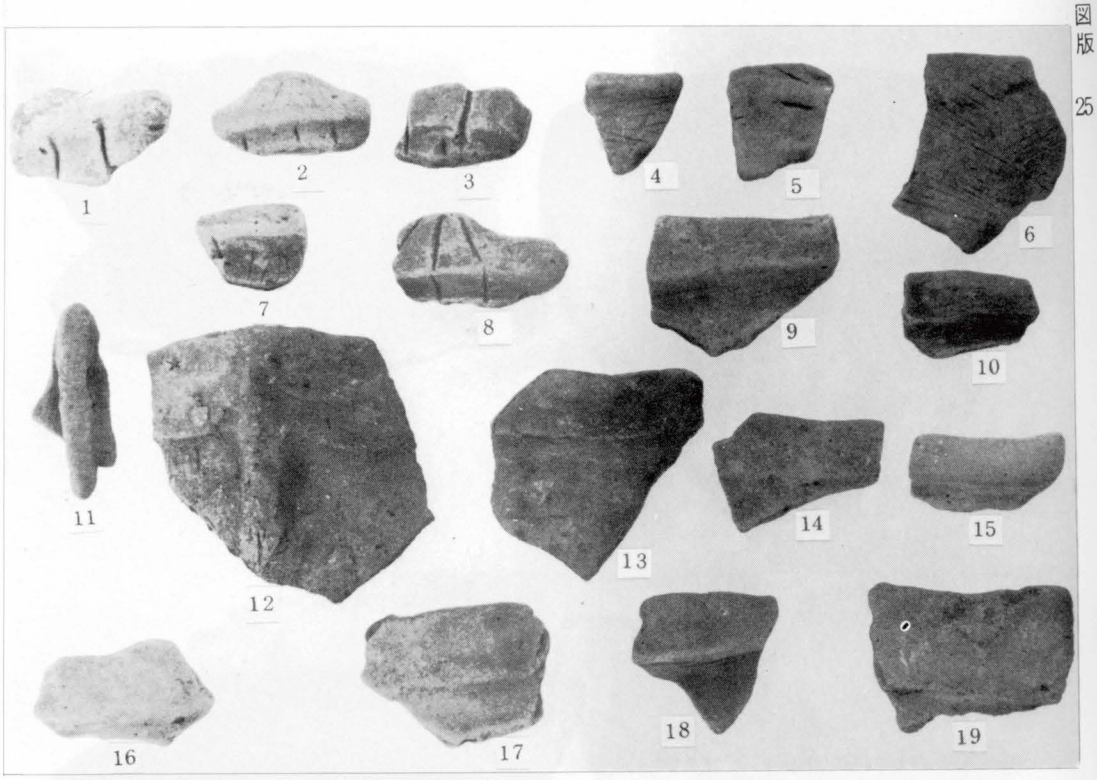
4



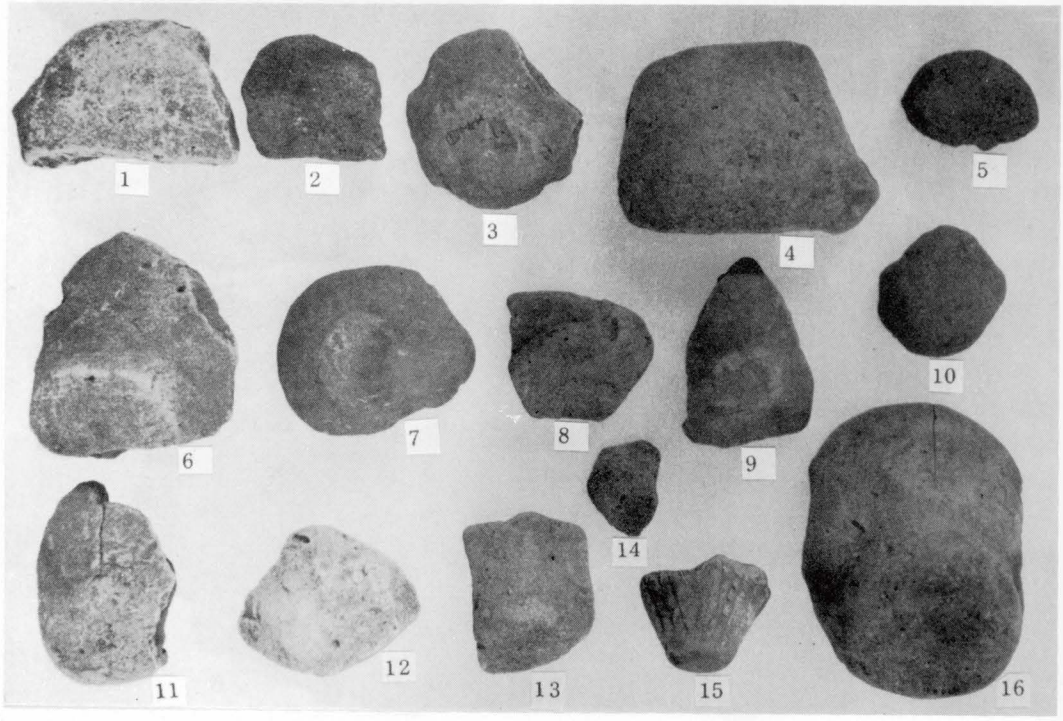
5

6

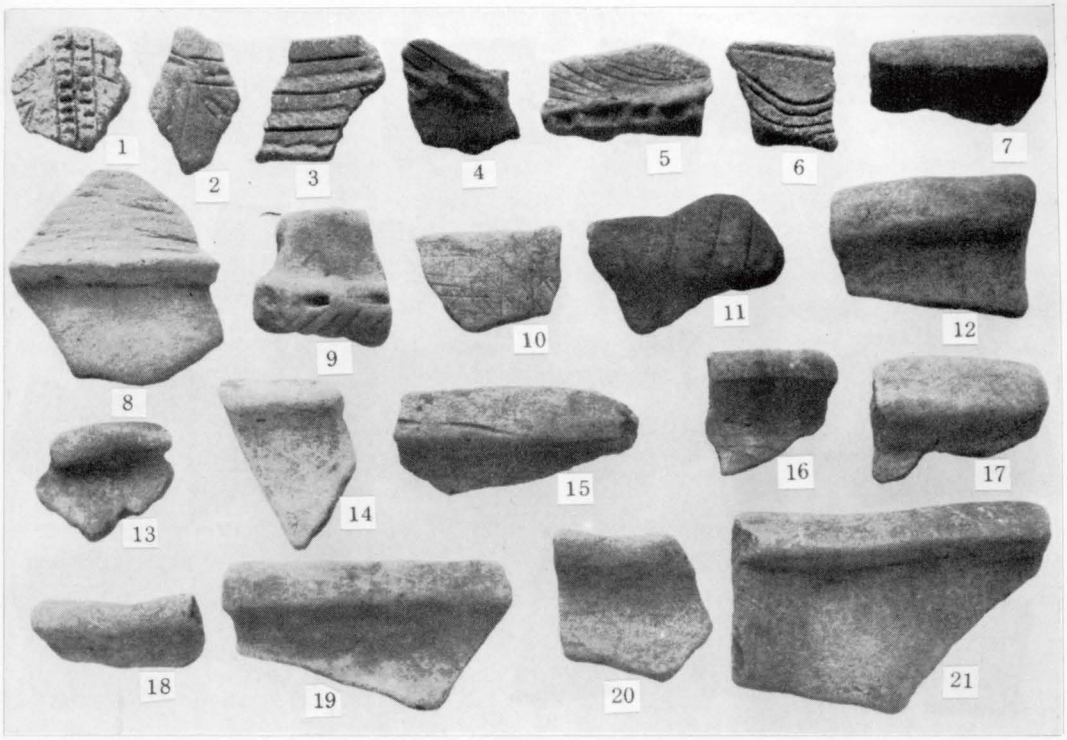
1・2・6宇宿上層式　3・4・5：彌生式


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19

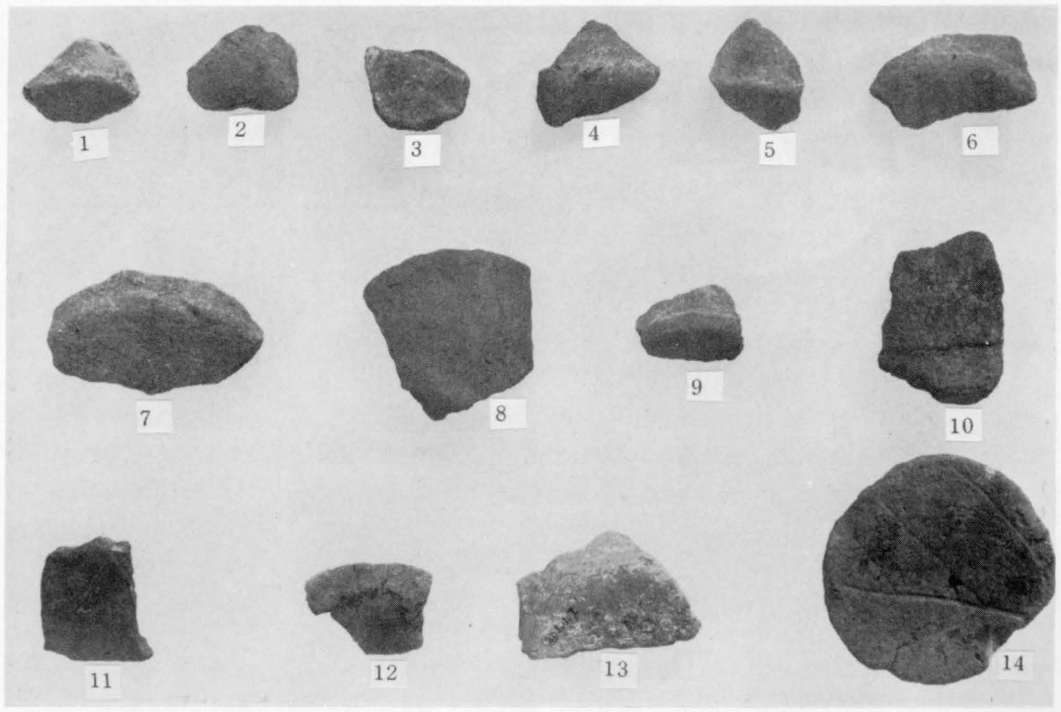
宇宿上層B式


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16

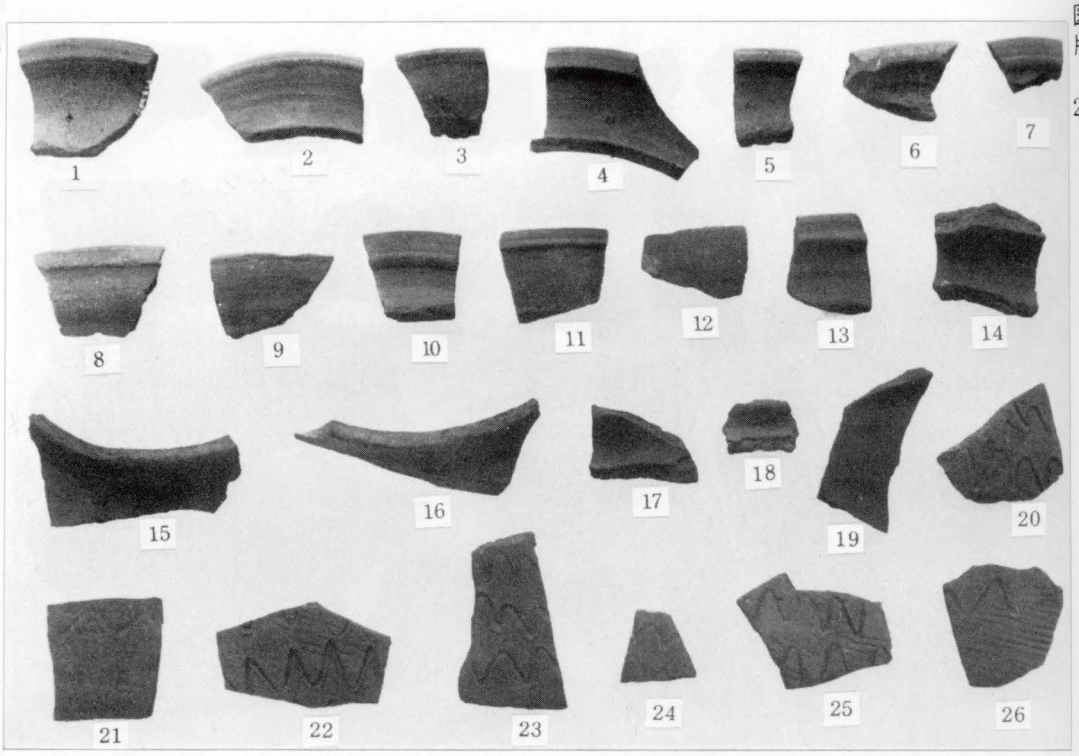
土器底部



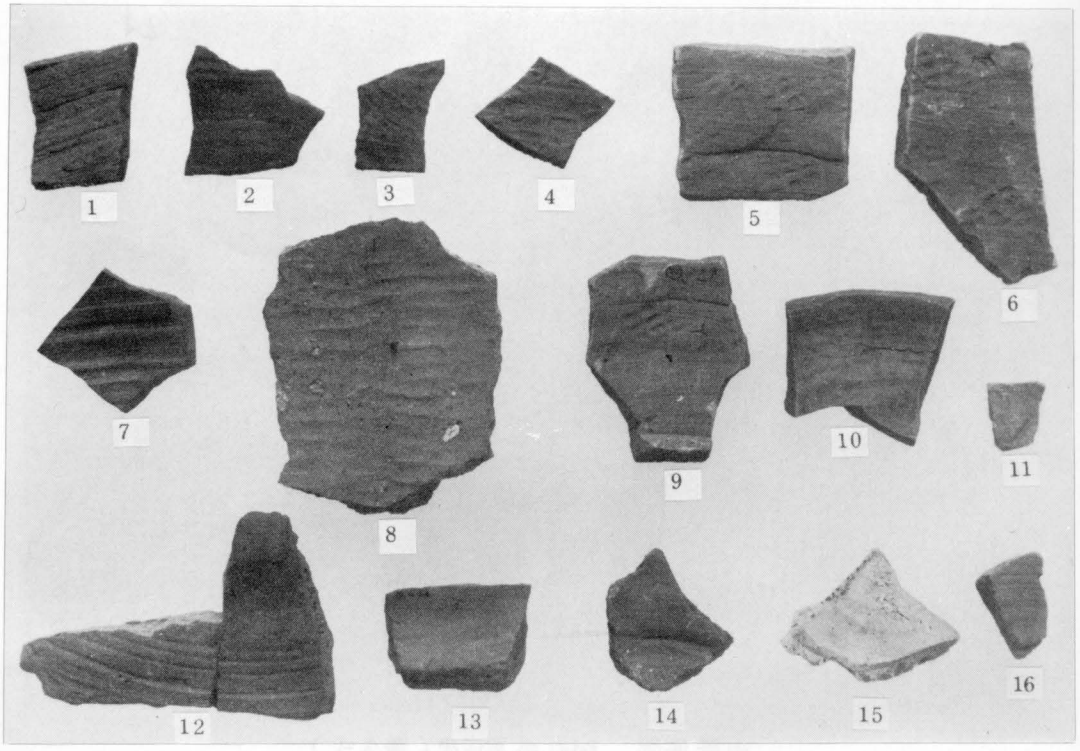
宇宿上層式　他



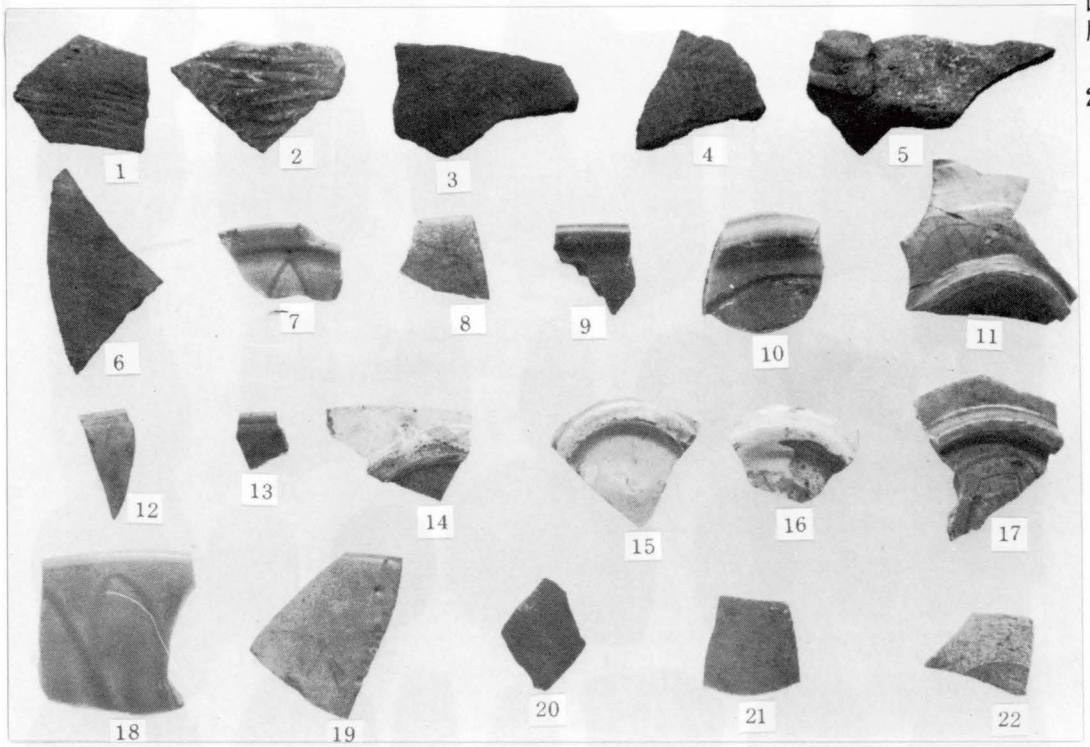
土器底部　14：木葉圧痕（兼久式）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26

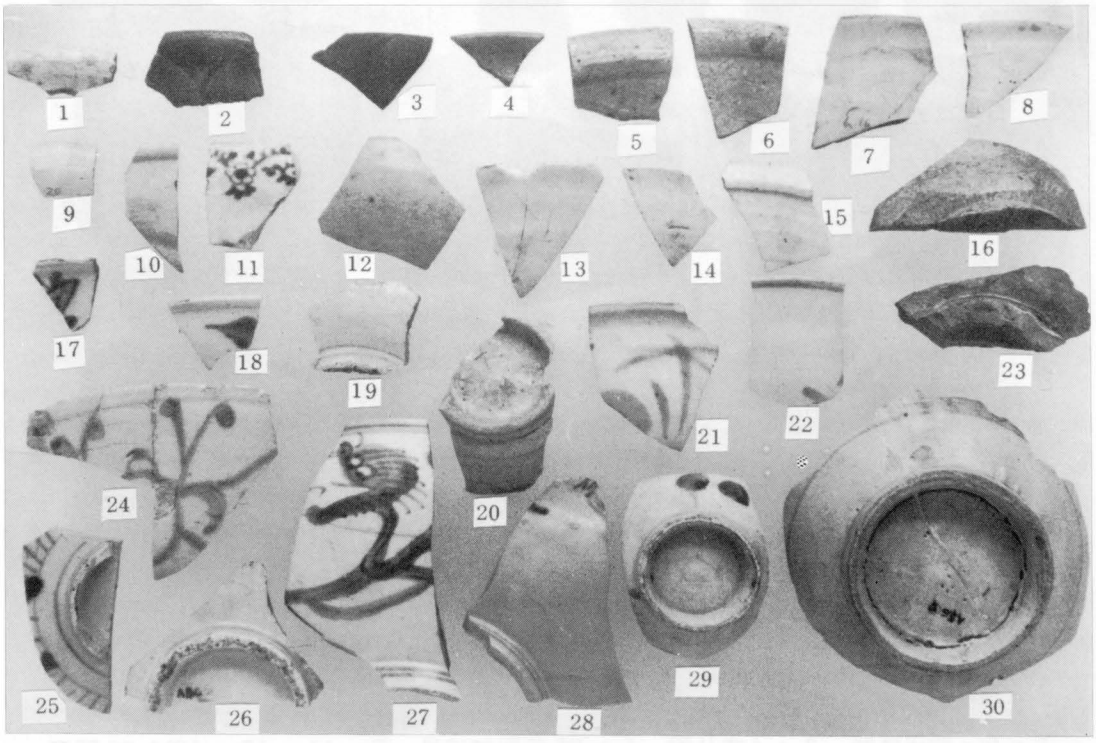
須恵器


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16

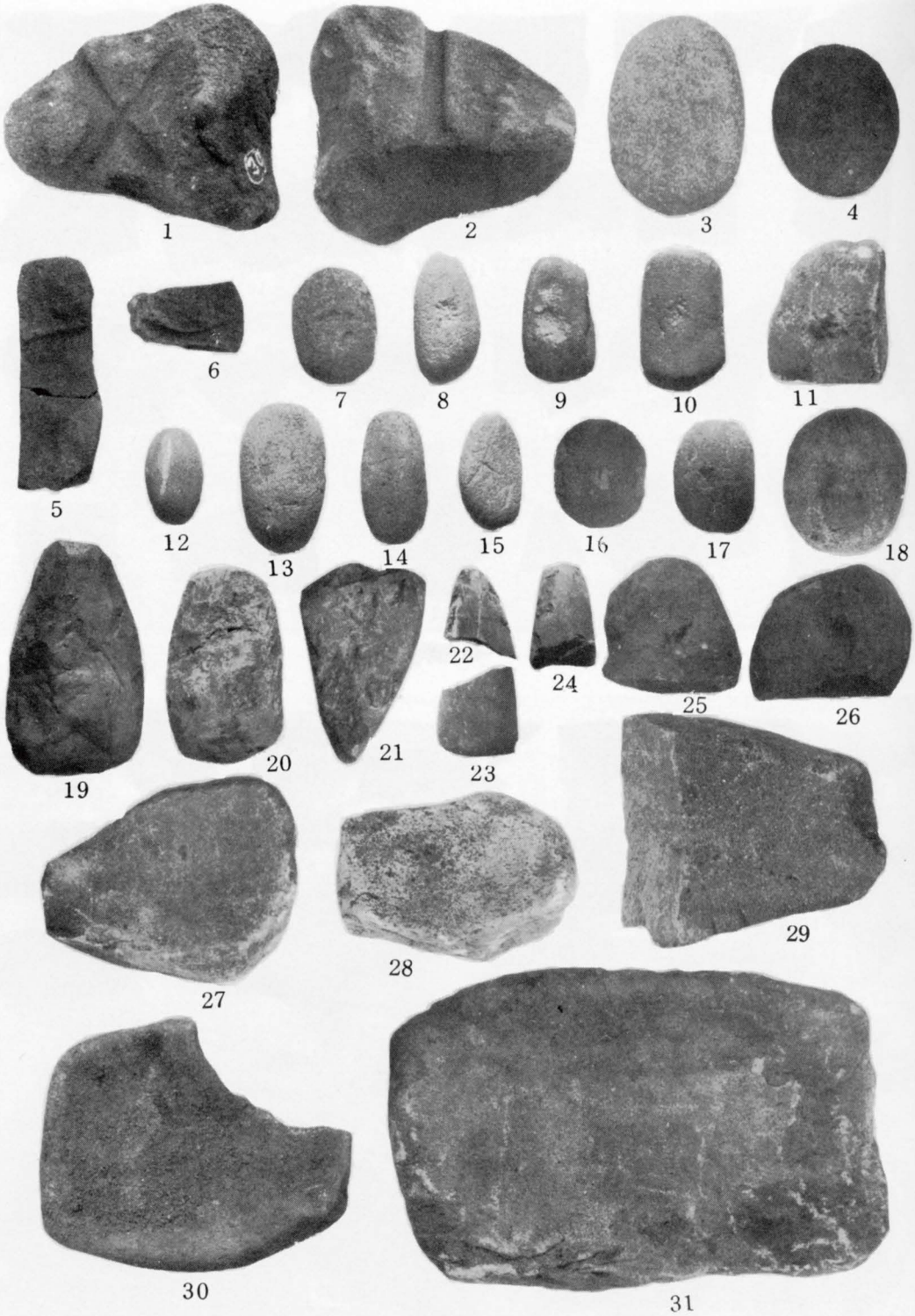
須恵器



須恵器1～6　青瓷7～22



青瓷2・3・4　白瓷1・5～9・15　染付10～14・16～30



1・2・6研磨器　3・4すり石　5・21石製加工品　7～11・17・18・26凹石
19～24石斧　27～31　石皿

図版 30

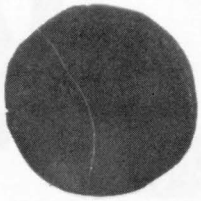
1

2

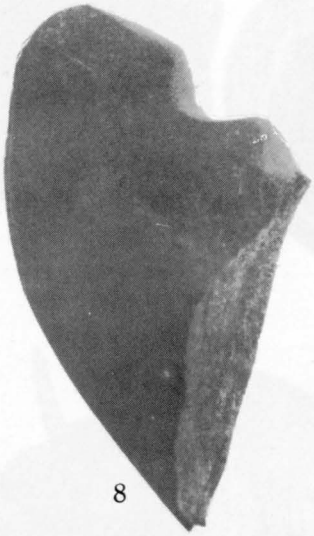
3

4

5


6

7


8

9

10

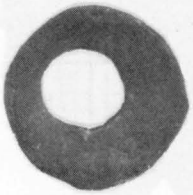
11

12

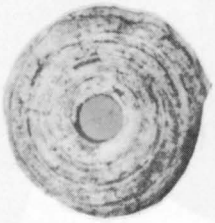
13

14

15


16

17

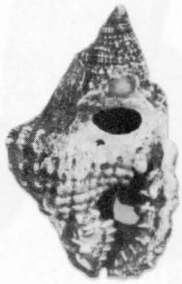

18

19

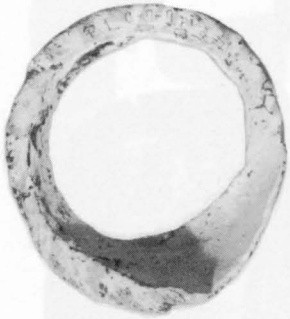
垂飾

1

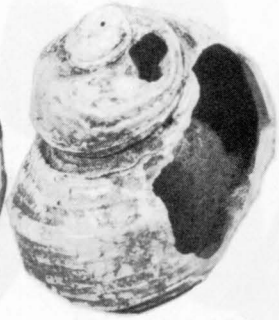
2


3

4


5

6

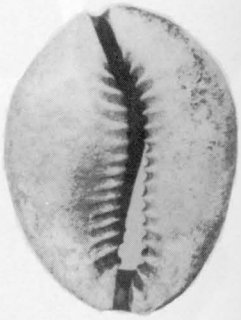

7

8

9

10

11

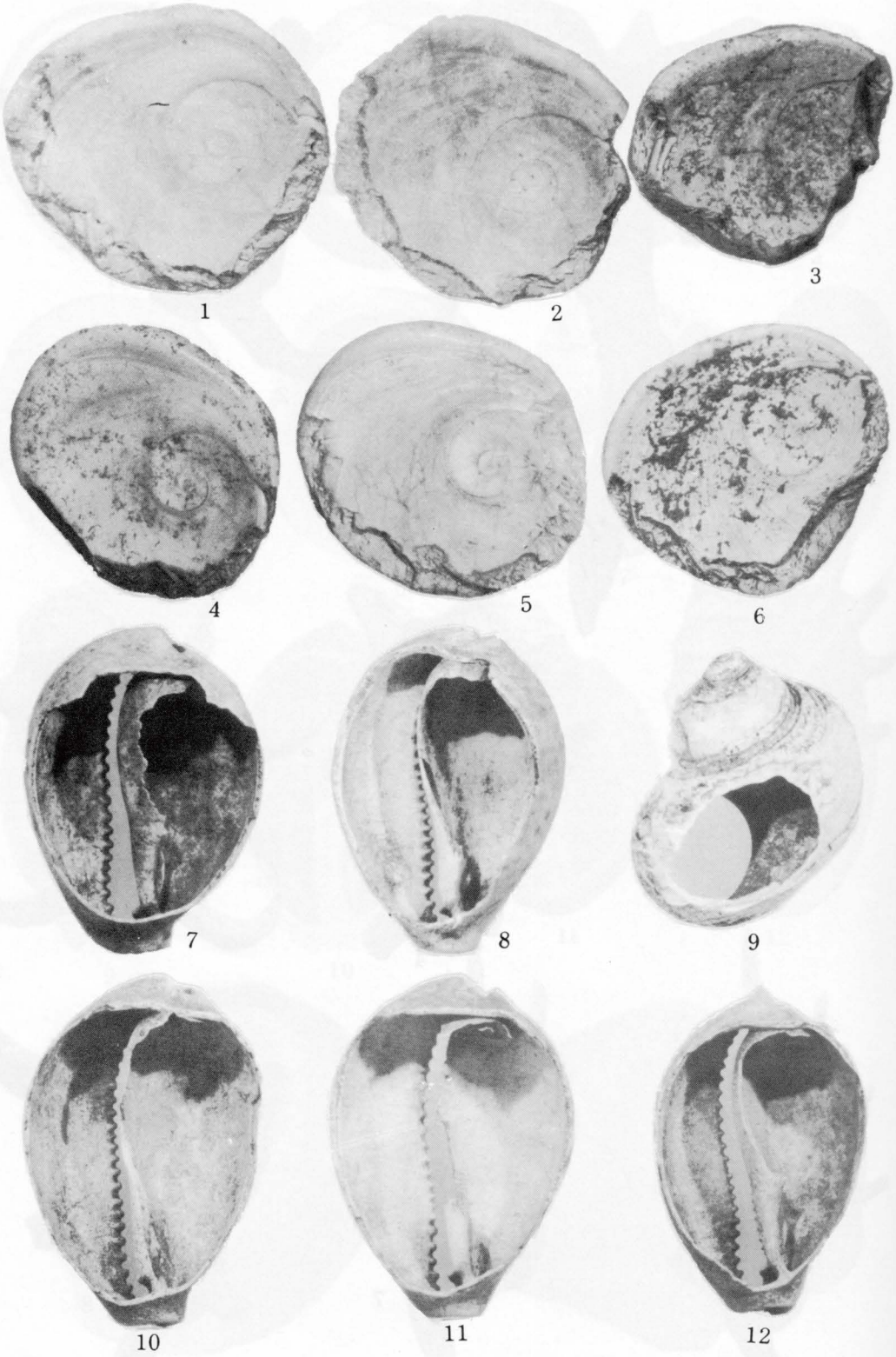

12

13

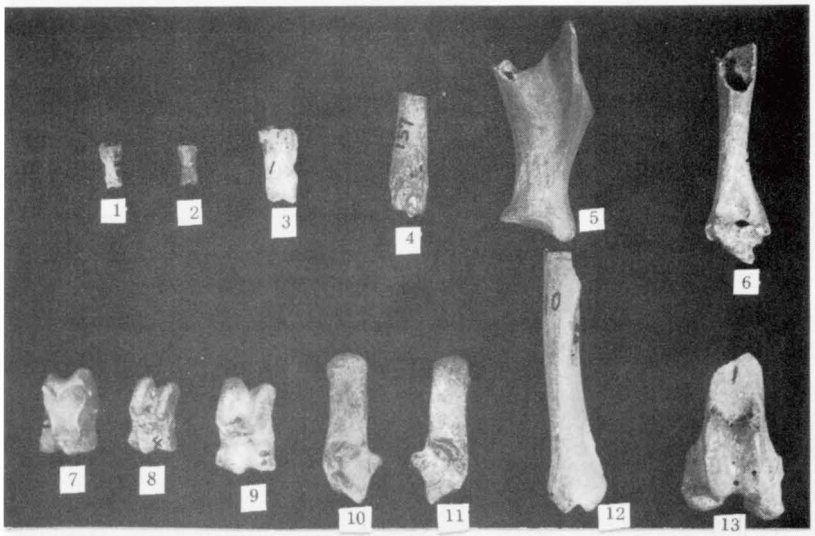
14

1・2：貝輪　5・6：同裏　3・4：研磨穿孔の貝　7・11：穿孔の貝　12：穿孔の貝裏
8：加工珊瑚礁礫　9：線刻貝　10：同裏 13：穿孔した夜光貝 14：1部を磨いたシャコ貝

1：スイジガイ貝輪　2～8：穿孔貝　4：管状棘端部研磨

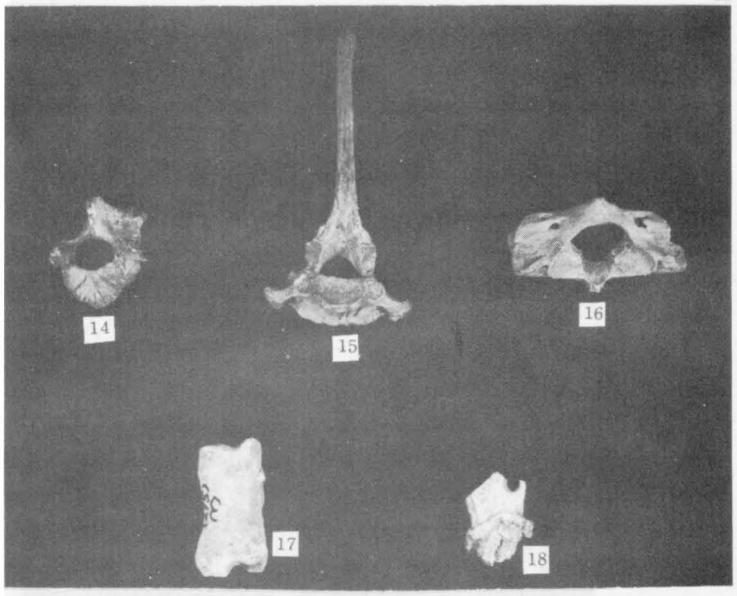


1～6：貝斧　7～12：穿孔した貝



写真Ⅰ

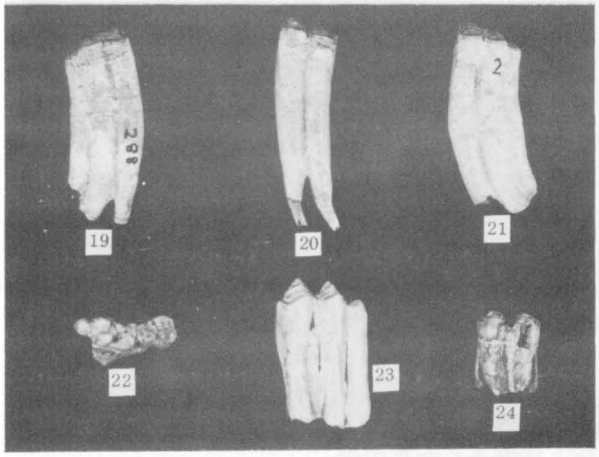
宇宿貝塚より出土した猪の骨



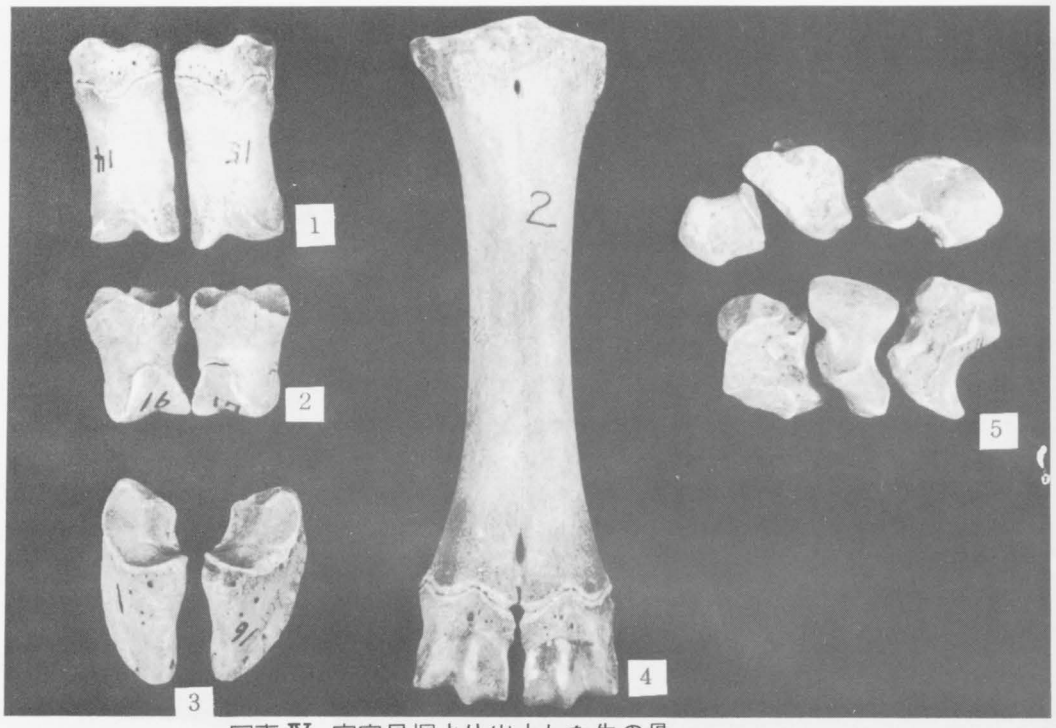
写真Ⅱ

宇宿貝塚より出土した猪・牛の骨および鹿の骨

1　第5指基節骨（右）（0－7－6）
2　第3趾基節骨（右）（M－10－6－下）
3　第3指基節骨（左）（0－7－7）
4　第3　中手骨（左）（M－10－7）
5　肩甲骨（右）（M－9－7）
6　上腕骨（左）（M－16－2）
7　趾骨（右）（M－9－6下）
8　趾骨（右）（0－7－6）
9　趾骨（右）（0－7－6）
10　踵骨（右）（Aトレンチ）
11　踵骨（右）（M－9－7）
12　脛骨（左）（M－9－7）
13　大腿骨（右）（M－9－6下）
14　猪の後位腰椎（P－7－8）
15　猪の第2胸椎（M－8－7上）
16　猪の環椎（M－6－6下）
17　牛の第4指基節骨（右）
（Aトレンチ集石部分）
18　鹿の角（N－7－7）
19　馬の下顎第3後臼歯（右）
（Aトレンチ攪乱層）
20　馬の下顎第2後臼歯（左）
（Aトレンチ集石部分）
21　馬の下顎第3後臼歯（左）
（Aトレンチ集石部分）
22　猪の上顎第2第3後臼歯（左）
（M－9－6下）
23　牛の下顎第3後臼歯（左）
（Aトレンチ攪乱層）
24　牛の上顎第2後臼歯
（P－グリッド－6）

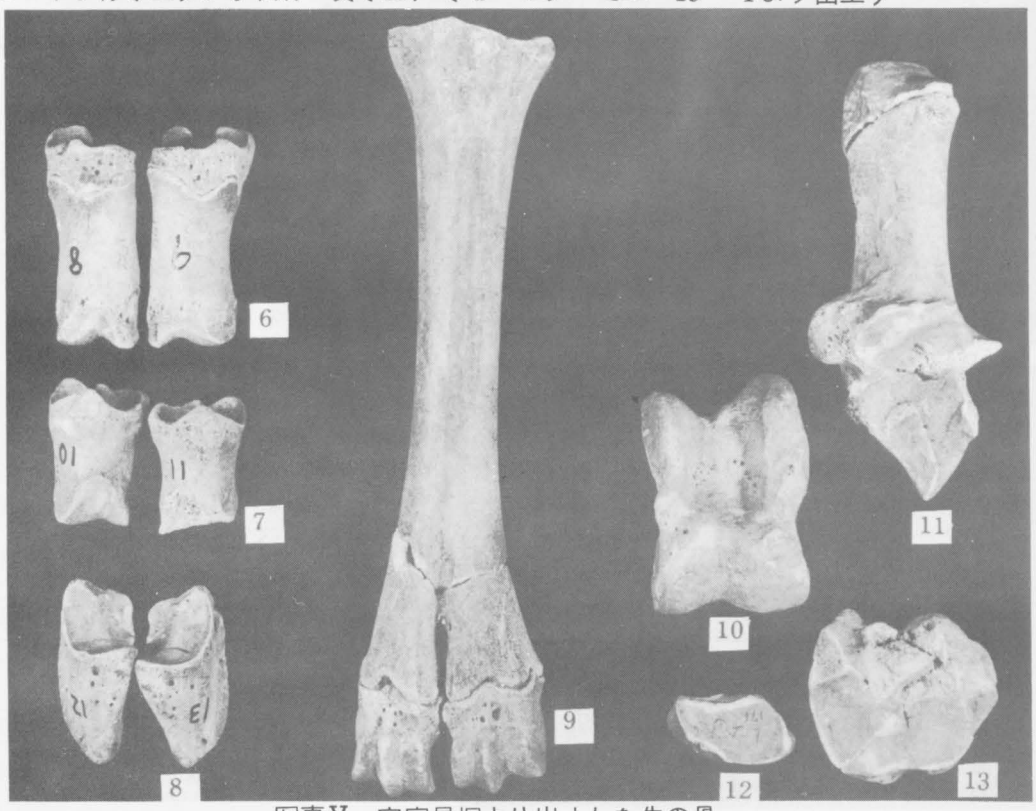


写真Ⅲ　宇宿貝塚より出土した動物の歯



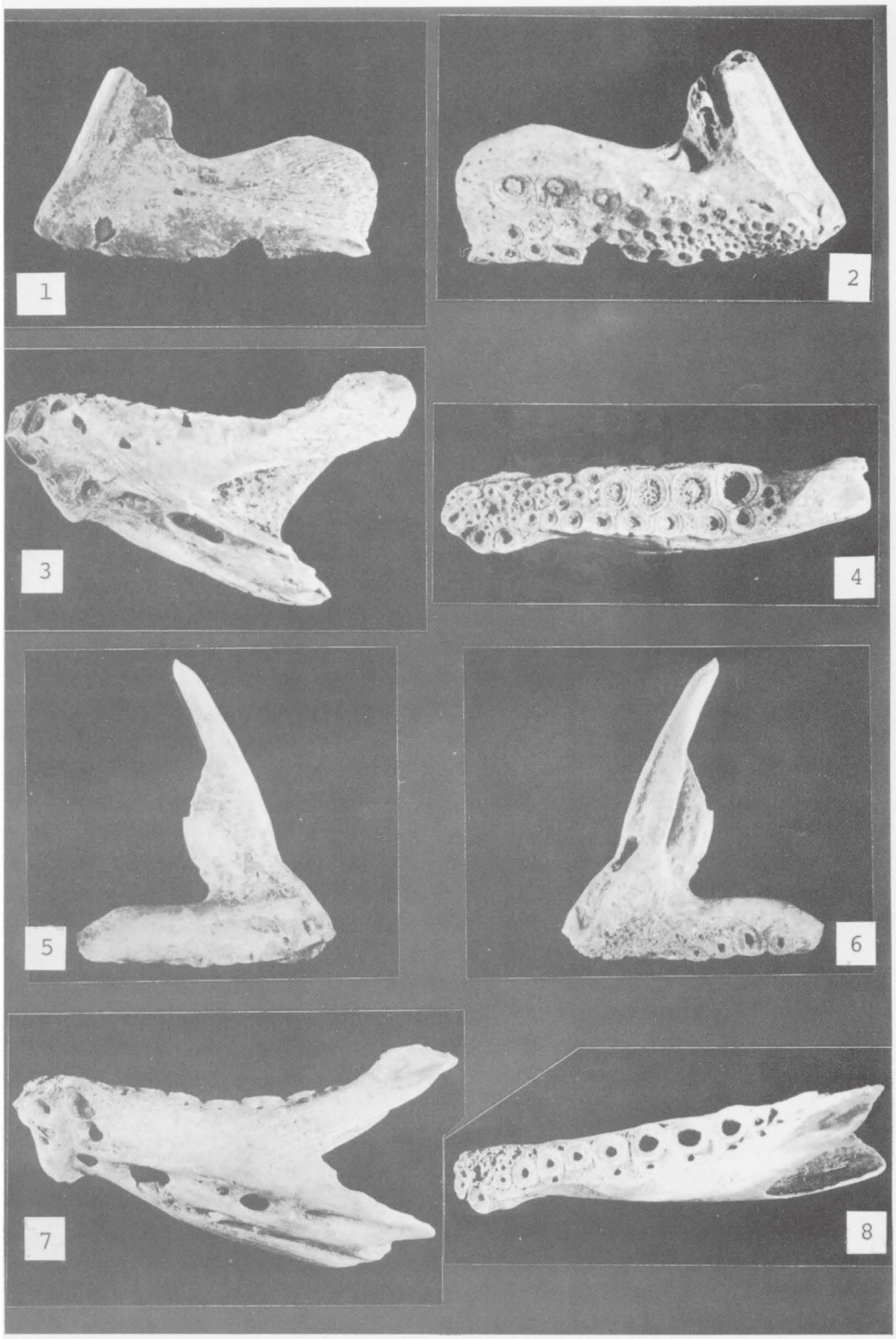
写真Ⅳ　宇宿貝塚より出土した牛の骨

1　第3第4指基節骨（左）　2　第3第4指中節骨（左）　3　第3第4指末節骨（左）
4　中手骨（左）5 手根骨一式（左）（1～5すべてM－19－1より出土）

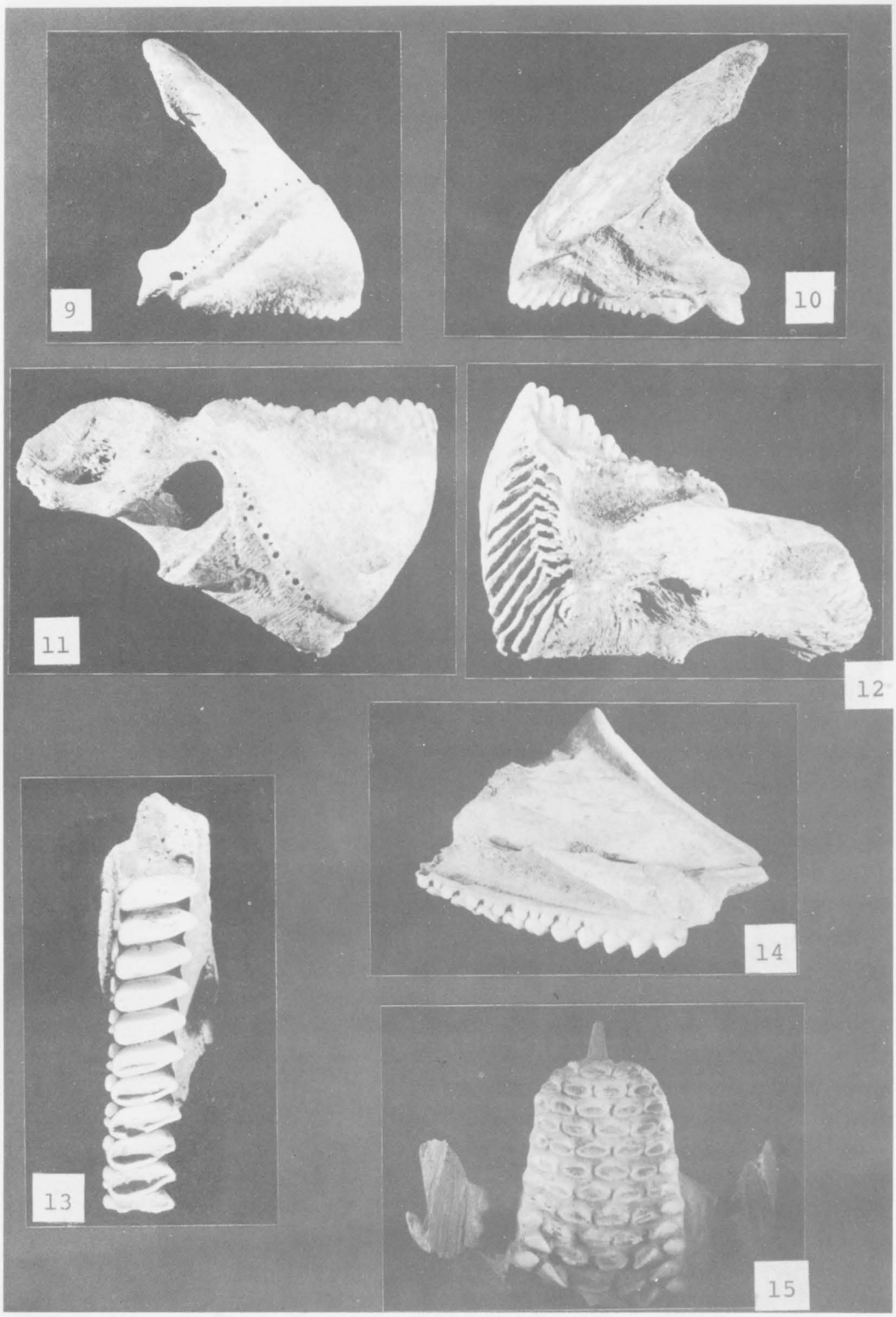


写真Ⅴ　宇宿貝塚より出土した牛の骨

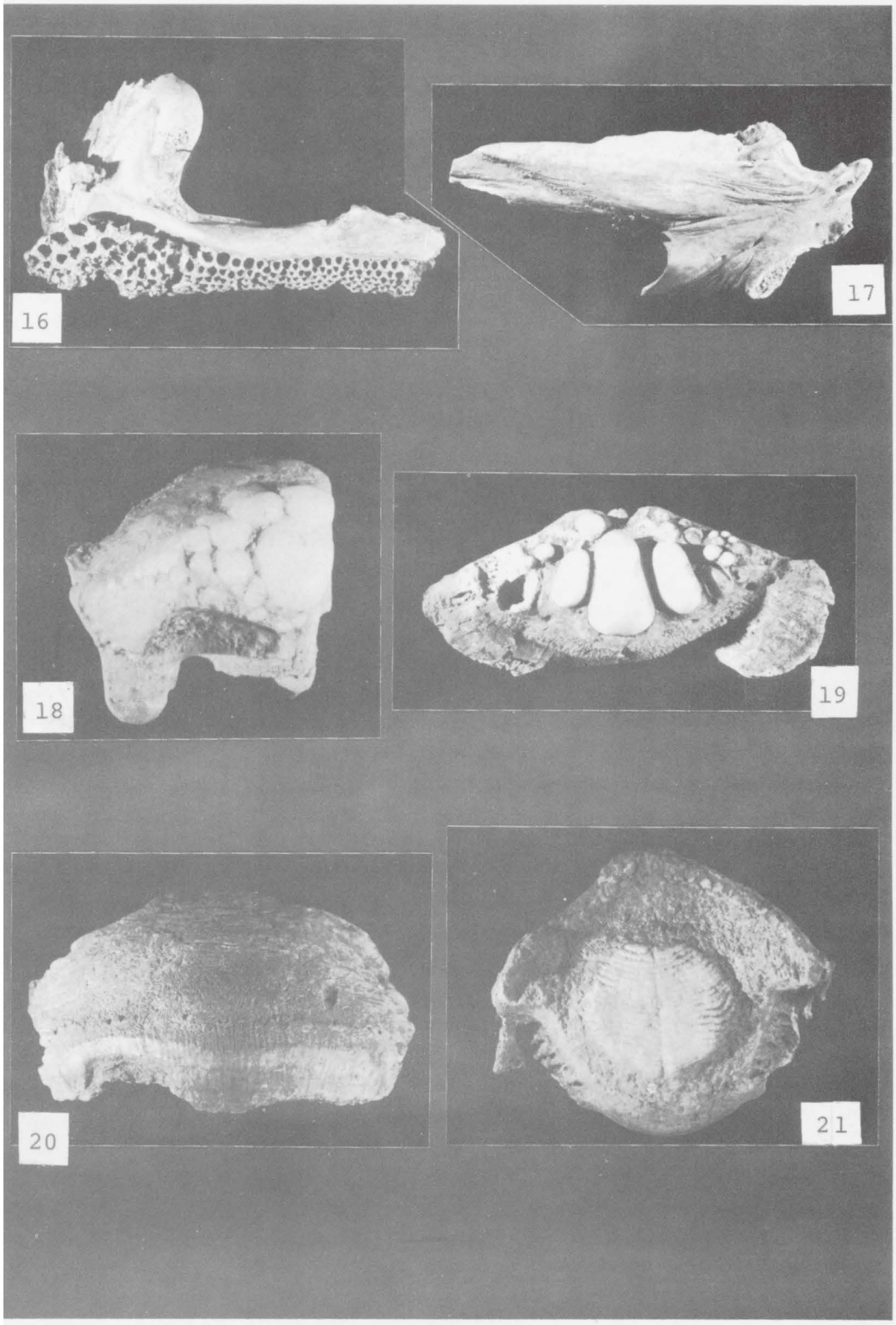
6　第3第4趾基節骨（左）　7　第3第4趾中節骨（左）　8　第3第4趾末節骨（左）
9　中足骨（右）·10　踵骨（左）11　趾骨（左）　12　第2第3足根骨（左）
13　中心第4足根骨（左）　（6～13すべてM－19－1より出土）



魚　骨



魚　骨



魚　骨

宇宿貝塚出土の人骨※

松下孝幸※※

はじめに

奄美大島の笠利町にある宇宿貝塚から２体の人骨が出土した。１体はきわめて保存良好な成人骨で，他の１体も比較的保存の良い新生児骨と推測されるものであった。

この２体の人骨は別項でも述べられているように，考古学的所見から宇宿上層式時代（今から約２０００年前）に属するものである。

奄美大島からほぼ完全な古人骨が出土したのは今回が初めてであり，南島の形質人類学の研究において貴重な資料となるものであり，詳細な観察および計測を行なった。また本人骨の特徴を明らかにするために，当教室保管の弥生女性骨のうち北九州より出土した二塚山人骨（松下，他，１９７６）および西北九州より出土した同時代人骨（内藤，１９７１）と比較すると共に，南九州の例として男性例ではあるが，広田弥生人骨（金関，１９５９）の成績を参考として検討したので，その結果を報告したい。

資　料

１号人骨

頭蓋骨については蝶形骨および節骨は欠損していたが，その他の脳頭蓋および顔面頭蓋はほぼ完全に残っていた。また $\underline{|M_2}$ を除くすべての歯が残存していた。

四肢骨についても，保存状態は良く，肩甲骨，肋骨および胸骨が破損していたが，その他の骨はほぼ完全に残存していた。

１号人骨は寛骨や頭蓋骨などの形態的特徴と縫合の癒合状態，歯の咬耗度および恥骨結合面の状態から，壮年初期の女性骨と推定される。

２号人骨

幼若骨のため保存状態は１号人骨程良くはなかった。頭蓋骨は１体分残っていたが，部分的に破損がひどく，復元は不可能であった。

四肢骨は大腿骨，脛骨，腓骨および上腕骨の骨幹は左右ともによく残っていたが，橈骨および尺骨は左側のみが残存していた。

２号人骨は，出土状況ならびに残存していた四肢長骨の大きさから新生児の骨と推定される。

所　見

１号人骨

※ 本報告の要旨は第３４回日本解剖学会九州地方会において発表した。

※※ MATSUSHITA TAKAYUKI 長崎大学医学部解剖学第２教室（主任　内藤芳篤教授）

頭 蓋 骨

頭蓋骨の主な計測値は表１に示すとおりである。

(1) 脳 頭 蓋

上面観はRhomboides に属しており，３主縫合は疎で癒着は内板にも外板にも認められない。頭頂結節および前頭結節は比較的よく発達しているが，乳様突起は小さく，外後頭隆起の発達もきわめて悪い。

頭骨最大長は１７０㎜，頭骨最大幅は１４９㎜，バジオシ・ブレグマ高は１３０㎜で，頭骨長幅示数は８７.６５となり，hyperbrachykran（過短頭）に属し，長高示数は７６.４７，幅高示数は８７.２５で，それぞれhypsikran， tapeinokranに属している。

次いで宇宿弥生人と二塚山，西北九州両弥生人との比較を行なってみると，頭骨最大長は二塚山弥生人の１７６.４３㎜（７例）および西北九州弥生人の１７８.０７㎜（１５例）よりも小さく，頭骨最大幅は二塚山弥生人の１３９.６７㎜（６例）および西九州弥生人の１３９.２７㎜（１５例）よりも大きく，従って頭骨長幅示数は二塚山弥生人の７８.５７（５例）および西北九州弥生人の７８.２３（１５例）よりも大きな示数値を示しており，頭型は強く短頭に傾いている。

また広田弥生人男性の頭骨長幅示数は８７.８（８例）で，過短頭を呈しており，本人骨の長幅示数ときわめてよく近似した数値を示している。

Tabelle 1 Schädel

(mm)

Gehirnschädel			Gesichtsschädel		
1.	Größte Hirnschädellänge	170	45.	Jochbogenbreite	(135)
8.	Größte Hirnschädelbreite	149	46.	Mittelgesichtsbreite	99
17.	Basion-bregma-Höhe	130	47.	Gesichtshöhe	112
8/1	Längen-Breiten-Index	87.65	48.	Obergesichtshöhe	63
17/1	Längen-Höhen-Index	76.47	47/45	Gesichtsindex(K)	(82.96)
17/8	Breiten-Höhen-Index	87.25	48/45	Obergesichtsindex(K)	(46.67)
23.	Horizontalumfang des Schädels	506	47/46	Gesichtsindex(V)	113.13
24.	Transversalbogen	317	48/46	Obergesichtsindex(V)	63.64
25.	Mediansagittal-Bogen	368	72.	Ganzprofilwinkel	79
			73.	Nasaler Profilwinkel	82
			74.	Alveolar Profilwinkel	69

(2) 顔面頭蓋

眉上弓の発達は弱く，眉間部は扁平で，鼻根部の陥凹も弱いが，前頭部はよく膨隆している。

顔面部の幅径については，頬骨弓幅が（１３５㎜），中顔幅は９９㎜で，高径に関しては，顔高１１２㎜，上顔高は６３㎜である。従ってコルマン氏の顔示数および上顔示数はそれぞれ（82.96），（46.67）で，ウイルヒョー氏の顔示数，上顔示数はそれぞれ１１３.１３，６３.６４となる。

顔面頭蓋の比較では，頬骨弓幅は二塚山弥生人の１３２.６７㎜（６例）および西北九州弥生人の１３０.１７㎜（６例）よりも大きく，また中顔幅は二塚山弥生人の１０１.１７㎜（６例）よりは小さく，西北九州弥生人の９５.９１㎜（１１例）よりは大きい。顔高，上顔高については両径ともに，二塚山弥生人の１１５.８０㎜（５例），６８.１４㎜（７例）よりは小さく，西北九州弥生人の

１０4.８９㎜（９例），６0.９２㎜（１２例）よりも大きい。コルマン氏の顔示数および上顔示数は二塚山弥生人の８６.１２(４例),５０.６２（６例）よりも小さく,西北九州弥生人の８１.７０(６例)47.64(６例)に近似しており,ウイルヒョー氏の顔示数は西北九州弥生人の１０９.５０(９例)よりは大きく，二塚山弥生人の１１２.８０（４例）に近い数値となっているが，上顔示数は二塚山弥生人の６５.２１（５例）よりは小さく，西北九州弥生人の６３.４９（１１例）とよく一致する数値である。

以上のとおり，宇宿人の頭蓋骨は短頭の傾向が強く，かつ低顔の傾向が認められる。

顔面角は，全側面角７９°，鼻側面角８２°，および歯槽側面角６９°で，やや歯槽性突顎の傾向がうかがわれる。

(3) 歯

歯は上下左右ともに第三大臼歯まで萌出しているが，咬耗の程度は弱く，Broca の１度である。歯ならびは整然としているが，下顎左第三大臼歯はやや近心側へ傾いている。またカリエスが$\underline{M_3}$（C_3），$\overline{M_3}$（C_2），$\overline{M_3}$（C_3）にみられた。咬合型式は鋏状咬合であり，風習的抜歯の痕跡は認められない。なお歯式は次のとおりである。

$\dot{M}_3$	M_2	M_1	P_2	P_1	C	I_2	I_1	I_1	I_2	C	P_1	P_2	M_1	／	M_3
M_3	M_2	M_1	P_2	P_1	C	I_2	I_1	I_1	I_2	C	P_1	P_2	M_1	M_2	M_3

（／ 歯槽開放　・ 齲歯）

四肢骨

四肢骨における主なる計測値は表２，表３，表４に示すとおりである。

(1) 上 腕 骨

上腕骨は左右ともにきゃしゃで，細くて短かい。三角筋粗面の発達も悪く，扁平性も全く認め得ない。

両側の最大長は２６３㎜，中央最大径は１８㎜，中央最小径は１５㎜，最小周は５０㎜であり，中央周は右５４㎜，左５３㎜である。従って両側の長厚示数は１９.００で，中央断面示数は８3.33となる。

上腕骨右側の比較では，最大長は二塚山弥生人の３１５㎜（１例）および浜郷弥生人（未発表）の２６５.００㎜（６例）よりも小さく，最小周も二塚山弥生人の６０.２０㎜（５例）および浜郷弥生人の５７.２２㎜（左９例）よりも小さい。長厚示数は二塚山弥生人の１７.４６（１例）よりは大きいものの，浜郷弥生人の２１.４３（５例）より小さく，また中央断面示数は二塚山弥生人の７４.４３（１例）および浜郷弥生人の７３.１６（６例）よりも大きい。

すなわち宇宿弥生人の上腕骨は，計測値においても観察所見とよく一致し，諸径が小さく，全体として短かくかつ細い。

(2) 大 腿 骨

大腿骨は左右ともに小さく，粗線の発達も不良で，柱状形成の像は全く認められず，中央部での断面型は横広ろの楕円形に近い。ただ両側ともに殿筋粗面の発達は必ずしも著明でないが，結節状の第三転子（長さ３０㎜，幅８㎜）が認められる。

Tabelle 2 Humerus

(mm)

		Rechte	Linke
1.	Größte Länge des Humerus	263	263
2.	Ganze Länge des Humerus	259	259
5.	Größte Durchmesser der Mitte	18	18
6.	Kleinster Durchmesser der Mitte	15	15
7.	Kleinster Umfang der Diaphyse	50	50
7a.	Umfang der Mitte	54	53
7/1	Längendicken-Index	19.01	19.01
6/5	Diaphysenquerschnitt-Index	83.33	83.33

計測値は最大長が右３７０㎜，左３７５㎜，中央矢状径は右２２㎜，左２１㎜，中央横径は両側ともに２４㎜，中央周は右７１㎜，左７２㎜，骨体上横径，矢状径は左右ともにそれぞれ２８㎜，２０㎜である。従って中央断面示数は右９1.６７，左８7.５０を示し，骨体上断面示数は両側ともに７1.４３となる。

大腿骨の比較では，最大長は二塚山弥生人の３９1.００（２例）および浜郷弥生人の３８5.００（４例）よりも小さく，また中央周についても二塚山弥生人の７8.００㎜（２例）および浜郷弥生人の７4.７５（４例）よりも小さい。長厚示数は二塚山弥生人の１8.８５（１例）よりは大きく，

Tabelle 3 Femur

(mm)

		Rechte	Linke
1.	Größte Länge des Femur	370	375
2.	Ganze Länge des Femur	368	373
6.	Sagittaler Durchmesser der Diaphysenmitte	22	21
7.	Transversaler Durchmesser der Diaphysenmitte	24	24
8.	Umfang der Diaphysenmitte	71	72
9.	Oberertrnsversaler Diaphysendurchmesser	28	28
10.	Oberersagittaler Diaphysendurchmesser	20	20
8/2	Längendicken-Index	19.29	19.30
6/7	Index des Diaphysenquerschnitts der Mitte	91.67	87.50
10/9	Index des oberen Diaphysenquerschnitts	71.43	71.43

浜郷弥生人の１９.６２に近い数値となっている。中央断面示数は二塚山弥生人の８８.４６（２例）よりは大きく，浜郷弥生人の１０２.４９（４例）よりは小さい。骨体上断面示数は二塚山弥生人の７７.６６（１０例）および浜郷弥生人の７７.９６（８例）よりも小さく，骨体上部に弱い扁平性が認められる。

すなわち，宇宿人大腿骨においても長径，周径等が小さく，柱状形成の傾向も認められない。

(3) 脛　骨

脛骨は上腕骨，大腿骨などと同様に比較的細くて短かく，扁平性も弱く，後面の稜形成なども見られない。

計測値は最大長が右３１６㎜，左３２０㎜，全長は右３０９㎜，左３１２㎜，中央最大径は両側ともに２３㎜，中央横径は右１８㎜，左１９㎜，中央周は右６５㎜，左６６㎜，最小周は左右ともに６１㎜で，長厚示数は右１９.７４，左１９.５５を示し，中央断面示数は右７８.２６，左８２.６１となる。

脛骨の比較では，最大長は二塚山弥生人の３３１.００㎜（２例）および浜郷弥生人の３１７.００㎜（５例）よりも小さく，最小周も二塚山弥生人の６９.３８㎜（８例）および浜郷弥生人の６６.４５㎜（１１例）よりも小さい。また長厚示数も二塚山弥生人の２０.９５（１例）および浜郷弥生人の２０.３９（３例）よりも小さい。中央断面示数は二塚山弥生人の７８.４８（２例）に近似し，浜郷弥生人の７３.３５（５例）より大きい。

すなわち，脛骨について上腕骨や大腿骨と同様に，短かくて細い傾向が認められ，中央断面形は右側がヘリチカのＶ型で左側はⅡ型に属している。

Tabelle 4　　Tibia　　(mm)

		Rechte	Linke
1.	Ganze Länge der Tibia	309	312
1a.	Größte Länge der Tibia	316	320
8.	Größte Durchmesser der Mitte	23	23
9.	Transversaler Durchmesser der Mitte	18	19
10.	Umfang der Diaphyse	65	66
10b.	Kleinster Umfang der Tibia	61	61
10b/1	Längendicken-Index	19.74	19.55
9/8	Index des Querschnitts der Mitte	78.26	82.61

(4) 身長推定値

右大腿骨の最大長からPEARSON の公式を用いて，身長推定値を算出すると１４４.８１㎝で，藤井（１９６０）の方法で算出すると１４３.９２㎝となる。

身長推定値は二塚山弥生人の１４８.９０㎝（２例）および西北九州弥生人の１４７.９１㎝（８例）よ

りも小さい。

特殊所見 ― 癒合椎の1例 ―

第2頸椎（Axis）と第3頸椎との癒合が認められた。癒合は椎体および椎弓の全体に見られ，歯突起がやや右側へ傾いており，棘突起は左側へ曲がっている。また椎孔も左右対称ではなく，左後方から椎弓に強い圧力がかかったような形をしており，横突孔は左が大きく，右が小さい。

2号人骨

四肢骨骨幹の残存部分の長さは表5に示すとおりである。

上腕骨の長さは右50㎜，左54㎜で，大腿骨は左右ともに65㎜，脛骨は右57㎜，左55㎜で，各骨とも実際の長さは少なくともそれぞれの値を下ることはない。この計測値を穐吉（1976）の現代胎児骨の計測値と対比してみると，胎齢9～10月に相当する大きさである。時代的な差異を考え合せ，また出土状況を考慮すると，2号人骨は分娩後のものと考えられる。

総括および小考

1. 宇宿貝塚より宇宿上層式時代に属する保存良好な人骨2体が出土した。1体は壮年初期の女性骨（1号人骨），他の1体は新生児骨（2号人骨）と推測される。

2. 1号人骨の頭骨長幅示数は87.65で，頭型としては過短頭に属している。

3. 顔面では，頬骨弓幅が（135㎜），中顔幅は99㎜で，顔高は112㎜，上顔高は63㎜であり，コルマン氏の顔示数，上顔示数はそれぞれ（82.96），（46.67）で，ウイルヒョー氏の顔示数，上顔示数はそれぞれ113.13，63.64であり，低顔の傾向が見られる。

4. 全側面角79°，鼻側面角82°および歯槽側面角69°であるが，観察上からも歯槽性突顎の傾向がうかがわれる。

5. 歯の咬合型式は鋏状咬合で，咬耗度は弱く，歯ならびも良いが，$\underline{M_3}$，$\overline{M_3}$，$\overline{M_3}$ にカリエスが認められた。また風習的抜歯の痕跡はない。

6. 上腕骨は短かくて細く，三角筋粗面の発達も悪く，扁平性も認められない。

7. 大腿骨も短かくて細く，粗線の発達はきわめて悪く，柱状形成の像は全く認められないが，骨体上部はやや扁平で，第三転子も認められる。

8. 脛骨も短かくて細く，また骨体の扁平性は認められない。

9. 右大腿骨からの身長推定値は144.81㎝（PEARSON）で，低身長である。

10. 第2脛椎と第3頸椎とが癒合しており，第2頸椎は左右非対称な形を呈している。

11. 弥生時代人骨の研究に関しては，その大部分が九州および山口地方からの出土例であるが，金関およびその門下（牛島1954，財津1956，金関他1960）によれば，北九州の遺跡（三津，土井ケ浜）から出土した弥生人は高顔で長身の特徴が明らかにされており，これらの形質と縄文時代人骨との差異をめぐって金関（1959，1966）の見解が述べられている。著者（1976）が報告した佐賀県二塚山弥生人骨の例も三津，土井ケ浜弥生人骨と近似した形質を示すものであった。また内藤（1971）は西北九州の遺跡（深堀，浜郷，松原）から出土した弥生人は低，広顔で低身長であり，弥生時代人に地方的な差異が見られることを指摘している。一方南九州の出土例として，鹿児島県成川および種子島広田遺跡からの弥生人骨について，男性のみの例ではあるが，金関（1959，1966）の記載があり，これによれば両者ともに短頭であるが，前者

Tabelle 5　　Diaphysenlänge　　(mm)

	宇宿2号人骨※		現代胎児骨（穐吉）			
			9 Monat		10 Monat	
Humerus	R	50	55.60	0.32	61.26	1.18
	L	54				
Femur	R	65	63.20	1.35	71.85	1.58
	L	65				
Tibia	R	57	56.00	1.18	62.76	1.40
	L	55				

※骨幹残存部の長径

は比較的長身であるのに後者は低身であるという。これら先人の業績を背景として，宇宿弥生女性骨の１例をみてみると，すでに述べたように，短頭，低顔で，かつ低身長であり，比較群のうち男性資料ではあるが，種子島広田弥生人骨の形質に類似点が強いものと考えられる。また本例の四肢骨は著しくきゃしゃである。このことは当地方弥生人に共通した形質なのか，あるいは本例のみに見られる特徴なのかは比較資料がない現在いずれとも判じ難いが，興味ある事実として指摘しておきたい。（擱筆するにあたり，本人骨の研究の機会を与えていただいた河口貞徳先生，鹿児島県教育庁および大島郡笠利町教育委員会ご当局に深甚な謝意を表すると共に，人骨研究についてご指導いただいた内藤芳篤教授に感謝の意を表します。）

参考文献

1. Martin—Saller，１９５７： Lehrbuch der Anthroplogie Bd.1 Gustar Fischer Verlag，Stuttgart.
2. 松下孝幸　他，１９７６：佐賀県東山（二塚山）遺跡出土の弥生時代人骨．人類誌，８４(４)
3. 内藤芳篤，１９７１：西北九州出土の弥生時代人骨．人類誌，７９（３）
4. 金関丈夫，１９５９：弥生式時代の日本人．第１５回日本医学会総会学術集会記録　第１巻
5. 藤井　明，１９６０：四肢長骨の長さと身長との関係に就いて　順天堂大学体育学部紀要，３
6. 礒部憲二　他，１９７３：当教室における頸椎先天性異常　整形外科と災害外科　２２（４）
7. Toshio AKIYOSI，１９７６：Studies on Fetal Bone Extremities and the Derivation of an Equation for Entimating Fetal Body Length. Acta med. Nagasaki，２０.
8. 牛島陽一，１９５４：佐賀県東背振村三津遺跡出土弥生式時代人骨の人類学的研究　人類学研究　１（３，４）
9. 財津博之，１９５６：山口県土井ケ浜遺跡発掘弥生前期人骨の四肢長骨に就いて　人類学研究　３（３，４）

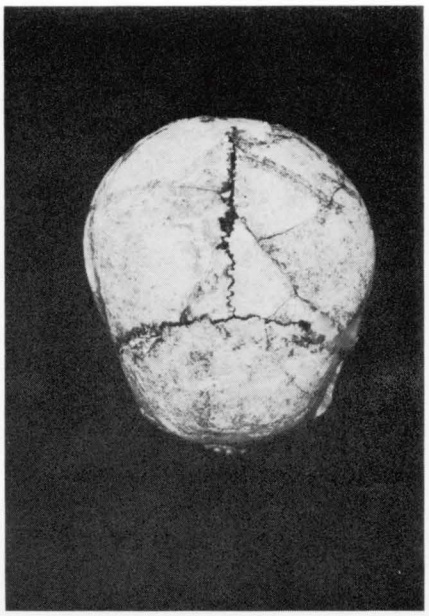
１０. 金関丈夫，他，１９６０：山口県豊浦郡豊北町土井ケ浜遺跡出土弥生式時代人頭骨について　人類学研究　７（付録）

１１. 金関丈夫，１９６６：弥生時代人　日本の考古学Ⅲ　河出書房新社

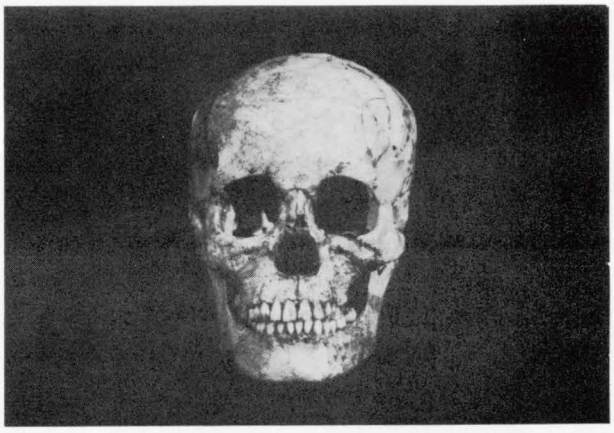
１２. 永井昌文，１９５８：鹿児島県種子島広田遺跡発掘の弥生時代人頭骨に就いて　解剖誌　３３（６）

１３. 永井昌文，１９６３：鹿児島県種子島広田遺跡出土の弥生時代人骨に就いて　解剖誌　３８（１）

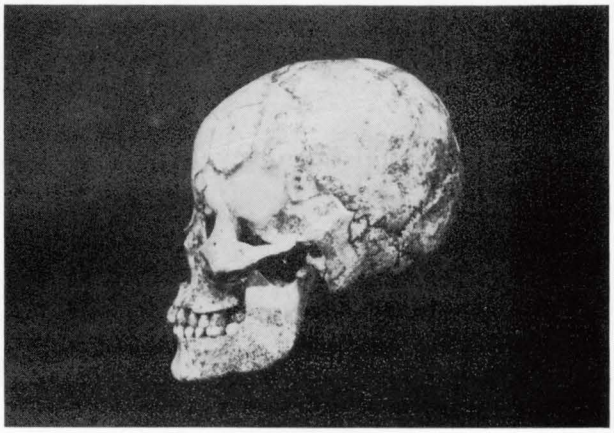
１４. 金関丈夫，１９５５：人種の問題　日本考古学講座　４



1, 上　面

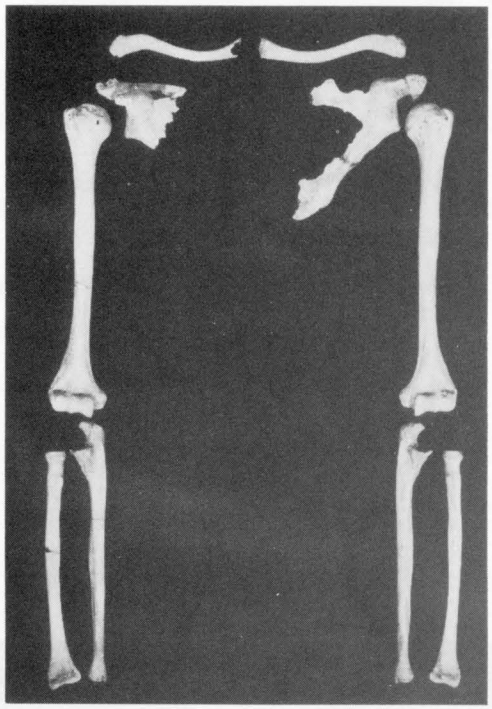


2, 前　面

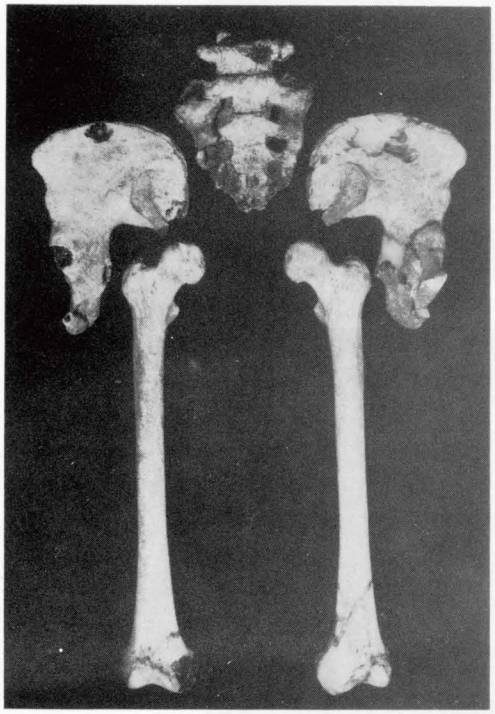


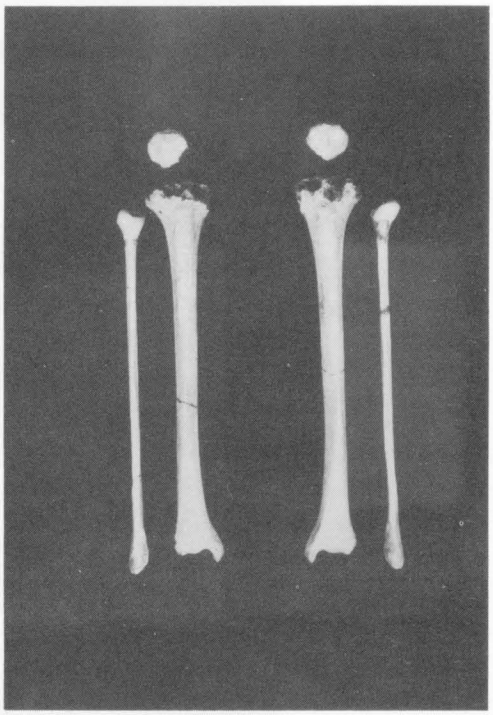
3, 側　面

図版 1　頭蓋骨（宇宿 1 号人骨・女性・壮年）



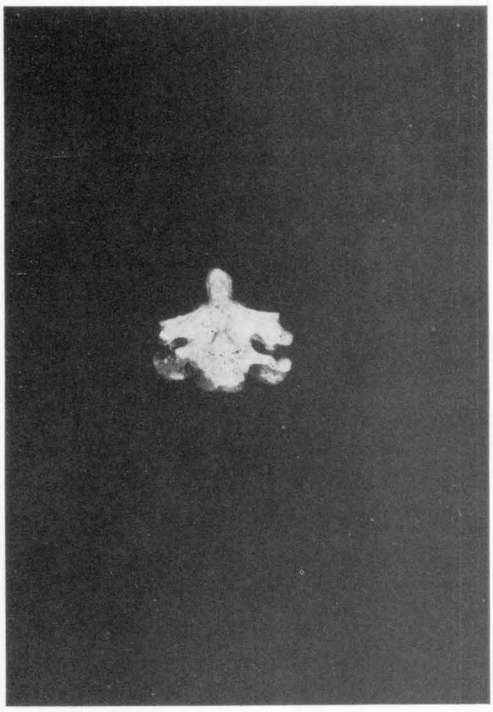
上　肢　骨



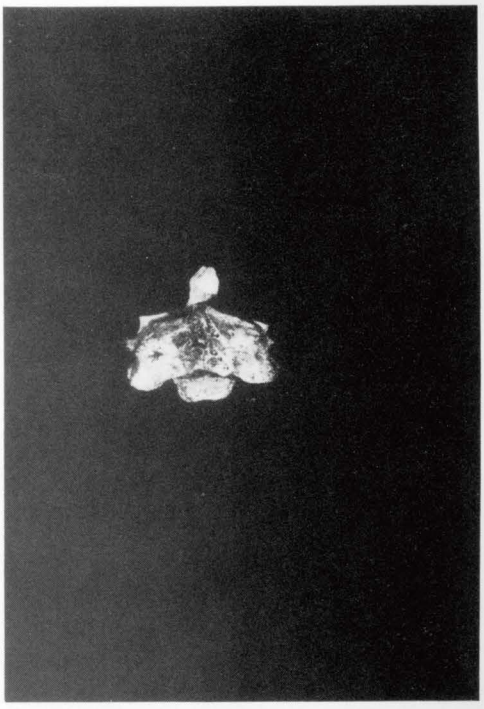


下　肢　骨

図版２　四肢骨（宇宿１号人骨女性・壮年）

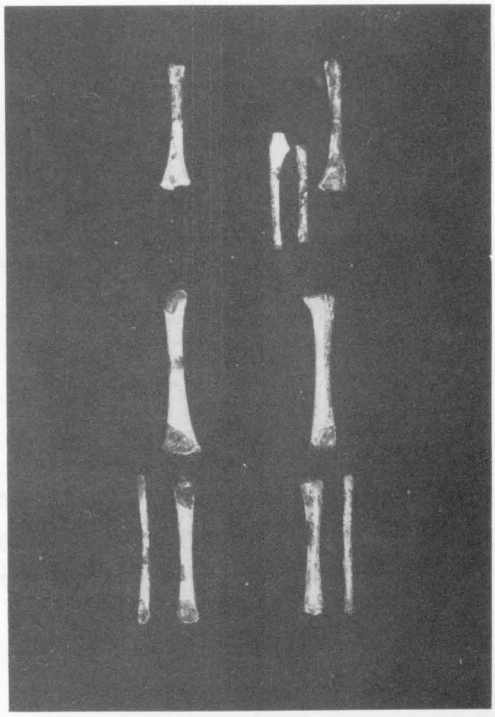


前　面



後　面

癒合椎（宇宿１号人骨　女性・壮年）



宇宿２号人骨（新生児）

図版３　宇宿１・２号人骨

鹿児島県笠利町文化財調査報告書

宇　宿　貝　塚

発行日　　昭和５４年３月

発　行　　鹿児島県笠利町教育委員会

印　刷　　㈲明るい窓社　鹿児島市泉町１３－１４

０９９２－２４－５０５０